

〔 資 料 編 〕

大 学 全 体

資 料 目 次

学表―1	鳥取大学産官学連携推進室について・・・・・・・・・・	1
学表―2	産官学連携推進機構の改組について・・・・・・・・・・	3
学表―3	産学連携等に関する協定状況・・・・・・・・・・	5
学表―4	学術交流協定校等・・・・・・・・・・	6
学表―5	鳥取大学国際戦略・・・・・・・・・・	7
学表―6	共同研究・受託研究受入状況（平成14年度～17年度）・・	9
学表―7	奨学寄附金受入決定状況・・・・・・・・・・	10
学表―8	教育・研究プロジェクト設置届出状況・・・・・・・・・・	11
学表―9	鳥取大学年度別特許出願・登録件数・・・・・・・・・・	12
学表―10	科学研究費補助金内定状況（平成14年度～平成17年度）・・	13
学表―11	平成14年度科学研究費補助金部局別・職種別申請・内定状況・・	14
学表―12	地域新生コンソーシアム研究開発事業・・・・・・・・・・	15
学表―13	液晶ディスプレイ関連産業における中核人材育成事業・・	16
学表―14	ベトナムにおける鳥インフルエンザ侵淫実態調査と流行予測・・	17
学表―15	地域貢献支援事業報告書（平成17年度，表紙，目次）・・	19
学表―16	産官学連携フェスティバル2005報告書（表紙，目次）・・	21
学表―17	サイエンスアカデミーへのご招待・・・・・・・・・・	23
学表―18	鳥取大学における産官学連携の主な取組み・・・・・・・・	24
学表―19	鳥取大学・日南町地域活性化教育研究センター関連事業の 取組み状況・・・・・・・・・・	26

4. 派遣等職員との連絡調整

派遣職員との連絡調整の機構側担当は、次のとおりとする。

主査)： 産官学連携コーディネーター

副査)：研究・国際協力部 研究協力課

5. 派遣等職員の肩書

(鳥取大学) 産官学連携コーディネーター

6. 派遣等職員の活動分野 (例示)

- (1) 各種の鳥取大学主催又は鳥大と県等の共催事業の支援業務
(参加者の確保)
- (2) 鳥取大学と派遣等機関との連絡調整
- (3) 県 (公設試、総合事務所、県外事務所を含む)、(財) 産業振興機構、商工会議所連合会、商工会連合会、中小企業団体中央会等との連絡調整
- (4) 鳥取大学振興協力会会員企業廻り、交流会への参加企業の確保、会員拡大
(鳥大発の情報提供、会員企業の鳥大への要望等の把握)
- (5) 東京、大阪、名古屋、岡山等ビジネス交流会参加企業へのフォローアップ
(金融機関の東京、大阪支店や県、鳥取市等の県外事務所の協力を得ながら実施)
- (6) 各金融機関の得意先へのPR
- (7) ほんまちクラブ、中部元気クラブ、6 : 0 0 (シックスクラブ) 参加企業へのフォローアップ
(金融機関の県内支店や県、鳥取市、商工会議所の協力を得ながら実施)
- (8) 県内高等教育機関との連携
(環境大学、鳥取短大、米子工業専門学校、岡山大学地球物質科学研究センター)
- (9) シーズ集の学外へのPR
- (10) TNS (とっとりネットワークシステム) の構築、支援業務

IV 推進室連絡会

1. 東、中部地区 (第1回 H17. 1. 13 (木))

- ・ 隔週火曜日13時より1時間程度 (場所 地域共同研究センター2F会議室)
- ・ 司会 地域共同研究センター 〃 〃 〃
- ・ 記録 研究協力課
- ・ 知財センター、VBL、各学部等も必要に応じて参加
- ・ 県 (産業開発課、産業技術センター、教育・学術振興課、情報政策課・中部総合事務所)、倉吉市、(財) 県産業振興機構、鳥取商工会議所、倉吉商工会議所等も必要に応じてオブザーバー参加
- ・ 担当者名簿 …… 別添2

2. 西部地区

- ・ H18. 2. 23に地域共同研究センターサブセンターで第1回目を開催した。
- ・ 連絡会の概要及び担当者名簿 …… 別添3、4

産官学連携推進機構の改組について

1. 改組の目的

地域共同研究センター、知的財産センター、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー及び生命機能研究支援センターを統括してきた産官学連携推進機構（H.16.10設置）について、本学における研究支援体制をより一層充実・強化するとともに、産官学連携を中心とした地域連携業務をより機動的かつ弾力的に展開できるようにするため、平成19年4月1日付けで組織改正を行う。

2. 改正の概要

地域共同研究センター、知的財産センター及びベンチャー・ビジネス・ラボラトリーを発展的に統合の上、研究推進、知的財産管理運用、地域貢献、米子地区地域連携の各機能が有機的に遂行できる組織形態とする。

なお、生命機能研究支援センターは、分離独立させる。

3. 主な改組内容

（1）名称

機構の名称は、「産学・地域連携推進機構」に改める。

（2）常置委員会

現在、常置委員会として設置されている研究支援委員会と社会貢献委員会については、相互に審議内容の関連性があり、また、委員会の効率的開催を図るため両委員会を統合し、「研究・社会貢献委員会」とする。

なお、委員長は研究・国際交流担当理事を、副委員長は地域連携担当理事をもって充てる。

（3）運営体制

重要事項（運営方針、人事等）は常置委員会で、具体的業務に関する事項は機構運営委員会で審議し、業務運営の効率化と迅速化を図る。

（4）研究領域

現機構に設定している15研究領域については、廃止し、教育・研究プロジェクト（H.16.6.9学長裁定）の育成、強化を図ることとする。

（5）機構長、副機構長

機構に、機構長及び副機構長を置き、学長が指名する。

（6）地域貢献推進室（H.14.5設置）は廃止する。

（7）研究協力課内に新たに産学連携室を設置し、教員との意思疎通の強化、迅速化を図る。

（8）地域共同研究センター2階に配置している研究・国際協力部を1階に移転するとともに、現在VBLに配置している知的財産センターを地域共同研究センター内に配置する。

4. 検討経緯

平成18年	7月20日	第3回研究支援委員会において改組WG設置
	7月28日	WGでの改組案の検討開始
	10月5日	WGで検討案の取りまとめ (産官学連携推進機構→地域連携推進センター)
	10月26日	産官学連携推進機構運営委員会で審議
	11月7日	役員連絡会において状況報告
	11月7日	研究支援委員会で審議
	12月5日	役員連絡会で報告
	12月14日	教育研究評議会付議、環流(→地域連携推進センター)
平成19年	1月9日	役員連絡会で修正案報告(→産学・地域連携推進機構)
	1月17日	教育研究評議会付議(→産学・地域連携推進機構)
	1月30日	第10回役員会

5. その他関連事項

(1) 全学公開講座

地域貢献部門が担当する全学公開講座は、別途検討中の生涯教育担当組織との連携のもとに行われるものであること。

(2) MOTイノベーションスクールは、別途構想検討中のイノベーション科学センター(仮称)の方向性が決定されるまでは研究推進部門で取り扱うこと。

6. 組織図(別紙)

(1) 産学・地域連携推進機構組織図

(2) 現機構との対比

産学連携等に関する協定状況

NO	時 期	相 手 方	摘 要
(産学連携等)			
1	平 16 年 4 月	セコム(株)等	セコム(株)、セコム山陰(株)、鳥取県、鳥取市との5者協定
2	平 16 年 11 月	(株)山陰合同銀行	連携協力に関する協定
3	平 16 年 11 月	(株)鳥取銀行	連携協力に関する協定
4	平 16 年 12 月	鳥取市	湖山池の水質浄化及びその有効利用に関する研究協定
5	平 17 年 3 月	鳥取県	菌類きのこ機能開発研究部門の設置に関する協定
6	平 17 年 3 月	(財)日本きのこセンター	菌類きのこ遺伝資源研究センターの研究協力に関する協定
7	平 18 年 3 月	中小企業金融公庫鳥取支店	産学連携の協力推進に係る協定
8	平 18 年 3 月	(財)日本きのこセンター	共同研究に関する協定
9	平 18 年 5 月	(財)鳥取県産業振興機構	連携協力に関する協定 (5月25日)
10 ~12	平 18 年 7 月	鳥取・倉吉・米子信用金庫	連携協力に関する協定 (7月4日) (大学と鳥取・倉吉・米子各信用金庫と個別に協定)
13	平 18 年 11 月	商工組合中央金庫 (商工中金)鳥取・米子支店	産学連携の協力推進に係る協定 (11月24日) (大学、鳥取・米子各支店との3者協定)
(その他)			
1	平 18 年 2 月	国土交通省中国地方整備局	包括的連携・協力に関する協定
2	平 18 年 3 月	日野郡日南町	地域活性化教育研究センターに関する協定
3	平 18 年 8 月	鳥取県教育委員会	連携協力に関する協定
4	平 19 年 2 月	ダイキン工業(株)等	ダイキン工業(株)研修所の利用等に関する協定 ダイキン工業(株)、鳥取県、鳥取市との4者協定 (2月1日)

学術交流協定校等

鳥取大学では現在、学術交流協定を19か国53機関と締結しています。
(平成18年12月18日現在)

協定締結校MAP

○大学間協定(16か国46機関)

地 域	国 名	機 関 名	締結年月日
アジア	中国(19)	河北医科大学	1987年5月20日
		中国科学院寒区旱区環境工学研究所	1987年9月16日
		西安科技大学	1993年6月1日
		内蒙古師範大学	1997年6月1日
		青島大学	1998年2月1日
		北京林業大学	1998年8月1日
		内蒙古農業大学	1987年12月1日
		東北大学	2000年2月1日
		遼寧省林業科学研究所	2000年3月16日
		中国科学院水利部水土保持研究所	2000年10月1日
		中国科学院遺伝及び発育生物学研究所農業資源研究センター	2000年11月3日
		東北農業大学	2003年3月27日
		中国農業大学	2003年6月16日
		広西医科大学	2003年8月18日
		新疆農業大学	2005年2月17日
		北京師範大学	2005年7月13日
		河北大学	2006年6月16日
		中国科学院上海技術物理研究所	2006年11月13日
		中国農業科学院農業環境及び可持続発展研究所	2006年12月8日
	インドネシア(1)	セベラス・マレット大学	1996年10月8日
	韓国(9)	忠南大学校	1987年5月20日
		嶺南大学校	1990年7月1日
		韓国海洋大学校	1992年12月1日
		釜慶大学校	1994年10月1日
		江原大学校	1996年6月27日
		春川教育大学校	2003年12月24日
		江陵大学校	2005年7月6日
		建国大学	2005年12月27日
		国立獣医科学検疫院	2005年12月27日
	フィリピン(1)	森林生産物開発研究所	1993年11月1日
中東	イスラエル(1)	ヘブライ大学	1992年6月1日
	トルコ(1)	ムスタファ・ケマル大学	2003年9月2日
アフリカ	エジプト・アラブ共和国(1)	国立水研究センター	2004年6月1日
	スーダン(1)	スーダン農業研究機構	1998年11月1日
北米	カナダ(1)	ウォータールー大学	1987年11月16日
	アメリカ合衆国(4)	ネバダ大学リノ校	1985年7月22日
		コロラド州立大学	1993年4月1日
		カリフォルニア大学デービス校	1996年5月1日
		カリフォルニア大学バークレー校	2001年11月29日
中南米	メキシコ(2)	南バハカリフォルニア自治大学	1996年11月1日
		メキシコ北西部生物学研究センター	1998年8月1日
ヨーロッパ	ノルウェー(1)	ノルウェー科学技術大学	1994年10月1日
	ロシア(1)	サンクト・ペテルブルグ海洋工科大学	1996年11月26日
	スウェーデン(1)	カールスタット大学	1988年11月1日
	連合王国(1)	ノッティンガム大学	2002年3月18日
オセアニア	オーストラリア(1)	カーティン工科大学	2006年10月31日

Strategic Fund for Establishing
International Headquarters in Universities
大学国際戦略本部強化事業



International Strategy of Tohoku University

鳥取大学国際戦略

持続性ある生存環境社会の構築に向けて
— 沙漠化防止国際戦略 —

Towards a Framework for
Sustainable Society in Harmony with Nature
— International Strategies to Prevent Desertification —

Regional Science ■

Agriculture ■



○部局間協定(5か国7機関)

地域	国名	機関名	鳥取大学側部局	締結年月日
アジア	タイ(1)	チュラロンコン大学獣医学部	農学部	2003年5月19日
	韓国(1)	高麗大学校生命工学院	工学部	2002年8月13日
	モンゴル(2)	モンゴル国立農業大学	農学部	2003年4月10日
		モンゴル科学技術大学	工学部	2003年10月30日
	中国(1)	吉林大学東北アジア研究院	地域学部	2006年7月26日
ヨーロッパ	フランス共和国(2)	ブルゴーニュ大学エンズ・バナ校	工学部	2004年10月4日
		ゲルノーブル第三大学想像性研究所	地域学部	2005年6月13日

共同研究・受託研究受入状況(平成14年度～17年度)

【共同研究】

	平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度	
学部	件数	受入金額	件数	受入金額	件数	受入金額	件数	受入金額
地域学部	2	3,430,000	0	0	6	7,040,000	3	720,000
医学部 (医学系研究科を含む)	7	10,550,000	14	12,378,000	14	16,794,536	19	29,675,552
医学部附属病院	0	0	1	2,000,000	2	3,080,450	1	2,200,000
工学部 (工学研究科を含む)	39	38,630,000	46	39,600,000	63	74,280,000	64	81,700,930
農学部	15	13,120,000	37	23,562,000	41	48,555,000	48	40,839,302
地域共同研究センター	0	0	1	200,000	0	0	1	330,000
国際交流センター	0	0	1	1,000,000	1	900,000	0	0
連合農学研究科	0	0	1	500,000	1	500,000	0	0
生命機能研究支援センター	0	0	0	0	1	500,000	0	0
乾燥地研究センター	2	410,000	4	4,568,000	0	0	4	4,940,000
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	0	0	0	0	0	0	5	4,969,500
合 計	65	66,140,000	105	83,808,000	129	151,649,986	145	165,375,284

【受託研究】

	平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度	
学部	件数	受入金額	件数	受入金額	件数	受入金額	件数	受入金額
事務局	0	0	1	5,000,000	1	6,000,000	2	12,197,000
地域学部	4	5,532,000	5	5,450,000	6	9,340,000	8	15,541,000
医学部 (医学系研究科を含む)	21	24,569,160	15	15,383,330	11	9,044,330	18	19,928,500
医学部附属病院	2	2,010,000	3	886,000	4	17,270,000	4	15,413,360
工学部 (工学研究科を含む)	19	46,318,000	17	65,790,295	20	71,122,707	24	110,426,002
農学部	12	73,865,700	13	65,340,200	14	49,563,400	19	47,905,000
生命機能研究支援センター	1	925,000	1	2,000,000	1	1,500,000	1	1,500,000
乾燥地研究センター	3	12,173,500	3	9,276,500	3	8,797,000	4	11,399,500
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	0	0	0	0	1	6,825,000	0	0
合 計	62	165,393,360	58	169,126,325	61	179,462,437	80	234,310,362

奨学寄附金受入決定状況

	平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度	
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)
事務局	3	1,300	8	17,712	8	11,033	3	10,744
教育地域科学部	20	12,365	22	15,859				
地域学部					6	3,280	10	6,387
附属学校部					18	9,130	15	8,820
医学部	370	284,323	373	286,894	408	285,234	419	280,537
医学部附属病院	88	44,297	87	46,457	79	35,778	70	34,463
工学部	90	76,634	92	77,276	88	62,326	84	52,350
農学部	49	37,216	42	28,668	43	28,167	43	67,019
附属図書館							1	70
乾燥地研究センター	8	5,300	6	4,900	9	7,040	6	4,840
地域共同研究センター			3	2,000	3	2,000	3	1,300
総合メディア基盤センター					1	285	3	1,070
国際交流センター					1	100	2	400
生命機能研究支援センター					1	300		
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー					1	100		
合 計	628	461,435	633	479,766	666	444,773	659	468,000

教育・研究プロジェクト設置届出状況

(平成18年10月23日現在)

NO	届出月日	名称	代表者			員数	教育研究期間	
			部局名	職名	氏名		始期	終期
1	H16.6.9	自然エネルギー研究プロジェクト	工学部	教授	林 農	6名	H16.6.9	H20.3.31
2	H16.6.9	過疎社会経営科学研究プロジェクト	工学部	教授	喜多 秀行	7名	H16.2.20	H21.3.31
3	H16.6.29	実践的MOT推進プロジェクト	工学部	教授	北村 章	6名	H16.7.1	H17.6.30
4	H16.7.5	千代川流域環境研究プロジェクト	地域学部	教授	中野 恵文	20名	H16.7.1	H20.3.31
5	H16.8.3	Da Vinciプロジェクト	工学部	教授	西村 正治	19名	H15.4.1	H20.3.31
6	H16.11.1	閉鎖性水域研究プロジェクト	工学部	助教授	矢島 啓	27名	H16.11.1	H19.10.31
7	H17.2.25	県特産品有効利用プロジェクト	工学部	助教授	斎本 博之	8名	H17.2.25	H19.3.31
8	H17.3.1	先進的実践科学教育プロジェクト	工学部	教授	伊藤 敏幸	13名	H17.4.1	H20.3.31
9	H17.4.18	水産バイオマスを利用した生活習慣病の予防・改善を目指した人工染色体ベクター等評価システムの開発プロジェクト	医学系研究科	教授	押村 光雄	6名	H17.4.1	H22.3.31
10	H17.4.25	人工染色体ベクターを用いたゲノム機能評価プロジェクト	医学系研究科	助教授	井上 敏昭	11名	H17.4.1	H22.3.31
11	H17.6.23	蛋白質研究プロジェクト	工学部	教授	河田 康志	5名	H17.6.15	H22.6.14
12	H17.6.27	バイオペースメーカー開発研究プロジェクト	医学系研究科	教授	久留 一郎	6名	H17.7.1	H22.6.30
13	H17.8.25	山陰消化器トランスレーショナル研究・教育プロジェクト	医学系研究科	教授	汐田 剛史	7名	H17.8.25	H22.8.24
14	H17.8.25	未来の消化器医療を創造する教育・研究プロジェクト	医学系研究科	教授	汐田 剛史	5名	H17.8.25	H22.8.24
15	H17.9.1	活性酸素障害の遺伝子治療研究プロジェクト	医学系研究科	教授	汐田 剛史	4名	H17.9.1	H22.8.31
16	H18.4.13	ロボメカものづくり(教育、研究)プロジェクト	工学部	教授	大北 正昭	7名	H18.4.15	H23.4.14
17	H18.10.17	リサイクル農学研究プロジェクト	農学部	助教授	緒方 英彦	4名	H19.1.1	H24.12.31

鳥取大学 年度別特許出願・登録件数

	H14度	H15度	H16度	H17度
発明届件数			36件	57件
特許出願件数	7件	11件	26件	54件
（うち、国内）	(6件)	(11件)	(20件)	(48件)
（うち、外国）	(1件)	(0件)	(6件)	(6件)
保有特許件数 （各年度末）	12件	14件	13件	11件
（うち、国内）	(10件)	(12件)	(11件)	(11件)
（うち、外国）	(2件)	(2件)	(2件)	(0件)

* 外国出願については国ごとに計数。PCT出願時も1件として数え、各国移行後は国ごとに加数する。

（国の調査ではPCT出願時は0件としているが、JSTでは1件と数える。など組織により異なる。）

* H16度出願について、以前20件と報告しているが、今後外国出願を国毎に1件と数えることとしたため、26件と数える。

科学研究費補助金内定状況(平成14年度～平成17年度)

研究種目	年度	申請件数			内定件数			新規分 採択率	全国 採択率	内定額			内、新規分		
		継続 件	新規 件	計 件	継続 件	新規 件	計 件			直接経費 千円	間接経費 千円	計 千円	直接経費 千円	間接経費 千円	計 千円
特定領域研究	14	2	30	32	2	5	7	16.7%	33.0%	60,800	-	60,800	54,100	-	54,100
特定領域研究	15	4	25	29	4	4	8	16.0%	27.8%	55,200	-	55,200	15,800	-	15,800
特定領域研究	16	3	32	35	3	3	6	9.4%	26.4%	53,900	-	53,900	16,200	-	16,200
特定領域研究	17	2	33	35	2	2	4	6.1%	23.7%	37,200	-	37,200	18,400	-	18,400
基盤研究(S)	14	0	2	2	0	0	0	0.0%	12.4%	0	0	0	0	0	0
基盤研究(S)	15	0	1	1	0	0	0	0.0%	12.0%	0	0	0	0	0	0
基盤研究(S)	16	0	0	0	0	0	0	0.0%	16.4%	0	0	0	0	0	0
基盤研究(S)	17	0	1	1	0	0	0	0.0%	16.3%	0	0	0	0	0	0
基盤研究(A)	14	2	8	10	2	1	3	12.5%	23.7%	22,000	6,600	28,600	7,700	2,310	10,010
基盤研究(A)	15	3	5	8	3	0	3	0.0%	21.6%	16,500	4,950	21,450	0	0	0
基盤研究(A)	16	1	9	10	1	2	3	22.2%	24.0%	26,700	8,010	34,710	17,600	5,280	22,880
基盤研究(A)	17	4	5	9	4	0	4	0.0%	20.9%	30,900	9,270	40,170	0	0	0
基盤研究(B)	14	12	63	75	12	12	24	19.0%	23.8%	100,200	-	100,200	66,900	-	66,900
基盤研究(B)	15	19	57	76	19	10	29	17.5%	21.4%	130,100	-	130,100	65,200	-	65,200
基盤研究(B)	16	23	62	85	23	12	35	19.4%	23.0%	146,700	-	146,700	82,700	-	82,700
基盤研究(B)	17	24	63	87	24	11	35	17.5%	21.9%	137,700	-	137,700	70,500	-	70,500
基盤研究(C)	14	68	187	255	68	25	93	13.4%	21.5%	104,500	-	104,500	42,600	-	42,600
基盤研究(C)	15	53	220	273	53	38	91	17.3%	21.6%	117,800	-	117,800	71,200	-	71,200
基盤研究(C)	16	55	235	290	55	42	97	17.9%	22.3%	138,300	-	138,300	85,500	-	85,500
基盤研究(C)	17	63	231	294	63	32	95	13.9%	21.2%	108,300	-	108,300	53,300	-	53,300
萌芽研究	14	3	92	95	3	6	9	6.5%	13.2%	15,000	-	15,000	12,600	-	12,600
萌芽研究	15	4	95	99	4	4	8	4.2%	10.6%	9,800	-	9,800	5,700	-	5,700
萌芽研究	16	5	116	121	5	5	10	4.3%	12.2%	15,600	-	15,600	9,500	-	9,500
萌芽研究	17	7	93	100	7	9	16	9.7%	11.2%	25,900	-	25,900	19,800	-	19,800
若手研究(A)	14	0	12	12	0	4	4	33.3%	10.3%	30,100	9,030	39,130	30,100	9,030	39,130
若手研究(A)	15	4	3	7	4	0	4	0.0%	11.3%	11,000	3,300	14,300	0	0	0
若手研究(A)	16	4	3	7	4	0	4	0.0%	19.1%	9,300	2,790	12,090	0	0	0
若手研究(A)	17	0	6	6	0	3	3	50.0%	26.0%	28,300	8,490	36,790	28,300	8,490	36,790
若手研究(B)	14	20	92	112	20	30	50	32.6%	30.3%	59,000	-	59,000	46,900	-	46,900
若手研究(B)	15	26	104	130	26	23	49	22.1%	29.8%	62,400	-	62,400	37,000	-	37,000
若手研究(B)	16	28	114	142	28	20	48	17.5%	30.7%	66,300	-	66,300	38,100	-	38,100
若手研究(B)	17	31	115	146	31	30	61	26.1%	29.3%	72,200	-	72,200	43,900	-	43,900
地域連携推進研究費	14	2	0	2	2	0	2	-	-	8,600	-	8,600	0	-	0
地域連携推進研究費	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
地域連携推進研究費	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
地域連携推進研究費	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
学術創成研究費	14	0	1	1	0	0	0	0.0%	21.4%	0	0	0	0	0	0
学術創成研究費	15	0	0	0	0	0	0	0.0%	20.9%	0	0	0	0	0	0
学術創成研究費	16	0	0	0	0	0	0	0.0%	25.0%	0	0	0	0	0	0
学術創成研究費	17	0	0	0	0	0	0	0.0%	23.3%	0	0	0	0	0	0
計	14	109	487	596	109	83	192	17.0%	22.7%	400,200	15,630	415,830	260,900	11,340	272,240
計	15	113	510	623	113	79	192	15.5%	21.3%	402,800	8,250	411,050	194,900	0	194,900
計	16	119	571	690	119	84	203	14.7%	22.2%	456,800	10,800	467,600	249,600	5,280	254,880
計	17	131	546	677	131	87	218	15.9%	21.3%	440,500	17,760	458,260	234,200	8,490	242,690

(注)件数・金額は、当初内定分。

平成14年度 科学研究費補助金 部局別・職種別 申請・内定状況 (学術創成研究費、特別推進研究費は除く。)

部局	摘要	教授						助教授・講師						助手・教務員						計					
		申請			内定			申請			内定			申請			内定			現員	申請 件数	全率	内定 件数	内定 率	
		現員	件数	率	件数	率	件数	率	件数	率	件数	率	件数	率	件数	率	件数	率							
教育地域	継続	人	4		4		13		13		13		0						109	17		17		5	
	新規	62	13	21.0%	2	15.4%	47		14	29.8%	3	57.4%	3	21.4%	0				27	27	24.8%	24.8%	40.4%	5	18.5%
医学部	継続		12		12		18		18		18		4						34					34	
	新規	60	44	73.3%	11	25.0%	80		66	82.5%	105.0%	10	15.2%	78	60	76.9%	82.1%	10	16.7%	218	170	78.0%	93.6%	31	18.2%
工学部	継続		9		9		8		8		8		5						22					22	
	新規	53	48	90.6%	11	22.9%	51		47	92.2%	107.8%	7	14.9%	32	23	71.9%	87.5%	3	13.0%	136	118	86.8%	102.9%	21	17.8%
農学部	継続		10		10		10		10		10		0						20					20	
	新規	45	37	82.2%	7	18.9%	36		20	55.6%	83.3%	5	25.0%	17	12	70.6%	70.6%	3	25.0%	98	69	70.4%	90.8%	15	21.7%
附属病院	継続		0		0		6		6		6		7						13					13	
	新規	2	0	0.0%	0	0.0%	37		27	73.0%	89.2%	3	11.1%	68	50	73.5%	83.8%	7	14.0%	107	77	72.0%	84.1%	10	13.0%
乾燥地	継続		0		0		3		3		3		0						3					3	
	新規	6	8	133.3%	0	0.0%	5		1	20.0%	80.0%	0	0.0%	0	0	0.0%			11	9	81.8%	109.1%	0	0.0%	
その他	継続		0		0		1		1		1		1						2					2	
	新規	2	0	0.0%	0	0.0%	6		4	66.7%	83.3%	0	0.0%	3	2	66.7%	100.0%	1	50.0%	11	6	54.5%	72.7%	1	16.7%
計	継続		35		35		59		59		59		17						111					111	
	新規	230	150	65.2%	31	20.7%	262		179	68.3%	90.8%	28	15.6%	198	147	74.2%	82.8%	24	16.3%	690	476	69.0%	85.1%	83	17.4%

(注) 1. 申請の「率」は新規分のみの申請率。「全率」は、継続分を含めた申請率。2. 内定の「率」は新規分のみの内定率(内定/申請)。
3. 「現員」には、教務職員は含まず。寄附講座は含む。

地域新生コンソーシアム研究開発事業

No	実施期間 (全体)	プロジェクト名称	研究代表者 (鳥取大学担当者)	参画機関	受託元	受託金額 (鳥大分)
1	H16～17	ポリマーペーパーバックライトの実用化に関する研究	鳥取商工労働部産業技術センター 研究企画部 統括研究員 北川雅彦 (工学部 教授 撰 達夫)	鳥取大学工学部、鳥取県産業技術センター、株式会社エイチアールディ、株式会社美和製作所研究開発部、株式会社キューブ表面実装技術研究所、鳥取三洋電機株式会社、島根大学総合理工学部、福井大学教育地域科学部、九州大学	財団法人鳥取県産業振興機構	1,963,500
2	H17～18	接合面・摺動面の表面制御による高性能難削材加工機械の研究開発	工学研究科 教授 小幡 文雄 (〃)	(株)滝澤鉄工所、昭和精機(株)、(株)シギヤ精機製作所、住鋳潤滑剤(株)、インフィニティ(株)、友鉄工業(株)、(株)積層金型研究所、品川ファインセラミックス(株)、(独)国立高等専門専門学校機構津山工業高等専門学校、鳥取大学、(財)ちゅうごく産業創造センター	(財)ちゅうごく産業創造センター	9,667,350
3	H17～18	キトサン金属複合体を基材とした環境適合型総合防汚剤の開発	農学部 教授 古川 郁夫 (〃)	大村塗料(株)、平成木材(株)、(有)宝水産、鳥取県商工労働部産業技術センター、鳥取県林業試験場、鳥取県農林水産部栽培漁業センター、鳥取大学、(財)鳥取県産業振興機構	(財)鳥取県産業振興機構	2,841,300
4	H18～19	MEMS技術を用いたモバイル用超小型2軸ジャイロセンサの開発	日本セラミック(株) MEMS部 担当役員 広富 一隆 (工学部 教授 岸田 悟)	日本セラミック(株)、(株)勝原製作所、鳥取精巧(株)、(株)ワコー、鳥取県商工労働部産業技術センター、鳥取大学、(財)鳥取県産業振興機構	(財)鳥取県産業振興機構	1,554,000

『液晶ディスプレイ関連産業における

中核人材育成』事業

～経済産業省委託産学連携製造中核人材育成事業～

平成18年度 カリキュラム(教材)作成

受講生の募集(平成19年2～3月 予定)

お問い合わせ先: 産業創出支援館(米子市日下1239)内

(財)鳥取県産業振興機構

Tel 0859-39-3039, Fax 0859-39-3036 担当: 那須

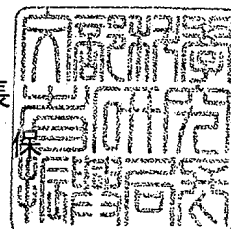
平成19年度 実証授業 → カリキュラムのブラッシュアップ
自立化

管理人: (財)鳥取県産業振興機構

18文科振第407号
平成18年10月13日

国立大学法人鳥取大学農学部附属
鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター
教授 小野 悦郎 殿

文部科学省研究振興局長
徳永 保



『「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」に関する「海外研究拠点を活用した新規研究課題」の募集について』に関する研究課題の採択の決定について（通知）

「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」に関する「海外研究拠点を活用した新規研究課題」の募集に関する研究課題について、審査の結果、貴機関からの提案を採択することに決定いたしましたので、通知いたします。

なお、委託契約に係る具体的な事務手続きについては、別途、ご連絡させていただきますので、ご対応のほどよろしくお願いいたします。

記

研究課題名：「ベトナムにおける鳥インフルエンザ侵淫実態調査と流行予測」

責任機関名：国立大学法人鳥取大学

研究代表者名：小野 悦郎

担当：文部科学省研究振興局ライフサイエンス課（岩崎、佐々木）

〒100-8959 東京都千代田区丸の内2-5-1

TEL:03-6734-4369 FAX:03-6734-4109 e-mail:life@mext.go.jp

平成18年9月14日

感染症研究推進委員会

「海外研究拠点を活用した新規研究課題」公募 審査結果報告	
研究課題	
「ベトナムにおける鳥インフルエンザ侵淫実態調査と流行予測」	
責任機関	
国立大学法人鳥取大学	
研究代表者	
小野 悦郎	
審査結果	採択
所 見	
ベトナム研究拠点において強化拡充すべき「鳥インフルエンザの調査と流行予測に関する研究」に沿った研究である。本件提案課題は、ベトナムではワクチンを用いてインフルエンザ対策を実施している点に着目した独創的な研究であり、緊急性、必要性は非常に高い。また時宜にかなった提案であり、現行の研究拠点における研究においては十分にカバーできていない領域であることから必須の研究である。 なお、「期待される研究上の成果ならびにその社会的意義」については、英文申請書の内容により相手国研究機関と協議していることから日本語の申請書を一部修正すべきである。 また、経費の精査を行うこと。	

平成17年度

地域貢献支援事業報告書

平成18年3月

鳥取大学



目 次

○心を豊かに ～お年寄りから子どもにいたるまで～

さまざまな住民サービス

1. 肥満に対する地域健康教育事業 1
医学部 小谷和彦
2. 地域における保健・福祉対策の実態調査と提言～性と生を豊かに育むために～ 5
医学部 前田隆子
3. 地域における生活習慣病対策 8
医学部 加藤敏明
4. 大山町住民における心と体の健康に関連したQOLに関する調査研究 14
医学部 楠見公義
5. 学生と住民の相互作用をねらったコミュニティの健康づくり 18
医学部 矢倉紀子
6. ミュージック&ムーブメントセラピー講座 24
地域学部 佐分利育代
7. 出張おもしろ科学実験室 27
工学部 森川 修
8. 学校校庭の緑地の景観調査とその維持管理技術の集積 33
農学部 中野淳一

文化・芸術で豊かに

9. 平成17年度芸術文化センター地域貢献学外事業 38
地域学部附属芸術文化センター 高阪一治
10. 鳥取県民オペラの育成 41
地域学部 新倉 健

産学官連携フェスティバル 2005

－県内研究者のネットワークづくり－

報 告 書



平成 18 年 3 月

主催：鳥取大学・鳥取県

目 次

1. はじめに	1
2. プログラム	3
3. 開会挨拶	5
4. とっとりネットワークシステム設立宣言	8
5. 鼎 談	13
6. 口頭発表要旨集	33
7. ポスター発表要旨集	54
8. 新聞報道等	152

サイエンス・アカデミーへのご招待 (「食と健康」シリーズ)

主催：鳥取大学産官学連携推進機構地域共同研究センター
共催：鳥取県立図書館
後援：鳥取県商工労働部産業技術センター食品開発研究所
鳥取県生活環境部衛生環境研究所
食品開発と健康に関する研究会

サイエンス・アカデミーは、一般市民の皆様を対象に、鳥取大学が行っている研究や今日問題となっているような話題、あるいは日頃疑問に思っている事柄などを中心にお話いたします。食は体をつくる源であり、重要であることは言うまでもありません。しかし、主食の米以外はわが国の食料自給率は低く、廉価な輸入食料品に負っており、その残留農薬が問題視されたり、遺伝子組み換え食品の混入も懸念されています。BSEの問題は国際問題になっています。一方、食の安全、無農薬栽培や有機農法にも関心が高く、各種健康食品、機能性食品やサプリメントも市場をにぎわしています。

そこで、食にかかわるさまざまな事柄に焦点をあて、「食と健康シリーズ」としてサイエンス・アカデミーを開催します。皆様のご来場をお待ちいたしております。

場所：鳥取会場：鳥取県立図書館（2F大研修室）鳥取市尚徳町101番地

日野会場：日野町図書館（日野町根雨129-1）（第200回～）

料金：聴講無料！（聴講ご希望の方は直接会場へお越し下さい）

『食と健康シリーズ』（第198回～第216回）

〔第198回〕（米子開催：クリスマス・レクチャー2006連携講座）

テーマ：「食といのちと心のぬくもり」

講師：高塚 人志（鳥取大学医学部助教授）

日時：平成18年5月27日（土）10:30～12:00

〔第199回〕（米子開催：クリスマス・レクチャー2006連携講座）

テーマ：「あなたの味覚だいじょうぶですか」

—味覚のしくみと食生活—

講師：井元 敏明（鳥取大学医学部助教授）

日時：平成18年6月10日（土）10:30～12:00

〔第200回〕（200回記念）

テーマ：「日本ナシの科学と産地鳥取のこれから」

講師：田邊 賢二（鳥取大学農学部教授）

日時：平成18年6月24日（土）10:00～12:00

〔第201回〕

テーマ：「無視できない身近な“ムシ（寄生虫）”のお話」

講師：柴原 壽行（生命機能研究支援センター助教授）

日時：平成18年7月8日（土）10:30～12:00

〔第202回〕

テーマ：「土と食と健康」

講師：本名 俊正（鳥取大学農学部教授）

日時：平成18年7月22日（土）10:30～12:00

〔第203回〕

テーマ：「美味しいお米・健康に良いお米」

講師：田中 朋之（鳥取大学農学部助教授）

日時：平成18年8月26日（土）10:30～12:00

〔第204回〕

テーマ：「機能性を持った粉末食品」

講師：古田 武（鳥取大学工学部教授）

日時：平成18年9月9日（土）10:30～12:00

平成19年1月15日
鳥取大学産官学連携推進機構
(地域共同研究センター)

鳥取大学における産官学連携の主な取組み

- 鳥取大学では平成16年4月の大学法人化を踏まえ、地域（社会）貢献の一環として、従来にも増して産官学連携の推進に力を入れている。

- ・平成16年4月には、研究・国際交流担当理事を配置するとともに、地域との総合窓口の役割を担う事務組織である研究・国際協力部（3課体制）を設置した。
- ・同年11月には、産官学連携推進機構を発足させるなど本格的な活動を開始した。
- ・平成17年4月には、社会貢献担当理事を配置した。

今後の課題 → ・産官学の県内研究者ネットワークの構築
・共同（受託）研究の増加

1 学内の組織体制の充実

- (1) 地域共同研究センター（H5. 4）

米子サブセンターの機能強化（H17.6～、月2回、地共同副センター長が駐在）

- (2) ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（H15. 11）

- (3) 生命機能研究支援センター（H15. 4改組）

- (4) 知的財産センター（H16. 6）



4施設を統合

- (5) 鳥取大学産官学連携推進機構（H16. 11）

- (6) 東京、大阪オフィスの開設とコーディネーターの配置（H17. 3）（→ 県事務所との連携）

- (7) 鳥取駅南サテライトオフィスの開設、（H18. 4）（放送大学との連携）



事務部門の充実

- (8) 研究・国際協力部（H16. 4）

2 主な業務実績

(1) 共同研究、受託研究等の推移

(単位：千円)

年 度	共同研究		受託研究		奨学寄付金		地域貢献	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
平成14年	65	66,340	62	165,394	628	461,435	—	—
15年	105	83,808	58	169,126	633	479,766	—	—
16年	129	151,649	61	179,462	668	446,773	2	2,084
17年	145	165,375	80	234,310	659	468,000	16	12,419
伸 率 H17/H15	138%	197%	138%	139%	104%	98%	—	—
平成18年 12月末現在	145	190,195	91	378,509	507	381,083	12	12,789

注) 共同研究件数：H17年度は、国公立大、高専等の中で第29位。また、上位30大学の中で中小企業比率55.1%は第2位。

(2) 特許出願件数

注) 大学が出願した件数 (個人名での出願は除く)

年 度	平成 12 年	平成 13 年	平成 14 年	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年
出願件数	1	1	8	11	26	54	28

18 年 12 月末現在 28 件 (国内 23 件、外国 5 件)

(3) 大学発ベンチャー

企 業 名	設立年月日	代表者氏名	大学関係者 (職 名)	主な製品またはサービス
(有) SOMジャパン	2003.4.22	徳高 平蔵	徳高 平蔵 (名誉教授)	健康状態の解析ソフトウェアの開発 多変量データの可視化解析ツールの開発
(有) 内水面集研究所	2004.10.1	七條喜一郎	同左 (前助教授)	養殖ホンモロコの種苗・卵・ホンモロコの販売
(有) クロモセンター	2005.6.15	松岡 隆之	押村 光雄 (教 授)	染色体を主とした医学、生命工学及び遺伝子工学などによる研究開発 遺伝子機能解析、医薬品等の安全性、効果等の受託業務
クリーン・コム有限責任事業組合	2006.1.20	北邨 徹	岡本 芳晴 (教授)	金属イオン、光触媒、紫外線、健康食品に関する製造販売。これらの事業に附帯する一切の事業
(有) 自然エネルギー研究センター	2006.3.15	平山 文泰	林 農 (教授) 加藤 優 (大学院・博士 後期課程)	オフショア風力発電のための洋上風況精査システムの研究開発 新エネルギービジョン策定、風力発電事業化のコンサルタント 小型風力発電・自然エネルギー利用機器などの研究開発
日本トリップ有限責任事業組合	2006.7.1	鈴木 尊善	菅原 一孔 (教授)	徒歩移動を考慮した経路検索システムを利用した、バス・鉄道の経路情報を中心に観光情報を提供するサービス事業

(4) VBL (ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー) の推進する研究等

- プロジェクト研究
 - ・次世代マルチメディア基盤技術開発
(フルカラー・ディスプレイ、光センサーの材料・素子開発研究)
 - ・未利用資源有効利用の基盤技術開発
(キチン・キトサン、グルコサミンの健康食品や医薬への応用研究、建築廃材や間伐材等の未利用バイオマス資源の燃料用エタノール変換に関する研究)
 - ・次世代プロジェクト型採択研究
H16 → 6テーマ、 H17 → 4テーマ、 H18 → 2テーマ
- 次世代基盤技術開発事業研究開発プロジェクト
H18 → 2テーマ
- 提案型採択研究 (50 万円/1 件)
H16 → 14テーマ、 H17 → 16テーマ、 H18 → 18テーマ
ポストドクの採用人数 H16 4名、 H17 4名、 H18 4名
- MOTイノベーションスクール (H17～) (MOT: Management of Technology)
標準コース H17 22名、H18 16名
経営幹部コース H17 3名

(5) 広報の充実

- ・各施設パンフレットの充実と積極的配布
- ・産官学連携だより (年4回) 知財ニュース (毎月) の発行
- ・マスコミへの積極的情報提供
- ・シーズ集 (科学技術相談員一覧) の発行 (工学部技術シーズ集 CD の発行)

鳥取大学・日南町地域活性化教育研究センター関連事業の取組み状況

【日南町からの要望事業】

事業名	担当学部 関連教員	取組み状況 (H19. 1.10 現在)
子育て支援（少子化対策）施策への協力	医学部 地域学部	5歳児健診への協力、少子化対策へ対応した医師の派遣を行っている。また、鳥取大学地域貢献支援事業「誰でも安心してかけられる地域医療をめざしたコミュニティづくり事業（医学部 河合教授）」への取組みと同時に、今後、町子育て支援センターの開設に向け、連携して検討を進める。
牛糞堆肥化システムの再構築への研究	農学部 山本定博助教授	今後、具体的な進め方について協議を行う。
小・中一貫校（ソフト・ハード）構想への提案	附属学校部長 地域学部 矢部敏昭 教授 地域学部 地域教育学科 高口明久 教授	小学校は平成21年度1校統合に向けた動きと中学校改築による耐震強度の検討を行っている。 小中一貫校に関しては、全国においても事例が現れはじめたところである。今後、小・中一環校について具体的協議を行う。
鳥取大学芸術文化センターと日南町総合文化センターの連携	地域学部 芸術文化センター 高阪一治センター長 石谷孝二 教授 他	5月2日に新倉教授が町文化センターを訪問。 8月8、9日の両日、芸術文化センター教員全員が日南町に出向き、町関係者と協議会及び懇親会を実施して、町の考え、芸術文化センターの活動状況について述べ、意見の交換を行った。 10月12日、本センターが共催している「とっとりパフォーミングアーツ2006」を、日南町総合文化センターで実施した「劇団サダリ公演」及び「サダリワークショップ」に芸術文化センターの数名が参加。 公演には、町内の保育園児及び江府町の「子供の国保育園」園児など、139人が鑑賞。公演終了後は、劇団員が石見東小学校を訪問し、ワークショップを開催。 日南町との連携事業については、町から具体的な提案を含む話があり、芸術文化センターとしても、来年度の具体的な事業について検討を行っている。町としても、次年度以降の連携事業については、日南町文化センター職員も加わり検討を重ねており、芸術文化センターとの連携に大きな期待を寄せているところである。

地 域 学 部
教育学研究科

資 料 目 次

地表－1	地域学部職員数・・・・・・・・・・・・・・・・	2 7
地表－2	地域学部年次別研究業績の推移・・・・・・・・	2 7
地表－3	地域学部科学研究費の申請数，採択数の年次別推移・・・・・・・・	2 8
地表－4	地域学部共同研究・受託研究の年次推移・・・・・・・・	2 8
研究活動実績票	別紙様式①－乙・・・・・・・・・・・・・・・・	2 9
研究活動実績票	別紙様式②・・・・・・・・・・・・・・・・	3 9
研究活動実績票	別紙様式③・・・・・・・・・・・・・・・・	4 5
研究活動実績票	別紙様式 2・・・・・・・・・・・・・・・・	5 3
研究活動実績票	別紙様式 3・・・・・・・・・・・・・・・・	5 9

地域学部別表一覧

※以下の表においては、教育地域科学部（平成 14～15 年度）を含む

地表－1 地域学部 職員数（平成 18 年 5 月 1 日現在）

	教授	助教授	講師	事務職員(常)	事務職員(非)
地域政策学科	7	3	5		
地域教育学科	16	6	4		1
地域文化学科	7	8			
地域環境学科	9	5	1		
芸術文化センター	5	2	1		
庶務係・会計係 教務係・大学院係				9	6

地表－2 地域学部 年次別研究業績の推移（提出人数：42 人）

事 項	件 数			
	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
①学術論文等（査読付）	32	30	24	28
②学術論文等（査読なし）	55	38	46	45
③国際会議議事録（プロシーディングス）	7	4	5	1
④著書（単著，共著，編集・監修）	17	16	12	26
年度論文数 【(①+②+③+④)/提出人数】	2.64	2.09	2.07	2.38
芸術・建築・体育系分野の研究業績	3	8	4	5
特許出願（発明者）	0	1	2	6
学会発表等	87	86	91	93
学会賞等受賞	1	1	2	2

地表－３ 地域学部 科学研究費の申請数、採択数の年次別推移

		平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
申請件数	継続	17	13	13	17
	新規	29	41	48	33
	合計	46	54	61	50
新規採択数（％）		5（18. 5％）	5（12. 2％）	12（25. 0％）	5（15. 2％）
内定経費（継続＋新規）（千円）				37, 000	39, 320
1 件当たり経費（千円）				1, 480	1, 787

地表－４ 地域学部 共同研究・受託研究の年次推移

		平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
共同研究	件数	2	0	6	3
	受入金額（円）	3, 430, 000	0	7, 040, 000	720, 000
	1 件当たり金額（円）	715, 000	0	1, 173, 333	240, 000
受託研究	件数	4	5	6	8
	受入金額（円）	5, 532, 000	5, 450, 000	9, 340, 000	15, 541, 000
	1 件当たり金額（円）	1, 383, 000	1, 090, 000	1, 556, 667	1, 942, 625

研究活動実績票

別紙様式①－乙

【研究成果一覧】

大学名	鳥取大学	学部・研究科名	地域学部・地域政策学科

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	光多 長温	教授	経済学	1	〔論文〕 わが国へのPFI方式の導入と課題：光多長温，NIRA政策研究，15，6，13-18，2002
				2	〔共著〕 市場化テスト－官民競争時代の到来：光多長温，第1章「官民競争が始まる－市場化テストの導入－」及び終章「市場化テストが日本の行政構造を変える」，本間正明，9-52，2004，NTT出版，東京都港区
				3	日本版PPP－21世紀の行政モデル：光多長温，海外のPPPの現状，杉田定大，光多長温，46-76，2002，東京リーガルマインド，東京都港区
2	山下 博樹	助教授	人文地理学	1	〔論文〕 A Comparative Study of Multi-Nucleation of Metropolitan Areas: Suburban Centers and Commuter Flows in the Metropolitan Areas of Atlanta, USA and Melbourne, Australia: FUJII Tadashi, YAMASHITA Hiroki, ITO Satoru, Cities in Global Perspective: Diversity and Transition, 0, 0, 244-250, 2005
				2	近畿地方における映画館の立地変化とその影響－中心市街地衰退化の一断面として－：山下博樹・野口麻美，地域学論集（鳥取大学地域学部紀要），2，1，29-39，2005
				3	〔共著〕 『日本の地誌 第9巻中国・四国』：山下博樹，鳥取都市圏とその変容，森川洋ほか編，127-132，2005，朝倉書店，東京
3	筒井 一伸	講師	人文地理学	1	〔論文〕 1990年代ベトナム非大都市地域における地方公共投資の地域的特徴：筒井一伸，経済地理学年報，51，3，38-56，2005
				2	「地域づくりインターン」事業にみる都市・農山村交流の展開方向：筒井一伸，CREC，0，149，46-67，2004
				3	〔単著〕 緑地地域における公共サービス・地方財政の実態に関する地理学的研究：筒井一伸，302，2004，大阪市立大学大学院博士（文学）学位論文，
4	中村 英樹	講師	法学	1	〔論文〕 答申解説 医師国家試験の問題用紙及び正答値表：中村英樹，季報情報公開・個人情報保護，0，19，57-59，2005
				2	〔共著〕 なるほど！公法入門：中村英樹，ボルノも「表現」なのですか？，村上英明，61-80，2004，法律文化社，京都市
				3	新基本憲法学：中村英樹，日本国憲法の成立，手島孝，3-10，2002，法律文化社，京都市
5	仲野 誠	助教授	社会学	1	〔論文〕 国際交流でまちおこし——山形県戸沢村・高麗館とキムジャンランド：仲野誠，vesta，0，50，28-33，2003
				2	あるキリスト信徒のライフストーリー（1）——社会変動と個人に関する予備考察：仲野誠，鳥取大学教育地域科学部紀要，3，1，83-102，2001

				3	[共著] 阪神・淡路大震災の社会学 第3巻 復興・防災まちづくりの社会学： 大矢根淳・伊藤亜都子・三輪嘉男・佐藤彰男・木村明子・浦野正樹・ 小松秀雄・今野裕昭・徳田剛・大原径子・文貞実・山本かおり・仲野 誠・荻野昌弘・吉川忠寛・横田尚俊・倉田和四生・長田攻一・辻勝次、 朝鮮初中級学校「復興」をめぐって、岩崎信彦，218-232，1999，昭和 堂，京都市
6	馬場 芳	講師	経営学	1	[論文] 「フランス・カルフル社の日本市場進出」京都大学、『経済論叢』第 172 巻第5-6 号，2003 年。
				2	[共著] 小林俊治他編『江戸に学ぶ企業倫理』生産性出版，2005 年。
				3	[口頭発表] 『経済史文献解題』2001 年度・2002 年度版。
7	井上 英晴	教授	社会学	1	[論文] 老人ホームは生活の場か：井上英晴，九州保険福祉大学研究紀要，0， 4，13-23，2003
				2	[単著] 改訂 福祉コミュニティ論：井上英晴，330，2004，小林出版，東京都 渋谷区西原 3-23-5
				3	[共著] ソーシャルワーク実践への道：井上英晴，地域福祉とソーシャルワー ク，小関康之／塚口伍喜夫，160-173，2004，角川書店，東京都文京区 本郷 5-24-5
8	藤田 安一	教授	財政学	1	[著書] 『地域づくりの新たな発展をめざして』米子プリント社，2004 年
				2	『地域政策の思想と実践』米子プリント社，2005 年
				3	『現代公共政策における地域的課題』米子プリント社，2005 年

研究活動実績票

別紙様式①－乙

【研究成果一覧】

大学名		鳥取大学		学部・研究科名		地域学部・地域教育学科	
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果		
1	小山 直樹	教授	教育学	1	〔 論文 〕 社会科概念探求学習の発展（1）		
				2	社会科概念探求学習の発展（2）		
				3	地域教育学としての社会認識教育（1）		
2	喜久山 悟	助教授	教育学	1	〔 論文 〕 「造形・美術教育実践における活用のための漫画表現の性質」, 大学美術教育学会, 第31号, pp. 153－162, 1991		
				2	〔 単著 〕 「つくりま SHOW」, フレーベル館, 1999		
				3	〔 芸術・建築・体育系分野の研究業績 〕 グループ美術展「第5回こうさくてん」, 2006		
3	溝口 達也	助教授	教育学	1	〔 論文 〕 「学習指導における子どものコンセプションの変容に関する研究」, 鳥取大学教育地域科学部教育実践総合センター研究年報, 第13号, pp. 31-41, 2004.		
				2	「等号, 相等性に関する認識論的障害」, 鳥取大学教育地域科学部紀要 教育・人文科学, 第5巻, 第1号, pp. 25-34, 2003.		
				3	〔 単著 〕 『問題解決と評価：算数・数学教育論』（単著）, 鳥取大学数学教育学研究室（西日本法規出版）, 平成15年9月。（第2版, 平成17年9月）		
4	高橋 ちぐさ	教授	科学教育・ 教育工学	1	〔 論文 〕 減数分裂教材の開発 ーGISH法を用いて染色体数還元および組換えの視覚的理解を図るー. : 高橋ちぐさ, 生物教育, 44, 1, 2-9, 2003		
				2	Physical mapping of rDNA sequences in four karyotypes of Ranunculus silerifolius (Ranunculaceae) : Takahashi, C., J. Plant Res. Vol., 116, 0, 331-336, 2003		
				3	FISH detection of sugar cane centromeric repetitive sequences in the chromosomes of two Miscanthus species. : Takahashi, C., Shibata, F., Hizume, M., Chromosome Science, 6, 0, 1-5, 2002		
5	小川 容子	教授	教育学	1	〔 論文 〕 お手遊び唄の習得過程-就学前児童を対象としたフィールド実験-：小川容子, 鳥取大学地域学部／『地域学論集（鳥取大学地域学部紀要）』, 2, 2, 243-255, 2005		
				2	プロジェクト研究2学力論争と音楽教育-音楽科におけるくゆとりの教育>は子どもたちに何をもたらしたか-：小川容子 嶋田由美 杉江淑子, 『音楽教育学』, 35, 2, 41-53, 2005		
				3	発車サイン音楽の音楽要素に関する心理学的研究：小川容子・水浪田鶴・山崎晃男・桑野園子, 『音楽知覚認知研究』, 8, 2, 65-79, 2003		
6	小林 陽子	講師	生活科学	1	〔 論文 〕 「井上秀の著述活動と略年表-家庭管理論の構築過程を知る手がかりとして」日本女子大学『総合研究所ニュース』第13号, 2002年。		
				2	「井上秀のアメリカ留学の意味」日本女子大学『総合研究所紀要』第5号, 2002年。		
				3	「成瀬仁蔵の蔵書調査（第1報）-旧成瀬仁蔵宅と関連人物を中心に」鳥取大学『地域学論集』第2巻第2号, 2005年。		

7	神谷 哲司	講師	教育心理学	1	[論文] 育児期家族への移行にともなう夫婦の親役割観の変化についての個性記述的検討 ―3 事例の縦断的量的データと回想的面接調査による質的データから― : 神谷哲司, 鳥取大学地域学部紀要 地域論集, 2, 3, 367-388, 2006
				2	[共著] 家族のための心理学: 神谷哲司, 家族と現代社会, 小林芳郎, 80-84, 2005, 保育出版社, 大阪
				3	[編集・監修] 保育現場で出会う家族援助論―家族の発達に目を向けて― : 松村和子・澤江幸則・神谷哲司, 210, 2005, 建帛社, 東京
8	杉本 良一	教授	科学教育・教育工学	1	[論文] 子どもの生活に根ざした理科学習に関する研究―子どもの熱概念と物のあたためり方の学習について― : 杉本良一, 松尾映子, 鳥取大学地域学部紀要, 1, 3, 81-109, 2005
				2	科学的概念の形成をはかる学習支援と評価の方法―小学校3年「こん虫をさぐる」を題材として― : 杉本良一, 矢田光宏, 鳥取大学教育実践総合センター研究年報, 0, 13, 43-49, 2004,
				3	[共著] 理科学習のためのニューメディアの活用, 「初等理科教育学」第4章, 柴一美編, 協同出版, pp. 121-134, 2002
9	油野 利博	教授	健康・スポーツ科学	1	[共著] 世紀を超えて～茗溪陸上競技101年の歩み～ 平成16年3月 筑波大学茨城
				2	[芸術・建築・体育系分野の研究業績] 学校体育指導者中央講習会講師 平成15年5月 文部科学省・独立行政法人教員研修センター 香川
				3	第88回日本陸上競技選手権大会審判長(混成競技) 平成16年6月 日本陸上競技連盟 鳥取
10	関 あゆみ	助教授	内科系臨床医学	1	[論文] 機能的MRIを用いた発達性読字障害へのアプローチ : 関あゆみ、小枝達也、岡田知久、定藤規弘, 小児放射線学会雑誌, 20, 261-272, 2004
				2	Phonemic manipulation in Japanese: an fMRI study : Seki A, Okada T, Koeda T, Sadato N, Cognitive Brain Research, 20, 261-272, 2004
				3	Congenital mirror movement: a study of functional MRI and transcranial magnetic stimulation: Maegaki Y, Seki A, Suzuki I, Sugihara S, Ogawa T, Amisaki T, Fukuda C, Koeda T, Developmental Medicine and Child Neurology, 44, 838-843, 2002.
11	高取 憲一郎	教授	心理学	1	[論文] 自然・社会・人格 : 芝田・南論争再考 : 高取憲一郎, 地域学論集, 2, 2, 169-195, 2005
				2	物質・意識・表象 : 高取憲一郎, 地域学論集, 1, 2, 25-39, 2005
				3	芝田進午先生に導かれて : 高取憲一郎, 『芝田進午の世界 : 核・バイオ時代の哲学を求めて』 桐書房, 88-89, 2002
12	寺川 志奈子	助教授	心理学	1	[論文] 知的障害のある母親の子育て支援に関する研究―全国保健師アンケート調査― : 寺川志奈子・溝口由美・稲垣真澄・小枝達也, 小児保健研究, 64, 2, 301-307, 2005
				2	3歳児健康診査の心理相談対象児にみられる自己―他者領域の分化の特徴 : 寺川 志奈子, 鳥取大学教育地域科学部教育実践総合センター研究年報, 0, 12, 1-7, 2003
				3	[編集・監修] 渡部昭男・寺川志奈子監修, 鳥取大学附属養護学校, 自分づくりを支援する学校―生活を楽しむ子をめざして―, 明治図書, 2005
13	小枝 達也	教授	内科系臨床医学	1	[論文] Increased Urine phenylethylamine after Methylphenidate treatment in Children with ADHD : Kusaga A, Yamashita Y, Koeda T, et al, Ann Neurol, 52, 0, 371-374, 2002

				2	Seki A, Okada T, Koeda T, et al. Phonemic manipulation in Japanese: an fMRI study. Cognitive Brain Research 20;261-271:2004.
				3	Koeda T. Attention Deficit/ Hyperactivity Disorders. Pediatric Endocrinology. 14(Suppl 22), 11-14:2005.
14	田丸 敏高	教授	心理学	1	[論文] 児童期における自己の発達——心理科学探求の議論をとおして——：田丸敏高, 心理科学, 26, 1, 26-40, 2006
				2	子どもと大人の識別に関する発達的研究：田丸敏高・植木綾子, 地域学論集, 1, 1, 17-31, 2004
				3	[共著] 児童心理学の進歩 (第 42 巻) 2003 年度版：田丸敏高, 社会科教育と社会認識の発達, 稲垣佳世子, 171-196, 2003, 金子書房, 東京
15	廣重 佳治	教授	心理学	1	行動的覚醒維持法によるマイクロスリープの実験的検討：広重佳治, 地域学論集, 1, 1, 33-48, 2004
				2	睡眠時における眼球運動自動計測の改訂：広重佳治, 生理心理学と精神生理学, 20, 2, 152-0, 2002
				3	入眠状態に関する生理心理学的研究：広重佳治, 201, 2006, 風間書房, 東京都千代田区神田神保町 1-34
				1	[共著] 「自分づくり」を支援する学校：渡部昭男, 発刊にあたって、第IV部第1章・教育学の立場から, 渡部昭男・寺川志奈子監修 鳥取大学附属養護学校著, 1-244, 2005, 明治図書, 東京
16	渡部 昭男	教授	教育学	2	市民と創る教育改革—検証・志木市の教育政策：渡部昭男, はじめに、第4章第2節・学校に來られなくても「教員派遣」の方策がある、資料, 渡部昭男・金山康博・小川正人編 志木教育政策研究会著, 1-239, 2006, 日本標準, 東京
				3	「特別支援教育」への転換—自治体の模索と試み—：日本特殊教育学会 特殊教育システム研究委員会自治体研究班, まえがき、序章、埼玉県志木市、京都市、終章, 0-238, 2003, クリエイツかみがわ, 京都市

研究活動実績票

別紙様式①ー乙

【研究成果一覧】

大学名	鳥取大学	学部・研究科名	地域学部・地域文化学科

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	長柄 裕美	助教授	ヨーロッパ語系文学	1	[論文] 周縁地方都市の文化アイデンティティ構築の事例研究——英国セント・アイヴスにおけるテイト・ギャラリー誘致への道のり——：長柄裕美，地域学論集（鳥取大学地域学部紀要），1，3，111-127，2005
				2	敗北の抱きしめ方——An Artist of the Floating World のオノの場合——：長柄裕美，鳥取大学教育地域科学部紀要（教育・人文科学），4，2，605-629，2003
				3	現実と追憶の揺らぎのなかで——カズオ・イシグロ A Pale View of Hills 試論：長柄裕美，鳥取大学教育地域科学部紀要（教育・人文科学），3，2，135-150，2002
2	野田 邦弘	教授	政治学	1	[編集・監修] 『新時代の大学経営—アドミニストレーター養成を考える』：野田邦弘，山本眞一，村上義編集。1 公立大学と大学経営、2 公立大学における具体的展開、3 公立大学の将来と職員像，37-216，平成 17 年，ジアース教育新社
3	北川 扶生子	助教授	文学	1	[論文] 明治期の修辭観と社会進化論—夏目漱石のアレグザンダー・ポープ研究における分裂と可能性：北川扶生子，比較文学，48，0，7-21，2006、日本比較文学会
				2	失われゆく避難所（アジール）—『門』における女・植民地・文体：北川扶生子，小森陽一・石原千秋編『漱石研究』第 17 号，0，17，77-89，2004、翰林書房
				3	[共著] 大阪市立大学文学研究科叢書第 2 巻・都市の異文化交流：北川扶生子，海外の日本研究と国際学術交流の現状・エスニックマイノリティのロンドン，大阪市立大学文学研究科叢書編集委員会，213-227，2003，清文堂
4	内藤 久子	教授	哲学	1	[論文] Some Aspects of Musical Development in Japan in the Twentieth-Century : The Reception of European Music and Subsequent Japanese Innovation : 内藤久子，Internationales Musikwissenschaftliches Kolloquium “Der Sinn (oder Un-Sinn?) der Musikgeschichte des 20. Jahrhunderts” Brno 1999，34，0，147-152，2002
				2	[単著] 作曲家◎人と作品シリーズ ドヴォルジャーク：内藤久子，270，2004，音楽之友社，東京
				3	チェコ音楽の歴史—民族の音の表徴— [平成 13 年度文部科学省科学研究費補助金（研究成果公開促進費・学術図書出版）に基づく]：内藤久子，351，2002，音楽之友社，東京都
5	田中 仁	教授	文学	1	[論文] 「性情は水土の霊」—香川景樹の歌論における「調べ」について—、単著、平成 15 年 3 月、 『国語国文』第 72 巻第 3 号、509～529 頁
				2	2，洛東遺芳館蔵本の蔵書印—柏原印・岸部印—、単著、平成 16 年 1 月、 鳥取大学教育地域科学部紀要（教育・人文科学）第 5 巻第 2 号、39～252 頁
				3	3，仏光寺『御日記』の香川景樹—文化七年から九年まで、文化十二年から十四年まで—、単著、平成 17 年 6 月、『地域学論集』（鳥取大学地域学部紀要）第 2 巻第 1 号、119～133 頁

6	ケイ・アレキサンダー キッペン	教授	言語学	1	[論文] Cates, K. "Becoming a Global Teacher" <i>The Language Teacher</i> Vol. 28 No. 7 July 2004 Tokyo, Japan. pp. 31-35.
				2	[共著] Cates, K. "Teaching for a Better World: Global Issues and Language Education in Japan" in Osler, A. and Starkey, H. (Eds.) (2005) <i>Citizenship and Language Learning: International Perspectives</i> . UK: Trentham. pp. 59-73.
				3	[編集・監修] 学術雑誌編集者「Global Issues in Language Education Newsletter」全国語学教育学会(JALT)グローバル教育分科会 (年に4回発行、60号発行、1990年から現在まで)

研究活動実績票

別紙様式①－乙

【研究成果一覧】

大学名	鳥取大学	学部・研究科名	地域学部・地域環境学科

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	安藤 由和	教授	物理学	1	[論文] Magnetic properties of TbPdSn single crystal : Yoshikazu Andoh, Makio Kurisu, Go Nakamoto, Toshiyuki Himi, Shinji Kawano, Journal of Magnetism and Magnetic Materials, 276, 0, 361-362, 2004
				2	Magnetic structure of HoPdSn : Y. Andoh, M. Kurisu, G. Nakamoto, T. Tsutaoka, Y. Makihara, T. Kosugi, S. Kawano, Physica B, 327, 0, 389-392, 2003
				3	Magnetic properties of a SmNiSn single crystal : M. Kurisu and Y. Andoh, Physica B, 327, 0, 393-396, 2003
2	高田 健一	講師	史学	1	[論文] 鳥取県西部における弥生時代後期の集落像, 待兼山考古学論集, 2005, 大阪大学考古学研究室
				2	妻木晩田遺跡におけるより良い整備・活用に向けて, 遺跡学研究第2号, 2005, 日本遺跡学会
				3	[編集・監修] 日本海をのぞむ弥生の国々 : 濱田竜彦、高田健一編 鳥取県教育委員会監修, 178, 2005, 編集工房 遊, 鳥取県米子市日野町 187
3	矢野 孝雄	教授	教育学	1	[論文] The Pacific Ocean origin as result of the repeated heating of the upper mantle in Phanerozoic : Yano, T., Matsumoto, I. and G. Bu, Geological Structure and Origin of the Pacific Ocean, 151-167, 2005
				2	中国雲南省麗江盆地の形成メカニズムと応力場の特性 : 矢野孝雄・赤松純平・李 康龍・西村敬一・蔣 楽群・駒澤正夫・中村桂重郎・盛川 仁・坂井公俊・宇田川鎮生, 地球, 27, 10, 750-754, 2005
				3	中央アジア大山脈とシルクロード (オアシスルート) の形成関係 : 松本征夫・矢野孝雄, 日本山岳文化学会論集, 2, 81-90, 2005
4	岡田 昭明	教授	地球惑星科学	1	[論文] 鳥取砂丘の形成史からみた最終間氷期の海水準 : 岡田昭明, 鳥取地学会誌, 0, 9, 27-30, 2005
				2	Late Cenozoic volcanic activity in the Chugoku area, southwest Japan arc during back-arc basin opening and reinitiation of subduction : J. Kimura et. al., The Island Arc, 12, 0, 22-45, 2003
				3	[共著] 日本の地質―増補版― : 「日本の地質 増補版」編集委員会編, 374p., 共立出版, 2005
5	小玉 芳敬	助教授	地理学	1	[論文] 集塵機を用いた砂地における簡易ボーリング法 : 河合隆行・神近牧男・木村玲二・多田泰之・小玉芳敬・佐倉保夫, 日本砂丘学会誌, 52, 3, 91-102, 2006
				2	A Sediment Pulse Migration and Stopping along the Sendai River, Japan. : Y. KODAMA, T. KOBAYASHI, T. INOUE, K. TASHIRO and A. SHALKOWSKI, AGU Fall Meeting, EOS Trans. AGU, 84(46), Fall Meet. Suppl., Abstract H42L-06, 84, 6, 0-0, 2003
				3	伯耆大山の砂防施設は、弓ヶ浜海岸の侵食に影響しているか? : 小玉芳敬・小西立基・菊池顕宏・景山龍也・三村 清・谷口 聡・頼正 浩, 鳥取大学教育地域科学部紀要 (地域研究), 4, 3, 79-90, 2003

6	鶴崎 展巨	教授	基礎生物学	1	[論文] Fauna and biogeography of harvestmen (Arachnida: Opiliones) of the Oki Islands, Japan : Tsurusaki, N., Takanashi, M., Nagase, N., and Shimada, T., <i>Acta Arachnologica</i> , 54, 1, 51-63, 2005
				2	Geographic and seasonal variations of the number of B-chromosomes and external morphology in <i>Psathyropus tenuipes</i> (Arachnida: Opiliones) : Tsurusaki, N. and Shimada, T., <i>Cytogenetic and Genome Research</i> , 106, 0, 365-375, 2004
				3	Phenology and biology of harvestmen in and near Sapporo, Hokkaido, Japan, with some taxonomical notes on <i>Nelima suzukii</i> n. sp. and allies (Arachnida: Opiliones) : Tsurusaki, N., <i>Acta Arachnologica</i> , 52, 1, 6-24, 2003
7	松本 健治	教授	地域研究	1	[論文] 思春期の発育と環境—特に発育促進現象をめぐる—: 武田真太郎 松本健治, <i>日本成長学会雑誌</i> , 11, 1, 13-23, 2005
				2	中・高校生の喫煙に関する知識と意識: 祝部大輔 吉岡伸一 國土将平 松本健治, <i>思春期学</i> , 23, 4, 411-418, 2005
				3	身長最大の発育年齢の若年化: 松本健治, <i>子どもと発育発達</i> , 1, 1, 55-57, 2003
8	中野 恵文	教授	複合化学	1	[論文] Flow-injection spectrophotometry of vanadium by catalysis of the bromate oxidation of N,N'-bis(2-hydroxyl-3-sulfopropyl)-tolidine : Shigenori Nakano, Erina Tanaka, Yukino Mizutani, <i>Talanta</i> , 61, 0, 203-210, 2003
				2	Flow-injection determination of chromium(III) by its catalysis on the oxidative coupling of 3-methyl-2-benzothiazoline hydrazone with N-ethyl-N-(2-hydroxyl-3-sulfopropyl)-3-methoxyaniline : Mayumi Kaneko, Makoto Kurihara, Shigenori Nakano, Takuji Kawashima, <i>Analytica Chimica Acta</i> , 474, 0, 167-176, 2002
				3	Flow-injection chemiluminescent determination of vanadium(IV) and total vanadium by means of catalysis on the periodate oxidation of purpurogallin : Shigenori Nakano, Koji Sakamoto, Akihiro Takenobu, Takuji Kawashima, <i>Talanta</i> , 58, 0, 1263-1270, 2002
9	田村 純一	助教授	生物分子科学	1	[論文] Synthesis of Chondroitin Sulfate E Hexasaccharide in the Repeating Region by an Effective Elongation Strategy toward Longer Chondroitin Oligosaccharide : J. Tamura, and M. Tokuyoshi, <i>Biosci. Biotech. Biochem.</i> , 68 (12) 2436-2443 (2004).
				2	[共著] 「未来を拓く糖鎖科学」2章 糖鎖合成技術研究 11項 グリコサミノグリカン p112-113 (分担) 金芳堂、2005年
				3	[特許出願] 生体組織からの多糖類の取得方法: 2006-016455、国立大学法人鳥取大学、2005
10	永松 大	助教授	基礎生物学	1	[論文] Influence of micro-landforms on forest structure, tree death and recruitment in a Japanese temperate mixed forest. : Nagamatsu, D., Hirabuki, Y. & Mochida, Y., <i>Ecological Research</i> , 18, 0, 533-547, 2003
				2	孤立化した照葉樹林における樹木個体群の構造変化: 小南陽亮・永松大・佐藤 保・齊藤 哲・田内裕之, <i>保全生態学研究</i> , 8, 0, 33-41, 2003
				3	Seedling establishment of deciduous trees in various topographic positions. : Nagamatsu, D., Seiwa, K. & Sakai, A. , <i>Journal of Vegetation Science</i> , 13, 0, 35-44, 2002

研究活動実績票

別紙様式①ー乙

【研究成果一覧】

大学名	鳥取大学	学部・研究科名	地域学部・附属芸術文化センター

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	上田 敏和	教授	教育学	1	[芸術・建築・体育系分野の研究業績] 第 73 回独立展・東京都美術館・10 月・全国・会員、審査員出品：2005
				2	第 5 回申師任堂美術大展国際招待作家展・江陵市芸術会館・国際・招待出品：2004
				3	第 7 1 回独立展・東京都美術館・10 月・全国・会員、審査員出品：2003
2	新倉 健	教授	音楽	1	[芸術・建築・体育系分野の研究業績] オペラ「つめ草の道標～ポラーノの広場への道～」(作曲) 2005 年 10 月 30 日福井県国民文化祭オペラ事業鯖江市文化会館ホール：2005
				2	「アジール～弥生島人幻想～」(作曲) 2005 年 10 月 9 日第 17 回全国生涯学習フェスティバル総合開会式オープニング鳥取県民文化会館梨花ホール：2005
				3	オペラ「ポラーノの広場」の作曲と公演、2002 年 10 月 20 日、倉吉未来中心：2002

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

【研究成果の表】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	地域学部・地域政策学科

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	仲野 誠	助教授	社会学	1	[競争的資金] 地域社会における異質性受容に関する社会学的研究：基盤研究（C），新規，代表，2006
				2	多文化社会形成の条件に関する歴史社会学的研究——山村のキリスト教受容とムラの国際結婚を事例にして——：若手研究（B），継続，代表，2003
				3	財団法人味の素の文化センター 食文化研究助成：新規，代表，2002
2	馬場 芳	講師	経営学	1	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] 共著『江戸に学ぶ企業倫理』の書評が『中部財界』，『朝日新聞』他に掲載された。 また，『日本海新聞』に鳥取県の企業誘致・産官学連携についての意見が掲載された。
3	藤田 安一	教授	財政学	1	[一般雑誌，新聞等に掲載された論文・記事等] 日本海新聞「公共性より効率性」2005 年 4 月 29 日
				2	朝日新聞「住民が頭、行政は手足」2006 年 1 月 12 日
				3	日本海新聞「どうする山間過疎地の豪雪対策」2006 年 1 月 15 日
4	筒井 一伸	講師	人文地理学	1	[競争的資金] 全国銀行学術研究振興財団：新規，代表，2005
				2	都市-農山村間のフローをもたらす公共サービス供給に関する地理学的研究：若手研究 B，新規，代表，2005
				3	日本及びアジア諸国の周辺地域における財政及び公共サービス供給に関する地理学的研究：特別研究員奨励費，継続，代表，2002
5	山下 博樹	助教授	人文地理学	1	[一般雑誌，新聞等に掲載された論文・記事等] 商業中心地の立地構造とその変化－鳥取市と津山市の事例－：山下博樹，地理，48，4，15-21，2003
				2	[競争的資金] 成熟時代における都市圏構造の再編とリバブル・シティの空間構造に関する地理学的研究：基盤研究 C，継続，代表，2005
				3	社会経済構造の転換と 2 1 世紀の都市圏ビジョン：基盤研究 A，継続，共同，2005
6	光多 長温	教授	経済学	1	[一般雑誌，新聞等に掲載された論文・記事等] 官民大競争時代：光多長温，商工ジャーナル，31，10，50-53，2005
				2	PPP 総論：光多長温，全国市町村国際文化研修所「国際文化研修」，0，0，2-9，2002
				3	鳥取県の公共事業－経済効果分析を中心として－：光多長温，鳥取政策総合研究所「TORC レポート」，0，0，18-34，2002

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	地域学部・地域教育学科

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	喜久山 悟	助教授	教育 (美術)	1	[一般雑誌，新聞等に掲載された論文・記事等] 「創造美育運動」美育文化 5 月号，2005，
				2	[受賞（研究）] 第 26 回読売国際漫画大賞課題部門金賞，読売新聞社，2005
2	高橋 ちぐさ	教授	科学教育・ 教育工学	1	[受賞（研究）] 平成 17 年度鳥取大学研究功績賞：分子細胞遺伝学の手法による，イネ科ススキ属植物のゲノム構成および染色体特定部位 DNA 配列の遺伝的性質の解明，鳥取大学，個人，2005
				2	CHROMOSOME SCIENCE 論文賞：FISH detection of sugar cane centromeric repetitive sequences in the chromosomes of two Miscanthus species.，財団法人 染色体学会，個人，2004
				3	[競争的資金] 遺伝子 DNA のゆくえが，染色体上 in situ で視覚的に識別可能な教材の開発研究：基盤研究（C）（2），継続，代表，2003
3	小川 容子	教授	教育学／教 科教育学	1	[競争的資金] 洋楽導入期から現在に至る異文化適応の歴史的体系的研究：基盤研究（B），継続，共同，2005
				2	視覚フィードバックにおけるフラットシンギングの測定と治療法の研究：基盤研究（B），継続，共同，2005
				3	子どもの創作活動における音楽的発達研究：幼年期・義務教育機関の縦断的横断的研究：基盤（B）（1），継続，代表，2003
4	杉本 良一	教授	科学教育・ 教育工学	1	[競争的資金] 平成 13-14 年度科研費基盤研究 C（13680200）「情報教員養成におけるマルチメディア表現に関する教育方法の開発」研究成果報告書
				2	平成 17 年度科研費基盤研究 B（17330167）「地域の教育福祉諸機関の連携に関する総合的研究」研究中間報告書
5	油野 利博	教授	健康・スポ ーツ科学	1	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] 全国スボレク祭の開催意義（鳥取県生涯スポーツ推進協議会長 日本海新聞 平成 14 年 9 月 23 日
6	関 あゆみ	助教授	生物系・医 歯薬分野・ 内科系臨床 医学哲学	1	[一般雑誌，新聞等に掲載された論文・記事等] 生物系・医歯薬分野・内科系臨床医学[研究成果でテレビ・ラジオに出演した]
				2	[競争的資金] パラメトリック解析法による学習障害児の認知障害メカニズムの機能的 MR I 研究：若手 B，継続，代表，2005
				3	パラメトリック解析法による学習障害児の認知障害メカニズムの機能的 MR I 研究：若手 B，新規，代表，2004
7	寺川 志奈子	助教授	心理学	1	[競争的資金] 知的発達障害児における自己－他者認識の分化過程に及ぼす生活年齢効果の縦断的検討：基盤研究（C）（2），代表，2004, 2005
				2	軽度発達障害児の学校不適応軽減を目的とした 5 歳児健診の有用性に関する実践的研究：基盤研究（B），研究分担者，2004, 2005
				3	独立行政法人科学技術振興機構社会技術研究システムミッションプログラムⅢ「日本における子供の認知・行動発達に影響を与える要因の解明」鳥取研究グループ：共同，2004, 2005

8	小枝 達也	教授	内科系臨床 医学	1	[一般雑誌，新聞等に掲載された論文・記事等] 平成 15 年 7 月 16 日 日本海新聞「5 歳児健診 ニーズ高まる」
				2	平成 17 年 3 月 25 日 教育医事新聞 「軽度発達障害児 発見と対応システムマニュアル作成へ」
				3	平成 17 年 10 月 27 日 読売新聞 「社会能力の発達 10 年間追跡調査」
9	田丸 敏高	教授	心理学	1	[競争的資金] 鳥取県受託研究 メディアと子育て応援事業：新規，代表，2005
				2	科学技術研究費補助金 地域の教育福祉諸機関の連携に関する総合的研究：基盤研究 B，新規，代表，2005
				3	羽合町受託研究 子ども達の言語発達に関する実態調査研究：新規，代表，2004
10	渡部 昭男	教授	教育学	1	[一般雑誌，新聞等に掲載された論文・記事等] 連載「教育再考」：渡部昭男，日本海新聞（2002 年 4 月～03 年 3 月毎月 1 回），2002-03
				2	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] 書籍／市民と創る教育改革 検証：志木市の教育政策／渡部昭男・金山 康博・小川 正人 編、志木教育政策研究会 著／独自施策のキーマンが解説〔東京大学名誉教授 浦野東洋一氏執筆〕（日本教育新聞 2006 年 4 月 24 日付け）
				3	[競争的資金] 義務標準法第 7 次改善計画に係る地方教育施策の研究－「特別支援教育」の進展過程－：基盤研究(c)(2)，代表，2001-03
11	廣重 佳治	教授	心理学	1	[競争的資金] 2005 年度鳥取県メディアと子育て応援事業：新規，共同，2005
				2	「入眠状態に関する生理心理学的研究」：研究成果公開促進費，新規，代表，2005
				3	Micropsleep の発現要因解明と判定基準作成研究：基盤研究(C)(2)，継続，代表，2004

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名		鳥取大学		学部・研究科等名		地域学部・地域文化学科	
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果		
1	ケイツ・アレキサンダー キッペン	教授	言語学	1	[一般雑誌，新聞等に掲載された論文・記事等] 新聞の記事「鳥取大学地域学部教授 キップ・ケイツさん アジアの若者らの国際交流を進める」（朝日新聞 5/19）		
				2	一般雑誌の記事「ケイツ先生の楽しい国際理解講座」 NPO Life 雑誌（No.1 2005/07）鳥取県		
				3	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] 学会誌の記事「Global Education: An Interview with Kip Cates」 by Jim Kahny ETJ Journal Vol. 2 No. 2 Fall 2001 Hiroshima, Japan. pp. 8-12.		
2	野田 邦弘	教授	政治学	1	[一般雑誌，新聞等に掲載された論文・記事等] 「官から民へ、変化する公共ホールの管理運営主体－横浜市の事例を通して考える」野田邦弘、『演劇人』第 19 号（演劇人会議）、平成 17 年 4 月、p70～78		
				2	「まちづくりとしての自治体イベント」野田邦弘，月刊『地方自治職員研修』（公職研），平成 18 年 2 月号，p21～p23		
				3	[競争的資金] 鳥取県高等教育機関「地域の財産」活用推進事業：新規，共同，平成 17 年度		
3	北川 扶生子	助教授	文学	1	[一般雑誌，新聞等に掲載された論文・記事等] 失われゆく避難所（アジール）－『門』における女・植民地・文体：北川扶生子，小森陽一・石原千秋編『漱石研究』第 17 号，0，17，77-89，2004、翰林書房		
				2	作家漱石のスリリングな舞台裏－飛ヶ谷美穂子『漱石の源泉創造への階梯』：北川扶生子，漱石研究，16，0，194-197，2003、翰林書房		
				3	競争的資金] 日清・日露戦争期における「文」というジャンルと作文教育：若手研究 B，代表，2004～2005		
4	内藤 久子	教授	哲学	1	[研究成果でテレビ・ラジオに出演した] 「イヴニングネットワーク」著書紹介コーナー（著者と語る）：山陽放送（岡山）R S K ラジオ放送，内藤久子，2004 年 11 月 8 日		
				2	[受賞（研究）] 鳥取大学科学研究業績：「チェコ音楽の歴史－民族の音の表徴－」の著作に対して，鳥取大学，個人，2003		
				3	[競争的資金] 近現代のチェコにおけるオペラ創作とナショナル・アイデンティティの構築：基盤研究（C），新規，代表，2004～2006		
5	田中 仁	教授	文学	1	[競争的資金] 近世末期京都商家の学問と文事（科学研究費補助金基盤研究 C（2）平成 12 年度～平成 15 年度「近世末期京都商家の学問と文事」報告書）、平成 16 年 3 月、全 133 頁		
				2	桂園派の形成・展開と真宗仏光寺派交流圏（科学研究費補助金基盤研究 C（2）平成 16 年度～平成 19 年度）		
				3	鳥取県の公共事業－経済効果分析を中心として－：光多長温，鳥取政策総合研究所「TORC レポート」，0，0，18-34，2002		

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	地域学部・地域環境学科

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	高田 健一	講師	物理学	1	[競争的資金] 大社造の起源と変容に関する歴史考古学的研究：継続，共同，2005
				2	弥生後期集落の景観的研究：新規，共同，2005
2	矢野 孝雄	教授	教育学	1	[競争的資金] 千代川とその流域圏における自然的・人文的特性に関する総合研究：継続，共同，2005
				2	千代川流域圏における自然的・人文的特性に関する総合研究：新規，共同，2004
				3	マイクロゾーニングを目的とした中国雲南省麗江盆地の共役断層と基盤構造の調査研究：基盤研究（B）（1），継続，共同，2004
3	小玉 芳敬	助教授	地理学	1	[一般雑誌，新聞等に掲載された論文・記事等] 「全国野鳥保護のつどい」に向けて 鳥取県の自然 第3回 その1 鳥取砂丘はどのようにして形成されたか？：小玉芳敬，財団法人 日本鳥類保護連盟，私たちの自然，0，485，4-5，2003
				2	[研究成果でテレビ・ラジオに出演した] テレポート山陰で 鳥取砂丘に埋没する太古の千代川特集：BSS，小玉芳敬，2005年11月1日
				3	TSK スーパーニュース 鳥取砂丘に埋没する太古の千代川：山陰中央，小玉芳敬，2005年10月18日
4	鶴崎 展巨	教授	生物多様性・分類	1	[競争的資金] 中国山地のザトウムシ類に協調的に起こる外部形態分化・核型分化と分子系統地理学：基盤研究C，代表，2004-2005
				2	財団法人リバーフロント整備センター：代表，2004-2005
				3	ユミヒゲザトウムシ種群における種分化，核型分化，ならびに交雑帯の性質の解明：基盤C2，代表，2002-2003
5	中野 恵文	教授	複合化学	1	[受賞（研究）] フローインジェクション分析学術賞
6	田村 純一	助教授	生物分子科学	1	[競争的資金] 鳥取県環境学術研究助成、新規，代表，2005
				2	科学研究費補助金、萌芽研究，新規，代表，2003-2005
				3	科学研究費補助金、基盤研究C，継続，代表，2002
7	永松 大	助教授	基礎生物学	1	[一般雑誌，新聞等に掲載された論文・記事等] ヤクタネゴヨウの生きざまを読み解く：永松 大，季刊生命の島，70，0，86-89，2005
				2	針葉樹林に侵入してくる広葉樹：齋藤 哲・小南陽亮・佐藤 保・永松 大・大谷達也，九州の森と林業，68，0，1-4，2004
				3	[競争的資金] 屋久島森林生態系における固有樹種と遺伝子多様性の保全に関する研究：継続，共同，2005

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	地域学部・附属芸術文化センター

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	新倉 健	教授	音楽	1	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] 日本のオペラ年鑑 2002「日本のオペラ～2002 年の活動実態とその分析」小村公次：新倉健、西岡千秋（鳥取オペラ協会），2003 年 1 月
				2	モーストリー・クラシック 2002vol.68：新倉健、西岡千秋（鳥取オペラ協会），2000 年 12 月号
				3	[受賞（研究）]鳥取大学研究功労賞 2003

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	地域学部・地域政策学科

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	光多 長温	教授	経済学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 独立行政法人建築研究所研究評価委員会: 委員, 2002-2005
				2	内閣府民間資金等活用推進委員会: 専門委員, 2002-2005
				3	[産業支援] 地域振興方策: 国土交通省地域振興アドバイザー (秋田県大潟村, 2005、島根県日原村, 2004)
2	山下 博樹	助教授	人文地理学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取県若桜町: 2003
3	筒井 一伸	講師	人文地理学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取県日南町ガイドボランティアアドバイザー: 2005
				2	国土交通省中国地方整備局日野川河川事務所菅沢ダム水源地域ビジョン検討委員会: 2005
				3	鳥取県八頭町行政改革推進委員会: 2005
4	中村 英樹	講師	法学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 八頭町情報公開・個人情報保護審査会: 委員, 2005
				2	温泉町情報公開・個人情報保護審査会: 委員, 2005
				3	岩美町情報公開・個人情報保護審査会: 委員, 2005
5	井上 英晴	教授	社会学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 米子市地域福祉計画策定委員会: 学識経験者, 2005
				2	米子市地域福祉 (活動) 計画策定ボランティア会議: 学識経験者, 2005
				3	米子市地域福祉 (活動) 計画策定ボランティア会議: 学識経験者, 2004
6	藤田 安一	教授	財政学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 国土交通省夢街道ルネサンス審査会委員
				2	鳥取県地方最低賃金審査会委員
				3	鳥取県社会保障推進協議会会長
7	仲野 誠	助教授	社会学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取家庭裁判所: 2005
				2	[公開講座, 講演会等] 米国バーモント州への招待: 「とっとり国際塾」スタディー・ツアー帰国報告会, 鳥取県国際交流財団, 社会人, 2004
				3	[産業支援] キムチの特産品化・地域おこし: 山形県戸沢村, 2005
8	馬場 芳	講師	経営学	1	[公開講座, 講演会等] 鳥取ロータリークラブでの招聘講演「西川甚五郎家にみる企業家精神」
				2	鳥取県立図書館での公開講座「西川グループの事業展開」
				3	[研修事業 (外国人向け研修)] 江原大学の交流提携プログラムにて, 「企業と地域」の講義を担当

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	地域学部・地域教育学科		
N0	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	喜久山 悟	助教授	教育 (美術)	1	[公開講座, 講演会等] 第 26 回中国五県造形教育研究大会指導助言, 2006
2	溝口 達也	助教授	教育学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取県数学教育会 理事
				2	[公開講座, 講演会等] 鳥取県教育センター 教科の指導力向上研修 (中学校数学・高等学校数学)
				3	鳥取県教育センター 10 年経験者研修 (中学校数学・高等学校数学)
3	高橋 ちぐさ	教授	科学教育 ・教育工学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 大学入試センター教科科目第一委員会: 委員, 2005
				2	[公開講座, 講演会等] 研究発表「遺伝子を見るー染色体ペインティング, 染色体マッピングでわかることー」: 「地域教育学科がめざすもの」, 教員による研究発表, 子どもフォーラム, 鳥取大学地域教育学科, 鳥取大学生涯教育総合センター, 地域の人々 (子ども, 児童・生徒・学生を含む), 2004
				3	やさしいバイオ講習会」, 鳥取大学生命機能研究支援センター, 一般市民, 高校生, 大学生, 教員, 2004
4	小川 容子	教授	教育学／ 教科教育学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] ISO/TC (危険信号・騒音等環境騒音に関する国内対応委員会): 委員, 2005
				2	ISME Research Commission Member :2005
				3	[公開講座, 講演会等] :, 財) ヤマハ音楽振興会音楽研究所, 公開講座講師, 2003
5	神谷 哲司	講師	教育心理学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 平成 18 年度鳥取県子育てマネージャー養成講座 講師 (人間関係)
				2	[公開講座, 講演会等] 鳥取砂丘こどもの国子育て応援事業「赤ちゃんといない・いない・ばあ!」育児のお話会 講師
				3	鳥取県米子市 家庭教育講座「タムタムスクール」講師
6	杉本 良一	教授	科学教育 ・教育工学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取県教育センター中学校理科 10 年目経験者研究: 講師, 2005
				2	鳥取県科学技術研究作品審査会: 委員, 2005
				3	鳥取東高校スーパーサイエンスハイスクール事業: 2004
7	油野 利博	教授	健康・スポーツ科学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取県スポーツ振興審議会: 委員長 平成 14, 15, 16 年
				2	鳥取県生涯スポーツ推進協議会: 会長 平成 14, 15, 16, 17 年
				3	[国際事業協力] 国際ロータリークラブ青少年交換プログラム: アメリカ合

					衆国，1年，日本，国際ロータリー第2690地区委員長，平成14年
8	高取 憲一郎	教授	心理学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 鳥取県N I E推進協議会：会長，2005
				2	鳥取家庭裁判所委員会：委員，2005
				3	日本教育大学協会第2常置委員会：委員および部会長，2003
9	寺川 志奈子	助教授	心理学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 鳥取県少子化社会対策県民会議：委員，2003 -2005
				2	鳥取県育児休業取得推進施策検討会：委員，2003
				3	鳥取県社会福祉審議会：委員，2003-2005
9	小枝 達也	教授	内科系臨床医学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 厚生労働省 障害福祉保健部 発達障害者支援に係る検討会委員 2005
				2	文部科学省 中央教育審議会 幼稚園教育専門部会委員 2006
				3	文部科学省 情動の科学的解明と教育等への応用に関する調査研究会議委員 2006
10	田丸 敏高	教授	心理学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 鳥取県青少年育成意識調査検討委員会：座長，2005
				2	鳥取市図書館協議会：会長，2004，2005
				3	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] 鳥取県子育て応援パンフレット（12000部）の作成：2005
11	渡部 昭男	教授	教育学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 鳥取県教育委員会・特別支援教育推進体制モデル事業調査研究運営委員会：委員長，2003-04／同・体制推進事業調査研究運営委員会：委員長，05-
				2	鳥取県社会福祉協議会・地域福祉権利擁護事業契約締結審査会：委員，2002／委員長，2003-
				3	鳥取県教育委員会・鳥取県教科用図書選定審議会：委員，2002／委員長，2003
12	廣重 佳治	教授	心理学	1	[公開講座，講演会等] 脳を知る－不眠症－：鳥取大学公開講座 鳥取県民カレッジ連携講座，鳥取大学，2002

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名	鳥取大学		学部・研究科等名	地域学部・地域文化学科	
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	ケイツ・アレキサンダー キッペン	教授	言語学	1	[公開講座, 講演会等] 基調講演「Global Issues and ELT」全国英語教育研究会 第51 回全国大会 高知 2001 年 11 月
				2	来賓講演者「ピースボート第 48 回地球一周の船旅」2005 年 2 月 20- 27 日 (インドーケニア)
				3	[国際事業協力] 創立者・準備委員会会長「アジア青年会議」(Asian Youth Forum AYF 4) 期間: 2004 年 6 月 24- 27 日参加者: アジアの大学生 70 人、8 カ国 (鳥取大学から 14 人) 会場: ロシア国立極東大学 (ロシア、ウラジオストック市)
2	野田 邦弘	教授	政治学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 公立文化施設の活性化に関する研究会委員 ((社) 公立文化施設協会)、平成 17 年度
				2	(2) 北栄町行政改革審議会委員長 (平成 17、18 年度)
				3	[公開講座, 講演会等] 文化芸術懇談会, 文化庁・鳥取県主催, 県民対象, 平成 17 年度
3	長柄 裕美	助教授	ヨーロッパ語系文学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取県文化観光局指定管理候補者選定・審議委員会: 委員長, 2005
				2	鳥取県文化財保護審議会: 委員, 2005
				3	公益信託とりぎん青い鳥基金運営委員会: 委員, 2005
4	北川 扶生子	助教授	文学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 「尾崎翠フォーラム」運営委員・評論エッセー賞選考委員: 2002~2005
				2	[公開講座, 講演会等] (公開講座) 大阪市立大学文学研究科／都市文化センター (文科省 21 世紀 COE プログラム拠点) 共催「インターナショナルスクール 海外における日本研究」 トラウマとしての異文化体験 ― 夏目漱石のロンドン留学と英文学研究、2004、大阪市立大学文化交流センター
				3	[研修事業 (外国人向け研修)] 論文指導: ロンドン大学, 1 名, 日本近代文学を対象とする博士論文の指導, 2003
5	内藤 久子	教授	哲学	1	[公開講座, 講演会等] チェコとスロヴァキアの知的遺産ーチェコ学・スロヴァキア学連続レクチャー「チェコ・バロック音楽の響きー中部モラヴィア地方の宮廷音楽ー」 (招待講演), 関西チェコ・スロヴァキア協会主催, チェコ共和国・スロヴァキア共和国大使館後援 (於: 神戸チェコ共和国名誉領事館), 2003 年 10 月 25 日
6	田中 仁	教授	文学	1	[公開講座, 講演会等] 鳥取県書道連合会書道講習会講演「歌はどのようにして書かれてきたか」平成 14 年 8 月 4 日

				2	山陰地域史研究会公開講座「飯田秀雄・年平の政事と文事」 平成 16 年 3 月 21 日
				3	地域学部活性化経費事業公開セミナー「古きよきモノたち」平成 16 年

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名		鳥取大学		学部・研究科等名		地域学部・地域環境学科	
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果		
1	安藤 由和	教授	物理学	1	[公開講座，講演会等] 古いパソコンをサーバーとして活かそう。(Free Linux の導入と管理)：とっとり県民カレッジ連携講座，鳥取大学地域学部，16，2005		
				2	家庭内 LAN のセキュリティ対策とインターネットの活用：平成 16 年度鳥取大学公開講座，鳥取大学地域学部，16，2004		
				3	学校におけるクライアント／サーバネットワークシステムの構築と管理：県民カレッジ連携講座，鳥取大学生涯教育総合センター，教育・福祉関係者，2003		
2	高田 健一	講師	史学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 鳥取県史編さん準備委員会：委員，2005		
				2	鳥取市文化財保護審議会：委員，2005		
				3	[公開講座，講演会等] 妻木晩田遺跡の集落景観，大阪府立弥生博物館，2005		
3	矢野 孝雄	教授	教育学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 鳥取県環境審議会：委員，2005		
				2	鳥取県環境影響評価審査会：委員，2005		
				3	国土交通省河川整備基本方針検討小委員会：委員，2005		
4	岡田 昭明	教授	地球惑星科学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 鳥取県文化財保護審議会委員（名勝・天然記念物部会長）2003		
				2	鳥取県立博物館協議会委員（自然部会長）2003		
				3	[公開講座，講演会等] 快適な倉吉・地域の地形と災害：平成 18 年度倉吉市生涯学習講座，倉吉市教育委員会，倉吉市民，2006		
5	小玉 芳敬	助教授	地理学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 笠原水環境影響評価委員会：委員，2005		
				2	天然記念物緊急調査事業 天然記念物「雄橋」調査について：調査員，2005		
				3	独立行政法人 大学入試センター 教科科目第一委員会（地理部会問題作成委員・幹事長）：2003		
6	鶴崎 展巨	教授	生物多様性・分類	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 環境省平成 16-17 年度絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会その他無脊椎動物分科会：委員，2003-2005		
				2	日本学術振興会科学研究費委員会：専門委員，2004		
				3	都市計画道路鳥取青谷線（仮称）猛禽類検討会：会長，2002-2003		
7	松本 健治	教授	地域研究	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 鳥取県性教育推進委員会：委員長，2005		
8	中野 恵文	教授	複合化学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 鳥取市環境保全審議会委員		

9	田村 純一	助教授	生 物 分 子 科 学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 鳥取県東部地区高等学校理科教育研究会：2004
				2	[公開講座，講演会等] 日本化学会中国四国支部事業鳥取地区出張講義：2005
				3	平成17年度県立高校・大学教員交流事業：2005
10	永松 大	助教授	基 礎 生 物 学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 鳥取県環境影響評価審査会委員
				2	鳥取県文化財保護審議会委員
				3	鳥取砂丘景観保全調査研究会委員

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	附属芸術文化センター

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	上田 敏和	教授	教育学	1	〔審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等〕 鳥取県美術家協会：会長、2004
				2	第17回国民文化祭とっとり2002・美術展、洋画・審査会：審査員、2002
				3	〔国際事業協力〕 第4回韓国江原道／鳥取県交流美術展共催：韓国，5日間，日本，会長，江原道美術協会，2003
2	新倉 健	教授	音楽	1	〔審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等〕 第17回全国生涯学習フェスティバル実行委員会企画委員会：委員，2005
				2	鳥取県総合芸術文化祭企画運営委員会：委員，2005
				3	〔専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項〕 第17回全国生涯学習フェスティバル総合開会式の企画及び古代楽器とオーケストラのためのダンス音楽「アジール～弥生鳥人幻想～」の作曲：2005

研究活動実績票

別紙様式 2

【研究成果の質】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	地域学部・地域政策学科

1. 井上英晴 (No. 2) の成果 1『改訂 福祉コミュニティ論』は、その初版が、『地域福祉研究 No31』日本生命済生会福祉事業部刊の書評で高く評価され、第 5 回 損保ジャパン記念財団賞 [著書部門] にも出されて、最終選考 5 冊までに入った。また平川毅彦『「福祉コミュニティ」と地域社会』世界思想社に、労作として取り上げられ、「根気強い整理・検討には驚かざるを得ない」というコメントをいただいている。
2. 小野達也 (No. 3) の成果 3「評価の方法論から見た日本の評価—広義プログラム評価と行政評価」（富士通総研在職時の成果）は、学術的な論文・著作に 3 件（蔵書で確認できたもののみ）以上引用されている。
3. 小野達也 (No. 3) の成果 4「構造改革特区が日本経済の活性化をもたらす条件」（富士通総研在職時の成果）は、構造改革特区を政策評価の視点から論じた唯一の文献として、会計検査研究誌上等において評価されている。また、ラジオ短波の「エコノミスト・アイ」に出演し、30 分間の解説を行った。
4. 小野達也 (No. 3) の成果 5「政策マーケティングによる地域経営の改革」（富士通総研在職時の成果）のもとになった青森県の政策マーケティング・システムは、三菱総合研究所在職時の研究成果の平成 13 年度以前の実践例であるが、この取り組みは NPM 型行財政改革の先進事例として、平成 17 年度までに 5 件以上の学術的な論文・著作において詳しく紹介されている。
5. 小野達也 (No. 3) の成果 7「よい行政評価とよくない行政評価」は、自治体の行政評価のこれまでを総括した論文として日本評価学会内において評価され、また日本評価学会全国大会に招待され報告を行った。
6. 小野達也 (No. 3) の成果 8「数字とデータは評価の客観性を高めているか」及び関連の研究成果は、学術的な論文・著作に 3 件（蔵書で確認できたもののみ）以上引用され、また日本評価学会全国大会に招待され報告を行った。また、大阪市立大学大学院や政策研究院などの研究会に招待され講演を行った。
7. 小野達也 (No. 3) の成果 10「都市自治体の行政評価の課題と展望」（富士通総研在職時の成果）及び関連の研究成果は、学術的な論文・著作に 1 件（蔵書で確認できたもののみ）以上引用され、立命館大学大学院や関東学院大学などの研究会等に招待され講演を行った。
8. 小野達也 (No. 3) の平成 11 年度の成果 12「行政評価」（三菱総合研究所在職時の成果）は、刊行直後には都内書店のビジネス書ベストセラーにランクインするなど当該分野において最も初期の体系的著作として認知され、最近にいたるまで学術的な論文・著作に 6 件（蔵書で確認できたもののみ）以上引用されている。
9. 小野達也 (No. 3) の平成 13 年度の成果 13「行政評価ハンドブック」（三菱総合研究所在職時の成果）は、最近にいたるまで少なくとも 6 件（蔵書で確認できたもののみ）以上の学術的論文・著作に引用されている。
10. 筒井一伸 (No. 5) の成果 1「1990 年代ベトナム非大都市地域における地方公共投資の地域的特徴」は平成 16 年度・平成 17 年度実施の競争的資金（財団法人昭和シェル石油環境研究助成財団研究助成）の下での研究成果である。ベトナムにおいては特に評価を得ており、ベトナム人共同研究者の研究成果とあわせて、概要がベトナム語に翻訳され、広くベトナムにおいて周知されつつあるところである。
11. 仲野誠 (No. 6) の「国際結婚がもたらす食文化の変容と創造——東北地方の「村の国際結婚」を事例として——」（成果 1）や「政策としての文化とコミュニティの創造——東北地方の山村における異文化の戦略的包摂を事例にして——」（成果 2）等の一連の「村の国際結婚」の研究は、従来の経済的、人口学的、あるいは人権的な観点とは異なる文化創造的な観点を提示したことが評価され、食生活研究会から「異文化接触による食文化の創造とコミュニティの形成——キムチ特産品化の政策的試み——」（成果 3）の原稿執筆依頼を受けた。
12. 仲野誠 (No. 6) の「国際結婚がもたらす食文化の変容と創造——東北地方の「村の国際結婚」を事例として——」（成果 1）や「政策としての文化とコミュニティの創造——東北地方の山村における異文化の戦略的包摂を事例にして——」（成果 2）、「異文化接触による食文化の創造とコミュニティの形成——キムチ特産品化の政策的試み——」（成果 3）等の一連の「村の国際結婚」の研究は、従来の経済的、人口学的、あるいは人権的な観点とは異なる地域政策的な観点を提示したことが評価され、財団法人味の素の文化センターから「国際交流でまちおこし——山形県戸沢村・高麗館とキムチランド」（成果 4）の原稿執筆依頼を受けた。

13. 藤井 正(No.10)の共著 (Fujii & Hartshorn) “The Changing Metropolitan Structure of Atlanta, Georgia” Urban Geography 16, 1995 (成果1：大阪府立大学在職時の成果) は、Shearmur, R. & Coffey, W. J. (“A tale of Four Cities: Intrametropolitan Employment Distribution in Toronto, Montreal, Vancouver, and Ottawa-Hull, 1981-1996” . Environment and Planning A 2002; 34:575-598.) などにおいて、都市圏多核化研究の代表的な研究例として引用検討されている。また、この論文は、Knox, P. らによる4版を重ねた教科書 Urban Social Geography 翻訳『新版 都市社会地理学』(古今書院, 2005) でも参考文献として取り上げられている。
14. 藤井 正(No.10)の「大都市圏における地域構造研究の展望」人文地理 42-6, 1990 (成果2：大阪府立大学在職時の成果)、「郊外における生活空間の変化」(地理科学 48-3, 1993) (成果3：大阪府立大学在職時の成果) は、阿部真也「大都市圏における小売業の分散化と消費者」(白石善章ほか『現代日本の流通の社会』ミネルウェア書房, 2004) において、都市圏多核化において「別のパターンが存在する」といった点を明らかにしたのは、藤井の功績」という高い評価が与えられている。
15. 藤井 正(No.10)の上記の成果1や成果2、「アトランタ大都市圏の多核化とオフィス立地」(成田孝三編『大都市圏研究(下)』1999, 大明堂, 所収) (成果4：大阪府立大学在職時の成果)、共著(富田和暁・藤井 正)『図説 大都市圏』古今書院, 2001 (成果5：大阪府立大学在職時の成果)、『三田市史 第10巻 地理編』(成果6：大阪府立大学在職時の成果)の研究が評価され、依頼発表である人文地理学会大会の特別研究発表を、「都市圏に関するこれからの地理学的研究の意義と課題」と題して2004年11月に行った。
16. 藤井 正(No.10)の共編著『散村・小都市群地域の動態と構造』(成果7)については、地理学評論(78-6, 2005)の書評でとりあげられた。そこでは国土計画などの策定にも深く関わった九州大学経済学部矢田俊文が、こうした「地域の動態をめぐり出すとともに、その国土政策上の位置づけにまで踏み込んだ共同研究の成果」として、その解明の意義は大きいとし、また科研費のモデルとなる研究とし、国土政策を見据えた地域実証分析と高く評価している。
17. 藤田安一(No.11)の成果1「市町村合併と自治体財政」の研究は、当時鳥取県内の市町村から市町村合併問題を考える際の研究資料として評価された。
18. 藤田安一(No.11)の成果2「公共政策と経済倫理」の研究は、その後、藤田安一著書『現代公共政策における地域的課題』の基になった研究論文である。
19. 藤田安一(No.11)の成果3「公共政策の現代的意義」の研究は、藤田安一著書『現代公共政策における地域的課題』の基になった研究論文である。
20. 藤田安一(No.11)の成果4「公共政策と地方自治体」の研究は、鳥取県内の自治体から行政改革の研究資料として評価されるとともに、藤田安一著書『現代公共政策における地域的課題』の基になった研究論文である。
21. 藤田安一(No.11)の成果5「空洞化する国保と日本経済再生への道」の研究は、大阪府保険医協会から国民健康保険とわが国の経済再生との関連を理論化したものとして評価を受けた。
22. 藤田安一(No.11)の成果6「国民不在の郵政民営化」の研究は、郵政民営化問題を考える際の研究資料として日本郵政公社から評価された研究論文である。
23. 藤田安一(No.11)の成果7「郵政民営化の社会経済的考察」の研究は、郵政民営化問題を考える際の研究資料として日本郵政公社から評価された研究論文である。
24. 藤田安一(No.11)の成果8「ボランティアによるまちづくり」の研究は、鳥取県内の自治体から今後のまちづくりを考える際の研究資料として評価された。
25. 藤田安一(No.11)の成果9「市町村合併と住民投票」の研究は、当時鳥取県内の市町村から市町村合併問題を考える際の研究資料として評価された。
26. 藤田安一(No.11)の成果10「住民主体のまちづくり政策をめざして」の研究は、鳥取県内の自治体から今後のまちづくりを考える際の研究資料として評価されるとともに、藤田安一編書『地域政策の思想と実践』の基になった研究論文である。
27. 藤田安一(No.11)の成果11「コミュニティ・ビジネスが切り拓く地域づくりの可能性」の研究は、鳥取県内

の自治体から今後のまちづくりを考える際の研究資料として評価されるとともに、藤田安一編書『住民主体の地域づくりをめざして』の基になった研究論文である。

28. 藤田安一 (No. 11) の成果 12「現代地方財政の破綻と再生」の研究は、鳥取県内の財政危機に悩む自治体から財政改革に関する研究資料として評価されるとともに、藤田安一編書『住民主体の地域づくりをめざして』の基になった研究論文である。
29. 家中茂 (No. 13) の成果 1「歴史的環境という問い」は、環境社会学会第 23 回セミナー (2001 年) に招聘されて報告した内容をまとめたものである。
30. 家中茂 (No. 13) の成果 2「生成するコモンズー環境社会学におけるコモンズ論の展開」や成果 3「コモンズという問いかけー環境社会学におけるコモンズ論の可能性」などの、環境社会学におけるコモンズ論 (地域共有資源の管理利用システム論) の研究成果が評価され、人類学研究者を中心とした共同研究である特定領域研究「資源の分配と共有に関する人類学的統合領域の構築: 象徴系と生態系の連関をととして」に参加を要請されている。
31. 家中茂 (No. 13) の成果 4「特集: 環境リスクと予防原則」は、環境系 3 学会合同シンポのシンポジウムに招聘されて討議した内容を学術誌に掲載したものである。なお、このときの議論はさらに、家中茂の成果 5『地域の自立 シマの力』の序章で展開されている。
32. 家中茂 (No. 13) の成果 2「生成するコモンズー環境社会学におけるコモンズ論の展開」や成果 6「石垣島白保のイノー新石垣空港建設計画をめぐる」は、「生成するコモンズ論」として注目され、学術論文で取りあげられている (大塚隆太郎・篠原徹・松井健『生活世界からみる新たな人間ー環境系』 (東京大学出版会、2004 年)、関礼子「環境社会学の研究動向ー2001 年から 2003 年を中心にー」日本社会学会『社会学評論』220 号 (2005 年) など)
33. 家中茂 (No. 13) の 2002 年度から 2005 年度における環境社会学分野の研究成果、とくにサンゴ礁生態系の保全や水産資源管理の業績が評価され、国立民族学博物館 (2003 年 4 月〜現在に至る) や総合地球環境研究所 (2004 年 4 月〜2005 年 3 月) の共同研究員に任じられている。また、環境社会学会においては、運営委員 (2001 年 6 月〜2005 年 6 月)、研究活動委員 (2004 年 6 月〜2005 年 6 月) を勤めている。
34. 家中茂 (No. 13) の成果 5『地域の自立 シマの力 (上)』は、『沖縄タイムス』 (05 年 10 月 1 日)、『琉球新報』 (2005 年 9 月 19 日) など地元紙の書評で取りあげられた。
35. 山下博樹 (No. 14) の成果 1「成熟時代における都市圏構造の再編とリバブル・シティの空間構造に関する地理学的研究」は、平成 16〜17 年度科学研究費補助金基盤研究 (C) の報告書であるが、時限細目「都市」においてその発展的内容が、平成 18〜20 年度科学研究費補助金基盤研究 (C) の獲得という形で評価され、研究テーマのオリジナリティの高さが学際的にも高く評価されている。

研究活動実績票

別紙様式 2

【研究成果の質】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	地域学部・地域教育学科

1. 当学科では、これまで以下のような共同研究の成果をあげている。 ①鳥取大学地域学部地域教育学科・鳥取大学生涯教育総合センター『地域の教育福祉諸機関の連携に関する総合的研究－新しい専門性の形成をめざして－』（科学研究費補助金基盤研究B中間報告書）2006 ②鳥取大学地域学部地域教育学科・鳥取大学生涯教育総合センター『メディアと子育て』（2005年度 鳥取県メディアと子育て応援事業受託研究報告書）2006 ②については、その成果を元にパンフレット「みんなどうしているのかな・・・？－考えてみませんか？ テレビと子育て」が作成され、鳥取県の子育て応援事業の一環として県民に配布された。 2. 小川容子「第36回日本音楽教育学会大会全国大会プロジェクト研究リポート」音楽之友社／『教育音楽「中学・高校」版』（pp. 52-53）（2006）は、社会的に高い注目を集めた。 この発表を土台とした、小川容子（代表）、杉江淑子、林睦、嶋田由美、村尾忠廣による共同研究「音楽科における教育内容の縮減と学力低下の様相－諸外国との比較を踏まえた調査研究－」は、平成18年度科学研究費補助金（基盤研究（B））の交付を受けた。 3. 河合 務「フランス第三共和制期における『父権』批判と児童保護政策」『日本教育政策学会年報』（第8号，2001年）が、教育史学会誌『日本の教育史学』（第45集，2002年）の「西洋教育史の研究動向」（岡本定男氏執筆）において「同時期の児童に関わる政策とその組織的運動の歴史的 성격に迫る」論文として言及・評価されている。 4. 高橋ちぐさ（共同研究）は、分子細胞遺伝学的手法を用いて、1997年に世界で初めて、雑種個体の染色体を両親由来のDNAに染め分け、染色体上に組換え点を明らかにすることに成功し、これまでに国際学会で特別講演等行ってきたが（2002年以前の業績）、この成果が専門分野以外でも評価され、2002年、「日本ファジイ学会」で、招待特別講演を行った。 5. 高橋ちぐさは、分子細胞遺伝学的手法を用いて、ススキ属植物の動原体部位DNA配列の進化について解明し、これを発表した論文で、財団法人染色体学会2004年度の論文賞を受賞した。 6. 高橋ちぐさは、有用植物として注目を浴びつつあるススキ属植物の遺伝的性質を解明する研究をおこなった功績により、平成17年度鳥取大学学長賞研究功績賞を授与された。 7. 広重佳治10年前の論文「入眠期の主観的体験」生理心理学と精神生理学 vol113, 66-76 並びに「昼間睡眠時の緩徐眼球運動と睡眠段階の移行期間」心理学研究, vol160, 378-385 の2点が「睡眠とメンタルヘルス－睡眠科学への理解を深める」（白川修一郎編著 2006年，ゆまに書房）の4章「入眠期の心理体験」（林光緒）に収録されている。 8. 溝口達也の著書「問題解決と評価：算数・数学教育論」（2005）は、自費出版として発刊されたものではあるが、各種論文に引用されたため、東京学芸大学附属図書館より蔵書提供依頼を受けた。

研究活動実績票

別紙様式 2

【研究成果の質】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	地域学部・地域環境学科

- 本学科の歴史環境分野は、平成 14 年度から鳥取市安長に所在する嵐ヶ鼻土手の調査に取り組んでいる。土手の歴史的な性格を考察するため、江戸時代後期の絵図をデジタルトレースする方法をとったが、これは、1 辺 2 から 3m に及ぶ巨大な絵図を手軽に分析する手法として注目された。
鳥取県立博物館の企画展（歴史の窓、12 月 6 日～1 月 28 日）においてその成果の一部が展示されるとともに、新聞紙面でも紹介された（朝日新聞 2006 年 12 月 18 日付朝刊、地方欄）。
- 錦織 勤の研究「平安末期西伯耆の有力武士「紀成盛」について」（『鳥取地域史研究』4 号、平成 14 年 2 月）は、近年の研究成果を踏まえて刊行された『日本史講座 3 中世の形成』（東京大学出版会、平成 16 年 7 月）の中で、佐藤泰弘が中央貴族の地方土着の実態を明らかにしたものとして取り上げている（「荘園制と都鄙交通」）。「平安期の日記に見える『武士』について」（『史学研究』243 号、平成 16 年 1 月）は、『史学雑誌』114 編 5 号（平成 17 年 5 月）の「2004 年の歴史学界」で、近年の武士論を実証的に批判した研究として取り上げられた。
- 田村純一による研究「水産系廃棄物からコンドロイチン硫酸を抽出する」は、3 回の学会発表：
 - イカ加工廃棄物を利用する効率的コンドロイチン硫酸の抽出法
日本農芸化学会 2005 年度大会、札幌、2005 年 3 月（田村純一、松見吉朗、山根真奈美、石川行弘）
 - イカ加工廃棄物を利用する効率的コンドロイチン硫酸の抽出法
日本農芸化学会 2006 年度大会、京都、2006 年 3 月（田村純一、山根真奈美、有馬和也、今津綾夏、堤下奈緒、石川行弘、松見吉朗）
 - イカ加工廃棄物を利用する効率的コンドロイチン硫酸の抽出法
第 26 回日本糖質学会年会、仙台、2006 年 8 月（田村純一、山根真奈美、有馬和也、今津綾夏、堤下奈緒、石川行弘、松見吉朗）
 によって、学術的に認知されることとなった。この間に、単離製法に関して、鳥取大学から特許を一件出願している。

「生体組織からの多糖類の取得方法」

発明者：田村純一

出願人：国立大学法人鳥取大学

特願 2006-016455（平成 18 年 1 月 25 日出願）

これらの研究は、鳥取県から 2005 年度と 2006 年度に「鳥取県環境学術研究助成」（受託研究）として採択され、2006 年度には「都市エリア産学官連携推進事業」のテーマにも採択された。また、製品としての実用化に対して、鳥取県から 2006 年度に「鳥取県リサイクル技術・製品実用化事業」として採択された。
また、これら一連の研究は、鳥取大学や鳥取県のトピックスになりつつあり、都合 4 回の講演会：

- 海の幸は二度おいしいーコンドロイチン硫酸の単離と有効利用ー
鳥取大学地域学部地域環境学科と鳥取県生活環境部の合同シンポジウム（鳥取）
- 海の幸は二度おいしいー水産加工廃棄物の資源化ー
鳥取大学ビジネス交流会（東京）
- 鳥取の戦略的地域振興ー水産系廃棄物を資源化するー
地域学セミナー（鳥取）

d. 海の幸は二度おいしいー水産廃棄物から機能性食品をとりだすー

鳥取大学サイエンスアカデミー（鳥取）

によって社会的にも広く認知されつつある。(a)については翌日の新聞記事にも写真入りで取り上げられた（日本海新聞 2006 年 6 月 4 日鳥取版）。

その他、鳥取県廃棄物資源研究会（2006 年 7 月）、鳥取県食品生理活性研究会（2005 年 1 月）、鳥取大学産学官連携フェス ティバル（2005 年 11 月）でも同様の内容を発表した。

4. 田村純一による研究は、2006 年 9 月 5 日の Web of knowledge によると、以下のとおり引用されている。
 - a. Molecular Cloning and Expression of Glucuronyltransferase I Involved in the Biosynthesis of the Glycosaminoglycan-protein Linkage Region of Proteoglycans. H. Kitagawa, Y. Tone, J. Tamura, K. W. Neumann, T. Ogawa, S. Oka, T. Kawasaki and K. Sugahara, J. Biol. Chem., 273, (12) 6615-6618 (1998). →64 回
 - b. rib-2, a *Caenorhabditis elegans* Homolog of the Human Tumor Suppressor EXT Genes Encodes a Novel α 1,4-N-Acetylglucosaminyltransferase Involved in the Biosynthetic Initiation and Elongation of Heparan Sulfate. H. Kitagawa, N. Egusa, J. Tamura, M. Kusche-Gullberg, U. Lindahl and K. Sugahara, J. Biol. Chem., 276, (7) 4834-4838 (2001). →28 回
 - c. Human Tumor Suppressor EXT Gene Family Members EXTL1 and EXTL3 Encode α 1,4-N-Acetylglucosaminyltransferases that Likely Are Involved in Heparan Sulfate/Heparin Biosynthesis. B.-T. Kim, H. Kitagawa, J. Tamura, T. Saito, M. Kusche-Gullberg, U. Lindahl, and K. Sugahara, Proc. Natl. Acad. Sci., 98, (13) 7176-7181 (2001) →41 回
 - d. Molecular Cloning and Expression of Human Chondroitin N-Acetylgalactosaminyltransferase. The Key Enzyme for Chain Initiation and Elongation of Chondroitin/Dermatan Sulfate on the Protein Linkage Region Tetrasaccharide Shared by Heparin/Heparan Sulfate. T. Uyama, H. Kitagawa, J. Tamura and K. Sugahara, J. Biol. Chem., 277, (11) 8841-8846 (2002). →28 回
 - e. Synthesis of Phosphorylated and Sulfated Glycosyl Serines in the Linkage Region of the Glycosaminoglycans. J. Tamura and J. Nishihara, J. Org. Chem., 66, (9) 3074-3083 (2001). →8 回
 - f. Synthetic Approach towards Sulfated Chondroitin Di-, Tri- and Tetrasaccharides Corresponding to the Repeating Unit. J. Tamura, K. W. Neumann, S. Kurono and T. Ogawa, Carbohydr. Res., 305, 43-63 (1998). →15 回
5. 永松 大による研究は、2006 年 12 月 21 日の Web of knowledge によると、以下のとおり引用されている。
 - a. NAGAMATSU D, Miura, O. 1997 Soil disturbance regime in relation to micro-scale landforms and its effects on vegetation structure in a hilly area in Japan. PLANT ECOLOGY 133 191-200 →11 回
 - b. Hikosaka, K., Nagamatsu D, Ishii HS, Hirose T. 2003 Photosynthesis-nitrogen relationships in species at different altitudes on Mount Kinabalu, Malaysia. ECOLOGICAL RESEARCH 17 305-313 →9 回
 - c. NAGAMATSU D, Seiwa, K., Sakai A. 2002 Seedling establishment of deciduous trees in various topographic positions. JOURNAL OF VEGETATION SCIENCE 13 35-44. →8 回
 - d. Werger, MJA., Hirose, T., During, HJ., Heil, GW., Hikosaka, K., Ito, T., Nachinshonhor, UG., Nagamatsu D, Shibasaki, K. Takatsuki, S., van Rheenen, JW, Anten NPR. 2002 Light partitioning among species and species replacement in early successional grasslands. JOURNAL OF VEGETATION SCIENCE 13 615-626. →7 回
 - e. NAGAMATSU D, Hirabuki, Y., Mochida, Y. 2003 Influence of micro-landforms on forest structure, tree death and recruitment in a Japanese temperate mixed forest. ECOLOGICAL RESEARCH 18 533-547. →1 回
 - f. Kitajima, K. Fox, AM., Sato, T. and Nagamatsu D 2006 Cultivar selection prior to introduction may increase invasiveness: evidence from *Ardisia crenata*. BIOLOGICAL INVASIONS 8 1471-1482. →1 回
 - g. Saito S., Sato, T., Kominami Y. Nagamatsu D. Kuramoto S., Sakai T., Tabuchi, R. Sakai, A. 2004 Modeling the vertical foliage distribution of an individual *Castanopsis cuspidata* (Thunb.) Schottky, a dominant broad-leaved tree in Japanese warm-temperate forest. TREES-STRUCTURE AND FUNCTION 18:486-491. →1 回

研究活動実績票

別紙様式 3

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	地域学部・地域政策学科

1. 相澤直子（No. 1）の成果 1「ドイツにおける直接民主制に関する一考察 ―その理念と実践―（1）」・成果 2「住民が地域をつくる」は、住民による自治のための効果的手法に係る検討を中心とする地方自治に関する研究であり、こうしたテーマを研究対象としていることから鳥取県や鳥取市における関連の審議会等（鳥取市行財政改革推進市民委員会、鳥取市安全で安心なまちづくり推進協議会、鳥取県都市計画審議会等）の委員に多数任命され、その見解が自治体改革等に係る施策の形成に寄与している。
2. 相澤直子（No. 1）が平成 13 年度に発表した成果 3「基本的人権と介護保障に関する序論的考察―基本的視座としての生存権論再考を中心に―」は、介護保障を素材に生存権の権利性を積極的に論じる研究であり、鳥取県介護保険審査会において委員を務めることを通じて、同制度をめぐる異議申立ての審査に寄与している。
3. 井上英晴（No. 2）の成果 2「社会福祉への“非参加”」は、社会福祉への住民・市民参加（参画）の根拠付けを考察したものであるが、鳥取県男女共同参画センター（愛称：よりん彩）から招きを受けて、「女性の政策決定参画セミナー」（2005. 7. 2）で講演をし、好評を博し、その結果、倉吉市で開かれる高齢社会をよくする女性の会主催の「第 25 回全国大会」（2006. 9. 9～10）に招かれ、パネラーを務めることとなった。
4. 井上英晴（No. 2）の成果 1、2 及び関連の研究成果は福祉分野において評価され、米子市の地域福祉計画策定（2005～2006）、湯梨浜町の地域福祉計画策定（2006）、それぞれの策定委員会の委員に招かれ、尽力中である。
5. 小野達也（No. 3）の成果 1「地方自治体の行政評価システムの課題と展望」（富士通総研在職時の成果）及び成果 7「よい行政評価とよくない行政評価」は、その内容に基づく講演等をこれまで延べ 10 箇所以上の自治体等で行っている。また、鳥取市を始めとする多数の自治体の行政評価制度の設計書やマニュアル等に引用されている。
6. 小野達也（No. 3）の成果 2「社会指標による政策効果測定に関する一考察」（富士通総研在職時の成果）は、他の関連業績とともに評価され、内閣府の「共生社会形成促進のための政策研究会」委員を 4 年間にわたり務めることとなった。
7. 小野達也（No. 3）の成果 5「政策マーケティングによる地域経営の改革」（富士通総研在職時の成果）のもとになった青森県の政策マーケティング・システムは、三菱総合研究所在職時の研究成果の平成 13 年度以前の実践例であるが、この取り組みは NPM 型行財政改革の先進事例として、平成 17 年度までに東海市を始め多くの団体において、住民参加型の業績測定に取り組む際のモデルとなっている。
8. 小野達也（No. 3）の成果 6「地方改革におけるマニフェストの可能性」（富士通総研在職時の成果）及び関連の成果は、自治体のマニフェストを学術的に論じた最も初期の論文の 1 つとして認知され、ローカルマニフェスト推進ネットワーク中国の呼びかけ人・世話人を務めるきっかけとなった。
9. 小野達也（No. 3）の成果 9「行政評価と統計」は、総務省統計研修所における「行政評価のための統計的手法」講座の講

師として作成した教材をとりまとめたものであるが、このような題材を扱う唯一の文献として評価され、刊行後これまでに総務省統計研修所や会計検査院を始め、延べ22件以上の中央省庁・自治体等の職員研修において、この著作に基づく内容の研修講師を務めている。

10. 小野達也 (No. 3) の成果11「インパクト評価」は、文部科学省における政策評価に関する研修テキストとして使用されているほか、その内容に基づく講演や研修講師等をこれまでに総合研究開発機構等延べ3箇所以上で行っている。
11. 坂山高朗 (No. 4) がとりまとめた成果1「克己」（島根大学在職時の成果）は、ゼミの卒業生を含む、「島根第九の会」を始めとする様々な市民活動に関わる市民・学生の必読テキストとなっている。
12. 坂山高朗 (No. 4) がとりまとめた成果2「島根大学坂山ゼミナールフィールドワーク調査団報告書」（島根大学在職時の成果）は、島根県自治研修所における教材として広く活用されている。
13. 坂山高朗 (No. 4) の成果3「地域政策形成—政策科学の基礎とフィールドワークの方法（1）」は、島根県自治研修所吏Ⅱ課程研修の政策形成論のテキストとして活用されている。
14. 筒井一伸 (No. 5) の平成11年度に発表した成果1「中国地方の過疎山村における一地域振興の実態分析」（人文地理、第51巻第1号、1999年、87-103、大阪市立大学大学院文学研究科前期博士課程在学時の成果）は、過疎のメカニズムとエージェントの重要性を明らかにしたものであるが、その研究対象とした鳥取県日野郡日南町において、これらの考えを基礎として地域づくりの実践に貢献している。具体的には日南町から「ガイドボランティアアドバイザー」を委嘱され、エージェントの養成に深くかかわった。
15. 筒井一伸 (No. 5) の成果2「縁辺地域における義務教育財政の特徴」（日本学術振興会特別研究員在職・大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程在学時の成果）は平成13年度、平成14年度実施の科学研究費補助金（特別研究員奨励費）「日本及びアジア諸国の周辺地域における財政及び公共サービス供給に関する地理学的研究」における研究成果であり、農山村行財政の地域的特徴を述べたものである。これに関連して、鳥取県八頭郡八頭町より学識経験者として「行政改革推進委員会委員」を嘱託され、行政改革大綱などの作成に貢献をしている。
16. 筒井一伸 (No. 5) の成果3「『地域づくりインターン』事業にみる都市・農山村交流の展開方向」は国土交通省の「若者の地方体験交流支援事業」の実態をまとめた成果であり、これに関連してシンクタンク主催のワークショップへの招聘を受けた。また、鳥取県日野郡日南町より「地域間交流アドバイザー」を、また国土交通省からは「菅沢ダム水源地域ビジョン検討委員会委員」をそれぞれ委嘱され、この成果を基礎とした地域貢献を行っている。
17. 仲野誠 (No. 6) の「国際結婚がもたらす食文化の変容と創造——東北地方の「村の国際結婚」を事例として——」（成果1）や「政策としての文化とコミュニティの創造——東北地方の山村における異文化の戦略的包摂を事例にして——」（成果2）、「異文化接触による食文化の創造とコミュニティの形成——キムチ特産品化の政策的試み——」（成果3）等の一連の「村の国際結婚」の研究は家族論の成果もあけ、その成果に基づいた「家族塾Alt」主催の「子ども・家族問題から見る男女共同参画社会」の講演会が開催された（平成15年10月26日、場所：鳥取市総合福祉センター）
18. 仲野誠 (No. 6) が平成11年に発表した「朝鮮初中級学校『復興』をめぐる」（福山市立女子短期大学に在職時の成果）や「ローカル・レベルにおける「共生」社会構築への試論——朝鮮学校・町内会・行政の関係を事例にして」（成果5）等の研究成果をもとにした鳥取市人権・同和問題研修（職場研修推進員対象）が鳥取市によって開催された（平成17年2

月 7 日，場所：鳥取市役所駅南庁舎第 5 会議室）。

19. 仲野誠 (No. 6) が平成 11 年に発表した「朝鮮初中級学校『復興』をめぐる」(福山市立女子短期大学に在職時の成果)や「ローカル・レベルにおける「共生」社会構築への試論——朝鮮学校・町内会・行政の関係を事例にして」(成果 5)等の研究成果をもとにした人権教育講演会が，鳥取市立世紀小学校において開催された(平成 17 年 7 月 26 日)。
20. 仲野誠 (No. 6) の「国際結婚がもたらす食文化の変容と創造——東北地方の「村の国際結婚」を事例として——」(成果 1)や「政策としての文化とコミュニティの創造——東北地方の山村における異文化の戦略的包摂を事例にして——」(成果 2)，「異文化接触による食文化の創造とコミュニティの形成——キムチ特産品化の政策的試み——」(成果 3)，そして「ローカル・レベルにおける「共生」社会構築への試論——朝鮮学校・町内会・行政の関係を事例にして」(成果 5)等による研究成果は，「鳥取市人権施策基本方針及び人権教育啓発に関する基本計画」策定(平成 17 年以降)に，特に在住外国人をめぐる施策の観点から反映されている。
21. 仲野誠 (No. 6) が平成 8 年に発表した「社会のグローバル化に伴う農村社会の変容——山形県の農村地域における国際結婚を通して考察する農村の模索と異質性への対応——」(福山市立女子短期大学に在職時の成果)や平成 10 年に発表した「〈外国人妻〉と地域社会——山形県における〈ムラの国際結婚〉を事例として——」(福山市立女子短期大学に在職時の成果)，そして平成 13 年の「ムラの国際結婚にみる『よその』の役割」で論じた家族論の研究成果は，平成 17 年度以降鳥取家庭裁判所で家事調停の領域において反映されている。
22. 中村英樹 (No. 7) が共著で執筆した『リーガルスタディー法学入門 [第 2 版]』(成果 1)及び『なるほど！公法入門 [第 2 版]』(成果 2)の中村執筆部分，特に基本的人権・表現の自由に関する内容は，中村が委員を務める「鳥取県人権救済条例見直し検討委員会」における，人権概念の整理，及び差別的言論問題の整理に反映されている。
23. 中村英樹 (No. 7) の「判例解説 補助金申請に係るバス会社の財務諸表」(成果 3)及び「答申解説 医師国家試験の問題用紙及び正答値表」(成果 4)は，中村が委員を務める「鳥取県岩美町情報公開・個人情報保護審査会」，「鳥取県若桜町情報公開・個人情報保護審査会」，「鳥取県智頭町情報公開・個人情報保護審査会」，「兵庫県新温泉町情報公開・個人情報保護審査会」などの審査会における議論に反映されている。また，鳥取県岩美町の職員研修や新日本海新聞社主催の個人情報保護法に関する講演会に反映されている。
24. 中村英樹 (No. 7) が共著で執筆した『リーガルスタディー法学入門 [第 2 版]』(成果 1)及び『新基本憲法学』(成果 5，九州産業大学非常勤講師在職時の成果)の中村執筆部分，特に平和主義・憲法改正に関する内容は，中村が講師を務めた「鳥取市 9 条の会」をはじめとする様々な市民団体が主催した講演会に反映されている。また，新聞の特集(毎日新聞 2005 年 11 月 23 日 [とっとり面] など)にも反映されている。
25. 藤井 正(No. 10)による阪神大震災の分析「都市構造と震災の 様相—神戸市東灘区を事例とした G I S 分析のための基礎的検討—」地理学評論 69A-7, 1996 (成果 1：大阪府立大学在職時の成果)の研究成果の評価から，平成 17 年度鳥取大学公開講座(鳥取県民カレッジ連携講座)の講義として，「地理情報システムによる阪神大震災の被害分析」という題目の講義を行った。
26. 藤井 正(No. 10)の「最近の都市への視点について—地域の文脈の解明と主張にむけて—」(成果 2：大阪府立大学在職時の成果)などの都市景観に関する研究に関連して，平成 16 年 11 月 10 日からの鳥取県景観審議会委員や平成 18 年 7 月からの中国地方整備局景観アドバイザーといった社会貢献を行っている。

27. 藤田安一 (No. 11) の成果 1 「市町村合併と自治体財政」の研究は、その後、鳥取市、智頭町、岩美町、境港市、淀江町、日吉津村、西伯町、会見町などで行った市町村合併に関わる種々の講演の基になった研究論文である。
28. 藤田安一 (No. 11) の成果 13 「公共事業の新展開と地域づくりの新たな発展をめざして」の研究は、平成 17 年 2 月 6 日の鳥取県連合婦人会主催の講演会や毎年開催されている鳥取市の市民講座「尚徳大学」など、住民主体の地域づくりに関する種々の講演の基になった研究論文である。
29. 藤田安一 (No. 11) の成果 6 「国民不在の郵政民営化」の研究は、平成 17 年 1 月 15 日の鳥取中央郵便局主催の新春講演会での講演など、郵政民営化問題に関わる種々の講演の基になった研究論文である。
30. 藤田安一 (No. 11) の成果 7 「郵政民営化の社会経済的考察」の研究は、平成 17 年 1 月 15 日の鳥取中央郵便局主催の新春講演会での講演など、その後の郵政民営化問題に関わる種々の講演の基になった研究論文である。
31. 藤田安一 (No. 11) の成果 8 「ボランティアによるまちづくり」の研究は、平成 17 年 2 月 20 日の鹿野町での講演や平成 17 年 9 月 21 日の地域学セミナーでの講演など、住民主体の地域づくりに関する種々の講演の基になった研究論文である。
32. 藤田安一 (No. 11) の成果 9 「市町村合併と住民投票」の研究は、その後、鳥取市、智頭町、岩美町、境港市、淀江町、日吉津村、西伯町、会見町などで行った市町村合併に関わる種々の講演の基になった研究論文である。
33. 藤田安一 (No. 11) の成果 10 「住民主体のまちづくり政策をめざして」の研究は、平成 17 年 5 月 4 日の鳥取市男女共同参画セミナーでの講演や平成 17 年 12 月 4 日の湯梨浜町での講演、平成 18 年 2 月 11 日の日吉津村での講演など、地域づくりに関する種々の講演の基になった研究論文である。
34. 藤田安一 (No. 11) の成果 11 「コミュニティ・ビジネスが切り拓く地域づくりの可能性」の研究は、平成 17 年 9 月 21 日の地域学セミナーでの講演や平成 18 年 3 月 14 日における鳥取市生涯学習センター主催の研修会など、地域づくりに関する種々の研修や講演の基になった研究論文である。
35. 光多長温 (No. 12) の成果 1 「PPP 総論」は自治体職員向けの冊子に PFI から PPP への深化を説いたため、その後自治体からの講演依頼に結びついた。このテーマでの講演回数は、毎年 20 件以上に上っている。
36. 光多長温 (No. 12) の成果 2 「公共投資新たな展開—PFI 方式から PPP 方式へ」は、自治体職員向けの機関紙に PFI から PPP への深化を説いたため、その後自治体からの講演以来に結びついた。このテーマでの講演回数は、年 20 件以上に上っている。
37. 光多長温 (No. 12) の成果 3 「官民大競争時代」は市場化テスト社会への進化を説いたもの。これを機会に、市場化テスト関連の講演会の依頼が増加しつつある。
38. 光多長温 (No. 13) の成果 4 「海外の PPP の現状」は、わが国における PFI (Private Finance Initiative) を更に深化させ、これを PPP (Public Private Partnership) に発展させた契機となった本。即ち、施設整備中心であった PFI の概念をより広く捉え、行政サービスまで民間に委託する市場化テストに転化していく契機を作ったもの。
39. 光多長温 (No. 13) の成果 5 「市場化テスト—官民競争時代の到来」は海外の市場化テストの動向を調査し、これをわが

国に導入した場合の具体像を描いたもの。この本は、2006年6月に「公共サービス改革法（いわゆる市場化テスト法）」の成立に繋がり、わが国における行政サービス効率化への途を開いた。

40. 家中茂（No. 13）の成果7「恩納村漁協による赤土流出防止の取り組み」は、成果8「沖縄における土地改良事業にともなう赤土流出―石垣島宮良川土地改良事業を事例に」や成果9「地域環境問題における公論形成の場の創出過程：沖縄県恩納村漁協の赤土流出防止の取り組みから」が評価され、沖縄県の担当部局から依頼されて報告したものである。
41. 家中茂（No. 13）の成果1～7について、社会科学系の研究者でサンゴ礁保全に関する学術論文を執筆している者が他にいないことから、その業績が評価され、沖縄県・漫湖地区自然再生推進検討委員会委員（2003年8月～2005年3月）、平成16年度内閣府受託事業・亜熱帯特性研究可能性調査「サンゴ礁とマングローブなどの熱帯沿岸域環境・資源の保全における国際貢献推進のための研究可能性調査」委員会委員（2004年10月～2005年3月）などを勤めた。
42. 家中茂（No. 13）の成果8「竹富島の村落運営―町並景観の形成と管理の観点から」などの研究成果が評価され、まちづくりやコミュニティ論への社会的な貢献が期待され、現在、鳥取市市民参画課・市民活動委員会委員（副委員長）や鳥取市市民参画課・自治会活動活性化支援事業に係る審査会委員を勤めている。
43. 山下博樹（No. 14）の成果2「鳥取市交通バリアフリー基本構想―すべての人にやさしいまちをめざして―」は、平成13年度鳥取市受託研究の報告書であるが、その内容は高齢者や身体障害者の方々の視点を取り入れた優れた計画として、鳥取市の交通バリアフリー施策のベースとなって活用されている。
44. 山下博樹（No. 14）の成果3「商業中心地の立地構造とその変化―鳥取市と津山市の事例―」は、平成15年度に今日の重要な都市問題となっている中心市街地の衰退について論究したもので、それに関連した鳥取市受託研究の獲得や倉吉市商工観光関連委員への就任などの地域貢献に結びついている。

研究活動実績票

別紙様式 3

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	地域学部・地域教育学科

- 平成 17 年度において、鳥取県からの受託研究「メディアと子育て応援事業」に本学科および生涯教育総合センターの 10 人（代表 田丸敏高）が関わり、その成果を報告書およびリーフレットにしたが、県内外から好評を得ている。引き続き平成 18 年度も鳥取県からの受託研究として「子育て・親育ち実態調査」に取り組んでいるところである。
- 山根俊喜著『新しい教育評価の理論と方法 I 理論編』（共著 2002）所収の論文「通知表・指導要録の課題－教育評価制度の歴史と現状をふまえて」により、招待講演（北海道教育評価研究会）、新聞の取材協力（朝日新聞 2003/12/20 付、家庭欄）を依頼された。
- 河合 務著「フランス第三共和制期における『父権』批判と児童保護政策」および拙稿「フランス第三共和制前期における児童保護政策の基本理念」『東京大学大学院教育学研究科紀要』（第 41 巻、2001 年）が、岡部造史氏による研究ノート「フランスにおける児童扶助行政の展開（1870－1914 年）」『史学雑誌』（第 114 編第 12 号）において引用され、教育学だけでなく歴史学に対しても貢献したものと評価できる。
- 平成 16 年度より現在まで、鳥取県教育センターの依頼を受け、「10 年経験者教員研修」の講師を本学科学習科学講座教員（教科教育学系）全員が担当している。
- 足立和美：平成 17 年度鳥取県東部地区中学校英語弁論大会（高円宮杯第 57 回全日本英語弁論大会鳥取県東部地区予選会）審査委員長
- 足立和美：鳥取県立倉吉東高等学校スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール運営委員会座長：2005
- 足立和美：中国地区英語教育学会研究紀要 第 34 号：編集委員長，2004
- 足立和美：高円宮杯第 56 回全日本中学校英語弁論大会鳥取県東部地区予選会 審査委員長，鳥取県東部地区中学校英語教育研究会，鳥取県東部地区中学生，2004
- 足立和美：平成 16 年度鳥取県中学校英語教育研究大会第 4 分科会指導助言，鳥取県中学校英語教育研究会，中学校英語教諭，2004
- 足立和美：倉吉東高等学校 S E L H i 運営委員（座長），鳥取県教育委員会，倉吉東高等学校，2004
- 足立和美：風の道 英語教育の道：講演，鳥取県東部地区高等学校英語教育研究会，鳥取県東部高等学校英語教員，2003
- 足立和美：英語教育の枠組み：教科の指導力向上（1），鳥取県教育センター，中学校教職経験者（3 年経過教員），2003

13. 足立和美：教科指導の充実Ⅱ～教科指導の改善と工夫～：現職教員の研修講座，鳥取県教育センター，中学校教職経験者（3年経過教員），2002

14. 溝口達也は，平成14年度より，鳥取県教育センター「教科の指導力向上研修/教科リーダー研修」（中学校数学・高等学校数学）の講師を担当してきており，同センターならびに県内各校より高い評価を得ている。以下，平成17(2005)年度実施分（中学校数学）を示す。第1回（5月19日）講演「中学校数学科の授業改善」，第2回（6月30日），第3回（7月28日），第4回（8月18日），第5回（9月13日），第6回（10月4日），第7回（10月27日），第8回（11月14日），第9回（12月6日），第10回（2006年1月13日）

15. 溝口達也は，鳥取県内外からの依頼を受けて，各種授業研究会での指導助言を担当してきている。以下は，平成17年度実施分である（他の年度もほぼ同様）

2005年6月1日	鳥取市中学校教育振興会数学部会授業研究会	2005年10月25日	米子市立福米西小学校授業研究会
2005年6月2日	鳥取市立日進小学校授業研究会	2005年11月2日	米子市立明道小学校授業研究会
2005年6月8日	米子市立就将小学校授業研究会	2005年11月8日	鳥取市立青谷小学校授業研究会
2005年6月16日	日南町立日野上小学校授業研究会	2005年11月9日	米子市立福米西小学校授業研究会
2005年6月22日	鳥取市立青谷小学校授業研究会	2005年11月10日	岩美町立岩美中学校授業研究会
2005年6月28日	江府町立江尾小学校授業研究会	2005年11月30日	江府町立江尾小学校授業研究会
2005年8月17日	鳥取市立日進小学校校内研究会	2005年12月1日	米子市立就将小学校授業研究会
2005年9月22日	鳥取市小学校教育研究会算数部会研究授業	2005年12月12日	鳥取市立日進小学校公開授業研究会
2005年9月27日	日南町立日野上小学校授業研究会	2005年12月13日	八頭町立船岡中学校授業研究会
2005年9月28日	江府町立江尾小学校授業研究会	2005年12月14日	鳥取市立日進小学校校内研究会
2005年9月29日	鳥取市立日進小学校授業研究会	2005年12月16日	鳥取大学附属小学校研究発表会
2005年10月5日	米子市立就将小学校授業研究会	2006年1月12日	鳥取市立日進小学校授業研究会
2005年10月12日	鳥取市立日進小学校校内研究会	2006年2月8日	境港市立渡小学校授業研究会

16. 溝口達也は、鳥取県内外からの依頼を受けて、各種研究会等で講演及び指導助言を担当してきている。以下は、平成 17 年度実施分である（他の年度もほぼ同様）

2005 年 6 月 21 日	米子市立福米西小学校校内研究会 講演「問題解決学習における練り上げ場面での効果的な指導方法の工夫」
2005 年 6 月 24 日	西部地区算数教育研究会 講演「創造性の基礎を培う授業構成とその展開：算数学習における創造的实践」
2005 年 7 月 29 日	鳥取県中学校数学教育研究大会
2005 年 8 月 5 日～6 日	第 87 回全国算数・数学教育研究（長野）大会 中学校部会
2005 年 8 月 11 日	鳥取県小学校教育研究会算数部会夏期セミナー
2005 年 11 月 18 日	第 38 回中国・四国算数・数学教育研究（宇多津）大会小学校部会
2006 年 1 月	鳥取県教育委員会刊行資料作成支援
2006 年 2 月 16 日	米子市中学校教育振興会 数学部会（米子市数学研究 B グループ）研究会（於 箕蚊屋中学校）

17. 溝口達也は、平成 10 年度より現在まで、鳥取県小教研算数部会「算数診断テスト」監修を担当している。
18. 溝口達也は、平成 17 年度（株）NAOCO から、動的幾何ソフト「Cabri 3D」の動作確認検証の依頼を受け実施した。
19. 溝口達也：日本数学教育学会 資料部幹事（平成 16 年度～）
20. 溝口達也：筑波大学教育開発国際協力研究センター（CRICED）「教育協力のための拠点システム数学委員会」委員（平成 16 年度～）
21. 溝口達也：鳥取県数学教育会 理事（平成 10 年度～）
22. 矢部敏昭は、鳥取県内外からの依頼を受けて、各種研究会等で講演及び指導助言を担当してきている。以下は、平成 17 年度実施分である（他の年度もほぼ同様）

2005 年 6 月 21 日	講義題目「学力向上に向けた学習指導と学習評価」(岡山県教育センター)
2005 年 6 月 28 日	講義題目「学力向上に向けた学習指導と学習評価」(岡山県教育センター)
2005 年 6 月 29 日	講演題目「学ぶ意欲と楽しさを育む算数授業の創造」(境港市立誠道小学校)
2005 年 7 月 11 日	講演題目「学ぶ意欲を育む新しい算数の学習」(鳥取市立青谷小学校)
2005 年 7 月 26 日	講演題目「授業の質を高める新しい算数・数学の授業」(岡山県教育センター)
2005 年 7 月 27 日	講演題目「中学校数学の授業改善と学習評価」(京都府総合教育センター)
2005 年 8 月 2 日	講演題目「創造性の基礎を培う授業構成とその展開」(鳥取市日進小学校)
2005 年 8 月 3 日	講演題目「学習意欲を高め、理解を深める授業の創造」(京都府相楽郡むくのみセンター)
2005 年 8 月 17 日	講演題目「これからの算数教育」(ホテル アウイーナ大阪)
2005 年 8 月 19 日	講演題目「確かな学力を身につける算数・数学の授業のあり方」(愛知県稲沢勤労福祉会館)
2005 年 8 月 23 日	講演題目「授業の質を高める算数・数学の学習」(福山市東部市民センター)
2005 年 8 月 24 日	講演題目「基礎・基本を発展させる算数科学習指導」(福岡県エールピア久留米)
2005 年 8 月 29 日	講演題目「確かな学力を保証する授業構成のあり方」(京都府園部町園部小学校)
2005 年 10 月 25 日	講演題目「考える力を育む算数科の授業」(広島県竹原市中通小学校)
2005 年 11 月 7 日	講演題目「個に応じた指導のための評価を生かした授業のあり方」(京都府総合教育センター)
2005 年 11 月 9 日	講演題目「豊かな活動と思考力を育てる算数指導」(東伯郡三朝南小学校)
2005 年 11 月 16 日	講演題目「子どもが問い続ける算数科学習のあり方」(福岡県笠松小学校)
2005 年 11 月 18 日	講演題目「これからの算数教育」(京都・六条院小学校)
2005 年 12 月 9 日	講演題目「学び合いを通して考える力を伸ばす授業をめざして」(京都市室町小学校)
2006 年 2 月 3 日	講演題目「新教育課程に向けて-世界最高水準の教育-」(京都市桂小学校)
2006 年 2 月 10 日	講演題目「授業改善を図る―一人ひとりに確かな学力を―」(鳥取市湖南小学校)
2006 年 2 月 15 日	講演題目「問題解決の質的向上を図る」(福井県敦賀市中央小学校)
2006 年 2 月 16 日	講演題目「分かる楽しい授業の創造」(高知県室戸市三高小学校)
2006 年 3 月 7 日	講演題目「分かる授業の展開とこれからの算数教育」(神戸市教育総合センター)

研究活動実績票

別紙様式 3

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	地域学部・地域環境学科

- 地域環境学科では研究成果を広く地域へ還元するために、鳥取県と共同して下記のシンポジウムを開催した。アンケートによると、いずれも 80～90%の参加者に好評であり、内容も興味深く、地域に貢献すると評価された。
 - 千代川流域圏の自然環境
(鳥取県民文化会館第1会議室, 平成 16 年 11 月 20 日)
 - 人々の健康を支える地域の活動
(鳥取大学工学部大講義室, 平成 17 年 11 月 19 日)
 - 鳥取県における循環型地域づくりをめざして
(鳥取県民文化会館第1会議室, 平成 18 年 6 月 3 日)
- 錦織 勤による「布施天神山城の復原的研究」(『鳥取県中世城館分布調査報告書 第1集(因幡編)』, 鳥取県教育委員会, 平成 14 年 3 月)は, 天神山城に関する興味を呼び起こし, 地域の様々な団体から 4 回にわたって講演を依頼された。
また「鳥取県中世城館の特質」(『鳥取県中世城館分布調査報告書第2集(伯耆編)』, 鳥取県教育委員会, 平成 16 年 3 月)は, 平成 16 年 9 月に文化庁で, 鳥取県教委・文化課とともに行った鳥取県中世城館調査に関する報告のもとになり, また, ここで明らかにした点を「鳥取県立図書館郷土文化講演会」で講演した。
- 永松 大による 2001-2005 年度におこなった環境省地球環境保全等試験研究「屋久島森林生態系における固有樹種と遺伝子多様性の保全に関する研究」(研究分担者)の成果を, 公開シンポジウム「屋久島の森林の成り立ち」(主催: 財団法人屋久島環境文化財団など)の講師として発表した(2005 年 10 月 7 日, 鹿児島県上屋久町)。
- 永松 大のこれまでの研究成果をもとに, 「日南林業まつり, 森づくり講演会」(主催: 鳥取県日南町森林組合, 2006 年 10 月 25 日, 鳥取県日南町)において, 「林業再生・持続可能な森林管理に向けてー九州における再造林放棄の顕在化ー」のタイトルで講演した。

研究活動実績票

別紙様式 3

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	地域学部・芸術文化センター

1. 《アート・フォーラム》
 - 第1回（平成17年10月18日（火）, 芸術文化センターアートプラザⅠ）
「土の詩ー漂白と定着のせめぎあいから生まれる私の仕事」（山本源太）
 - 第2回（平成17年11月19日（火）, 芸術文化センターアートプラザⅠ）
「共同の手仕事の魅力とその現代的意義」（松井健）
 - 特別講演会（平成18年1月28日（土）, 鳥取県立博物館講堂）
「自然素材の使い方」（藤森照信、大嶋信道）
2. 《アルテ・フェスタ》
 - 第1回（平成17年8月18日（木）, 芸術文化センターアートプラザⅠ）
ジグリングシュピール「バスティアンとバスティエンヌ」公演
 - 第2回（平成17年11月12日（日）, 芸術文化センターアートプラザⅠ）
「山城裕子ピアノコンサート」
 - 第3回（平成18年1月14日（土）, 芸術文化センターアートプラザⅠ）
劇団ハッピーアース公演「それで寒くてつらい冬が楽しくなったってわけさ」
 - 第4回（平成18年2月4日（土）, 芸術文化センターアートプラザⅠ）
鳥取大学学生によるコンサート&展示
 - 第5回（平成18年3月1日（水）, 鳥取県民文化会館小ホール）（予定）
ミュージカル「ピーターパンの冒険物語」
 - 第6回（平成18年3月19日（日）, 鹿野町総合支所旧会議場）（予定）
ダンスポケット2006 春 in SHIKANO（共催：鹿野町民音楽祭実行委員会）
3. 鳥取県内文化芸術活動状況調査（平成17年4月～18年3月）（委託：鳥取県）
4. 文化経済学会＜日本＞米子大会開催（平成17年6月11日（土）～12日（日））（主催：鳥取県、地域教育学部）
同大会記念シンポジウム開催（6月11日（土）, 米子コンベンションセンター）
5. 鳥取県高等教育機関「地の財産」活用推進事業（平成17年6月～18年3月）
「鳥取県における芸術文化を通じた空間資源の利活用に関する研究調査」（委託：鳥取県）
6. 文化政策セミナーの開催（共催：鳥取県）（編成18年1月26日（木）～27日（金）, 鳥取県立図書館大研修室）
7. 砂の彫刻「大地-対話-」の制作（委託：鳥取市）（平成17年7月, 砂丘展望広場「エッセリーニの丘」）
8. ミュージック&ムーブメントセラピー講座（平成18年2月7日, 14日, 21日, わらべ館いべんとほーる）
9. こころとからだのharmony「みんなのダンス」発表会（平成17年11月23日（祝）, 鳥取県民文化会館小ホール）
10. 「とっとりパフォーミングアーツ2005」（共催：アーツデザインとっとり）

第1回「ダンス・レクチャー」(平成17年8月6日(土), 芸術文化センターアートプラザⅠ)

第2回「ダンス・レクチャー」(平成17年8月10日(水), 鳥取県民文化会館リハーサル室)

第3回「ダンス・レクチャー」(平成17年8月11日(木), 鳥取県民文化会館梨花ホール)

折原美樹ダンス公演(平成17年8月14日(日), 鳥取県民文化会館リハーサル室)

ジャッキー・ジョブ・ダンスワークショップ(平成17年8月12日(金), 鳥取県民文化会館梨花ホール)

11. 第17回全国生涯学習フェスティバル総合開会式 / 第3回鳥取県総合芸術文化祭「合唱とオーケストラの祭典」(主催: 第17回全国生涯学習フェスティバル実行委員会、第3回鳥取県総合芸術文化祭実行委員会)(平成17年10月, 鳥取県民文化会館梨花ホール)
12. 南村千里ダンスワークショップ(平成17年度「県民自ら行う人権学習支援補助事業」)(平成17年5月16日(月)17日(火)、18日(水)、19日(木), 鳥取大学付属幼稚園遊戯室, 鳥取県民文化会館リハーサル室, 鳥取県民文化会館リハーサル室, わらべ館いべんとほーる)

米 子 地 区

医 学 部

医学系研究科

医学部附属病院

生命機能研究支援センター

資 料 目 次

医表－1, 2 職員数・・・・・・・・・・・・・・・・	7 1
医表－3 平成17年度 生命機能研究支援センター利用実績・・	7 2
医表－4 医学部・医学系研究科・生命機能研究支援センターの 研究業績（出版物）・・・・・・・・	7 5
医表－5 科学研究費件数・金額（H14年度 ～17年度）・・	7 6
医表－6 共同研究・受託研究・奨学寄附金の年次推移・・	7 7
医表－7 C O E の交付額・・・・・・・・	7 7
医表－8 学術交流協定・・・・・・・・	7 7
医表－9 医学部所属教員の研究業績・・	7 8
医表－10 医学系研究科教員の研究業績・・	7 9
医表－11 医学部附属病院教員の研究業績・・	8 0
研究活動実績票 別紙様式①－甲・・・・・・・・	8 1
研究活動実績票 別紙様式①－乙・・・・・・・・	8 3
研究活動実績票 別紙様式②・・・・・・・・	1 1 7
研究活動実績票 別紙様式③・・・・・・・・	1 3 1
研究活動実績票 別紙様式②・・・・・・・・	1 4 6
研究活動実績票 別紙様式③・・・・・・・・	1 4 8

医表－１ 職員数(平成18年5月1日現在)

単位:人

	教授	助教授	講師	助手	教務職員	技術職員	事務職員	合計
医学科	33	34	20	54	4	14	2	161
内訳	基礎分野	12	15	13	1	12	0	66
	臨床分野	17	15	35	3	2	1	79
	脳幹性疾患研究施設	4	4	1	0	0	1	16
生命科学科	4	5	0	7	0	3		19
保健学科	21	12	7	20	1			61
附属病院	2	7	35	62		465		571
機能再生医科学	4	4		7				15
事務部							100	100
合計	64	62	62	150	5	482	102	927

医表－２ 職員数(生命機能研究支援センター)(平成18年5月1日現在)

単位:人

	教授	助教授	講師	助手	教務職員	技術職員	事務職員	合計
生命機能研究支援センター	1	3	0	2	0	5	5	16

医表－３ 平成 17 年度 生命機能研究支援センター利用実績

遺伝子探索分野

利用状況

月	遺伝子	基礎	臨床	生命	保健	その他	利用者 合計	1 日利用 人数
4	253	183	214	200	18	37	905	30
5	229	125	205	202	23	36	820	26
6	271	158	255	265	19	39	1007	34
7	260	144	282	220	22	42	970	31
8	234	146	283	195	27	36	921	30
9	240	156	232	228	16	38	910	30
10	237	170	198	218	24	43	890	29
11	225	231	262	199	29	36	982	33
12	221	173	249	264	31	34	972	31
1	237	170	262	219	23	88	999	32
2	221	174	286	247	11	42	937	33
3	320	146	222	276	19	51	1034	33

動物資源開発分野

利用状況

(延べ人数)

月	医学部 基礎 教室	医学部 臨床 教室	医学部 生命科 学科	医学部 保健 学科	大学院 医学系 研究科	遺伝子 実験 施設	鳥取 地区	学 外 見学者	学 内 見学者	講習会 参加者	動物 実験 施設	利用者 合 計	1 日平 均利用 人数
4	152	439	197	109	200	19	0	5	0	32	452	1,605	54
5	109	345	189	85	191	23	0	1	40	15	314	1,312	42
6	152	344	186	77	239	26	0	0	0	1	354	1,379	46
7	189	278	212	83	233	18	0	3	0	3	343	1,362	44
8	183	303	192	68	252	11	4	62	0	0	342	1,417	46
9	299	359	222	66	211	67	0	0	0	4	327	1,555	52
10	210	281	233	54	198	97	0	1	0	3	328	1,405	45
11	199	227	229	63	210	44	0	1	0	4	294	1,271	42
12	146	240	206	39	171	83	0	1	0	5	330	1,221	39
1	112	225	173	39	166	82	0	0	3	4	381	1,185	38
2	270	235	180	46	178	98	0	2	0	11	319	1,339	48
3	250	236	132	65	472	77	0	1	0	5	356	1,594	51
計	2,271	3,512	2,351	794	2,721	645	4	77	43	87	4,140	16,645	547

17 年度延べ利用者数：16,645 名

放射線応用科学分野

利用状況

月	医学部 放射性同位元素 総合実験室 (延利用者数)	遺伝子探索分野 R I 実験室 (延利用者数)	鳥取地区 放射性同位元素等 共同利用施設 (延利用者数)
4	668	5	297
5	469	4	289
6	555	10	341
7	591	10	375
8	562	2	342
9	576	10	346
10	535	10	531
11	548	6	537
12	665	9	701
1	357	7	768
2	424	5	409
3	526	8	248
計	6,476	86	5184

医表-4 医学部・医学系研究科・生命機能研究支援センターの研究業績(出版物)

2002(平成14)年度

	教員数	英文著書	和文著書	英文原著・症例報告 (1 研究者あたりの件数)	和文原著・症例報告 (1 研究者あたりの件数)	英文総説	和文総説	その他
基礎医学分野	54	3	29	56(1.04)	35(0.68)	2	5	75
臨床医学分野	154	4	75	150(0.99)	163(1.08)	5	114	100
生命科学科	18	0	2	34(2.13)	0	1	10	12
保健学科	54	1	13	25(0.42)	55(0.91)	0	13	35
脳幹性疾患研究施設	26	0	12	33(1.27)	44(1.69)	0	37	28
遺伝子実験施設	5	0	0	2(2.00)	0	0	2	7
病院診療施設等	20	0	10	26(1.3)	36(1.8)	0	46	26

2003(平成15)年度

	教員数	英文著書	和文著書	英文原著・症例報告 (1 研究者あたりの件数)	和文原著・症例報告 (1 研究者あたりの件数)	英文総説	和文総説	その他
基礎医学分野	54	7	29	59(1.09)	42(0.78)	0	16	21
臨床医学分野	152	2	117	123(0.81)	121(0.80)	2	146	115
生命科学科	15	0	5	28(1.75)	1(0.06)	2	7	12
保健学科	58	0	18	23(0.38)	32(0.53)	0	27	38
脳幹性疾患研究施設	26	0	9	45(1.73)	33(1.27)	0	22	23
機能再生医科学専攻	14	0	5	42(2.80)	18(1.20)	0	11	4
生命機能研究支援センター	5	1	0	11(1.57)	1(0.14)	0	5	18
病院診療施設等	20	0	9	32(1.6)	13(0.65)	0	38	33

2004(平成16)年度

	教員数	英文著書	和文著書	英文原著・症例報告 (1 研究者あたりの件数)	和文原著・症例報告 (1 研究者あたりの件数)	英文総説	和文総説	その他
基礎医学分野	52	0	13	42(0.78)	27(0.50)	1	13	45
臨床医学分野	150	3	39	101(0.67)	73(0.48)	1	93	55
生命科学科	15	0	0	15(0.93)	0	0	7	12
保健学科	58	0	15	11(0.18)	31(0.52)	0	7	23
脳幹性疾患研究施設	25	4	15	47(1.81)	36(1.38)	1	22	30
機能再生医科学専攻	14	0	2	27(1.80)	0	0	15	2
生命機能研究支援センター	6	0	0	6(0.85)	1(0.14)	0	0	13
病院診療施設等	21	0	4	22(1.1)	15(0.75)	0	31	32

2005(平成17)年度

	教員数	英文著書	和文著書	英文原著・症例報告 (1 研究者あたりの件数)	和文原著・症例報告 (1 研究者あたりの件数)	英文総説	和文総説	その他
基礎医学分野	54	2	14	47(0.87)	28(0.51)	0	8	39
臨床医学分野	151	5	53	158(1.05)	156(1.03)	2	85	69
生命科学科	16	1	1	15(0.94)	0	1	2	9
保健学科	60	0	5	4(0.07)	33(0.55)	0	2	5
脳幹性疾患研究施設	26	0	8	37(1.42)	23(0.88)	1	22	21
機能再生医科学専攻	15	2	4	31(2.06)	4(0.27)	3	19	0
生命機能研究支援センター	7	0	0	4(0.57)	0	0	0	4
病院診療施設等	20	0	4	12(0.6)	21(1.05)	0	34	7

教員数は平成18年5月1日現在で計算した。

病院籍の教員は医学科臨床講座が診療を行う診療科と診療施設等に在籍している。

各診療科の教員は臨床分野に加えて計算した。

病院診療施設等の教員は薬剤部、検査部、手術部、放射線部、リハビリテーション部、高次集中治療部、病理部、医療情報部などに在籍する教員である。

医表－5 科学研究費件数・金額

H14年度		内定件数			内定金額
		継続	新規	計	(千円)
医学部	基礎系	5	8	13	28,600
	臨床系	16	12	28	49,500
	脳研	4	3	7	13,700
	生命・保健	9	8	17	49,500
	小計	34	31	65	141,300
医学部附属病院		13	10	23	29,790
医学系研究科				0	
計		47	41	88	171,090

H15年度		内定件数			内定金額
		継続	新規	計	(千円)
医学部	基礎系	10	9	19	37,200
	臨床系	16	13	29	43,800
	脳研	3	4	7	14,500
	生命・保健	8	11	19	51,290
	小計	37	37	74	146,790
医学部附属病院		14	7	21	26,560
医学系研究科				0	
計		51	44	95	173,350

H16年度		内定件数			内定金額
		継続	新規	計	(千円)
医学部	基礎系	12	5	17	33,400
	臨床系	17	8	25	33,800
	脳研	4	4	8	15,500
	生命・保健	7	9	16	29,800
	小計	40	26	66	112,500
医学部附属病院		12	8	20	27,560
医学系研究科		5	4	9	36,000
計		57	38	95	176,060

H17年度		内定件数			内定金額
		継続	新規	計	(千円)
医学部	基礎系	13	5	18	26,200
	臨床系	16	8	24	32,300
	脳研	5	1	6	22,300
	生命・保健	11	8	19	20,500
	小計	45	22	67	101,300
医学部附属病院		12	13	25	57,540
医学系研究科		4	4	8	36,200
計		61	39	100	195,040

医表－6 共同研究・受託研究・奨学寄附金の年次推移

		平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
共同研究	件数	7	15	16	20
	受け入れ金額(千円)	10,550	14,378	19,875	31,876
	1件あたり受け入れ金額(千円)	1,507	959	1,242	1,594
受託研究	件数	21	18	15	22
	受け入れ金額(千円)	24,569	16,269	26,314	35,342
	1件あたり受け入れ金額(千円)	1,170	904	1,754	1,606
奨学 寄附金	件数	370	460	487	489
	受け入れ金額(千円)	284,323	333,351	321,012	315,000
	1件あたり受け入れ金額(千円)	768	725	659	644

医表-7 COE の交付額

平成 16 年度	40,000 千円
平成 17 年度	34,000 千円

医表-8 学術交流協定

単位:人

	河北医科大学		広西医科大学		青島大学医学部		セベラス・マレット大学	
	派遣	受け入れ	派遣	受け入れ	派遣	受け入れ	派遣	受け入れ
平成 14 年度	0	3	0	0	2	2	0	2
平成 15 年度	0	1	1	0	0	2	0	1
平成 16 年度	0	5	2	7	0	2	0	2
平成 17 年度	0	1	0	0	0	4	2	3

医表－9 医学部所属教員の研究業績

医学部 (116人)

各年度の学部論文数＝①＋②＋③＋④／提出人数

2. 【研究成果の一覧】

事 項		件 数			
		平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
研究成果	①学術論文等（査読付）	318	355	353	330
	②学術論文等（査読なし）	91	92	116	140
	③国際会議議事録（プロシーディングス）	39	44	49	68
	④著書（単著，共著，編集・監修）	60	77	73	41
	計	508/116=4.37	568/116=4.89	591/116=5.09	579/116=4.99
	芸術・建築・体育系分野の研究業績	0	0	0	0
	特許出願（発明者）	4	4	7	5
	口頭発表等	710	749	715	680
	学会賞等受賞	6	6	5	3

医表－10 医学系研究科教員の研究業績

医学系研究科

(10人)

各年度の学部論文数＝①＋②＋③＋④／提出人数

2. 【研究成果の一覧】

事 項		件 数			
		平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
研究成果	学術論文等（査読付）	47	49	45	42
	学術論文等（査読なし）	1	4	23	18
	国際会議議事録（プロシーディングス）	0	0	2	5
	著書（単著，共著，編集・監修）	1	5	5	8
	計	49/10=4.90	58/10=5.80	75/10=7.50	73/10=7.30
	芸術・建築・体育系分野の研究業績	0	0	0	0
	特許出願（発明者）	1	1	1	5
	口頭発表等	31	93	91	80
	学会賞等受賞	0	2	0	5

医表－11 医学部附属病院教員の研究業績

医学部附属病院(21人)

各年度の学部論文数＝①＋②＋③＋④／提出人数

2. 【研究成果の一覧】

事 項		件 数			
		平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
研究成果	①学術論文等（査読付）	66	74	36	44
	②学術論文等（査読なし）	37	31	19	43
	③国際会議議事録（プロシーディングス）	3	9	8	12
	④著書（単著，共著，編集・監修）	8	10	7	8
	計	114/21=5.42	124/21=5.90	70/21=3.33	107/21=5.09
	芸術・建築・体育系分野の研究業績	0	0	0	0
	特許出願（発明者）	0	0	0	0
	口頭発表等	86	113	92	113
	学会賞等受賞	3	0	0	0

研究活動実績票

別紙様式①－甲

【学部・研究科等の研究活動の実施状況】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	医学部・医学系研究科・生命機能研究支援センター

＜学部・研究科等の概要＞

(1) 作成単位：医学部、医学系研究科、学内共同教育研究施設である生命機能研究支援センター

(2) 学問分野の構成：

- ・ 医学部は、医学科、生命科学科、保健学科の3学科および附属病院と附属脳幹性疾患からなる。医学部医学科は機能形態統御学、感染制御学、社会医学、病態解析医学、統合内科医学、器官制御外科学、感染運動医学の8講座で35分野からなる。生命科学科は分子細胞生物学と生体情報機能学の2講座6分野からなる。保健学科は看護学専攻4講座、検査技術学専攻の2講座からなる。
- ・ 医学部附属施設である脳幹性疾患研究施設は4部門からなる。医学部附属病院には医学科臨床講座が診療を行う診療科と診療施設等からなる。
- ・ 医学系研究科は医学専攻、生命科学専攻、保健学専攻、機能再生医科学専攻からなり、機能医科学専攻は独立専攻である。

生命機能研究支援センターは学内共同教育研究施設で医学部キャンパスに設置されている。生命機能研究支援センターの遺伝子探索分野は遺伝子実験、動物資源開発分野は動物実験、放射線応用科学分野はラジオアイソトープを用いた実験に必要な実験機器が設備されている。

《教員，研究員等数》（平成18年5月1日現在）

教授	助教授	講師	助手
65	66	62	152

客員教授	特任教授
8	1

受託研究員	共同研究員	博士研究員		博士（博士後期）課程学生
		J S P S	その他	
0	1	5	0	45

<学部・研究科等の研究活動の実施状況>

1. 本学部・研究科では、平成16年度に21世紀COEプログラム「染色体工学技術開発の拠点形成」（拠点リーダー押村光雄教授）が採択され、遺伝子再生医療や医薬品開発に向けた染色体工学技術の開発とその利用を通して、多種多様な遺伝子を細胞内へ安全に運ぶヒト人工染色体の開発や、染色体レベルでの遺伝子機能解析のための国際共同研究拠点づくりにある。本プロジェクトは独立専攻・機能再生医科学専攻を中心としており、この専攻の目的であるトランスレーショナル・リサーチの特徴を表現している。
2. 本学科・研究科の各部門の平成17年度科学研究費補助金内定金額を教員一人当たりでみた場合（表5）、機能再生医科学専攻241.3万円、脳幹性疾患研究施設139.4万円、附属病院54.2万円、医学科臨床系40.9万円であった。この内定金額の順位は、表4の平成15-17年度教員一人当たりの英文原著数（機能再生医科学専攻2.22論文、脳幹性疾患研究施設1.65論文、生命科学科1.20論文、病院診療施設等1.10論文、生命機能研究センター0.997論文、医学科基礎医学分野0.91論文、医学科臨床医学講座分野0.84論文、保健学科0.21論文）と同じような傾向であった。
3. 本学部・研究科では、研究成果を新しい治療法の開発に結び付ける製薬会社や医療機器会社との共同研究が活発で、共同研究の受け入れ件数および受け入れ金額とも、平成14年～平成17年でほぼ3倍に増加している。
4. 本学部・研究科では、疾病研究や難病研究等を国立研究機関等から受託する研究も活発で、平成14年から平成15年でやや受け入れ金額が減少したがその後、平成18年まで確実に増加している。
5. 本学部・研究科では当学部・研究科では、臨床治験などを実施することなどによる製薬メーカーからの奨学寄付金が多く、年間3億円に達している。

研究活動実績票

別紙様式①ー乙

【研究成果一覧】

大学名		鳥取大学		学部・研究科名		医学部・医学科	
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果		
1	片桐 浩史	助手	外科系臨床 医学	1	[論文] 単一エネルギーX線吸収法による踵骨の骨量動態に関する研究 日 本整形外科学会雑誌 68: 1044-1055, 1994		
				2	骨折予防から見たE BM. カレントセラピー 24: 775-778, 2006		
				3	[共著] 【高齢者の整形外科】 整形外科Primary Care 私はこうしている 骨粗鬆症, NEW MOOK 整形外科16号. 金原出版株式会社 2004 p138-144		
2	谷尾 和彦	助教授	歯学	1	[論文] Benign symmetric lipomatosis : A patient report : Yoshiyuki Tanji, Noriko Ikeda,Masami shibata, Isamu Kodani, Kazuhiko Tobashi, Kazunori Kidani, Fimihiro Otake, Kazuhiko Tanio, Kazuo Ryoike, Yonago Acta medica, 48, 4, 101-106, 2005		
				2	Solitary fibrous tumor of the buccal mucosa : Apatient report : Kazuhiko Tanio, Kazuo Ryoike, Isamu Kodani, Rieko Doi, Yoshiyuki Tanji, Takayuki Ikeda, Yonago Acta madica, 48, 3, 75-81, 2005		
				3	Clinico-immunohistochemical study of oral vrruciform xanthomas : Masami Shibata, Isamu Kodani, Kazuhiko Tanio, Tetsuya Yamamoto, Eisaku Ueta, Tokio Osaki, Kazuo Ryoike, Asian J Oral Maxillofac Surg, 17, 2, 95-99, 2005		
3	領家 和男	教授	歯学	1	[論文] Cell Death Induction of Thymidine kinase Gene Transfer Followed by Ganciclovir Treatment in Oral Squamous Cell Carcinoma Cell Lines. : Itaru Kuratate,Mitsuhiro Osaki and Kazuo Ryoike, Yonago Acta medica, 48, 3, 63-74, 2005		
				2	Cyclo-oxygenase-land-2expression in human oral mucosa, dysplasias and squamous cell carcinomas and their pathological significance. :Masami Shibata, Isamu Kodani,Mitsuhiro Osaki,Kunio Araki,Hironobu Adachi,Kazuo Ryoike,Hisao Ito, Oral Oncology, 41, 0, 304-312, 2005		
				3	A new animal model of continuous catheterization for investigating mechanisms of arteritis associated with chemotherapy. :Masaki Sudou,Yosuke Kishimoto,Akira Marumoto,Mikio Inoue,Akiko Sano,Norimasa Miura,Yasushi Horie,Junichi Hasegawa,Kazuo Ryoike, Life Sciences, 74, 0, 3025-3032, 2004		
4	井上 幸次	教授	外科系臨床 医学	1	[論文] Case of a large, movable bacterial concretion with biofilm formation on the ocular surface :Mihara E, Shimizu M, Touge C, & Inoue Y, Cornea, 23, 0, 513-515, 2004		
				2	Genotyping of herpes simplex virus type 1 strains isolated from ocular materials of patients with herpetic keratitis :Umene K, Inoue Y et al, J Med Virol, 71, 0, 75-81, 2003		
				3	The effect of immunization with herpes simplex virus glycoprotein D fused with interleukin-2 against murine herpetic keratitis : Inoue T, Inoue Y et al, Jpn J Ophthalmol, 46, 0, 370-376, 2002		

5	佐々木 勇二	助教授	外科系臨床 医学	1	[論文] 両眼に円錐角膜と網膜剥離を合併したアトピー性皮膚炎の1例:佐々木勇二, 馬場高志, 金田周三, 井上幸次, 山崎香織, 日本眼科紀要, 53, 12, 971-976, 2002
				2	Slow and fast oscillation electrooculography in central retinal vein occlusion: a comparison between affected eyes and fellow intact eyes :Inoue, M., Tamai, A., Hatta, S., and Sasaki, Y., Yonago Acta med, 46, 3, 65-75, 2003
				3	水晶体後嚢にびまん性黄褐色混濁を認めた Wilson 病の1例:小松直樹, 佐々木勇二, 馬場高志, 井上幸次, 日本眼科紀要, 55, 9, 723-727, 2004
6	長谷川 賢作	講師	外科系臨床 医学	1	[論文]真珠腫性中耳炎に対する外耳道再建型鼓室形成術の聴力成績 日耳鼻 107. 9, 785-792. 2004
7	北野 博也	教授	外科系臨床 医学	1	[論文] Suzuki M, Kouzaki H, Nishida Y, Shiino A, Ito R, Kitano H, Cortical activation patterns in functional magnetic resonance images following monaural pure tone stimulation. Neurosci Res Com 30: 197-206, 2002
				2	Suzuki M, Kitano H, Kitanishi T, Ito R, Shiino A, Nishida Y, Yazawa Y, Ogawa F, Kitajima K Cortical and subcortical activation with monaural monosyllabic stimulation by functional MRI. Hear Res 163: 37-45, 2002
				3	Suzuki M, Kouzaki H, Ito R, Shiino A, Nishida Y, Kitano H Cortical representation of hearing restoration in patients with sudden deafness. NeuroReport 13: 1829-1832, 2002
8	山元 修	教授	内科系臨床 医学	1	[論文] 1. Extramammary Paget's disease with superimposed herpes simplex virus infection: immunohistochemical comparison with cases of the two respective diseases :Yamamoto O, Yasuda H, British Journal of Dermatology, 148, 0, 1258-1262, 2003
				2	2. Enhancement of immunoreactivity for endothelin-1 and endothelin converting enzyme-1 in the cadmium-treated rat thoracic aorta :Doi Y, Kudo T, Yamamoto O, Hamasaki K, Yoshizuka M, Fujimoto S, Virchows Archiv, 441, 0, 179-186, 2002
				3	3. An immunohistochemical and ultrastructural study of syringocystadenoma papilliferum :Yamamoto O, Doi Y, Hamada T, Hisaoka M, Sasaguri Y, British Journal of Dermatology, 147, 0, 936-945, 2002
9	山田 七子	講師	内科系臨床 医学	1	[論文] Grimes PE, Yamada N, Bhawan J, Light microscopic immunohistochemical, and ultrastructural alterations in patients with melasma. Am J Dermatopathol. 27(2):96-101, 2005
				2	三原基之、山田七子、大澤徳哉 アトピー性皮膚炎の疫学、病態、治療一日野郡の小・中学校のアトピー性皮膚炎の実態調査— 疾病構造の地域特性対策専門委員会報告母子保健対策専門委員会報告第17集(平成14年度). 鳥取県健康対策協議会. 平成15年5月、13-15頁.
				3	山田七子 他 小児石灰化上皮腫の臨床・病理・統計学的検討 日本小児皮膚科学会雑誌 24: 119-123
10	入子 英幸	助手	基礎医学	1	[論文] Kaneko O, Templeton TJ, Iriko H, Tachibana M, Otsuki H, Takeo S, Sattabongkot J, Torii M, Tsuboi T. The Plasmodium vivax homolog of the ookinete adhesive micronemal protein, CTRP. Parasitol Int. 2006 Sep;55(3):227-31.

				2	Kaneko O, YimLim BY, Iriko H, Ling IT, Otsuki H, Grainger M, Tsuboi T, Adams JH, Mattei D, Holder AA, Torii M. Apical expression of three RhopH1/Ctag proteins as components of the Plasmodium falciparum RhopH complex. Mol Biochem Parasitol. 2005 Sep;143(1):20-8.
				3	Iriko H, Nakamura K, Kojima H, Iida-Tanaka N, Kasama T, Kawakami Y, Ishizuka I, Uchida A, Murata Y, Tamai Y. Chemical structures and immunolocalization of glycosphingolipids isolated from Diphyllbothrium hottai adult worms and plerocercoids. Eur J Biochem. 2002 Jul;269(14):3549-59.
11	石黒 眞吾	講師	外科系臨床医学	1	[論文] 科学研究費補助金 基盤研究(C) (2) 研究報告書 心筋細胞不死化と長時間真保存法への応用 (課題番号 15591474) 平成 18 年 3 月 研究代表者 石黒眞吾
				2	冠動脈バイパス術に自己骨髄単核球細胞心筋内移植術および両心室ペーシングを併施した虚血性心筋症の 1 例. 松田成人, 中嶋英喜, 丸本明彬, 中村嘉伸, 上平 聡, 金岡 保, 石黒眞吾, 應儀成二. 日本心臓血管外科学会雑誌, 34 : 435-439, 2005
				3	Resection of a cardiac tumor extending into the inferior vena cava presenting as Budd-Chiari syndrome. Naruto Matsuda, Munehiro Saeki, Satoshi Kamihira, Yasushi Kanaoka, Shingo Ishiguro, Shigetsugu Ohgi, Jpn J Thorac Cardiovasc Surg 54: 285-288, 2006
12	島田 宗昭	助手	外科系臨床医学	1	[論文] Ovarian metastasis in carcinoma of the uterine cervix. M. Shimada et al Gynecol Oncol 2006: 101; 234-7.
				2	Outcome of patients with early ovarian cancer undergoing three courses of adjuvant chemotherapy following complete surgical staging. M. Shimada et al. Int J Gynecol Cancer 2005: 15; 601-5.
				3	Stromal invasion of the cervix can be excluded from the criteria for using adjuvant radiotherapy following radical surgery for patients with cervical cancer. M. Shimada et al Gynecol Oncol 2004: 93;
13	寺川 直樹	教授	外科系臨床医学	1	[論文] Reduction of estrogen production by interleukin-6 in a human granulosa tumor cell line may have implications for endometriosis-associated infertility. : N.Terakawa, Fertil. Steril. 83, suppl 1, 1086-1092, 2005.
				2	Progesterone and progestational compounds attenuate tumor necrosis factor alpha-induced interleukin-8 production via nuclear factor kappaB inactivation in endometriotic stromal cells. : N.Terakawa Fertil. Steril. 83, 5, 1530-1535, 2005
				3	PTEN-positive and phosphorylated-Akt-negative expression is a predictor of survival for patients with advanced endometrial carcinoma. : N.Terakawa Oncol. Rep. 14, 2, 389-392, 2005
14	大石 徹郎	助手	外科系臨床医学	1	[論文] Oishi T, Kigawa J, Fujiwara K, Fujiwara M, Numa F, Aotani E, Katsumata N, Kohno I, Kato H, Terakawa N; Sankai Gynecology Study Group. A feasibility study on biweekly administration of docetaxel for patients with recurrent ovarian cancer. Gynecol Oncol. 2003 Aug;90(2):421-4.
				2	Iba T, Kigawa J, Kanamori Y, Itamochi H, Oishi T, Simada M, Uegaki K, Naniwa J, Terakawa N. Expression of the c-myc gene as a predictor of chemotherapy response and a prognostic factor in patients with ovarian cancer. Cancer Sci. 2004 May;95(5):418-23

				3	Uegaki K, Kanamori Y, Kigawa J, Kawaguchi W, Kaneko R, Naniwa J, Takahashi M, Shimada M, Oishi T, Itamochi H, Terakawa N. PTEN-positive and phosphorylated-Akt-negative expression is a predictor of survival for patients with advanced endometrial carcinoma. Oncol Rep. 2005 Aug;14(2):389-92.
15	池口 正英	教授	外科系臨床医学	1	[論文] Detection of circulating cancer cells after a gastrectomy for gastric cancer. : Ikeguchi M, Kaibara N, Surg Today, 35, 2005; 436-41, 2005
				2	Clinical significance of the loss of KiSS-1 and orphan G-protein-coupled receptor (hOT7T175) gene expression in esophageal squamous cell carcinoma. : Ikeguchi M, Yamaguchi K, Kaibara N, Clin Cancer Res, 10, 1379-1383, 2004.
				3	Heparanase gene expression and its correlation with spontaneous apoptosis in hepatocytes of cirrhotic liver and carcinoma. : Ikeguchi M, Hirooka Y, Kaibara N, Eur J Cancer, 39, 0, 86-90, 2003
16	稲垣 喜三	教授	外科系臨床医学	1	[論文] Adachi H, Inagaki Y, Okazaki N, Ishibe Y: Racemic ketamine and S(+)-ketamine concentrations in cerebrospinal fluid after epidural and intravenous administration in rabbits Yonago Acta medica 48:33-40, 2005
				2	Nakada J, Matura T, Okazaki N, Nishida T, Togawa A, Minami Y, Inagaki Y, Ito H, Yamada K, Ishibe Y: Oral administration of Geranylgeranylacetone improves survival rate in a rat endotoxin shock model: Administration timing and HSP70 induction. SHOCK 24:482-7, 2005
				3	Watanabe t, Inagaki Y, Ishibe Y: Clonidine premedication effects on inhalation induction with sevoflurane in adults: a prospective, double-blind, randomized study. Acta Anaesthesiol Scand 2006; 50:180-7.
17	岡崎 直人	助手		1	[論文] 91) Evaluation of exhaled nitric oxide in thoracic surgery patients under one lung ventilation using a newly designed online exhaled nitric oxide measuring system. :Y. Minami, R. Liu, Y. Ishibe, N. Okazaki, T. Funakoshi, and K. Ueda, Yonago Acta medica, 46, 4, 133-144, 2003
				2	Volatile anesthetics regulate pulmonary vascular tension through different potassium channel subtypes in isolated rabbit lungs. : R. Liu, Y. Ishibe, N. Okazaki, M. Ueda, and J. Hirokawa, Canadian J Anesthesia, 50, 3, 301-304, 2003
				3	単著] 機械的換気中の肺循環特性の検討 : 岡崎直人, 21, 2003, 科学研究費研究成果報告書,
18	河合 康明	教授	基礎医学	1	[論文] Tatebayashi K, Asai Y, Maeda T, Shiraishi Y, Miyoshi M, Kawai Y. Effects of head-down tilt on the intracranial pressure in conscious rabbits. Brain Res. 977:55-61, 2003.
				2	Maeda T, Mori K, Shiraishi Y, Tatebayashi K, Kawai Y. Selective occlusion of lumbar arteries as a spinal cord ischemia model in rabbits. Jpn J Physiol. 53:9-15, 2003.
				3	[共著] 人体生理学 朝倉書店 2006 年

19	松尾 聡	講師	内科系臨床 医学	1	[論文] Evidence for gaze feedback to the cat superior colliculus: discharges reflect gaze trajectory perturbations. : Matsuo S, Bergeron A, Guitton D, J Neurosci, 24, 11, 2760-2773, 2004
				2	Superior colliculus encodes distance to target, not saccade amplitude, in multi-step gaze shifts. : Bergeron A, Matsuo S, Guitton D, Nature Neurosci, 6, 4, 404-413, 2003
				3	On the feedback control of orienting gaze shifts made with eye and head movements : Guitton D, Bergeron A, Choi WY, Matsuo S, Prog Brain Res., 142, 0, 55-68, 2003
20	宮川 征男	教授	外科系臨床 医学	1	[論文] 女性ホルモン補充療法は頻尿・尿失禁を改善するのでしょうか : 宮川 征男 第21回浜松カンファレンス記録集「泌尿器科学最近の進歩」 p.17-23, 20005
				2	Urodynamic effects and safety of modified intravesical oxybutinin chloride in patients with neurogenic detrusor overactivity : Saito M. ..., Miyagawa I Int J Urol 11:592-596, 2004
				3	ボツリヌス毒素膀胱壁内注射療法2例の経験 : 渡邊健志、...、宮川 征男 日本泌尿器科学会雑誌 96:511-514, 2005
21	福留 初子	講師	実験動物学	1	[論文] Geographical Distribution of the Lung Fluke, <i>Paragonimus westermani</i> -diploid type (trematoda, Troglorematidae) in the Northern Part of Okayama Prefecture, Japan. Biogeography 6, pp87-93, Aug. 20, 2004.
22	松葉 隆司	講師	基礎医学	1	[論文] Induction of apoptosis in macrophage cell line J774, by the cell free supernatant from Pseudomonas aeruginosa : Zhang J, Takayama H, Matsuba T, Jiang R and Tanaka Y, Microbiol. Immunol., 47, 3, 199-206, 2003
23	北村 幸郷	助教授	基礎医学	1	[論文] Ileal ulcers and cytomegalovirus infection in a case of Churg-strauss syndrome : Hayashi K, horie Y, Takahata H, Adachi Y, Kitamura Y, Kato M, Arch Pathol Lab med, 129, 141-143, 2005
				2	Smad expression of hepatic stellate cells in liver cirrhosis in vivo and hepatic stellate cell line in vitro : Kitamura Y and Ninomiya H, Pathol Int , 53, 18-26, 2003
				3	Vascular endothelial cells that express dystroglycan are involved in angiogenesis. : Hosokawa H., Ninomiya H., Kitamura Y., Fujiwara K. and Masaki T, J Cell Sci , 115, 1487-1496, 2002
24	林 一彦	教授	実験病理学	1	[論文] Therapeutic trials for a rabbit model of EBV-associated hemophagocytic syndrome (HPS) : Effects of vidarabine or CHOP, and development of Herpesvirus papio (HVP)-negative lymphomas surrounded by HVP-infected lymphoproliferative disease. : Hayashi K, H. Joko, T. R. Koirala, S. Onoda, Z-S Jin, M. Munemasa, N. Ohara, W. Oda, T. Tanaka, T. Oka, E. Kondo, T. Yoshino, K. Takahashi, M. Yamada, and T. Akagi, Histol. Histopathol., 18, 4, 1155-1168, 2003
				2	Rabbit Model for Human EBV-associated Hemophagocytic Syndrome (HPS) : Sequential autopsy analysis and characterization of IL-2 dependent cell lines established from Herpesvirus papio-induced fatal rabbit lymphoproliferative diseases with HPS : Hayashi K, Zaishun Jin, Sachiyo Onoda, Hiromasa Joko, Norihiro Teramoto, Nobuya Ohara, Wakako Oda, Takehiro Tanaka, Yi-Xuan Liu, Tirtha Raj Koirala, Takashi Oka, Eisaku Kondo, Tadashi Yoshino, Kiyoshi Takahashi, and Tadaatsu Akagi, Am J Pathol, 62, 5, 1721-1736, 2003

				3	Gene silencing of the tyrosine phosphatase SHP1 gene by aberrant methylation in leukemias/lymphomas. : Oka T, Ouchida M, Koyama M, Ogama Y, Takada S, Nakatani Y, Tanaka T, Yoshino T, Hayashi K, Ohara N, Kondo E, Takahashi K, Tsuchiyama J, Tanimoto M, Shimizu K, Akagi T, Cancer Res., 62, 22, 6390-6394, 2002
25	稲賀 すみれ	助手	基礎医学	1	[論文] Three-dimensional helical coiling structures and band patterns of hydrous metaphase chromosomes observed by low vacuum scanning electron microscopy. : Sumire Inaga et al., Arch. Histol. Cytol., 65, 5, 415-423, (2002)
				2	Three-dimensional ultrastructure of <i>in situ</i> chromosomes and kinetochores of <i>Tradescantia reflexa</i> anther cells by scanning electron microscopy. 2. Whole mounted chromosomes and kinetochores of pollen mother cells and tapetal cells. Sumire Inaga et al., Chromosome Science 4 (1): 11-20 (2000)
				3	Fine structure of hydrous chromosomes observed by low vacuum scanning electron microscopy. : Sumire Inaga et al. Arch. Histol. Cytol. 61, 4: 337-342 (1998)
26	名黒 知徳	助教授	基礎医学	1	[論文] Microplicae-like structures of the fallopian tube in postmenopausal women as shown by electron microscopy. S. Correr, S. Makabe, R. Heyn, M. Relucenti, T. Naguro, and G. Familiari Histol Histopathol 21: 219-226 (2006)
				2	[共著] Atlas of Human Female Reproductive Function, S. Makabe, J V Blerkom, S A Nottola, T. Naguro Taylor & Francis Group, Oxon, UK 2006
				3	Nuclear pore complex of the rat pancreatic acinar cells as seen with high-resolution scanning electron microscopy. Naguro T, Inaga S, Nakane H, Kameie T In: 5th International Symposium on Electron Microscopy in Medicine and Biology proceedings, Shijiazhuang (China) pp40-41, 2005
27	海藤 俊行	助教授	基礎医学	1	[論文] Characteristic patterns of VEGF, integrins, ER-alpha and HER2 immunoreactivity suggest two tumor cell populations in DMBA-induced rat mammary tumor. Inoue T, Kaidoh T, Inoue T, Ohgi S, Acta Histochemica et Cytochemica, 38 (5) 313-321, 2005
				2	Three-dimensional structural changes in cerebral microvessels after transient focal cerebral ischemia in rats: Scanning electron microscopic study of corrosion casts. : Ohtake M, Morino S, Kaidoh T, Inoue T, Neuropathology, 24, 0, 219-227, 2004
				3	Abnormalities in pericytes on blood vessels and endothelial sprouts in tumors. : Morikawa S, Baluk P, Kaidoh T, Haskell A, Jain RK, McDonald D, Am J Pathology, 160, 5, 985-1000, 2002
28	川久保 善智	助手	人類学	1	[論文] Dodo Yukio and Yoshinori Kawakubo (2002) Cranial Affinities of the Epi-Jomon Inhabitants in Hokkaido, Japan. Anthropological Science, 110 (1) 1-32
				2	Yoshinori Kawakubo, Junmei Sawada, Tomoko Maeda and Yukio Dodo (2005) Metric Data of Human Crania from the Tohoku Region, Honshu, Japan, Housed at the Department of Anatomy and Anthropology, Tohoku University School of Medicine. Bulletin of the Tohoku University Museum, 4, 1-16
				3	Nancy Suzanne Ossenberg, Yukio Dodo, Tomoko Maeda and Yoshinori Kawakubo (2006) Ethnogenesis and craniofacial change Japan from the perspective of nonmetric traits. Anthropologic Science. Anthropological Science, 114 (2) 99-116
29	井元 敏明	助教授	基礎医学	1	[論文] Endogenous Cryogens Exiting in the Blood of a Hypothermic

					Patient : Shido, O., Sugimoto, N., Imoto, T., Asa, A., Maruyama, M., Hara, T., Watanabe, T. and Koizumi S, Japanese Journal of Physiology 54: 449-456, 54, 0, 449-456, 2004
				2	Differential gurnarin suppression of sweet taste responses in rat solitary nucleus neurons. : Lemon, C. H., Imoto, T. and Smith, D. V., Journal of Neurophysiology, 90, 0, 911-923, 2003 Endo, N., Makino, K., Yang, CH. and Ohama, E., Neuropathology, 23, 0, 161-168, 2003
				3	[共著] 味のなんでも小事典 : 山本 隆 他., 山本 隆, 0-0, 2004, 講談社, 東京
30	細貝 正江	助手	神経・筋肉生理学	1	[論文] Central respiratory chemoreception of medullary raphe nuclei. Hosogai, Masae and Matsuo Satoshi, Neuroscience Research, 52, Suppl., S202-S202, 2005
				2	延髄縫線核の呼吸性ニューロン : 細貝正江, 松尾 聡, 臨床神経生理学, 32, 2, 108-108, 2004
				3	Inspiratory neurons with decrementing firing pattern in raphe nuclei of feline medulla. : Hosogai Masae, Matsuo Satoshi, Autonomic Neuroscience: Basic and Clinical, 99, 0, 13-17, 2002
31	渡邊 達生	教授	基礎医学	1	[論文] Are transcription factors NF- κ B and AP-1 involved in the ANG II-stimulated production of proinflammatory cytokines induced by LPS in dehydrated rats? : Sasaki, K., Taniguchi, M., Miyoshi, M., Goto, O., Sato, K. and Watanabe, T., American Journal of Physiology 289(6), R1599-R1608, 2005
				2	The effect of central injection of angiotensin-converting enzyme inhibitor and the angiotensin type 1 receptor antagonist on the induction by lipopolysaccharide of fever and brain interleukin-1 β response in rats. : Shimizu, H., Miyoshi, M., Matsumoto, K., Goto, O., Imoto, T., and Watanabe, T., Journal of Pharmacology and Experimental Therapeutics 308, 865-873, 2004
				3	ANG II is involved in the LPS-induced production of proinflammatory cytokines in dehydrated rats. : Miyoshi, M., Nagata, K., Imoto, T., Goto, O., Ishida, A., and Watanabe, T., American Journal of Physiology, 284, R1092-R1097, 2003
32	岸本 拓治	教授	社会医学	1	[論文] Kishimoto T, Misawa Y, Kaetu A, Nagai M, Osaki Y, Okamoto M, Yoshida S, Kurosawa Y, Fukumoto S. eNOS Glu298Asp polymorphism and hypertension in a cohort study in Japanese. Preventive Medicine, 39 : 924-931, 2004
				2	Kaetsu A, Kishimoto T, Osaki Y, Okamoto M, Fukumoto S. The lack of relationship between an endothelin-1 gene polymorphism (ala288Ser) and incidence of hypertension: A retrospective cohort study among Japanese workers. J Epidemiol 14(4) : 129-136, 2004
				3	Kotani K, Osaki Y, Kurozawa Y, Kishimoto T. A survey of restaurant smoking restrictions in a Japanese city. Tohoku J Exp Med 207 : 73-79, 2005
33	小谷 和彦	助手	社会医学	1	[論文] Kotani Kazuhiko, et al. Risk factors for silent brain infarction in the elderly : Kotani Kazuhiko, Arch Med Res, 35, 6, 522-524, 2004.
				2	Kotani Kazuhiko, et al. Leptin-to-adiponectin ratio as an atherosclerotic index in patients with type 2 diabetes: relationship of the index to carotid intima-media thickness. Diabetologia, 48, 12, 2684-2686, 2005.
				3	Kotani Kazuhiko, et al. Japanese guidelines-based management of lipid levels in a hypercholesterolemia education class. Arch Med

					Res, 37, 1, 175-177, 2006.
34	湯淺 勲	助教授	社会医学	1	[論文] I. Yuasa, K. Umetsu, : Molecular aspects of biochemical markers. Legal Medicine 7(4) 251-254, 2005. .
				2	I. Yuasa, K. Umetsu, G. Watanabe, H. Nakamura, M. Endoh, Y. Irizawa: MATP polymorphisms in Germans and Japanese: the L374F mutation as a population marker for Caucasoids. International Journal of Legal Medicine 118(6) 364-366, 2004.
				3	M. Nakagawa, I. Yuasa, Y. Irizawa, K. Umetsu: The human complement component C1r gene: the exon-intron structure and the molecular basis of allelic diversity. Annals of Human Genetics 67(3) 207-215, 2003.
35	孝田 雅彦	助教授	内科系臨床医学	1	[論文] Koda M, Matsunaga Y, Ueki M, Maeda Y, Mimura K, Okamoto K, Hosho K, Murawaki Y. Qualitative assessment of tumor vascularity in hepatocellular carcinoma by contrast-enhanced coded ultrasound: comparison with arterial phase of dynamic CT and conventional color/power Doppler ultrasound. Eur Radiol. 14:1100-1108, 2004.
				2	Koda M, Ueki M, Maeda Y, Mimura KI, Okamoto K, Matsunaga Y, Kawakami M, Hosho K, Murawaki Y. The influence on liver parenchymal function and complications of radiofrequency ablation or the combination with transcatheter arterial embolization for hepatocellular carcinoma. Hepatol Res. 29:18-23, 2004.
				3	Koda M, Ueki M, Maeda Y, Mimura K, Okamoto K, Matsunaga Y, Kawakami M, Hosho K, Murawaki Y. Percutaneous sonographically guided radiofrequency ablation with artificial pleural effusion for hepatocellular carcinoma located under the diaphragm. AJR Am J Roentgenol. 183:583-588, 2004.
36	前田 直人	講師	内科系臨床医学	1	[論文] Diaphragmatic perforation and hernia after hepatic radiofrequency ablation :Kouda M, et al, Am J Roentgenol, 180, 0, 1561-1562, 2003
				2	ポルフィリン症の相談窓口開設1年3ヵ月の経験 :堀江裕, 薬理と臨床, 31, 0, 73-75, 2003
				3	肝障害を合併した骨髄性プロトポルフィリン症におけるフェロケラターゼ遺伝子の解析 : 前田直人、三浦将彦、村脇義和, 薬理と臨床, 31, 0, 67-71, 2003
37	村脇 義和	教授	内科系臨床医学	1	[論文] Fhit expression in human gastric adenomas and intramucosal carcinomas: correlation with Mlh1 expression and gastric phenotype : Kawaguchi K, Yashima K, Koda M, Tsutsumi A, Kitaoka S, Andachi H, Hosoda A, Kishimoto Y, Shiota G, Ito H, Murawaki Y, Br J Cancer, 90, 0, 672-677, 2004
				2	The influence on liver parenchymal function and complications of radiofrequency ablation of the combination with transcatheter arterial embolization for hepatocellular carcinoma : Koda M, Ueki M, Maeda Y, Mimura K, Okamoto K, Matsunaga Y, Kawakami M, Hosho K, Murawaki Y, Hepatol Res, 29, 0, 18-23, 2004
				3	The proMMP-2 activation rate in patients with chronic viral liver disease : Murawaki Y, Ikuta Y, Koda M, Okamoto K, Mimura K, Clin Chim Acta, 324, 0, 99-103, 2002
38	岡田 晋一	助手	内科系臨床医学	1	[論文] Kawamura K, Okada S, Li B, Suwa M, Yao J, Morioka T, Gejyo F, Oite T:

					Turbulence of glomerular hemodynamics involved in progressive glomerulosclerosis. Kidney Int 69:1792-1798, 2006
				2	Mahmood J, Khan F, Okada S, Kumagai N, Morioka T, Oite T: Local delivery of angiotensin receptor blocker into the kidney ameliorates progression of experimental glomerulonephritis. Kidney Int 70:1591-1598, 2006
				3	Kohda T, Okada S, Hayashi A, Kanzaki S, Ninomiya Y, Taki M, Sado Y: High nephritogenicity of monoclonal antibodies belonging to IgG2a and IgG2b subclasses in rat anti-GBM nephritis. Kidney Int 66:177-186, 2004
39	谷口 晋一	講師	内科系臨床医学	1	[論文][共著] Okamura T, Taniguchi S, Ohkura T, Yoshida A, Shimizu H, Sakai M, Meta H, Fukui H, Ueta Y, Hisatome I, Shigemasa C. Abnormally high expression of proteasome activator-gamma in thyroid neoplasm. J Clin Endocrinol Metab 88(3):1374-1383, 2003
				2	Ohkura T, Taniguchi S, Yamada K, Nishio N, Okamura T, Yoshida A, Kamiyo K, Fukada S, Kuma K, Inoue Y, Hisatome I, Senju S, Nishimura Y, Shigemasa C. Detection of the novel autoantibody(anti-UACA antibody) in patients with Graves' disease. Biochem Biophys Res Commun 321:432-440, 2004
				3	[単著] Taniguchi S. Recent progress in thyroid cancer New perspective in cancer research and therapy 401-420, 2005
40	千酌 浩樹	講師	内科系臨床医学	1	[論文] Measurement of Pseudomonas aeruginosa multidrug efflux pumps by quantitative real-time polymerase chain reaction. :Yoneda K, Chikumi H, Murata T, Gotoh N, Yamamoto H, Fujiwara H, Nishino T, Shimizu E. (corresponding author) FEMS Microbiol Lett., 243, 1, 125-131, 2005
				2	Homo- and hetero-oligomerization of PDZ-RhoGEF, LARG and p115RhoGEF by their C-terminal region regulates their in vivo Rho GEF activity and transforming potential. :Chikumi H, Barac A, Behbahani B, Gao Y, Teramoto H, Zheng Y, Gutkind JS., Oncogene, 23, 1, 233-240, 2004
				3	Potent activation of RhoA by Galpha q and Gq-coupled receptors. : Chikumi H, Vazquez-Prado J, Servitja JM, Miyazaki H, Gutkind JS. , J Biol Chem, 277, 30, 27130-27134, 2002
41	鯛岡 直人	助教授	内科系臨床医学	1	[論文] Dexamethasone influences human clock gene expression in bronchial epithelium and peripheral blood mononuclear cells in vitro : Burioka N, Takata M, Okano Y, Ohdo S, Fukuoka Y, Miyata M, Takane H, Endo M, Suyama H, Shimizu E, Chronobiol Int, 22, 3, 585-590, 2005
				2	Approximate entropy of human respiratory movement during eye-closed waking and different sleep stages :Burioka N, Cornéilissen G, Halberg F, Kaplan DT, Suyama H, Sako T, Shimizu E, Chest, 123, 1, 80-86, 2003
				3	[共著] 鯛岡直人, 分担翻訳 (Dornan T and O'neill P. Core Clinical Skills for OSCEs in Medicine, Churchill Livingstone, 1-330, 2000). 事例で学ぶOSCE 基本的臨床技能試験のコアスキル. 第7章コミュニケーションスキル. (下条文武, 清水英治 監訳) 西村書店, 新潟, pp.265-324, 2004
42	小川 敏英	教授	内科系臨床医学	1	[論文] Pallidoreticular damage in acute carbon monoxide poisoning:

					diffusion-weighted MR imaging findings. Kinoshita T, Sugihara S, Matsusue E, Fujii S, Ametani M, Ogawa T Am J Neuroradiol AJNR 26(7):1845-1848, 2005
				2	White matter lesions in panencephalopathic type of Creutzfeldt-Jakob disease: MR imaging and pathologic correlations. Matsusue E., Kinoshita T, Sugihara S, Fujii S, Ogawa T, Ohama E Am J Neuroradiol AJNR 25(6): 910-918, 2004
				3	Transneuronal degeneration in patients with temporal lobe epilepsy:evaluation by MR imaging. Kodama F, Ogawa T, Sugihara S, Kamba M, Kohaya N, Kondo S, Kinoshita T Eur Radiol 13(9): 2180-2185, 2003
43	鈴木 孝夫	助手	基礎医学	1	[論文] Aerobic and anaerobic biotransformation of bile acids by Escherichia coli(II):No conversion of α -muricholic acid by 7 α -hydroxysteroid dehydrogenase of E.coli .: Y.Ogura, N.Yamaga, T. Suzuki, K.Kimura, Y.Kido, K.Yamada, K.Uchida, Bioscience and Microflora, 24, 2, 41-44, 2005
44	小倉 嘉夫	助手	基礎医学	1	[論文] Aerobic and Anaerobic Biotransformation of Bile Acids by Escheria coli (II): No Conversion of alpha-Muricholic acid by 7alpha-Hydroxysteroid Dehydrogenase of E. coli :Yoshio Ogura, Nobuo Yamaga, Takao Suzuki, Koji Kimura, Yasuhiro Kido, Kazuo Yamada and Kiyohisa Uchida, Bioscience Microflora, 24, 2, 41-44, 2005
				2	Aerobic and Anaerobic Biotransformation of Bile Acids by Escherichia ccoli (I) : Yoshio Ogura, Nobuo Yamaga, Yasuhiro Kido, Rie Katayama, Kazuo Yamada, Kiyohisa Uchida, Bioscience Microflora, 22, 4, 133-137, 2003
				3	[共著] プロバイオティクスとバイオジェニクス 科学的根拠と今後の開発展望: 小倉嘉夫, 内田清久, コレステロール・胆汁酸代謝の改善, 伊藤喜久治, 125-136, 2005, エヌ・ティー・エヌ, 東京都文京区湯島 2-16-16
45	松浦 達也	助教授	基礎医学	1	[論文] Oral Administration of Geranylgeranylacetone Improves Survival Rate in a Rat Endotoxin Shock Model: Administration Timing and HSP70 Induction. : Nakada J., Matsura T., Okazaki N., Nishida T., Togawa A., Minami Y., Inagaki Y., Ito H., Yamada K. and Ishibe Y., Shock , 24, 5, 482-487, 2005
				2	The presence of oxidized phosphatidylserine on Fas-mediated apoptotic cell surface. : Matsura T., Togawa A., Kai M., Nishida T., Nakada J., Ishibe Y., Kojo S., Yamamoto Y. and Yamada K., BBA - Molecular and Cell Biology of Lipids, 1736, 3, 181-188, 2005
				3	Endogenously generated hydrogen peroxide is required for execution of melphalan-induced apoptosis as well as oxidation and externalization of phosphatidylserine. : Matsura, T., Kai, M., Jiang, J., Babu, H., Kini, V., Kusumoto, C., Yamada, K. and Kagan, V.E., Chem. Res. Toxicol. , 17, 51, 685-696, 2004
46	佐藤 慶祐	教授	基礎医学	1	[論文]1.Real time monitoring of nitric oxide and blood flow during ischemia-reperfusion in the rat testis Mol. Cell. Biochem: 286:138-145, 2006
				2	2.N-hexacosanol ameliorates streptozotocin-induced diabetic rat nephropathy Eurr. J. Pharmacol.:544: 132-137, 2006

				3	3.General administration of cyclohexanotic long-chain fatty alcohol ameliorates hyperreactivity of STZ-induced diabetic rat aorta Life Sciences. :78:1508-1514, 2006
47	木下 ゆか子	助手	基礎医学	1	[論文] Effectiveness of loxoprofen on patients with nocturia. Saito, M., Kawatani, M., Kinoshita, Y., Satoh, K. and Miyagawa, I. Int. J. Urol. 12: 779-782, 2005
				2	Effects of cyclohexenonic long-chain fatty alcohol on diabetic rat trachea. Satoh, I., Saito, M., Kinoshita, Y., Shomori, K., Suzuki, H., Yamada, M., Kono, T. and Satoh, K. Life Sci. 77: 2030-2039, 2005
				3	3. Saito, M., Tominaga, L., Nanba, E., Kinoshita, Y., Hour, D., Miyagawa, I. and Satoh, K. : Expression of HSP 70 and their mRNAs during ischemia-reperfusion in the rat bladder. Life Sci. 75: 1879-1886, 2004
48	齊藤 源頭	講師	外科系臨床医学	1	[論文] Saito, M., Kinoshita, Y., Satoh, I., Shomori, K., Shinbori, C., Kono, T., Hanada, T., Uemasu, J., Suzuki, H., Yamada, M. and Satoh, K. : N-hexacosanol ameliorates streptozotocin induced diabetic nephropathy. Eur. J. Pharmacol. 544: 132-137, 2006.
				2	Saito, M., Kawatani, M., Kinoshita, Y., Satoh, K. and Miyagawa, I. : Effectiveness of loxoprofen on patients with nocturia. Int. J. Urol. 12: 779-782, 2005.
				3	Saito, M., Suzuki, H., Yamada, M., Hikita, K., Kobayashi, N., Kinoshita, Y., Hour, D., Miyagawa, I. and Satoh, K. : Effect of cyclohexenonic long-chain fatty alcohol on rat overactive bladder induced by bladder neck obstruction. Eur. J. Pharmacol. 501: 143-149, 2004.
49	三浦 典正	助教授	分子生物学、病態検査学、消化器病学、内科学	1	[論文] Sensitive detection of human telomerase reverse transcriptase mRNA in the serum of patients with hepatocellular carcinoma. : Miura N, Oncology, 64, 4, 430-434, 2003
				2	Ichiba M, Shimomura T, Murai R, Hashiguchi K, Saeki T, Yoshida Y, Kanbe T, Tanabe N, Tsuchiya H, Miura N, et al. Dual effects of adenovirus-mediated thrombopoietin gene transfer on hepatic oval cell proliferation and platelet counts. Biochem Biophys Res Commun. 30; 335(3): 723-9. 2005.
				3	Miura N, et al. Serum human telomerase reverse transcriptase mRNA as a novel tumor marker during hepatocarcinogenesis. Clin Can Res, 1;11(9):3205-9, 2005. Nature Clinical Practice Hepatology and Gastroenterology, 2(8); 431, 2005, abstract.
50	長谷川 純一	教授	境界医学	1	[論文] Ischemia of rat stomach mobilizes ECL cell histamine: Kitano M, Bernsand M, Kishimoto Y, Norlen P, Hakanson R, Haenuki Y, Kudo M, Hasegawa J. Am J Physiol. 288: G1084-1090, 2005.
				2	Serum human telomerase reverse transcriptase messenger RNA as a novel tumor marker for hepatocellular carcinoma: Miura N, Maeda Y, Kanbe T, Yazama H, Takeda Y, Sato R, Tsukamoto T, Sato E, Marumoto A, Harada T, Sano A, Kishimoto Y, Hirooka Y, Murawaki Y, Hasegawa J, Shiota G. Clin Cancer Res. 11: 3205-3209, 2005
				3	Trapidil enhances the slowly activating delayed rectifier potassium current and suppresses the transient inward current induced by catecholamine in guinea pig ventricular myocytes: Marumoto A, Hasegawa J, Zhang F, Moritani H, Harada T, Sano A, Miura N, Kishimoto Y, Ohgi S. J Cardiovasc Pharmacol 46: 167-176, 2005

51	日野 茂男	教授	基礎医学	1	Kamahora, T., Hino, S., and Miyata, H. Three spliced mRNAs of TT virus transcribed from a plasmid containing the entire genome in COS1 cells. J. Virol. 74 9980-9986, 2000.
				2	Kamada, K., Kamahora, T., Kabat, P. and Hino, S. Transcriptional Regulation of TT Virus: Promoter and Enhancer Regions in the 1.2-kb Non-Coding Region. Virology 321, 341-348, 2004.
				3	Hino, S. Primary prevention of adult T cell leukemia (ATL) in Nagasaki, Japan by refraining from breast-feeding. Gann Monogr. 50, 241-251, 2003.
52	祝部 大輔	講師	基礎医学	1	[論文] 大山近郊の名水のミネラルバランスによる水質評価：祝部大輔, 吉岡伸一, 日本健康科学学会誌, 20, 3, 312-321, 2004
				2	服薬指導用語に対する中学生・医療学生の理解度：祝部大輔, 吉岡伸一, 医療薬学, 29, 4, 517-522, 2003
				3	薬物乱用に対する中・高校生およびその保護者の意識：祝部大輔, 思春期学, 20, 1, 179-187, 2002

研究活動実績票

別紙様式①-乙

【研究成果一覧】

大学名	鳥取大学	学部・研究科名	医学部・生命科学科

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	一坂 吏志	助手	神経科学	1	[論文] NT-4 protein is localized in neuronal cells in the brain stem as well as the dorsal root ganglion of embryonic and adult rats. : KatoH-Semba R, Ichisaka S, Hata Y, Tsumoto T, Eguchi K, Miyazaki N, Matsuda M, Takeuchi IK, Kato K. , JNeurochem. , 86, 3, 660-668, 2003
				2	Activity-Dependent Change in the Protein Level of Brain-Derived Neurotrophic Factor but No Change in Other Neurotrophins in the Visual Cortex of Young and Adult Ferrets. : Ichisaka, S., KatoH-Semba, R., Hata, Y., Ohshima, M., Kameyama, K., Tsumoto, T. , Neuroscience, 117, 0, 361-371, 2003
				3	Chronic Electrical Stimulation of Afferents From One Eye Changes Ocular Dominance of Visual Cortical Neurons in Kittens : M Ohshima, Y Hata, S Ichisaka, M Wakita, M Fukuda, K Kameyama And T Tsumoto. , J. Neurophysiol., 88, 0, 2147-2151, 2002
2	二宮 治明	助教授	基礎医学	1	[論文] NPC1/HE1 による細胞内コレステロール輸送 : 二宮 治明, 生化学, 76, 571-577, 2004
				2	Reduced sensitivity of Niemann-Pick C1-deficient cells to theta-toxin (perfringolysin O): sequestration of toxin to raft-enriched membrane vesicles. : Ohsaki Y., Sugimoto Y., Suzuki M., Kaidoh T., Shimada Y., Ohno-Iwashita Y., Davies J.P., Ioannou Y.A., Ohno K. and Ninomiya H. Histochem. Cell Biol., 121, 263-272, 2004
				3	Vascular endothelial cells that express dystroglycan are involved in angiogenesis. Hosokawa H., Ninomiya H., Kitamura Y., Fujiwara K. and Masaki T. (2002) J. Cell Sci. 115, 1487-1496, 2002
3	伊澤 正郎	助教授	外科系臨床医学	1	[論文] Interleukin-6 reduced estrogen production in a human granulosa tumor cells : Deura I, Harada T, Taniguchi F, Iwabe T, Izawa M, Terakawa N, Fertil Steril, 82, suppl 1, 1086-92, 2005
				2	Ability to induce apoptosis is markedly attenuated in endometriotic stromal cells : Izawa M, Harada T, Deura I, Iwabe T, Terakawa N, The endocrine society 87th annual meeting San Diego, 473, 2005
				3	Aromatase expression in endometrial and endometriotic stromal cells : Izawa M, Harada T, Deura I, Taniguchi F, Kishimoto H, Terakawa, N, Proceedings of 12th International Congress of Endocrinology Lisbon, 47-50, 2004
4	佐藤 幸夫	助手	基礎医学	1	[論文] Mechanism for induction of hydroxyurea resistance and loss of latent EBV genome in hydroxyurea-treated Burkitt's lymphoma cell line Raji. : Ru Jiang, Jian-Ling Zhang, Yukio Satoh, Takeshi Sairenji, Journal of Medical Virology, 73, 3, 589-595, 2004

				2	Contrasting effects of hydroxyurea on cell growth and reduction in Epstein-Barr virus genomes in EBV-infected epithelial cell lines vs. Burkitt's lymphoma cell lines. :Ru Jiang, Mikiko Kanamori, Yukio Satoh, Makoto Fukuda, Kazufumi Ikuta, Masanao Murakami, Takeshi Sairenji, Journal of Medical Virology, 70, 2, 244-252, 2003
				3	Evidence of lytic infection of Epstein-Barr virus (EBV) in EBV-positive gastric carcinoma. :Yoshiko Hoshikawa, Yukio Satoh, Masanao Murakami, Michio Maeta, Nobuaki Kaibara, Hisao Ito, Takeshi Kurata, Takeshi Sairenji, Journal of Medical Virology, 66, 3, 351-359, 2002
5	吉留 賢	助手	生物科学	1	[論文] Mass-spectrometric Identification of Binding Proteins of Mr 25000 Protein, a Part of Vitellogenin B1, Detected in Particulate Fraction of Xenopus laevis Oocytes : Sugimoto I., Li X., Yoshitome S., Ito s, Hashimoto E., Protein J. , 23, 7, 467-473, 2004
				2	Purification and characterization of Mr 43,000 protein similar to Mr 25,000 protein, a substrate for protein Ser/Thr kinases, identified as a part of Xenopus laevis vitellogenin B1 :Xi J., Sugimoto I., Yoshitome S., Yasuda H., Ogura K., Mori N., Li Z., Ito S., Hashimoto E., J. Protein Chem., 22, 6, 571-583, 2003
				3	Mr 25 000 protein, a substrate for protein serine/threonine kinases, is identified as a part of Xenopus laevis vitellogenin B1 :Yoshitome S., Nakamura H., Nakajo N., Okamoto K., Sugimoto I., Kohara H., Kitayama K., Igarashi K., Ito S., Sagata N., Hashimoto E., Dev. Growth Differ., 45, 3, 283-294, 2003
6	箸本 英吉	教授	生物分子科学	1	[論文] Modulation of protein phosphorylation by Mr 25,000 protein partially overlapping phosvitin and lipovitellin 2 in Xenopus laevis vitellogenin B1 protein : Sugimoto I. and Hashimoto E., The Protein Journal, 25, 2, 109-115, 2006
				2	The distinct stage-specific effects of 2-(p-aminocinnamoyl) amino-4-chlorobenzoic acid on the activation of MAP kinase and Cdc2 kinase in Xenopus oocyte maturation : Islam A., Sakamoto Y., Kosaka K., Yoshitome S., Sugimoto I., Yamada K., Shibuya E., Vande Woude G.F. and Hashimoto E, Cellular Signalling 17, 507-523, 2005
				3	Mr 25000 protein, a substrate for protein serine/threonine kinases, is identified as a part of Xenopus laevis vitellogenin B1 :Yoshitome S, Nakamura H, Nakajo N, Okamoto K, Sugimoto S, Nakamura H, Nakajo N, Okamoto K, Sugimoto I, Kohara H, Kitayama K, Igarashi K, Ito S, Sagata N, Hashimoto E, Develop Growth Differ, 45, 3, 283-294, 2003
7	井上 敏昭	助教授	応用ゲノム	1	[論文] Suda, T., Katoh, M., Hiratsuka, M., Takiguchi, M., Kazuki, Y., Inoue, T., and Oshimura, M. (2006) Heat-regulated production and secretion of insulin from a human artificial chromosome vector. <i>Biochem. Biophys. Res. Commun.</i> 340, 1053-1061.
				2	Yamada, H., Kunisato, A., Kawahara, M., Tahimic, CGT., Ren, X., Ueda, H., Nagamune, T., Katoh, M., Inoue, T., Nishikawa, M., Oshimura, M. (2006) Exogenous gene expression and growth regulation of hematopoietic cells via a novel human artificial chromosome. <i>J. Hum. Genet.</i> 51, 147-150.
				3	Ren, X., Tahimic C.G.T, Katoh, M., Kurimasa, A., Inoue, T., and Oshimura, M. (2006) Human artificial chromosome vectors meet stem cells: New prospects for gene delivery. <i>Stem Cell Rev</i> , 2, 43-50.

8	加藤 基伸	助手	ゲノム科学	1	[論文] Katoh M et al. Construction of a novel human artificial chromosome vector for gene delivery. Biochem Biophys Res Commun; 321(2): 280-90, 2004.
				2	[共著] 加藤基伸、押村光雄 「ヒト21番染色体を用いたトッパダウ方式によるヒト人工染色体ベクターの構築」細胞工芸;23(2): 188-192, 2004
				3	[特許出願] 「ヒト染色体 (HAC) ベクター」 (PCT/JP03/12374)
9	佐藤 建三	教授	基礎医学	1	[論文] CCAAT/ enhancer binding protein-b (C/EBP-b), a pivotal regulator of the TATA-less promoter in the rat catalase gene. :Taniguchi M, Hashimoto M, Hori N, and Sato K., FEBS-Letters, 579, 0, 5785-5790, 2005
				2	Molecular process in acute liver injury and regeneration induced by carbon tetrachloride. :Makoto Taniguchi, Toshiyuki Takeuchi, Ryusuke Nakatsuka, Tatsuo Watanabe, Kenzo Sato, Life Sciences, 75, 0, 1539-1549, 2004
				3	Effective Gene Transfer to Human Melanomas via Integrin-Targeted Adenoviral Vectors. :Nakamura, T., Sato, K., and Hamada, H., Hum. Gene Ther., 13, 5, 613-626, 2002
10	吉野 三也	助教授	基礎医学	1	[論文] Yoshino, M., Yamazaki, H., Shultz, L.D., Hayashi, S.I.: Constant rate of steady-state self-antigen trafficking from skin to regional lymph nodes. <i>Int. Immunol.</i> , 18:1541-1548, 2006.
				2	Yoshino, M., Yamazaki, H., and Hayashi, S.I.: Migration of dendritic cells determines divergent immune responses. <i>Recent Res. Devel. Biophys. Biochem.</i> , 4:29-48, 2004
				3	Yoshino, M., Yamazaki, H., Nakano, H., Kakiuchi, T., Ryoke, K., Kunisada, T., and Hayashi, S.I.: Distinct antigen-traffic from skin in the steady and active state. <i>Int. Immunol.</i> , 15:773-779, 2003.
11	祝部 大輔	講師	基礎医学	1	[論文] 大山近郊の名水のミネラルバランスによる水質評価: 祝部大輔, 吉岡伸一, 日本健康科学学会誌, 20, 3, 312-321, 2004
				2	服薬指導用語に対する中学生・医療学生の理解度: 祝部大輔, 吉岡伸一, 医療薬学, 29, 4, 517-522, 2003
				3	薬物乱用に対する中・高校生およびその保護者の意識: 祝部大輔, 思春期学, 20, 1, 179-187, 2002
12	林 眞一	教授	基礎医学	1	[論文] Enforced expression of PU.1 rescues osteoclastogenesis from embryonic stem cells lacking Tal-1: Tsuneto, M., Tominaga, A., Yamazaki, H., Yoshino, M., Orkin, S.H., and Hayashi, S.I., Stem Cells, 23, 0, 134-143, 2005
				2	Distinct osteoclast precursors in the bone marrow and extramedullary organs characterized by responsiveness to Toll-like receptor ligands and TNF-alpha: Hayashi, S.I., Yamada, T., Tsuneto, M., Yamane, T., Takahashi, M., Shultz, L.D., and Yamazaki, H., J. Immunol, 171, 0, 5130-5139, 2003
				3	[共著] Handbook of Stem Cells, Vol. 1, Embryonic Stem Cells: Yamane, T., Okuyama, H., Tsuneto, M., Hemmi, H., Yamazaki, H., and Hayashi, S.I., Osteoclast Lineage (Chapter 27), R.P. Lanza, J.D. Gearhart, B.L.M. Hogan, R.D. McKay, D.A. Melton, R. Pedersen, J.A. Thomson, and M.D. West, 295-303, 2004, Academic Press, San Diego, CA.
13	堀 直裕	助教授	生物科学	1	[論文] A Dyad Oct-binding Sequence Functions as a Maintenance Sequence for the Unmethylated State within the H19/Igf2-imprinted Control

					Region. : Naohiro Hori, Hiroshi Nakano, Toshiyuki Takeuchi, Hiroyuki Kato, Sayuri Hamaguchi, Mitsuo Oshimura, and Kenzo Sato , Journal of Biological Chemistry, 277, 31, 27960-27967, 2002
				2	Identification of differentially expressed genes in rat hepaoma cell lines using subtraction and microarray. : Fumihiko Tanaka, Naohiro Hori and Kenzo Sato, Journal of Biochemistry , 131, 0, 39-44, 2002
				3	CCAAT/enhancer binding protein-beta (C/EBP-beta), a pivotal regulator of the TATA-less promoter in the rat catalase gene. : Taniguchi M, Hashimoto M, Hori N, Sato K. FEBS Lett. 579, 5785-5790, 2005
14	平塚 正治	助手	ゲノム科学	1	[論文] Proteomic identification of differentially-expressed genes in human gastric carcinomas. : Nishigaki R, Osaki M, Hiratsuka M, Toda M, Murakami K, Jeang KT, Ito H, Inoue T, Oshimura M, Proteomics, 12, 3205-3213, 2005
				2	Human artificial chromosome (HAC) vector provides long-term therapeutic transgene expression in normal human primary fibroblasts. : Kakeda M, Hiratsuka M, Nagata K, Kuroiwa Y, Kakitani M, Katoh M, Oshimura M, Tomizuka K, Gene Ther, 12, 852-856, 2005
				3	Proteomics-based identification of differentially expressed genes in human gliomas: down-regulation of SIRT2 gene. : Hiratsuka M, Inoue T, Toda T, Kimura N, Shirayoshi Y, Kamitani H, Watanabe T, Ohama E, Tahimic CG, Kurimasa A, Oshimura M, Biochem Biophys Res Commun, 309, 3, 558-566, 2003

研究活動実績票

別紙様式①ー乙

【研究成果一覧】

大学名		鳥取大学	学部・研究科名		医学部・保健学科
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	安藤 泰至	助教授	哲学	1	[論文] 「病いの知」の可能性ープロフェッショナリズムを超えてー：安藤泰至， 医学哲学・医学倫理，23， 77-86，2005
				2	現代の医療とスピリチュアリティー生の全体性への志向と生の断片化への流れとのほざまでー：安藤泰至，現代宗教2003，73-89，2003
				3	[共著] 宗教の根源性と現代 第3巻：安藤泰至，精神分析と宗教のあいだ，長谷正當・細谷昌志，3-18，2002，晃洋書房，京都
2	伊藤 靖代	助手	看護学	1	[論文] 深田美香、松田明子、伊藤靖代、笠城典子、南前恵子、内田宏美：臨床実習における基礎看護技術教育プログラムの検討、米子医学雑誌、56 巻4号、141-149、2005
				2	伊藤靖代、深田美香、松田明子、笠城典子、南前恵子、内田宏美：臨床実践能力育成のための看護技術教育プログラムの評価ー演習記録の分析をとおしてー、米子医学雑誌、56 巻4号、158-163、2005
				3	伊藤靖代、泉キヨ子、平松知子、正源寺美穂：転倒による大腿骨頸部骨折患者の転倒体験と回復過程に沿った生活の再構築の捉え方、老年看護学、10 巻2号、70-76、2006
3	笠城 典子	助手	看護学	1	[論文] 褥瘡肉芽組織でのⅠ型およびⅢ型コラーゲン形成における免疫組織化学的検索：笠城典子、深田美香、前田迪郎、日本褥瘡学会誌、6、4、599-606、2004
				2	無作為割付による石鹸清拭直前の熱布加温が皮膚表面 pH および角質水分量に及ぼす影響に関する研究：松田明子、笠城典子、深田美香、宮脇美保子、石倉弥生、南前恵子、内田宏美、米子医学雑誌、55、6、280-288、2004
				3	臨床実践能力育成のための看護技術教育プログラムの評価：演習記録の分析をとおして：伊藤靖代、深田美香、松田明子、笠城典子、南前恵子、内田宏美、米子医学雑誌、56、4、158-163、2005
4	松田 明子	助手	医歯薬学	1	[論文]訪問看護師によるリハビリテーション利用者と理学療法士による利用者との身体的状態の比較、松田明子、九里美和子、日本公衆衛生雑誌、52 (2) 186-194、2005.
				2	摂食・嚥下障害者の症状の改善をめざした主介護者に対する教育介入効果：松田明子、日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌、7、2、126-133、2003
				3	在宅における要介護者の摂食・嚥下障害の有無と身体機能、主介護者の介護負担感および介護時間との関連：松田明子、日本看護科学学会誌、23、3、37-47、2003
5	深田 美香	助教授	看護学	1	[論文] Systemic administration of lipopolysaccharide upregulates angiotensin II expression in rat renal tubules: immunohistochemical and ELISA studies (LPS を全身に投与するとラット腎尿細管のアンギオテンシンⅡの発現が増加する：免疫組織化学およびELISAによる検討) :Peptides 26 (11) 2215~2221, 2005. 11
				2	ケアすることはケアされることー時間を共有し語りを聴くことー：頼田奈津子、深田美香、Quality Nursing, 9, 12, 19-24, 2003

				3	石鹼清拭の効果的な方法に関する検討ー石鹼の泡立てによる石鹼成分の除去効果についてー：深田美香，宮脇美保子，高橋弥生，松田明子，南前恵子，内田宏美，日本看護研究学会雑誌，26，5，169-178，2003
6	前田 迪郎	教授	外科系臨床医学	1	[論文] Immunohistochemical detection of occult serosal micro-invasion in primary lesions of gastric cancer with subserosal invasion. :Maeta M, Wei ZQ, Yonago Acta medica, 46, 645-650, 2003
				2	Respiratory function after esophagectomy for patients with esophageal cancer. : Ikeguchi M, Maeta M, Kaibara N, Hepatp-Gastroenterology, 49, 0, 1284-1286, 2002
				3	[単著] 消化器癌ナビゲーター：前田迪郎、貝原信明，第5章（薬物療法），滝川一，286-289，2002，メディカルビュー社，東京
7	南前 恵子	講師	看護学	1	[論文] 家族周期と研究対象の視点から見た日本の家族看護学研究の動向：嶋田幸子，小川恵，南前恵子，日本医学看護学教育学会誌 14：32-35，2005.
				2	臨床実習における基礎看護技術教育プログラムの検討：深田美香，松田明子，伊藤靖代，笠城典子，南前恵子，内田宏美，米子医学雑誌，56（4）：141-149，2005.
				3	臨床実践能力育成のための看護技術教育プログラムの評価ー演習記録の分析をととしてー：伊藤靖代，深田美香，松田明子，笠城典子，南前恵子，内田宏美，米子医学雑誌，56（4）：280-288，2005.
8	山下 典子	助教授	看護学	1	[論文] 「性」の問題を持つ患者に対する看護学生の反応と「性」に関する知識
				2	EnteroTachogram 分析による健常者の腸音変化に関する研究
				3	思考訓練法を応用した成人看護学実習の取り組み
9	森本 美智子	助教授	看護学	1	[論文] Morimoto M., Takai K., Nakajima K., Kagawa K (2003): Development of the Chronic Obstructive Pulmonary Disease Activity Rating Scale: Reliability, validity and factorial structure. Nursing & Health Science, 5(1):23-30.
				2	森本美智子，高井研一（2004）：慢性閉塞性肺疾患患者の機能障害と活動能力の関係。日本看護科学学会誌，24（1）13-30.
				3	森本美智子，中嶋和夫，高井研一（2005）：病気や生活に関する不安認知が入院患者の精神的健康に及ぼす影響。日本看護研究学会雑誌，28（2）：51-58.
10	池田 匡	教授	内科系臨床医学	1	[論文] 高トリグリセライド血症を合併した2型糖尿病におけるフェノフィブラートの使用経験：池田 匡 徳盛 豊 田中 寧 本田 守 藤山勝巳 村尾充子 村上 功 富長将人 越智 寛 星野多津枝 檜崎晃史 手島佐知子 山本 玲 山藤由佳 宮本美香，Progress, 22, 4, 171-173, 2002
				2	Inhibitory effect of ibudilaston urinary albumin excretion in type 2 diabetes mellitus with microalb : Ikeda T, Hoshio T, Nephron, 90, 0, 154-157, 2002
				3	Clinical significance of alendronate in postmenopausal type 2 diabetes mellitus: Ikeda T, Manabe H, Iwata K, Diabetes Metab, 30, 355-358, 2004
11	平松 喜美子	教授	看護学	1	[論文] Stress tolerance in patients with myocardial infarction 平松喜美子 長澤順子 平井由佳 井山寿美子 永見留美子 倉鋪桂子 松尾ミヨ子 池田匡, 45, 2, 43-47, 2002
				2	介護者のストレス認知に影響を与える介護の規範意識：平松喜美子 長澤順子 寺田伊都子 松尾ミヨ子，米子医学雑誌，54，6，185-191，2003
				3	鳥取県内における医学生と看護学生の移植医療についての認識：平松喜美子 大谷昭子 松尾ミヨ子 井藤久雄，米子医学雑誌，54，5，137-144，2003

12	仁科 祐子	助手	看護学	1	[共著] 1) 介護者の自己効力感および介護負担感にかかわる関連要因の検討: 谷垣静子 宮林郁子 宮脇美保子 仁科祐子, 厚生指標, 51, 4, 8-13, 2004
				2	2) 仁科祐子, 谷垣静子: 訪問看護師の職業ストレスに関する研究 職位別のストレスの検討, 訪問看護と介護, 10(10), 840-849, 2005.
				3	3) 谷垣静子, 仁科祐子: 筋力低下の在宅療養者に対する訪問看護師が行うリハビリの検討, 看護実践の科学, 30(13), 98-101, 2005.
13	吉岡 伸一	教授	内科系臨床医学	1	[論文] Effects of Methotrexate Exposure in Utero on Development of Amygdaloid Kindling in Rats: Shin-ichi Yoshioka, Epilepsia, 46, Supplement2, 23-23, 2005
				2	身体症状(心身症様愁訴)を伴う不登校に対するシステム論的家族療法～虫退治を用いた構造的アプローチの有用性～: 東 豊, 吉岡伸一, 九州神経精神医学, 48, 2, 83-94, 2002
				3	[共著] 精神障害の予防をめぐる最近の進歩: 吉岡伸一, 永田耕司, 内田江里, 上野満雄, 全国の自治体職場におけるメンタルヘルス状況と対策の実態, 小椋 力, 204-205, 2002, 星和書店, 東京
14	原口 由紀子	助手	地域看護学	1	[論文] 地域高齢者における「閉じこもり」の頻度と指標間の一致度に関する研究: 原口由紀子, 尾崎米厚, 岸本拓治, 矢倉紀子, 岡本幹三, 嘉悦明彦, 日本衛生学雑誌, 61, 44-52, 2005
				2	母親の個人としての生き方志向と育児不安との関連: 原口由紀子, 松浦治代, 矢倉紀子, 佐々木くみ子, 笠置綱清, 小児保健研究, 64, 2, 265-271, 2005
				3	父親の子育て参加の実態とその関連要因: 矢倉紀子, 原口由紀子, 家族看護学研究, 7, 2, 145-151, 2001
15	松浦 治代	講師	看護学	1	[論文] 地域看護学実習に保健師のインタビューを取り入れる: 原口由紀子, 松浦治代, 矢倉紀子, 保健師ジャーナル, 60, 10, 988-992, 2004
				2	ケアすることと看護師の発達に関する研究: 深田美香, 石倉弥生, 松浦治代, 宮脇美保子, 看護展望, 30, 3, 98-104, 2005
				3	患者との関係性において看護師がもつしつくり感: 松浦治代, 吉持智恵, 宮脇美保子, Quality Nursing, 9, 12, 25-30, 2003
16	谷垣 静子	教授	看護学	1	[論文] 特別養護老人ホームにおける身体拘束と施設特性の関連についての分析: 岸田研作, 谷垣静子, 日本公衆衛生雑誌, 52, 8, 703-714, 2005
				2	地域高齢者のサクセスフル・エイジングに関する研究: 谷垣静子, 黒沢洋一, 細田武伸, 米子医学雑誌, 56, 5, 177-187, 2005
				3	Relationship Between the Quality of Life in Patients with Intractable Diseases and the Information Telecommunication Service: Shizuko Tanigaki, Ikuko Miyabayashi, Mihoko Miyawaki, Yonago Acta medica, 45, 3, 89-93, 2002
17	矢倉 紀子	教授	看護学	1	[論文] 1. 原口由紀子, 尾崎米厚, 岸本拓治, 矢倉紀子, 岡本幹三, 嘉悦明彦: 地域高齢者における「閉じこもり」の頻度と指標間の一致度に関する研究, 日本衛生学雑誌, 61 (1), 44-52, 2006.1
				2	2. 矢倉紀子, 谷垣静子: 難病患者の疾病受容過程に関する検討 -自己免疫疾患患者を主としたグループインタビュー法を用いて-, 日本難病看護学会誌, 7 (3), 172-178, 2003
				3	[共著] 1. 発達障害医学の進歩: 大野耕策, 矢倉紀子, 結節性硬化症の長期対応について, 有馬正高, 大野耕策, 5-12, 2003, 診断と治療社, 東京都千代田区永田町 2-14-2

18	花木 啓一	教授	内科系臨床 医学	1	[論文] 1)Kawashima Y, Kanzaki S, Yang F, Kinoshita T, Hanaki K, Nagaishi J, Ohtsuka Y, Hisatome I, Ninomoya H, Nanba E, Fukushima T, Takahashi S. Mutation at cleavage site of insulin-like growth factor receptor in a short-stature child born with intrauterine growth retardation. J Clin Endocrinol Metab. 2005 Aug;90(8):4679-87.
				2	2)Sugimoto S, Hanaki K, Kawashima Y, Kinoshita T, Nagaishi J, Hayashi A, Kanzaki S. Aplastic anemia during growth hormone (GH) treatment in a girl with idiopathic GH-deficiency. Endocr J 50(4), 469-71, 2003.
				3	3)Asayama K, Ozeki T, Sugihara S, Ito K, Okada T, Tamai H, Takai R, Hanaki K, Murata M. Criteria for medical intervention in obese children: A new definition of 'Obesity disease' in Japanese children. Pediatr Int 45(5): 642-646, 2003.
19	西村 正子	教授	看護学	1	[論文]Women' s live during pregnancy, child and post-childbirth Survey of Japanese descent living in the Northwestern United States
				2	[単著] 妊娠・分娩・産褥期—今と昔の生活 西日本法規出版 平成15年
				3	[共著] 母性症状別看護過程—ウエルネス看護診断 日総研 平成15年
20	鈴木 康江	講師	看護学	1	[論文] 思春期性教育活動に向けての基礎調査：中学生，保護者，教師の意識調査から：鈴木康江，母性衛生，45，4，512-517，2005
				2	婦人科悪性腫瘍術後患者が抱える生活上の問題と心身状態の関連性：鈴木康江，米子医学雑誌，54，3，97-103，2003
				3	極低出生体重児の養育上の問題と家族の支援に関する検討：鈴木康江，米子医学雑誌，54，6，179-184，2003
21	北川 かほる	助教授	看護学	1	[論文] 障害児者の家族交流会のセルフヘルプ機能に関する検討 —交流会の分析から—：北川かほる，岡崎美智子，日本赤十字看護学会誌，5，1，90-97，2005
				2	障害児の母親が家族の会に参加する過程とQOLの関連：北川かほる，日本看護福祉学会誌，9，2，43-52，2004
				3	絵本の読み聞かせに対する反応 —植物状態の児の事例から—：北川かほる，前田隆子，古賀美紀，日本看護福祉学会誌，8，2，21-26，2003
22	飯島 憲司	助教授	境界医学	1	[論文] 大型血小板を有し，ADP 二次凝集の欠如と正常の collagen 凝集を示す血小板凝集機能異常症例：飯島憲司，松本久幸，吉岡 明，原 文子，日本検査血液学会雑誌，5，2，207-212，2004
				2	血友病Aと考えられる2症例の検査診断—von Willebrand disease 2Nとの鑑別について—：吉岡 明，原 文子，石本 学，竹内 仁恵，飯島 憲司，日本検査血液学会雑誌，3，2，265-269，2002
				3	Patients with platelet dysfunction characterized by transient and reversible aggregation in response to ADP despite normal collagen-induced aggregation. Iijima K, et al, Am J Hematol, 80, 167-168, 2005
23	上田 悦子	助手	基礎医学	1	[論文] Genetic susceptibility in the neural tube defects induced by ochratoxin A in the genetic arhinencephaly mouse, Pdn/Pdn. Ohta K., Maekawa M., Katagiri R., Ueta E. and Naruse I. Congenital Anomalies, 46(3): 144-148, 2006.
				2	Integration of a transposon into the Gli3 in the genetic polydactyly/arhinencephaly mouse, (Pdn/Pdn). :Ueta E, Nanba E and Naruse I, Congenital Anomalies , 43, 3, 228-229, 2003

				3	The effect of cigarette smoke exposure and ascorbic Acid intake on gene expression of antioxidant enzymes and other related enzymes in the livers and lungs of shionogi rats with osteogenic disorders. : Ueta E., Tadokoro Y., Yamamoto T., Yamane C., Suzuki E., Nanba E., Otsuka Y. and Kurata T. , Toxicol Sci. , 73, 2, 339-347, 2003
24	藤原 伸一	助手	薬学	1	[論文] Molecular dynamics study of conformational changes in human serum albumin by binding of fatty acids : Fujiwara S, Amisaki T, Proceedings of the Australian Physiological Society, 36, 54P, 2005
				2	Two- and three-dimensional QSAR of carrier-mediated transport of beta-lactam antibiotics in Caco-2 cells : Wanchana S, Yamashita F, Hara H, Fujiwara S, Akamatsu M, Hashida M, Journal of Pharmaceutical Sciences, 93, 10, 3057-3065, 2004
				3	QSAR analysis of interstudy variable skin permeability based on the "latent membrane permeability" concept : Fujiwara S, Yamashita F, Hashida M, Journal of Pharmaceutical Sciences, 92, 10, 1939-1946, 2003
25	浦上 克哉	教授	内科系臨床医学	1	[論文] 1. Brain-derived neurotrophic factor gene polymorphisms and Alzheimer' s disease. J Neural Trans 9654: 1435-1463, 2004.
				2	2. Evaluation of computerized test system to screen for mild cognitive impairment Psychogeriatrics 5(2) : 36-41, 2005.
				3	3. Dynamin-binding protein gene on chromosome 10q is associated with late-onset Alzheimer' s disease . Human Molecular Genetics 15 (13): 2170-2182, 2006
26	河本 裕子	助教授	境界医学	1	[論文] 電磁気泳動法による糖尿病赤血球膜糖化度測定 : 野崎修、宗末真徳、河本裕子, 分析化学, 53, 2, 85-90, 2004
				2	Reactivation of inactivated horseradish peroxidase with ethyleneurea and allantoin for determination of hydrogen peroxide by microflow injection horseradish peroxidase catalyzed chemiluminescence. : Osamu Nozaki , Hiroko Kawamoto , Anal.Chim.Acta, 495, 233-238, 2003
				3	Reactivation of horseradish peroxidase with imidazole for continuous determination of hydrogen peroxide using a microflow injection-chemiluminescence detection system., Luminescence, 18, 203-206, 2003
27	成瀬 一郎	教授	内科系臨床医学	1	[論文] 1) Ueta E., Maekawa M., Morimoto I., Nanba E. and Naruse I. Sonic hedgehog expression in Gli3 depressed mouse embryo, Pdn/Pdn. Congenit. Anom. Kyoto, 44: No.1, 27-32, 2004.
				2	2) Naruse I., Ueta E., Maekawa, M. and Ohta K. Molecular analyses in the mouse homolog of Greig cephalopolysyndactyly syndrome (GCPs). Trend Dev Biol, 1: 83-87, 2005.
				3	3) Maekawa M., Ohta K., Katagiri R., Ueta E. and Naruse I. Exencephaly induction by valproic acid in the genetic polydactyly/rhinencephaly mouse, Pdn/Pdn. Congenit. Anom. Kyoto 45(4): 132-136, 2005.
28	網崎 孝志	教授	情報学	1	[論文] 分子動力学専用計算クラスタの開発とそれを利用した計算資源提供型グリッドの試み: 網崎 孝志, 藤原 伸一, 情報処理学会論文誌: コンピューティングシステム, 45, SIG6(ACS6), 244-253, 2004
				2	Development of hardware accelerator for molecular dynamics simulations: a computation board that calculates nonbonded

					interactions in cooperation with fast multipole method : T Amisaki, S Toyoda, H Miyagawa, K Kitamura, J Comput Chem, 24, 5, 582-592, 2003
				3	高速多重極法と専用計算機の併用による分子動力学計算高速化のための二つのアルゴリズム : 網崎孝志、豊田新次郎、宮川博夫、北村一泰, J Computer Chemistry, Japan, 1, 3, 73-82, 2002
29	吉田 春彦	教授	基礎医学	1	[論文] Immunohistochemical analysis of a muscle ankyrin-repeat protein, ARPP, in paraffin-embedded tumors: evaluation of ARPP as a tumor marker for rhabdomyosarcoma: Ishiguro N, Motoi T, Osaki N, Minamizaki T, Moriyama M, Ito H, Yoshida H. Human Pathology 36, 620-625, 2005
				2	Cyclooxygenase-2 in human malignant fibrous histiocytoma:Correlations with intratumoral microvessel density, expression of vascular endothelial growth factor and thymidine phosphorylase : Yamashita H, Osaki M, DWI T, Osaki M, Yoshida H, Ito H, Inter J Mol Med, 14, 565-570, 2004
				3	[共著] 運動機系「わかりやすい病理学」(改訂4版) p271-278、南江堂、東京、2005
30	山田 貞子	助教授	境界医学	1	[論文] Retinoic acid receptor α dominant negative form causes steatohepatitis and liver tumors in transgenic mice. : Yanagitani A, Yamada S, Yasui S, Shimomura T, Murai R, Murawaki Y, Hashiguchi K, Kanbe T, Saeki T, Ichiba M, Tanabe Y, Yoshida Y, Morino S, Kurimasa A, Usuda N, Yamazaki H, Kunisada T, Ito H, Murawaki Y, Shiota G. Hepatology, 40, 2, 366-375, 2004
				2	Expression of 8-hydroxy-2'-deoxyguanosine in chronic liver disease and hepatocellular carcinoma. : Ichiba M, Maeta Y, Mukoyama T, Saeki T, Yasui S, Kanbe N, Okano J, Tanabe Y, Yamada S, Kurimasa A, Murawaki Y, Shiota G, Liver International, 23, 0, 338-345, 2003
				3	Increase in serum 7S domain of type IV collagen and N-terminal propeptide of type III procollagen levels with normal serum transaminase levels after long-term oral administration of Tegaful-Uracil. : Suou T, Maruyama S, Nakamura H, Kishimoto Y, Abe J, Tanida O, Yamada S, Kawasaki H, Hepatol Res, 24, 2, 184-191, 2002
31	中本 幸子	助手	基礎医学	1	[論文] 見逃されやすいチミジン依存性Methicillin-resistant Staphylococcus aureus の性状: 谷本 綾子, 藤原 弘光, 田仲 祐子, 中本 幸子, 日本臨床微生物学雑誌, 15, 4, 179-186, 2005
				2	Candida albicans の鑑別のための新しい厚膜胞子形成培地(Canary 培地)の検討: 中本 幸子, 米子医学雑誌, 54, 6, 192-202, 2003
32	加藤 洋介	助手	境界医学	1	[論文] Growth hormone-releasing peptide can improve left ventricular dysfunction and attenuated dilation in dilated cardiomyopathic hamsters. ; Iwase M, Kanazawa H, Kato Y, Nishizawa T, Somura F, Ishiki R, Nagata K, Hashimoto K, Takagi K, Izawa H, Yokota M. ; Cardiovascular Research, 61(1): 30-38, 2004.
				2	Validity and application of noninvasive measurement of blood pressure in hamsters. ; Kato Y, Iwase M, Kanazawa H, Nishizawa T, Zhao YL, Takagi K, Nagata K, Noda A, Koike Y, Yokota M. ; Experimental Animals, 52(4): 359-363, 2003.

				3	Progressive development of pulmonary hypertension leading to right ventricular hypertrophy assessed by echocardiography in rats. ; Kato Y, Iwase M, Kanazawa H, Kawata N, Yoshimori Y, Hashimoto K, Yokoi T, Noda A, Takagi K, Koike Y, Nishizawa T, Nishimura M, Yokota M. ; Experimental Animals, 52(4): 285-294, 2003.
33	周防 武昭	教授	内科系臨床医学	1	1.Effect of posture on echographic examination for dialysate in patients treated with chronic ambulatory peritoneal dialysis as a model of ascites : Fukui A, Suou T, Munemura C, Kawasaki H, Hepatol Res, 24, 0, 69-73, 2002
				2	2. Increase in serum 7S domain of type IV collagen and N-terminal propeptide of type III procollagen levels with normal serum transaminase levels after long-term oral administration of Tegaful-Uracil (UFT) : Suou T, Maruyama S, Nakamura H, Kishimoto Y, Abe J, Tanida O, Yamada S, Kawasaki H, Hepatol Res, 24, 0, 94-101, 2002
				3	3. 今日の治療指針 2002 年版 : 周防武昭, 薬物性肝障害, 多賀須幸男、尾形悦郎, 345-345, 2002, 医学書院 東京
34	石黒 尚子	助手	基礎医学	1	[論文] Detection of reciprocal fusion 5' -BCL6/partner-3' transcripts in lymphomas exhibiting reciprocal BCL6 translocations. : Kaneita Y, Yoshida S, Ishiguro N, Sawada U, Horie T, Mori S, Moriyama M, British J. Haematology, 113, 803-806, 2001
				2	CARP, a putative genetic marker for cardiac hypertrophy, and its new homologue, ARPP, are differentially expressed in heart, skeletal muscle and rhabdomyosarcoma. : Ishiguro N, Baba T, Ishida T, Takeuchi K, Osaki M, Araki N, Okada E, Takahashi S, Saito M, Watanabe M, Nakada C, Tsukamoto Y, Sato K, Ito K, Fukayama M, Mori S, Ito H, Moriyama M. American Journal of pathology, 160, 1767-1778, 2002
				3	immunohistochemical analysis of a muscle ankyrin-repeat protein, Arpp, in paraffin-embedded tumors: evaluation of Arpp as a tumor marker for rhabdomyosarcoma.: Ishiguro N, Motoi T, Osaki M, Araki N, Minamizaki T, Moriyama M, Ito H, Yoshida H. Human Pathology, 36, 620-625, 2005
35	福田 千佐子	助教授	境界医学	1	[論文] Topographic MN-SSEPs (N18, N20 and N30) might characterize underlying CNS involvements in representativetypes of cerebral palsy. :Tomita Y, Fukuda C, Kato Y, Maegaki Y, Shiota S, Amisaki T, Brain&Development, 28, 653-659, 2006
				2	両麻痺における正中神経刺激 SSEP s の前頭部 N30 および頭頂部 N20 の特徴 : 福田千佐子、富田豊、前垣義弘、上野誠、汐田まどか、脳と発達, 36, 3, 258-260, 2004
				3	Frontal N30 of median nerve SSEPs in the evaluating pathogenesis of movement disorders with destructive basal ganglia deficits. : Fukuda C, Tomita Y, Maegaki Y, Kubota N, Neuropediatrics, 34, 0, 205-210, 2003

研究活動実績票

別紙様式①ー乙

【研究成果一覧】

大学名	鳥取大学	学部・研究科名	医学部・医学系研究科

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	久留 一郎	教授	内科系臨床 医学	1	[論文] 1) Kato M, Ogura K, Miake J, Sasaki N, Taniguchi S, Igawa O, Yoshida A, Hoshikawa Y, Murata M, Nanba E, Kurata Y, Kuwata Y, Ninomiya H, Morisaki T, Kitakaze M, Hisatome I. Evidence for proteasomal degradation of Kv1.5 channel protein. Biochem Biophys Res Commun. 2005 Nov 11;337(1):343-8
				2	2) Kurata Y, Hisatome I, Matsuda H, Shibamoto T. Dynamical mechanisms of pacemaker generation in IK1-downregulated human ventricular myocytes: insights from bifurcation analyses of a mathematical model. Biophys J. 2005 Oct;89(4):2865-87
				3	[特許出願] 特願2006-41105「ゲラニルゲラニルアセトンを有効成分として含むチャンネル病治療薬」
2	汐田 剛史	教授	内科系臨床 医学	1	[論文] Retinoic acid receptor • dominant negative form causes steatohepatitis and liver tumors in transgenic mice. Hepatology, 40: 366-375, 2004
				2	Analyses to clarify rich fractions in hepatic progenitor cells from human umbilical cord blood and cell fusion. Biochem. Biophys. Res. Commun., 324, 711-718, 2004
				3	Serum human telomerase reverse transcriptase messenger RNA as a novel tumor marker for hepatocellular carcinoma. Clin. Cancer Res., 11, 3205-3209, 2005
3	星川 淑子	助手	基礎医学	1	[論文] 1. The liver as a target organ of retinoids. Shiota G et al., Hepatology Research 36, 248-254, 2006.
				2	2. Evidence for proteasomal degradation of Kv1.5 channel protein. Kato M et al., Biochem Biophys Res Commun. Kato M et al., 337, 343-348, 2005.
				3	3. Evidence of lytic infection of Epstein-Barr virus (EBV) in EBV-positive gastric carcinoma Hoshikawa Y et al., J. Med. Virol. 66, 351-359, 2002.
4	白吉 安昭	助教授	生物科学	1	[論文] Construction of a novel human artificial chromosome vector for gene delivery. :Kato M, Ayabe F., Norikane S., Okada T., Masumoto H., Horike S., Shirayoshi Y., and Oshimura M., Biochem. Biophys. Res. Commun, 321, 0, 280-290, 2004
				2	Elevated apoptosis in pre-mature neurons differentiated from mouse ES cells containing a single human chromosome 21. :Kadota M, Shirayoshi Y and Oshimura M, Biochem. biophys. Res. Commun, 299, 0, 599-605, 2002
				3	An extra human chromosome 21 reduces mhc-2a expression in chimeric mice and Down syndrome. :Nishigaki R, Shinohara T, Toda T, Omori A, Ichinose S, Itoh M, Shirayoshi Y, Kurimasa A and

					Oshimura M, Biochem. Biophys. Res. Commun., 295, 0, 112-118, 2002
5	赤崎 孝文	助手	内科系臨床医学	1	[論文] Contrast-dependent, contextual response modulation in primary visual cortex and lateral geniculate nucleus of the cat : Osamu Sadakane, Hirofumi Ozeki, Tomoyuki Naito, Takafumi Akasaki, Takuji Kasamatsu and Hiromichi Sato, Eur J Neurosci. , 23, 6, 1633-1642, 2006
6	飯塚 舜介	助教授	生物科学	1	[論文] Some aspects of astroglial functions and aluminum implications for neurodegeneration. David A. Aremu, Shunsuke Meshitsuka, Brain Research Reviews 52, 193-200 (2006).
				2	Accumulation of aluminum by primary cultured astrocytes from aluminum amino acid complex and its apoptotic effect : David A. Aremu, Shunsuke Meshitsuka, Brain Research (2005) 1031, 284-296.
				3	Metals accelerate production of the aberrant splicing isoform of the Presenilin-2 : Shinsuke Matsuzaki, Takayuki Manabe, Taiichi Katayama, Atsuko Nishikawa, Takeshi Yanagita, Hiroaki Okuda, Yuichi Yasuda, Shingo Miyata, Shunsuke Meshitsuka and Masaya Tohyama, Journal of Neurochemistry, 88, 1345-1351, 2004
7	山本 康孝	助教授	内科系臨床医学	1	[論文] allopurinol reduces neointimal hyperplasia in the carotid artery ligation model in Spontaneously hypertensive rats. Hypertens Res 2006; 29:915-921.
				2	[単著]高尿酸血症と心血管障害、治療、vol.88, No11, 2769-2772
				3	[共著]ASOの診断と新しい治療法、Modern Physician, vol24(11)、1807
8	永田 克己	助手	生物科学	1	ANG II is involved in the LPS-induced production of proinflammatory cytokines in dehydrated rats : M. Miyoshi, K. Nagata, T. Imoto, O. Goto, A. Ishida and T. Watanabe, Am. J. Physiol. Regul. Integr. Comp. Physiol., 284, 0, 1092-1097, 2003
				2	Angiotensin-converting-enzyme inhibitor, lisinopril, reduces lipopolysaccharide-induced expression of splenic interleukin-6 mRNA in dehydrated rats : T. Watanabe, M. Miyoshi, K. Nagata and T. Imoto, Yonago Acta medica, 46, 2, 49-55, 2003
				3	Embryonic expression of Xenopus SGLT-1L, a novel member of the solute carrier family 5 (SLC5), is confined to tubules of the pronephric kidney : S. M. Eid, A. Terrettaz, K. Nagata and A. Brandli, Int. J. Dev. Biol., 46, 0, 177-184, 2002
9	久郷 裕之	助教授	生物科学	1	[論文] Generation of chromosome-specific monoclonal antibodies using in vitro differentiated trans-chromosomal (TC) mouse ES cells. : Yanagisawa A, Endo C, Okawa K, Shitara S, Kugoh H, Kakitani M, Oshimura M, Tomizuka K, Stem Cell, 23, 10, 1479-1488, 2005
				2	Microdeletion of LIT1 in Familial Beckwith-Wiedemann Syndrome. : Niemitz EL, DeBaun MR, Fallon J, Murakami K, Kugoh H, Oshimura M, Feinberg AP. , Am J Hum Genet. , 75, 5, 844-849, 2004
				3	Human chromosome 5 carries a putative telomerase repressor gene. : Kugoh H, Shigenami K, Funaki K, Barrett JC, Oshimura M. , Genes Chromosomes Cancer , 36, 1, 37-47, 2003
10	尾崎 充彦	助手	基礎医学	1	[論文] Expression of RUNX3 protein in human gastric mucosa, intestinal metaplasia and carcinoma : Osaki M, et al, Eur J Clin Invest , 34, 9, 605-612, 2004

				2	Inhibition of the PI3K-Akt signaling pathway enhances the sensitivity of Fas-mediated apoptosis in human gastric carcinoma cell line, MKN-45 : Osaki M, et al., J Cancer Res Clin Oncol, 130, 1, 8-14, 2004
				3	[共著] Proteomic identification of differentially-expressed genes in human gastric carcinomas : Nishigaki R et al., Proteomics, 5, 12, 3205-3213, 2005

研究活動実績票

別紙様式①ー乙

【研究成果一覧】

大学名	鳥取大学	学部・研究科名	医学部附属病院

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	萩野 浩	助教授	外科系臨床医学	1	[論文] Increasing incidence of hip fracture in Tottori Prefecture, Japan: Trend from 1986 to 2001 : Hagino H, Katagiri H, Okano T, Yamamoto K, Teshima R Osteoporos Int , 16, 12, 1963-1968, 2005
				2	Effect of a selective agonist for prostaglandin E receptor subtype EP4 (ONO-4819) on the cortical bone response to mechanical loading : Hagino H, Kuraoka M, Kameyama Y, Okano T, Teshima R, Bone, 36, 3, 444-453, 2005
				3	Case-control Study of Risk Factors for Fractures of the Distal Radius and Proximal Humerus among the Japanese Population : Hagino H, Fujiwara S, Nakashima E, Nanjo Y, Teshima R, Osteoporos Int, 15, 3, 226-230, 2004
2	石倉 涼子	助手	外科系臨床医学	1	[論文]術後篩骨洞嚢胞による眼球運動障害と診断されていた両眼性眼窩筋炎の1例. 眼紀, 55:880-884, 2004. 多彩な病理所見を呈した角膜アミロイドーシスの1例. 眼紀, 56:15-18, 2005. 外傷を契機として片眼耳側半盲を呈した心因性視覚障害の1例. 臨眼, 99:590-592, 2005.
				2	[共著]眼鏡処方. 眼科ベーシックポイント, p. 252-259, メジカルビュー社, 東京, 2004.
3	赤塚 啓一	助手	外科系臨床医学	1	[論文] 腰部脊椎管狭窄症に対する開窓術の工夫 (脊椎・脊髄神経手術手技Vol.4 No.1, 2002)
				2	[共著] アメリカ脳神経外科学会・アメリカ脳神経外科コンgres編 頰椎・頰髄損傷に対する急性期治療のガイドライン (歯突起形成不全)、2004
4	板持 広明	助手	外科系臨床医学	1	[論文] Reduction of radiation-induced apoptosis by specific expression of Bcl-2 in normal cells. Itamochi H, Yamasaki F, Sudo T, Takahashi T, Bartholomeusz C, Das S, Terakawa N, and Ueno N.T. Cancer Gene Ther. 13:451-459, 2006.
				2	Antitumor effect of EIA in ovarian cancer by cytoplasmic sequestration of activated ERK by PEA15. Bartholomeusz C., Itamochi H., Nitta M., Saya H., Ginsberg MH, Ueno NT. Oncogene. 25:79-90, 2006.
				3	Bcl-2 Antisense Oligonucleotide Overcomes Resistance to EIA Gene Therapy in a Low HER2-Expressing Ovarian Cancer Xenograft Model. Bartholomeusz C., Itamochi H., Yuan LX, Esteva FJ, Wood CG, Terakawa N, Hung MC, and Ueno NT. Cancer Res. 65:8406-8413, 2005.
5	片岡 英幸	講師	外科系臨床医学	1	[論文] Total video endoscopic thyroidectomy via the anterior chest approach using the cervical region-lifting method : Kataoka H, Kitano H, Takeuchi E, Fujimura M. Biomed Pharmacother. 2002;56 Suppl 1:68s-71s.
				2	[単著]音声ピッチ抽出器について 片岡英幸 : 第39号 132-133 耳鼻咽喉科診療 Q&A 六法出版
				3	[共著]内視鏡下甲状腺手術の実践 片岡英幸, 北野博也 : イラスト手術手技のコツ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 東京医学社

6	林 篤	講師	内科系臨床医学	1	[論文] Incidence of pediatric IgA nephropathy. Pediatr Nephrol 18:511-515, 2003.
				2	Aplastic anemia during growth hormone (GH) treatment in a girl with idiopathic GH-deficiency. Endocrine Journal 50:469-471, 2003.
				3	High nephritogenicity of monoclonal antibodies belonging to IgG2a and IgG2b subclasses in rat anti-GBM nephritis. Kidney Int 66 :1 177-186, 2004
7	飯塚 俊之	講師	内科系臨床医学	1	[論文] 飯塚俊之、長田郁夫、神崎晋. 母子感染による乳児B型肝炎の臨床、日本臨床 62 : 274-279、2004
				2	飯塚俊之、村上 潤、岡本 学、神崎 晋. 非症候性肝内胆管減少症の予後はなぜ悪いのか?、小児内科 36 (8) : 1278-1279、2004
				3	飯塚俊之、長田郁夫. B型肝炎、小児内科 34 (増刊) : 517-23、2002
8	永島 英樹	講師	外科系臨床医学	1	[論文] Clinical features and surgical outcomes of cervical myelopathy in the elderly: Nagashima H, Morio Y, Yamashita H, Yamane K, Teshima R, Clinical Orthopaedics & Related Research, 444, 140-145, 2006
				2	骨・関節感染症の最近の動向: 特集:骨・関節感染症の診断と治療: 永島英樹, 豊島良太, リウマチ科 33, 6, 575-579, 2005
				3	Spontaneous Fusion of Isthmic Spondylolisthesis After Discitis: A Case Report : Nagashima H, Morio Y, Nishi T, Hagino H, Teshima R, Clinical Orthopaedics and Related Research , 403, 0, 104-107, 2002
9	前田 和久	講師	内科系臨床医学	1	[論文] Association study of the DISC1/TRAX locus with schizophrenia in a Japanese population.
				2	Case of pseudo-pseudohypoparathyroidism associated with juvenile dementia.
				3	[共著]脳神経疾患; 病態の分子生物学、南山堂 2 0 0 5
10	廣岡 保明	講師	外科系臨床医学	1	[論文] 胃癌の術中腹腔洗浄細胞診陽性例における癌細胞数の検討: 広岡保明、大西弘美、大上佳三、上田毅、鈴木一則、山根祥晃、貝原信明、塩田撰成、西江浩、大谷眞二、日本臨床細胞学会雑誌, 42, 6, 440-443, 2003
				2	Ikeguchi M, Iwamoto A, Taniguchi K, Katano K, Hirooka Y. : The gene expression level of transforming growth factor-beta (TGF-beta) as a biological prognostic marker of hepatocellular carcinoma. J Exp Clin Cancer Res. 24(3):415-421, 2005
				3	[共著] 体腔液細胞診アトラス: 広岡保明, 消化器癌における腹腔洗浄細胞診, 海老原善郎, 亀井敏昭, 144-152, 2002, 篠原出版新社, 東京
11	濱田 紀宏	助手	内科系臨床医学	1	[論文] Hamada T, Hisatome I, Kinugasa Y, Matsubara K, Shimizu H, Tanaka H, Furuse M, Sonoyama K, Yamamoto Y, Ohtahara A, Igawa O, Shigemasa C, Yamamoto T. Effect of the angiotensin II receptor antagonist losartan on uric acid and oxypurine metabolism in healthy subjects. Intern Med 41: 793-7, 2002.
				2	浜田紀宏、嘉悦泰博、杉原志伸、水田栄之助、安東史博、松浦 隆、井川 剛、松原剛一、山本康孝、荻野和秀、井川 修、重政千秋、尾崎忠弘、岸田専蔵、久留一郎: 高血圧患者におけるロサルタンと低用量ヒドロクロチアジド併用が血圧並びに尿酸代謝へ及ぼす影響. PROGRESS IN MEDICINE 25: 2385-2389, 2005.

				3	[共著] 浜田紀宏、久留一郎： 血圧・蛋白尿を指標としたAII 受容体拮抗薬の容量設定の根拠は何か。 AII 受容体拮抗薬のすべて（第3版）：240-245, 2003.
12	山崎 章	講師	内科系臨床医学	1	[論文] 山崎 章、西村和子、佐野博幸、富田桂公、千酌浩樹、渡部仁成、櫃田豊、清水英治. <i>Schisophyllum commune</i> が原因と考えられた <i>Allergic bronchopulmonary mycosis</i> の一例. アレルギー 51(5): 439-442. 2002
				2	Yamasaki A, Tomita K, Sano H, Watanabe M, Makino H, Kuari J, Hitsuda Y, Shimizu E. Measuring subepithelial thickness using endobronchial ultrasonography in a patient with asthma: a case report. <i>Lung</i> 2003. 181(3):115-120.
				3	山崎 章、中本成紀、佐野博幸、安田和人、千酌浩樹、迫 隆紀、渡部仁成、松本慎吾、富田桂公、井岸 正、櫃田 豊、清水英治. 空洞性の病変を呈した膀胱癌肺転移の1例 日呼吸会誌 41(2): 95-98. 2003.
13	陶山 久司	講師	内科系臨床医学	1	[論文] Phase II study of weekly paclitaxel in patients with non-small cell lung cancer who have failed previous treatments. : Yasuda K, Igishi T, Kawasaki Y, Kato K, Matsumoto S, Katayama S, Sako T, Shigeoka Y, Suyama H, Sugitani A, Yamamoto M, Hitsuda Y, Shimizu E., <i>Oncology</i> , 66, 5, 347-352, 2004
				2	ERK activation and subsequent RB phosphorylation are important determinants of the sensitivity to paclitaxel in lung adenocarcinoma cells. : Suyama H, Igishi T, Sano H, Matsumoto S, Shigeoka Y, Nakanishi H, Endo M, Burioka N, Hitsuda Y, Shimizu E, <i>Int J Oncol.</i> , 24, 6, 1499-1504, 2004
				3	進行非小細胞肺癌に対するWeekly-Paclitaxel療法に要する費用の検討：陶山久司、櫃田豊、松本慎吾、中本成紀、重岡靖、中西啓文、井岸正、鰐岡直人、安田和人、迫隆紀、宮田昌典、遠藤正博、清水英治, <i>Jpn J Cancer chemother</i> , 30, 3, 365-370, 2003
14	田邊 路晴	助手	外科系臨床医学	1	[論文] C-terminus of p47(phox) is required for interaction with leukocyte type rat 12-lipoxygenase. <i>Protein Pept Lett.</i> 2005 Apr;12(3):295-7.
				2	Cloning of rat p47phox and comparison with human p47phox. <i>DNA Seq.</i> 2005 Feb;16(1):65-8.
				3	Incorporation of arachidonic and linoleic acid hydroperoxides into cultured human umbilical vein endothelial cells. <i>Prostaglandins Leukot Essent Fatty Acids.</i> 2004 Jun;70(6):485-9.
15	前垣 義弘	助教授	内科系臨床医学	1	[論文] Risk factors for fatality and neurological sequelae after status epilepticus in children. Maegaki Y, Kurozawa Y, Hanaki K, Ohno K. <i>Neuropediatrics.</i> 36(3):186-92, 2005
				2	Central motor reorganization in cerebral palsy patients with bilateral cerebral lesions. : Maegaki Y., Maeoka Y., Ishii S., Eda I., Ohtagaki A., Kitahara T., Suzuki N., Yoshino K., Ieshima A., Koeda T., Takeshita K., <i>Pediatr. Res</i> , 45, 559-567, 1999
				3	Plasticity of central motor and sensory pathways in a case of unilateral extensive cortical dysplasia: investigation of magnetic resonance imaging, transcranial magnetic stimulation, and short-latency somatosensory evoked potentials. : Maegaki Y., Yamamoto T., Takeshita K., <i>Neurology</i> , 45, 2255-2261, 1995

16	古和 久典	講師	内科系臨床医学	1	[論文] Hypertrophy of IMC of carotid artery in Parkinson' s disease in associated with L-DOPA, homocysteine, and MTHFR genotype : Nakaso K, Yasui K, Kowa H, Kusumi M, Ueda K, Yoshimoto Y, Takeshima T, Sasaki K, Nakashima K, J Neurol Sci, 207, 1-2, 19-23, 2003
				2	Association of the insertion/deletion polymorphism of t angiotensin I-converting enzyme gene in patients of migraine wi aura :Kowa H, Fusayasu E, Ijiri T, Ishizaki K, Yasui K, Nakaso K, Kusu M, Takeshima T, Nakashima K, Neurosci Lett, 374, 2, 129-31, 200
				3	[共著] 循環器領域におけるセロトニン研究の新たな展開 : 古和久典, 中島健二, 片頭痛, 横川光宏, 142-152, 2002, メディカルレビュー社, 東京
17	進藤 真久	助手	内科系臨床医学	1	[論文] The Ectodermal Dysplasia Receptor (EDAR) represses the Lef-1/beta-catenin dependent transcription independent of NF-kappaB activation. : Shindo M, Chaudhary PM, Biochem Biophys Res Commun. , 315, 1, 73-78, 2004
				2	Differential regulation of IkappaB kinase alpha and beta by two upstream kinases, NF-kappaB-inducing kinase and mitogen-activated protein kinase/ERK kinase kinase-1. : Shindo M*, Nakano H*, Sakon S, Nishinaka S, Mihara M, Yagita H, Okumura K. *co-first author, Proc Natl Acad Sci U S A, 95, 7, 3537-3542, 1998
				3	cDNA cloning, expression, subcellular localization, and chromosomal assignment of mammalian aurora homologues, aurora-related kinase (ARK) 1 and 2. : Shindo M, Nakano H, Kuroyanagi H, Shirasawa T, Mihara M, Gilbert DJ, Jenkins NA, Copeland NG, Yagita H, Okumura K. , Biochem Biophys Res Commun. , 244, 1, 285-292, 1998
18	田邊 芳雄	助教授	内科系臨床医学	1	[論文] 心筋SPECTに対するOS-EM法の適用—心臓肝臓ファントムを用いたアーチファクト軽減効果の検討—: 西尾 剛、遠藤健一、田邊芳雄、谷野文彦, 日本放射線技術学会雑誌, 58, 8, 1061-1065, 2002
				2	¹²³ I-Metaiodobenzylguanidine myocardial scintigraphy in panic disorder: Tanabe Y, Harada H, Sugihara S, Ogawa T, Inoue Y. J Nucl Med 45:1305-1308, 2004
				3	[共著] ダイナミックメディシン2: 田邊芳雄, 画像診断の実際: 泌尿生殖器, 下条文武、斉藤 康, 219-235, 2003, 西村書店, 新潟市旭通 1-754-39
19	土井 理恵子	助手	歯学	1	[論文]・舌下腺に発生した乳頭状嚢腺癌の1例 日本口腔外科学会雑誌, 49(8) 501-504, 2003
				2	下顎枝に発生した中心性巨細胞肉芽腫の1例 日本口腔外科学会雑誌, 51(3) 144-147, 2005
				3	Clinicopathological Profile of Oral Soft Tissue Sarcoma, Asian J Oral Maxillofac Surg, 17(1) 31-37, 2005

研究活動実績票

別紙様式①-乙

【研究成果一覧】

大学名	鳥取大学	学部・研究科名	医学部・脳神経疾患研究施設

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	紙谷 秀規	助教授	外科系臨床 医学	1	[論文] Proteomics-based identification of differentially expressed genes in human gliomas: down-regulation of SIRT2 gene. : Hiratsuka M., Kamitani H., et al., Biochem Biophys Res Commun, 309, 3, 558-566, 2003
				2	Transcriptional regulation of cyclooxygenase-1 by histone acetylase inhibitors in normal astrocyte cells : Taniura S., Kamitani H., et al., J Biol Chem, 277, 0, 16823-16830, 2002
				3	A topographic analysis of the proliferating tumor cells in an autopsied brain with infiltrative thalamic glioma : Amin R., Kamitani H., et al., Brain Tumor Pathology, 19, 0, 5-10, 2002
2	田淵 貞治	助手	外科系臨床 医学	1	[論文] Relationship of hypotension and cerebral vasospasm in patients with aneurismal subarachnoid hemorrhage. : Sadaharu Tabuchi, Nobuo Hirano, Michiharu Tanabe, Masamichi Kurosaki, Hisayo Okamoto, Hideki Kamitani, Masayuki Yokota, Takashi Watanabe, Neurol Res 28(2): 196-199, 2006
				2	Effect of bone marrow transplantation of cytosolic phospholipase A2 deficient mice in focal cerebral ischemia/reperfusion injury. : Sadaharu Tabuchi, Yasutaka Yamamoto, Takashi Watanabe, Naonori Uozumi, Takao Shimizu, J Cereb Blood Flow Metab (Suppl) 25, S501.doi: 10.1038/sj-jcbfm.9591524.0501 Published online 30 August 2005
				3	Mice deficient in cytosolic phospholipase A2 are less susceptible to cerebral ischemia/reperfusion injury. : S. Tabuchi, U. Uozumi, S. Ishii, Y. Shimizu, T. Watanabe, T. Shimizu, Acta Neurochir Suppl 86: 169-172, 2003
3	佐藤 武正	助手	神経科学	1	[論文] Dopamine neurons encode teaching signals for learning reward-based decision strategy. : Satoh T., Matsumoto N., Nakai S., Sato T., Minamimoto T. and Kimura M., International Congress Series, 1250, 0, 311-318, 2003
				2	Correlated Coding of Motivation and Outcome of Decision by Dopamine Neurons. : Satoh T., Nakai S., Sato T. and Kimura M., Journal of Neuroscience, 23, 30, 9913-9923, 2003
				3	Goal-directed, serial and synchronous activation of neurons in the primate striatum. : Kimura M., Matsumoto N., Okahashi K., Ueda Y., Satoh T., Minamimoto T., Sakamoto M. and Yamada H., NeuroReport, 14, 0, 799-802, 2003
4	大野 耕策	教授	内科系臨床 医学	1	[論文] Lin H, Sugimoto Y, Ohsaki Y, Ninomiya H, Oka A, Taniguchi M, Ida H, Eto Y, Ogawa S, Matsuzaki Y, Sawa M, Inoue T, Higaki K, Nanba E, Ohno K and Suzuki Y. N-Octyl- β -valienamine up-regulates activity of F213I mutant β -glucosidase in cultured cells:a potential chemical chaperone therapy for Gaucher disease.Biochim Biophys Acta. 1689:219-228 2004

				2	Ohara S, Ukita Y, Ninomiya H, Ohno K. Degeneration of cholecystokinin-immunoreactive afferents to the VPL thalamus in a mouse model of Niemann-Pick disease type C. Brain Research 1022:244-246 2004
				3	Matsuda J, Suzuki O, Oshima M, Yamamoto Y, Noguchi A, Takimoto K, Itoh M, Matsuzaki Y, Yasuda Y, Ogawa S, Sakata Y, Nanba E, Higaki K, Ogawa Y, Tominaga L, Ohno K, Iwasaki H, Watanabe H, Brady RO, Suzuki Y. Chemical chaperone therapy for brain pathology in GM1-gangliosidosis. Proc Natl Acad Sci USA. 100 : 15912-7 2003
5	中島 健二	教授	神経内科学	1	[論文] Hypertrophy of IMC of carotid artery in Parkinson' s disease in associated with L-DOPA, homocysteine, and MTHFR genotype : Kazuhiro Nakaso, Kenichi Yasui, Hisanori Kowa, Masayoshi Kusumi, Keigo Ueda, Yuko Yoshimoto, Takao Takeshima, Kiyohiro Sasaki, Kenji Nakashima, J Neurol Sci, 207, 0, 19-23, 2003
				2	Axonal and demyelinating forms of the MPZ Thr124Met mutation : Kurihara S, Adachi Y, Wada K, Adachi A, Ohama E, Nakashima K, Acta Neurol Scand, 108, 0, 157-160, 2003
				3	The antiplatelet aggregation effects of aspirin suppositories : Hiroyuki Nakayasu, Masanobu Maeda, Takao Soda, Kenji Iijima, Manabu Ishimoto, Ichiro Ieiri, Fumie Tabuchi, Kenji Otsubo, Kenji Nakashima, Cerebrovasc Dis, 16, 0, 31-35, 2003
6	加藤 信介	助教授	神経病理学	1	[論文] Expression of hepatocyte growth factor and c-Met in the anterior horn cells of the spinal cord in the patients with amyotrophic lateral sclerosis (ALS): immunohistochemical studies on sporadic ALS and familial ALS with superoxide dismutase 1 gene mutation. : Kato S., Funakoshi H., Nakamura T., Kato M., Nakano I., Hirano A., Ohama E., Acta Neuropathologica, 106, 2, 112-120, 2003
				2	Redox system expression in the motor neurons in amyotrophic lateral sclerosis (ALS): immunohistochemical studies on sporadic ALS, superoxide dismutase 1 (SOD1)-mutated familial ALS, and SOD1-mutated ALS animal models. : Kato S, Kato M, Abe Y, Matsumura T, Nishino T, Aoki M, Itoyama Y, Asayama K, Awaya A, Hirano A, Ohama E., Acta Neuropathol 110, 2, 101-112, 2005.
				3	[共著] Neurodegeneration. The Molecular Pathology of Dementia and Movement Disorders : Kato S, Shaw P, Wood-Allum C, Leigh PN, Shaw C, Amyotrophic lateral sclerosis, 350-368, 2003, ISN Neuropath Press, Basel
7	宮田 元	助手	神経科学	1	[論文] Johnson MW, Miyata H, Vinters HV: Ezrin and moesin expression within the developing human cerebrum and tuberous sclerosis-associated cortical tubers. Acta Neuropathol 104: 188-196, 2002.
				2	Miyata H, Chiang ACY, Vinters HV: Insulin signaling pathways in cortical dysplasia and TSC-tubers: Tissue microarray analysis. Ann Neurol 56: 510-519, 2004.
				3	Miyata H, Chute DJ, Fink J, Villablanca P, Vinters HV: Lissencephaly with agenesis of corpus callosum and rudimentary dysplastic cerebellum: A subtype of lissencephaly with cerebellar hypoplasia (LCH). Acta Neuropathol 107: 69-81, 2004.

8	竹島 多賀夫	助教授	内科系臨床 医学	1	[論文] Increased plasma transforming growth factor-beta1 in migraine. : Ishizaki K, Takeshima T, Fukuhara Y, Araki H, Nakaso K, Kusumi M, Nakashima K. Headache 2005; 45(9):1224-1228.
				2	Population-based door-to-door survey of migraine in Japan: the Daisen study: Takeshima T, et al. Headache 44: 8-19. 2004
				3	Production of dopaminergic neurons for cell therapy in the treatment of Parkinson's disease. : Peaire AE, Takeshima T, Johnston JM, Ise K, Nakashima K, Commissiong JW J Neurosci Methods 124: 61-74. 2003

研究活動実績票

別紙様式①-乙

【研究成果一覧】

大学名		鳥取大学		学部・研究科名		生命機能研究支援センター	
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果		
1	難波 栄二	教授	内科系臨床医学	1	[論文] Attenuation of Ganglioside GM1 Accumulation in the Brain of GM1 gangliosidosis Mice by Neonatal Intravenous Gene : Takaura N, Yagi I, Maeda M, Nanba E, Matsuda J, Oshima A, Suzuki Y, Yamano T, Tanaka A. , Gene Therapy , 10, 0, 1487-1493, 2003		
				2	Chemical chaperone therapy for brain pathology in G(M1)-gangliosidosis. : Matsuda J, Suzuki O, Oshima A, Yamamoto Y, Noguchi A, Takimoto K, Itoh M, Matsuzaki Y, Yasuda Y, Ogawa S, Sakata Y, Nanba E, Higaki K, Ogawa Y, Tominaga L, Ohno K, Iwasaki H, Watanabe H, Brady RO, Suzuki Y. , Proc Natl Acad Sci U S A. , 100, 26, 15912-15917, 2003		
				3	Niemann-Pick type C disease: accelerated neurofibrillary tangle formation and amyloid beta deposition associated with apolipoprotein E e4 homozygosity. : Saito Y, Suuki K, Nanba E, Yamamoto T, Ohno K, Murayama S. , Ann Neurol, 52, 0, 351-355, 2002		
2	北 実	助手	農芸化学	1	[論文] Recent Progress of Vitamin B ₆ Biosynthesis : A. Sakai, M. Kita and Y. Tani, J. Nutr. Sci. Vitaminol., 50, 2, 69-77, 2004		
				2	Investigation of 1-deoxy-D-xylulose 5-phosphate synthase and transketolase of <i>Bacillus subtilis</i> in relation to vitamin B ₆ biosynthesis : A. Sakai, N. Kinoshita, M. Kita, T. Katsuragi and Y. Tani, J. Nutr. Sci. Vitaminol., 49, 1, 73-75, 2003		
				3	<i>yaaD</i> and <i>yaaE</i> are involved in vitamin B ₆ biosynthesis in <i>Bacillus subtilis</i> : A. Sakai, M. Kita, T. Katsuragi and Y. Tani, J. Biosci, Bioeng., 93, 3, 309-312, 2002		
3	木村 宏二	助教授	基礎医学	1	[論文] Aerobic and anaerobic biotransformation of bile acids by <i>Escherichia coli</i> (II): No conversion of α -muricholic acid by 7 α -hydroxysteroid dehydrogenase of <i>E. coli</i> . : Y. Ogura, N. Yamaga, T. Suzuki, K. Kimura, Y. Kido, K. Yamada, K. Uchida, Bioscience and Microflora, 24, 2, 41-44, 2005		
				2	Dehydrogenation of conjugated cholic acid by <i>Escherichia coli</i> : Katayama R, Ogura Y, Yamaga N, Kimura K, Uchida K, Yonago Acta med, 47, 4, 63-69, 2004		
				3	Dioxins and fatty acids in breast milk of primiparas in Yonago District , Tottori Prefecture, Japan : S. Sampei, K. Kimura, K. Ohno, S. Ikawa, K. Yamada, Yonago Acta medica, 45, 4, 103-111, 2002		
4	中山 祐二	助手	生物科学	1	[論文] Cell Cycle 4:1099-1106, 2005 JCB 89(6):1193-205, 2003		

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名		鳥取大学		学部・研究科等名		医学部・医学科	
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果		
1	片桐 浩史	助手	外科系臨床 医学	1	受託研究「PFNA(プロキシマルフェモラルネイルアンチロー テーシ		
2	谷尾 和彦	助教授	歯学	1	[研究成果が学会誌, 雑誌, 新聞記事等として掲載された] Yonago Acta mrdica : Yoshiyuki Tanji, 2005 年 12 月		
				2	Yonago Acta mrdica : Kazuhiko Tanio, 2005 年 9 月		
				3	Asian J Oral Maxillofac Surg : Masami Shibata, 2005 年 5 月		
3	領家 和男	教授	歯学	1	[一般雑誌, 新聞等に掲載された論文・記事等] お口のにおい大丈夫? : 領家和男, 山陰中央新報, 6 月 29 日付, 0-0, 2005		
				2	[研究成果が学会誌, 雑誌, 新聞記事等として掲載された] Asian J Oral Maxillofac Surg : 「Clinico-immunohistochemical Study of Oral Verruciform Xanthomas」Masami Shibata, Isamu Kodani, Kazuhiko Tanio, Tetsuya Yamamoto, Eisaku Ueta, Tokio Osaki, Kazuo Ryoke 17(2) 95-99 2005		
				3	J Oral Pathol Med : 「Minichromosome maintenance2 expression is correlated with mode of invasion and prognosis in oral squamous cell carcinomas」Isamu Kodani, Mitsuhiko Osaki, Kohei Shomori, Kunio Araki, Eizo Goto, Kazuo Ryoke, Hisao Ito 32 468-474 2003		
4	井上 幸次	教授	外科系臨床 医学	1	[競争的資金] 眼表面における肥満細胞増殖を促進する因子の解析: 科学研究 費補助金基盤研究 2, 新規, 代表, 2003		
				2	眼ヘルペス感染症におけるウイルス増殖・免疫反応に関する 分子機構の解明: 科学研究費補助金基盤研究 B 2, 新規, 代 表, 2003		
				3	眼ヘルペス感染症の免疫学的制御について: 科学研究費補助 金基盤研究 B 2, 継続, 代表, 2002		
5	山田 七子	講師	内科系臨床 医学	1	[受賞 (研究)] 第 53 回日本皮膚科学会西部支部学術大会 学会長賞(銅賞) Bronchogenic cyst の 1 例 (2001)		
6	入子 英幸	助手	基礎医学	1	[研究成果が学会誌, 雑誌, 新聞記事等として掲載された] 第 75 回日本寄生虫学会総会で行った研究発表「コムギ胚芽 無細胞系を用いた新規マラリア伝搬阻止ワクチン候補抗原 の探索」が、Medical Tribune (2006 年 7 月 6 日付、Vol39, No. 27) に新聞記事として掲載された。		
7	石黒 眞吾	講師	外科系臨床 医学	1	[競争的資金] 心筋細胞不死化と長時間心保存への応用: 科研 基盤, 新規, 代表, 2003-2005		
				2	心筋虚血再灌流障害耐性獲得の機序と長時間心保存法への 応用: 基盤研究 (C), 継続, 代表, 2002		
8	寺川 直樹	教授	外科系臨床 医学	1	[競争的資金] 子宮内膜症の増殖・進展機構の解明と新たな分子標的治療の 開発: 基盤研究 (B) , 新規, 代表, 2005		
				2	女性の各ライフステージに応じた健康支援システムの確立 に向けた総合的研究: 厚生科学研究費補助金(子ども家庭総 合研究事業) , 継続, 代表, 2004		

				3	子宮内膜症の発生におけるマトリックス分解酵素とサイトカインファミリーの役割：基盤研究（B），継続，代表，2003
9	大石 徹郎	助手	外科系臨床医学	1	[競争的資金] 平成 15-16 年度科学研究費補助金若手研究 B「卵巣明細胞腺癌の細胞生物学的特性の解明と抗癌剤耐性克服の試み」
10	池口 正英	教授	外科系臨床医学	1	[研究成果でテレビ・ラジオに出演した] 2006 年 中海テレビ出演：クーゲルパッチを用いた最近の鼠径ヘルニア手術について
				2	[競争的資金] 消化器癌手術における血中癌細胞播種の実態とその臨床的意義の解明：基盤研究（C）（2），新規，代表，2003 年（継続 2 年）
				3	血中に存在する微量な癌細胞が担癌生体におよぼす影響：基盤研究（C）（2），新規，代表，2005 年（継続 3 年）
11	稲垣 喜三	教授	機械工学	1	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] 稲垣喜三：亜酸化窒素（笑気）の光と影. Anet 2004; 8: 44-49.
12	宮川 征男	教授	外科系臨床医学	1	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] 2006 年 9 月「ボツリヌス毒素の研究」が山陰中央新報など 9 紙に紹介された
13	福留 初子	講師	実験動物学	1	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] Geographical Distribution of the Lung Fluke, <i>Paragonimus westermani</i> -diploid type (trematoda, Troglotrematidae) in the Northern Part of Okayama Prefecture, Japan. Biogeography 6, pp87-93, Aug. 20, 2004.
14	北村 幸郷	助教授	基礎医学	1	[競争的資金] 医療気孔（アストカイロ気孔）が癌遺伝子の発現および癌の治療効果に与える影響：科学研究補助金、基盤研究 C，継続，代表，2005
				2	医療気功（アストカイロ気功）が癌遺伝子の発現および癌の治療効果に与える影響：基盤研究（C）（2），継続，代表，2004
				3	医療気功（アストカイロ気功）が癌遺伝子の発現および癌の治療効果に与える影響：基盤研究（C）（2），新規，代表，2003
15	林 一彦	教授	実験病理学	1	[競争的資金] 科学研究費基盤 C-2
16	稲賀 すみれ	助手	基礎医学	1	[受賞（研究）] CHROMOSOME SCIENCE 論文賞：Three-dimensional ultrastructure of in situ chromosomes and kinetochores of <i>Tradescantia reflexa</i> anther cells by scanning electron microscopy. 1. Freeze-cracked meiotic chromosomes and kinetochores in pollen mother cells., 財団法人 染色体学会，代表，2003
17	名黒 知徳	助教授	基礎医学	1	[研究成果でテレビ・ラジオに出演した] サイエンスミステリー DNA が解き明かす人間の真実と愛：フジテレビ，名黒知徳，2004 年 12 月 18 日（電頭写真提供）
				2	NHK スペシャル 人体のしくみ 2003 年 8 月 26 日（電頭写真提供）
				3	[競争的資金] 核膜孔複合体における核と細胞質間の輸送選別機構：形態学からのアプローチ：基盤研究 C，継続，代表，2002-2005
18	河合 康明	教授	基礎医学	1	[一般雑誌，新聞等に掲載された論文・記事等] 朝日新聞 知究人 （2004 年 9 月 16 日発刊）
				2	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] メディカルトリビューン 日本医学会総会特別企画号（2006 年 11 月 2 日発刊）

				3	[研究成果でテレビ・ラジオに出演した] 日本海テレビ ニュース日本海プラス1 特集 (2006 年 2 月 9 日放送、12 月 14 日再放送)
19	松尾 聡	講師	内科系臨床医学	1	[研究成果が学会誌、雑誌、新聞記事等として掲載された] Nature Neurosci. 2003 6(4):332-333. (Going for the goal. Krauzlis RJ, Carello CD.)
				2	[競争的資金] 指向運動における脳幹核上性ニューロンの機能解析 ―外乱に対する視線制御について― 科研費、基盤研究 (C) (1104A, 17500274)
20	井元 敏明	助教授	基礎医学	1	[競争的資金] ストレスによる味覚異常と運動によるその改善:生体内微量元素の動態に着目して 基盤研究 (C), 新規, 代表, 2005
				2	ヒトの低体温誘導物質の同定とその低体温誘導機序の解明 : 基盤研究 (B), 継続, 共同, 2003
21	細貝 正江	助手	神経・筋肉生理学	1	[研究成果が学会誌、雑誌、新聞記事等として掲載された] 「自律神経系の研究」に關しての国際的専門誌 Autonomic Neuroscience: Basic and Clinical (編集部; 英国、出版社; オランダのエルゼビア) に提出した論文が査読後、受理され掲載された。Inspiratory neurons with decrementing firing pattern in raphe nuclei of feline medulla.: Hosogai Masae, Matsuo Satoshi, Autonomic Neuroscience: Basic and Clinical, 99, 0, 13-17, 2002
				2	2003 年 (平成 15 年) に開催された第 33 回日本臨床神経生理学会学術大会で発表した研究 (演題番号 J1P2-03「延髄縫線核の呼吸性ニューロン」(延髄縫線核の呼吸性ニューロン: 細貝正江, 松尾 聡、臨床神経生理学, 32, 2, 108-108, 2004) が、優れた研究としてとりあげられて、Clinical Neurophysiology (Elsevier) への英文抄録の投稿が推薦された。
				3	Central respiratory chemoreception of medullary raphe nuclei. Hosogai, Masae and Matsuo Satoshi, Neuroscience Research, 52, Suppl., S202-S202, 2005 2005 年 (平成 17 年)、第 28 回日本神経科学大会において「延髄縫線核の中樞化学受容機構」について発表したところ、大きな反響があった。
22	渡邊 達生	教授	基礎医学	1	[競争的資金] 内因性解熱物質としての心房性ナトリウム利尿ペプチドに関する研究: 基盤研究 C, 新規, 代表, 2005
				2	アンギオテンシン II による炎症性サイトカイン産生促進機序に関する分子生物学的研究: 基盤研究 C, 新規, 代表, 2003
				3	視床下部内アンギオテンシン II とその受容体による発熱促進機序に関する研究: 基盤研究 B, 継続, 代表, 2002
23	岸本 拓治	教授	社会医学	1	厚生労働省研究助成金: 継続, 共同, 2002 - 2005
				2	ヒト培養動脈内皮細胞での NOS 遺伝子多型の蛋白機能への影響に関する分子疫学的研究: 基盤研究 (B) (2), 継続, 代表, 2003
				3	ヒト培養動脈内皮細胞での NOS 遺伝子多型の蛋白機能への影響に関する分子疫学的研究: 基盤研究 (B) (2), 新規, 代表, 2002
24	小谷 和彦	助手	社会医学	1	[受賞 (研究)] 第 43 回日本臨床化学会年会学術奨励賞: 高齢者高血圧症とミトコンドリア遺伝子多型の関連解析, 日本臨床化学会, 個人, 2003
				2	第 1 回健康教育プログラム研究会媒体コンテスト優勝: 血管モデル・缶コーヒー教育資材, 健康教育プログラム研究会, 個人, 2002

				3	The 18th International Congress of Clinical Chemistry and Laboratory Medicine Excellent poster 賞 (優秀ポスター賞): Effects on immunological activity by short-term spa (hot spring) bathing, 第 18 回国際臨床化学会議, 個人, 2002
25	湯浅 勲	助教授	社会医学	1	[受賞 (研究)] 日本 DNA 多型学会優秀研究賞: オロソムコイド遺伝子の分子進化: アフリカ人における変異, 日本 DNA 多型学会, 2002
				2	[競争的資金] mtDNA-HV1 領域の万能プライマーによる動物種と個人・個体の同時識別」科学研究費補助金 基盤研究 (C) (2) 代表 2004-2006 年度
				3	「新しい日本人特異的 DNA マーカー (SNP) の開発と個人識別への応用」科学研究費補助金 基盤研究 (C) (2) 代表 2001-2003 年度
26	孝田 雅彦	助教授	内科系臨床医学	1	[受賞 (研究)] 平成 16 年 3 月鳥取大学教育功績特別賞
				2	平成 16 年 10 月鳥取大学医学部研究助成
				3	平成 17 年 6 月 Hepatology research 賞
27	村脇 義和	教授	内科系臨床医学	1	[一般雑誌, 新聞等に掲載された論文・記事等] 慢性肝疾患での血小板減少 質疑応答 Q&A: 村脇義和, 日本医事新報, 4117, 0, 102-103, 2003
				2	ヒアルロン酸と IV 型コラーゲンによる肝硬変の診断 質疑応答 Q&A: 村脇義和, 日本医事新報, 4070, 0, 87-88, 2002
28	谷口 晋一	講師	内科系臨床医学	1	[研究成果が学会誌, 雑誌, 新聞記事等として掲載された] The American Diabetes Association 65th Scientific Session Taniguchi S, et al.
				2	Differential expression of immunoproteasome subunits and proteasome activators in islet cells of NOD mouse.
				3	[研究成果でテレビ・ラジオに出演した] 中海 TV に「メタボリック症候群」の講演で出演
29	千酌 浩樹	講師	内科系臨床医学	1	[競争的資金] 肺癌治療の新しい分子標的としての RhoGEF 活性化機序の検討: 基盤研究 (C) (2), 新規, 代表, 2003
30	鰐岡 直人	助教授	内科系臨床医学	1	[一般雑誌, 新聞等に掲載された論文・記事等] 時間治療」の病気・症状別効果. 人体に内蔵された「時計」を正しく動かす治療現場を見た: 鰐岡直人, 朝日新聞社 AERA, 6 月号, 2005
				2	[受賞 (研究)] 下田賞: 閉眼覚醒時および異なる睡眠段階におけるヒト呼吸運動の近似エントロピー, 鳥取大学医学部, 個人, 2004
				3	[競争的資金] 睡眠時無呼吸症候群における体内時計障害の関与: 時計遺伝子群の変調解析: 基盤研究 C, 新規, 代表, 2005
31	小川 敏英	教授	内科系臨床医学	1	日本神経放射線学会賞 (加藤賞) 受賞 (2005 年)
				2	第 34 回日本神経放射線学会優秀展示賞 (2005 年)
				3	第 33 回日本神経放射線学会優秀展示賞 (2004 年)
32	小倉 嘉夫	助手	基礎医学	1	[受賞 (研究)] 第 43 回学術奨励賞: 腸内細菌によるウルソデオキシコール酸生成のためのプロバイオティクスの開発, 財団法人三島海雲記念財団, 個人, 2005
				2	[競争的資金] 研究助成金: 新規, 代表, 2005
				3	研究助成金: 新規, 代表, 2005
33	松浦 達也	助教授	基礎医学	1	[競争的資金] アポトーシス細胞除去増強シグナルとして作用する酸化ホスファチジルセリンの生成機構に関する研究: 新規, 代表,

					2005
				2	酸化ストレスの関与する老化に対する抗加齢効果評価システムの開発：新規，代表，2005
				3	熱ショック蛋白の細胞保護効果に着目した急性臓器機能障害の予防に関する研究：基盤研究（B），新規，共同，2005
34	佐藤 慶祐	教授	基礎医学	1	[論文]Real time monitoring of nitric oxide and blood flow during ischemia-reperfusion in the rat testis Mol. Cell. Biochem: 286:138-145, 2006
				2	N-hexacosanol ameliorates streptozotocin-induced diabetic rat nephropathy Eurr. J. Pharmacol.:544:132-137, 2006
				3	General administration of cyclohexanotic long-chain fatty alcohol ameliorates hyperreactivity of STZ-induced diabetic rat aorta Life Sciences.:78:1508-1514, 2006
35	木下 ゆか子	助手	基礎医学	1	[競争的資金] 平成16年度鳥取大学医学部研究助成金（糖尿病の神経障害に対するシクロヘキサノン誘導体の予防効果）
				2	平成16年度鳥取大学医学部長研究費（膀胱虚血-再灌流障害と機能に関する研究）
36	齊藤 源顕	講師	外科系臨床医学	1	[競争的資金] 膀胱機能と血流に関する研究：若手研究 A，継続，代表，2004
				2	糖尿病神経障害に対するシクロヘキサノン誘導体の予防効果：鳥取大学学長裁量経費、新規、代表、2004
				3	膀胱虚血-再灌流傷害と機能に関する研究：鳥取大学医学部研究助成、新規、代表、2004
37	三浦 典正	助教授	分子生物学、病態検査学、消化器病学、内科学	1	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] 1 回（日本海新聞）
				2	[研究成果でテレビ・ラジオに出演した] 1 回（日本海テレビ）
				3	[競争的資金] 武田科学振興財団：新規，代表，2005
38	長谷川 純一	教授	境界医学	1	[競争的資金] 漢方薬作用機序の細胞薬理学的検討：基盤研究（C）（2），新規，代表，2004~2006
				2	銀メッキ繊維のアトピー性皮膚炎に及ぼす影響に関する研究：新規，代表，2003~2004
				3	着衣型超長時間心電図記録解析システムの研究開発：新規，代表，2002
39	日野 茂男	教授	基礎医学	1	[受賞（研究）]高松宮妃癌研究基金学術賞，2002
40	祝部 大輔	講師	基礎医学	1	[一般雑誌，新聞等に掲載された論文・記事等] 大山近郊の名水のミネラルバランスによる水質評価：祝部大輔，水道産業新聞，2005
				2	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] 読売新聞：祝部大輔，2004 年 10 月 3 日
				3	[競争的資金] 児童・思春期における健康リスク行動の実態と防止に関する地域共同研究：基盤研究（C）（2），新規，代表，2004

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	医学部・生命科学科		
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	一坂 吏志	助手	神経科学	1	[競争的資金] 発達期視覚野可塑性の分子メカニズム（神経突起伸展制御分子Cdk5の役割）：若手研究（B），新規，代表，2003-2004
2	二宮 治明	助教授	基礎医学	1	[競争的資金] 精神神経疾患研究委託費：筋ジストロフィーに関連する疾患の病態解明と治療法の開発に関する研究：継続，代表，2005
				2	科研費：ニーマンピック病での神経変性機構の解明：特定領域，新規，代表，2004
				3	ニーマンピック細胞により産生されるサイトカインの同定：基盤C，新規，代表，2002
3	佐藤 建三	教授	基礎医学	1	[競争的資金] 医学における研究助成金：新規，代表，2005
				2	肝機能を保護する機能性食品の開発：継続，共同，2004
				3	肝機能を保護する機能性食品の開発：新規，共同，2003
4	吉野 三也	助教授	基礎医学	1	[受賞（研究）] 平成15年度鳥取大学医学部 医学研究業績優秀者表彰（下田賞）
				2	平成18年度鳥取大学医学部研究助成金授賞
				3	The second-place poster award. International symposium of molecular cell biology of macrophages and dendritic cells 2006, June 9-10, Tokyo, Japan.
5	祝部 大輔	講師	基礎医学	1	[一般雑誌，新聞等に掲載された論文・記事等] 大山近郊の名水のミネラルバランスによる水質評価：祝部大輔，水道産業新聞，2005
				2	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] 読売新聞：祝部大輔，2004年10月3日
				3	[競争的資金] 児童・思春期における健康リスク行動の実態と防止に関する地域共同研究：基盤研究(C)(2)，新規，代表，2004
6	林 眞一	教授	基礎医学	1	[競争的資金] 骨及び関節疾患の診断・治療薬の開発に関する研究：厚生労働省科学研究費補助金，新規，共同，2004
				2	造血環境と血液細胞分化：基盤研究（C），新規，，2003
				3	抗原提示細胞の遊走検出システムの開発：科学技術振興調整費，継続，共同，2002

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名		鳥取大学		学部・研究科等名		医学部・保健学科	
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果		
1	安藤 泰至	助教授	哲学	1	[受賞（研究）] 日本医学哲学・倫理学会奨励賞：『医学哲学・医学倫理』第19号所収論文「人間の生における「尊厳」概念の再考」により、日本医学哲学・倫理学会，個人，2002		
				2	[競争的資金] 心理主義時代における宗教と心理療法の内在的関係に関する宗教哲学的研究：基盤研究（B）（1），継続，共同，2001－2003		
				3	宗教心理学の体系化に関する研究－宗教心理学の社会的貢献に向けて：基盤研究（C）企画調査，共同，2005		
2	笠城 典子	助手	看護学	1	[一般雑誌，新聞等に掲載された論文・記事等] 「覚えて模倣する技術」から「考えて検証する技術」の学び方：学生がグループで取り組む清拭技術の根拠：宮脇美保子、南前恵子、深田美香、石倉弥生、松田明子、笠城典子、内田宏美、看護展望，29，5，606-613，2004		
3	松田 明子	助手	医歯薬学	1	[一般雑誌，新聞等に掲載された論文・記事等] 介護保険下の医療と福祉の連携を評価－訪問看護師と理学療法士の連携の取れた援助が必要－：九里美和子、松田明子，Medical Tribune，36，8，18-18，2003		
				2	[競争的資金] 滋賀県済生会訪問看護ステーション：新規，代表，2003		
				3	平成15年度看護研究助成事業 木村看護教育復興財団 看護研究収録 12 131-141，2005		
4	前田 迪郎	教授	外科系臨床医学	1	[受賞（研究）] 鳥取大学研究功労賞：細胞増殖因子に夜創傷治癒促進，鳥取大学，個人，2003		
				2	[競争的資金] 大和証券研究助成金：新規，代表，2002		
				3	長寿医療研究委託事業：継続，共同，2002		
5	森本 美智子	助教授	看護学	1	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] 開発したCARS（COPD Activity rating Scale）のAmerican Thoracic Society Website（http://www.astqol.org/cars.acp）への掲載，2004.2～現在.		
				2	[競争的資金] 科学研究費補助金. 基盤研究費C「慢性閉塞性肺疾患患者の病気に対する認知と対処法に関する研究」平成16～18年度，研究代表者.		
				3	科学研究費補助金. 基盤研究C「臓器移植患者と家族のスピリチュアリティとスピリチュアリティを支える看護ケアの開発」平成17年～19年度，研究分担者.		
6	池田 匡	教授	内科系臨床医学	1	[競争的資金] 医学部における研究助成：継続，代表，2003		
				2	医学部における研究助成：新規，代表，2003		
				3	医学部における研究助成：新規，代表，2003		
7	平松 喜美子	教授	看護学	1	[競争的資金]平成15年鳥取大学医学部研究助成金交付		
				2	平成18年鳥取大学学長裁量経費授与		

8	吉岡 伸一	教授	内科系臨床医学	1	[競争的資金] 児童・思春期における健康リスク行動の実態と防止に関する地域共同研究：基盤研究（C）（2），新規，共同，2004
				2	幼若期てんかん原性形成と成長発達過程のけいれん準備性に及ぼす内分泌攪乱物質の影響：科学研究費補助金基盤研究（C）（2），新規，代表，2003
				3	幼若期キンドリングにより獲得されたけいれん準備性の長期維持機構の解明：文部省科学研究費補助金基盤研究（C）（2），継続，代表，2002
9	谷垣 静子	教授	看護学	1	[競争的資金] 施設介護サービスの提供主体に対する適切な規律づけに関する研究：基盤研究 B，新規，共同，2004～現在
				2	訪問看護師の育成と教育：新規，共同，2003～現在
				3	日南町に暮らす高齢者のサクセスフル・エイジングの実態調査：新規，共同，2003
10	矢倉 紀子	教授	看護学	1	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] 矢倉紀子、松浦治代、原口由紀子：フィールドワークを活用した授業の教育効果と地域への波及効果に関する検討、日本公衆衛生雑誌 52（8）、546、2005. 8.
				2	矢倉紀子、小村朋子、松浦治代、原口由紀子、笠置綱清：乳幼児を持つ母親の喫煙行動（第1報）－喫煙率とその関連因子－、日本公衆衛生雑誌 51（10）、P235、2004.
				3	矢倉紀子、松浦治代、原口由紀子、笠置綱清：双子両親の胎児感情に関する検討日本公衆衛生雑誌第61回日本公衆衛生学会総会抄録集、49（10）、691、2002
11	花木 啓一	教授	内科系臨床医学	1	[競争的資金] 小児肥満におけるメラノコルチン受容体遺伝子異常とエネルギー消費調節に関する研究：基盤研究（C）（2），継続，代表，2003
				2	小児肥満におけるメラノコルチン受容体遺伝子異常とエネルギー消費調節に関する研究：基盤研究（C）（2），継続，代表，2002
				3	小児肥満と肥満関連遺伝子多型の相関：継続，共同，2002
12	上田 悦子	助手	基礎医学	1	[競争的資金] ヒト遺伝性疾患 GCPS の相同疾患マウスにおける無嗅脳症と多指症の分子メカニズム：分担、2004、2005
				2	遺伝性多指症/無嗅脳症マウスにおける水頭症発症の分子メカニズムの解明：代表、2003
13	藤原 伸一	助手	薬学	1	[受賞（研究）] HPCS 2004 論文賞：分子動力学専用計算クラスタの開発とそれを利用した計算資源提供型グリッドの試み，情報処理学会，共同，2003
				2	[競争的資金] タンパク質の構造と機能の予測のための計算資源提供型広域計算：特定領域研究(2)，新規，共同，2004 分子情報科学的手法によるヒト血清アルブミン-薬物結合解析に関する研究：若手研究（B），新規，代表，2004
14	浦上 克哉	教授	内科系臨床医学	1	[一般雑誌，新聞等に掲載された論文・記事等] 週刊朝日 2005 年 9/2 号 若年性アルツハイマー病で我々のグループが開発した早期診断法が掲載された。
				2	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] 2004 年認知症早期発見の機器開発に成功（朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、産経新聞、日本海新聞、山陰中央新報、他多数）
				3	[研究成果でテレビ・ラジオに出演した] NHK 総合テレビ 生活ほっとモーニング 平成 18 年 12 月 26 日放送 「認知症最新情報：早期発見の機器紹介」
15	河本 裕子	助教授	境界医学	1	[競争的資金] 電磁気泳動法による糖尿病赤血球糖化度分布測定システムの開

					発：新規，代表，2004
				2	電磁気泳動法による糖尿病赤血球糖化度分布測定システムの開発：継続，代表，2005
16	成瀬 一郎	教授	内科系臨床医学	1	[競争的資金] 文部科学省科学研究費・一般基盤研究(C)(2)：(代表) ヒト遺伝性疾患GCPsの相同疾患マウスにおける無嗅脳症と多指症の分子メカニズム。2004～2006.
				2	日本二分脊椎・水頭症研究振興財団：(共同) 遺伝性多指症/無嗅脳症マウスにおける水頭症発症の分子メカニズム。2003～2004.
				3	奨学寄附金(大塚製薬)：(代表) 2003, 2004, 2005.
17	網崎 孝志	教授	情報学	1	[受賞(研究)] ハイパフォーマンスコンピューティングと計算科学シンポジウム2004, 最優秀論文賞：情報処理学会，共同，2003
				2	[競争的資金] 膜タンパク質の精密分子動力学計算のための高速計算法の開発と評価：科学研究費補助金、基盤研究(C)(2)，代表，2004-2005.
				3	タンパク質の構造と機能の予測のための計算資源提供型広域計算：科学研究費補助金、特定領域研究(2)，代表，2001-2005.
18	山田 貞子	助教授	境界医学	1	[競争的資金] IV型コラーゲン測定に関する臨床化学的研究：共同，2003
				2	レチノイン酸代謝と肝癌発生メカニズムに関する研究：共同，2003
				3	ビトロネクチンの糖鎖変化に関する研究：テルモ財団，共同，2002
19	加藤 洋介	助手	境界医学	1	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] 第15回欧州高血圧学会ハイライトニュース；Medical Tribune(オンライン版)，2005.
				2	第30回日本睡眠学会ニュース；Medical Tribune, 38(29)：10, 2005.
20	周防 武昭	教授	内科系臨床医学	1	[受賞(研究)] Hepatology Research 賞：Interferon alpha inhibits intrahepatic recurrence in hepatocellular carcinoma with chronic hepatitis C:A pilot study, 日本肝臓学会，個人，2002
				2	[競争的資金] 奨学寄附金(第一化学)：新規，代表，2003
				3	奨学寄附金(シェリング)：新規，代表，2003
21	石黒 尚子	助手	基礎医学	1	[競争的資金] 学長裁量経費：新規，代表，2004
				2	軟部肉腫における新規筋系蛋白質Arppの発現：若手研究(B)，継続，代表，2004
				3	軟部肉腫における新規筋系マーカーArppの発現：若手研究(B)，新規，代表，2003
22	飯島 憲司	助教授	境界医学	1	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] 大型血小板を有し、ADP二次凝集の欠如と正常のcollagen凝集を示す血小板凝集機能異常症例：飯島憲司、松本久幸、吉岡 明、原文子，日本検査血液学会雑誌，5, 2, 207-212, 2004
				2	血友病Aと考えられる2症例の検査診断-von Willebrand disease 2Nとの鑑別について-：吉岡 明、原文子、石本 学、竹内 仁恵、飯島 憲司，日本検査血液学会雑誌，3, 2, 265-269, 2002
				3	Patients with platelet dysfunction characterized by transient and reversible aggregation in response to ADP despite normal collagen-induced aggregation. Iijima K, et al., Am J Hematol, 80, 167-168, 2005

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	医学部・医学系研究科

N0	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	押村 光雄	教授	生物分子科学	1	鳥取大学発ベンチャー企業、テレポート山陰、2005 年 7 月 14 日
				2	[受賞 (研究)] 日本人類遺伝学会学会賞：細胞工学及び染色体工学を用いた遺伝子マッピングとゲノム機能の解析、日本人類遺伝学会、個人、2002 年
				3	[競争的資金] 染色体工学技術開発の拠点形成：21 世紀 COE プログラム、新規、代表、2004 年
2	久留 一郎	教授	内科系臨床医学	1	[研究成果でテレビ・ラジオに出演した] テレポート山陰：山陰放送、久留一郎、2003 年 11 月 13 日
				2	[受賞 (研究)] ①日本痛風核酸代謝学会賞、
				3	[競争的資金] 1) 久留一郎 (主研究員) 平成 16 年度 科学研究費補助金基盤研究 (C) (2) (継続)：プロテオミクス研究からのチャネル安定化による心房細動のテラーメード治療の開発
3	汐田 剛史	教授	内科系臨床医学	1	[研究成果が学会誌、雑誌、新聞記事等として掲載された] 日本海新聞：汐田剛史、平成 16 年 3 月 14 日
				2	[受賞 (研究)] 平成 17 年 1 月 鳥取大学研究功績賞 汐田剛史
				3	[競争的資金] 汐田剛史、文部科学省科学研究費 基盤研究 (B) 代表 肝再生療法を目指した自己末梢血幹細胞の体外増幅・分化システムの開発、平成 16 年度—17 年度
4	星川 淑子	助手	基礎医学	1	[競争的資金] 科学研究費補助金 萌芽研究 平成 14-15 年度、EB ウイルスによる“hit-and-run transformation”と胃癌、研究代表者、230 万円
				2	科学研究費補助金 萌芽研究 平成 17-18 年度、reperfusion injury による心臓・肺障害の機序の解明と治療法の開発、研究分担者、330 万円
5	白吉 安昭	助教授	生物科学	1	[競争的資金] 細胞融合法を用いた初期化と未分化状態の維持に関する原因染色体の同定：萌芽研究、継続、代表、2003
				2	細胞融合法を用いた初期化と未分化状態の維持に関する原因染色体の同定：萌芽研究、新規、代表、2002
6	飯塚 舜介	助教授	生物科学	1	[競争的資金] 神経系発現タンパク質の構造 (大阪大学タンパク質研究所共同研究)：継続、共同、2004
				2	転写因子 Hex タンパク質の構造の研究 (理化学研究所共同研究)：新規、共同、2006
				3	厚生労働研究費補助金：継続、共同、2003-2004
7	山本 康孝	助手	内科系臨床医学	1	[一般雑誌、新聞等に掲載された論文・記事等] 読売新聞 2003 年、11 月 記事：鳥取大学医学部附属病院における自己末梢血利用による血管再生治療
				2	Medical tribune 2002 年、記事：高血圧患者の尿酸値管理の現状について

8	久郷 裕之	助教授	生物科学	1	[競争的資金] 染色体改変技術の拠点形成：21 世紀 COE プログラム，2004
				2	発がんに関わるゲノム刷り込み遺伝子の網羅的解析と制御機構 解析：科学研究費補助金 特定領域研究(2)，2004
				3	クロマチンの動的変動によるゲノム刷り込みの転写制御機構の 解析：科学研究費補助金基盤研究(C)(2)，2004
9	尾崎 充彦	助手	基礎医学	1	[受賞 (研究)] Down-regulation of MAD1 (Mitotic arrest deficiency 1) in human gastric carcinoma：Fifteenth Interanational Symposium of the Hiroshima Cancer seminar, International Conference Center Hiroshima (Hiroshima, Japan), 2005, 10.30. Best Poster Award 受賞
				2	[競争的資金] ヒト消化器癌の増殖・進展過程におけるドーマンシー制御因子 と新規関連蛋白の検索：基盤研究(B)(2)，継続，共同，2004
				3	新規がん抑制遺伝子産物 RUNX3 蛋白発現解析と遺伝子導入によ る抗腫瘍効果の検討：若手研究 B，新規，代表，2004

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名		鳥取大学		学部・研究科等名		医学部附属病院	
No	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果		
1	萩野 浩	助教授	外科系臨床 医学	1	[受賞（研究）] 平成 14 年度日本整形外科学会 AAOS Travelling Fellowship ：, 日本整形外科学会, 個人, 2002		
				2	第 4 回骨粗鬆症学会学会賞：大腿骨頸部骨折の経年推移, 日 本骨粗鬆症学会, 個人, 2002		
				3	骨粗鬆症関連骨折の予防と治療に関する研究：基盤研究 (C)(2), 継続, 代表, 2004		
2	永島 英樹	講師	外科系臨床 医学	1	[競争的資金] 核磁気共鳴法による脊髄症および神経根症患者の脳脊髄液成 分の分析：基礎研究(C)(2), 継続, 代表, 2002-2005		
3	廣岡 保明	講師	外科系臨床 医学	1	[一般雑誌, 新聞等に掲載された論文・記事等] 県内初の生体肝移植：広岡保明, 朝日新聞, 毎日新聞, 山陰 中央新報, 日本海新聞, その他, 0, 0, 0-0, 2005		
				2	[競争的資金] 膵胆道癌患者に対する選択的 COX-2 阻害剤を用いた新規腫瘍 抑制療法の開発：基盤研究（C）（2）, 新規, 代表, 2004		
				3	胆汁細胞診における採取, 判定方法に関する研究：日本臨床 細胞学会班研究, 新規, 代表, 2005		
4	濱田 紀宏	助手	内科系臨床 医学	1	[研究成果でテレビ・ラジオに出演した] 平成 17 年 2 月、高血圧に関する講演（中海テレビ）		
5	古和 久典	講師	内科系臨床 医学	1	[受賞（研究）] 鳥取大学研究業績表彰日の丸賞）：片頭痛におけるホモシス テインの関与, , 個人, 2002		
				2	[競争的資金] 脳梗塞症の長期予後に基づく臨床病型分類と再発防止に関す る研究：基盤研究 C・2, 継続, 代表, 2003		
				3	脳梗塞症の長期予後に基づく臨床病型分類と再発防止に関す る研究：基盤研究 C・2, 継続, 代表, 2002		
6	進藤 真久	助手	内科系臨床 医学	1	The Ectodermal Dysplasia Receptor (EDAR) represses the Lef-1/beta-catenin dependent transcription independent of NF-kappaB activation. : Shindo M, Chaudhary PM, Biochem Biophys Res Commun. , 315, 1, 73-78, 2004		
				2	Differential regulation of IkappaB kinase alpha and beta by two upstream kinases, NF-kappaB-inducing kinase and mitogen-activated protein kinase/ERK kinase kinase-1. : Shindo M*, Nakano H*, Sakon S, Nishinaka S, Mihara M, Yagita H, Okumura K. *co-first author, Proc Natl Acad Sci U S A, 95, 7, 3537-3542, 1998		
				3	cDNA cloning, expression, subcellular localization, and chromosomal assignment of mammalian aurora homologues, aurora-related kinase (ARK) 1 and 2. : Shindo M, Nakano H, Kuroyanagi H, Shirasawa T, Mihara M, Gilbert DJ, Jenkins NA, Copeland NG, Yagita H, Okumura K. , Biochem Biophys Res Commun. , 244, 1, 285-292, 1998		
7	土井 理恵子	講師	歯学	1	[競争的資金] 平成 17 年度科学研究費（若手 B）, 正常骨髄幹細胞が癌の転 移形成に果たす役割に関する基礎研究		

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	医学部・脳幹性疾患研究施設

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	紙谷 秀規	助教授	外科系臨床医学	1	[受賞 (研究)] 平成 16 年度鳥取大学科学研究業績 日の丸賞 研究業績「ヒストンアセチル化はグリオーマ細胞の増殖抑制を促し、p21 及びゲルゾリンの発現誘導を伴う」
				2	[競争的資金] (1) 鳥取大学医学部助成金「恵仁会研究助成金」 平成 14 年度 課題「悪性脳腫瘍におけるヒストンアセチル化、p 53 アセチル化と分化度の検索」研究代表者 紙谷秀規
				3	(2) 日本学術振興会 平成 15 年度～16 年度 科学研究費補助金 基盤研究 (c) ラット中脳グリオーマモデルの作成と腫瘍抑制因子のスクリーニング：代表 紙谷秀規
2	大野 耕策	教授	内科系臨床医学	1	[競争的資金] 小児期神経変性疾患の新しい治療法の確立：基盤研究 (B) , 新規, 代表, 2004, 2005
				2	ニーマン・ピック病 C 型の神経変性に対する実験的治療：特定領域研究 2, 新規, 代表, 2003
				3	知的障害のある人への適正な医療の提供に関する研究：厚生労働科学研究費補助金障害保健福祉総合研究事業, 新規, 代表, 2002～2004
3	中島 健二	教授	神経内科学	1	[研究成果でテレビ・ラジオに出演した] 介護保険講演会&シンポジウム：認知症診療ー最近の話題 (2006 年 12 月 24 日) ー山陰中央新報に記事として掲載
				2	平成 18 年度鳥取県医師会健康フォーラム：認知症診療ー最近の話題 (2006 年 9 月 16 日) ー日本海新聞に掲載
				3	日本医師会テレビ健康講座 “ふれあい健康ネットワーク” 老人性痴呆にかからないために (2003 年 1 月 25 日) 山陰中央テレビ放映
4	加藤 信介	助教授	神経病理学	1	[受賞 (研究)] 平成 1 6 年 9 月 2 2 日 平成 1 6 年度鳥取大学医学部助成金授賞 研究課題：筋萎縮性側索硬化症におけるミッドカインによる新規治療法の確立
				2	[競争的資金] 文部科学省科学研究費補助金助成 代表研究者：加藤信介 科学研究費基盤研究 (c 09680744 期間：平成 9-10 年度 研究課題名：家族性筋萎縮性側索硬化症におけるアストロサイト内封入体形成の解明 研究費：3, 200 千円
				3	厚生労働省科学研究費補助金 研究協力者：加藤信介 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服対策研究事業 期間：平成 14-16 年度 研究課題名：筋萎縮性側索硬化症の病因・病態に関わる新規治療法の開発に関する研究班 研究費：2, 400 千円
5	宮田 元	助手	神経科学	1	[受賞 (研究)] Lucien J. Rubinstein Award, Honorable Mention, for the Best Paper on Neuro-oncology Presented at the 79th Annual Meeting of the American Association of

					Neuropathologists. Orlando, FL, 2003. 【受賞演題】Miyata H, Yeung RS, Vinters HV: Role of insulin signaling pathways in pathogenesis of tubers of tuberous sclerosis and cortical dysplasia: tissue microarray analysis.
				2	The Japanese Neuropathology Award for the Best Paper on Experimental Neuropathology, at the 45th Annual Meeting of the Japanese Society of Neuropathology, Maebashi, Gunma, 2004. 【受賞論文】Funakoshi T, Miyata H, Imoto T, Arai T, Endo N, Makino K, Yang CH, Ohama E: 6-formylpterin protects retinal neurons from transient ischemia-reperfusion injury in rats: A morphological and immunohistochemical study. Neuropathology 23: 161-168, 2003.
				3	[競争的資金] 平成 17 年度 科学研究費補助金 若手研究 (A)
6	竹島 多賀夫	助教授	内科系臨床医学	1	[研究成果が学会誌, 雑誌, 新聞記事等として掲載された] 日本海新聞 : 竹島多賀夫, 平成 14 年 12 月 1 日掲載, 22, 2002
				2	[競争的資金] 片頭痛の具体的な医療手順に関する研究: 厚生労働科学研究費補助金・効果的医療技術の確立推進臨床研究事業, 新規, 共同, 2003
				3	ドパミン神経幹細胞の増殖・分化シグナルの制御とパーキンソン病治療への応用: 科学研究費, 新規, 代表, 2003-2005

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名		医学部・医学科	
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	片桐 浩史	助教授	外 科 系 臨 床 医学	1	[公開講座, 講演会等] 山口県長門市医師会講演会「骨粗鬆症の治療-最新の薬物療法と転倒予防を中心に-」2004/7/30
				2	鳥取県臨床整形外科医会学術講演会「骨粗鬆症治療の現状と実際」2005/9/28
				3	市販後臨床試験「骨粗鬆症治療による骨折予防に関する研究 (OF Study)」の骨評価委員会委員
2	領家 和男	教授	歯学	1	[公開講座, 講演会等] 新生児から乳児期にみられる口腔・顎・顔面領域の疾患：未熟児新生児研究会, 鳥取大学医学部小児科, 産婦人科・小児科の医師、看護師, 2005
				2	口腔粘膜病変診断のポイント：中部歯科医師会講演, 鳥取県中部歯科医師会, 歯科医師、スタッフ, 2005
				3	糖尿病と口腔との関連：医療講演会, 鳥取市長, 糖尿病要指導者, 2005
3	井上 幸次	教授	外 科 系 臨 床 医学	1	[公開講座, 講演会等] 角膜手術の現状—角膜移植・屈折矯正手術—。「第 10 回サイエンス・アカデミー in Yonago」米子, 2002/1/12
				2	角膜手術の現状—角膜移植と屈折矯正手術—。「平成 15 年度 目の健康講座」広島, 2003/7/27
				3	加齢と眼疾患～白内障・緑内障を中心に～。「第 166 回鳥取県医師会公開健康講座」米子, 2005/9/15
4	佐々木 勇二	助教授	外 科 系 臨 床 医学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取県社会保険診療報酬請求書審査委員会：審査委員, 2005
				2	鳥取県社会保険診療報酬請求書審査委員会：審査委員, 2004
				3	鳥取県社会保険診療報酬請求書審査委員会：審査委員, 2003
5	山元 修	教授	内 科 系 臨 床 医学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取産業保健推進センター特別相談員
				2	[公開講座, 講演会等] お肌いきいき！スキントラブル解消講座 於：米子市主催コンベンションまつり「生活いきいき！健康講座」
				3	たかが皮膚病、されど皮膚病 於：米子市主催米子市ふれあい健康フェスティバル
6	山田 七子	講師	内 科 系 臨 床 医学	1	『最新のアトピー性皮膚炎についての実態と治療』平成 17 年 5 月 21 日「健康情報まるごと講座」（鳥取県）
				2	『アトピー性皮膚炎について—平成 13 年から 15 年の検診結果を中心に—』平成 17 年 10 月 23 日 「平成 17 年度第 1 回学校医・学校保健研修会」
7	石黒 眞吾	助教授	外 科 系 臨 床 医学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取県若年者心疾患対策協議会：委員, 2002-2006 年
				2	日本胸部外科学会評議員：2002-2005 年

				3	[公開講座, 講演会等] 日医生涯教育協力講座「脳・心血管疾患講座」、2005 年 9 月 11 日、米子
8	島田 宗昭	助手	外科系臨床医学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 特定非営利活動法人 婦人科悪性腫瘍化学療法研究機構 GOG Japan 実務担当
9	寺川 直樹	教授	外科系臨床医学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 独立行政法人医薬品医療機器総合機構: 専門委員, 2005
				2	日本学術振興会特別研究員等審査会: 専門委員, 2005
				3	厚生労働省薬事・食品衛生審議会専門委員会: 委員, 2004
10	池口 正英	教授	外科系臨床医学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 消化器外科専門医試験委員: 2006 年～
				2	日本学術振興会審査委員: 2005 年～
				3	[公開講座, 講演会等] 第 85 消化器病中国支部会 教育講演 2006 年 6 月
11	稲垣 喜三	教授	外科系臨床医学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 社団法人日本麻酔科学会専門医試験委員 2005
				2	社団法人日本麻酔科学会広報委員会「麻酔の日」実行委員 2005
				3	[公開講座, 講演会等] 鳥取県訪問看護ステーション連絡協議会研修会: 訪問看護における疼痛へのアプローチ 2004
12	宮川 征男	教授	外科系臨床医学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 日本泌尿器科学会専門医試験中四国委員長: 2002
				2	科学研究費委員会専門委員: (第 1 段審査委員) (2003. 1. 1. ～2003. 9. 30) (2004. 1. 1. ～2004. 12. 31)
				3	[公開講座, 講演会等] 2004 年 9 月「健康セミナー」(鳥取県医師会主催)
13	福留 初子	講師	実験動物学	1	[公開講座, 講演会等] “まなびピア鳥取 2005” への展示および解説
				2	情報公開時代の動物実験: 特別セミナー, 鳥取大学生命機能研究支援センター・動物資源開発分野, 学内教職員・大学院生・学生・留学生・研究生, 2003
				3	聞いて・見て・考えてみませんか? バイオ・遺伝子研究を: 平成 15 年度 市民講座, 鳥取大学生命機能研究支援センター, 一般市民, 2003
14	林 一彦	教授	実験病理学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 第 87 回日本病理学会中国四国支部学術集会を主催
				2	[公開講座, 講演会等] 松江市医師会学術講演会(H 17-11-10)
				3	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] 地域医療への病理診断による貢献
15	稲賀 すみれ	助手	基礎医学	1	[公開講座, 講演会等] 特別講演「電子顕微鏡による染色体の観察法と微細構造」(於: 大阪大学工学部) 2002
				2	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] 電子顕微鏡画像の提供 (NHK 教育番組など 3 件): 2003
				3	生物学テキストへの電子顕微鏡画像の提供: 2002 (実教出版)、2003 (秀文堂)、2004 (実教出版) 2005 (東京書籍)
16	名黒 知徳	助教授	基礎医学	1	[産業支援]・スクエア最新図説生物 改訂 3 版 第一学習社 広島 2005 (電顕写真提供)

				2	生物図説 第6版 秀文堂 東京 2005 (電頭写真提供)
				3	高等学校 生物1 教科書 (第一学習社 広島) 2003 (電頭写真提供)
17	川久保 善智	助手	人類学	1	[公開講座, 講演会等] 考古遺跡発掘調査担当職員に対する人骨・動物骨講座 (鳥取県教育委員会主催) (2005)
				2	第17回全国生涯学習フェスティバル展示 (鳥取県教育委員会主催) (2005)
18	河合 康明	教授	基礎医学	1	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] International Society for Adaptation Medicine Secretary General (2003-現在)
				2	The Journal of Physiological Sciences Associate Editor (2004-現在)
				3	第52回日本宇宙航空環境医学会大会 大会長 (2006年)
19	細貝 正江	助手	神経・筋肉生理学	1	2005年(平成17年)に開催された第18回呼吸ディスカッションの会(日本生理学会の呼吸に関する研究者で構成される会)の話題提供者に指名され、「延髄縫線核の化学感受性」について講演し、非常に興味をもたれた。
				2	Inspiratory neurons with decrementing firing pattern in raphe nuclei of feline medulla. : Hosogai Masae, Matsuo Satoshi, Autonomic Neuroscience: Basic and Clinical, 99, 0, 13-17, 2002. は、参考論文として外国の研究者に引用された。
				3	哺乳動物の呼吸中枢に関しては、これまでの内外の多くの研究にもかかわらず、今尚、不明な点が多い。呼吸リズム生成や化学感受性についても様々な説や報告があり、一定の見解に達していないのが現状である。細貝は、従来呼吸中枢とされている脳幹の神経核に加えて、「延髄の縫線核も呼吸運動に関与する」という仮説をたて、研究を行ってきた。その結果、延髄縫線核には、種々の発射様式の呼吸性ニューロンが存在し、横隔膜を制御するものがあることを証明した。最近では、これらの延髄縫線核の呼吸ニューロンには、化学感受性を示すものがあることを報告し、注目されている。 ・Central respiratory chemoreception of medullary raphe nuclei. Hosogai, Masae and Matsuo Satoshi, Neuroscience Research, 52, Suppl., S202-S202, 2005 ・延髄縫線核の呼吸性ニューロン: 細貝正江, 松尾 聡、臨床神経生理学, 32, 2, 108-108, 2004
20	岸本 拓治	教授	社会医学	1	鳥取県健康対策協議会が登録専門委員会: 委員長, 2002 - 2005
				2	鳥取県成人病検診管理指導部会: 委員, 2002 - 2005
				3	鳥取県公衆衛生協会: 理事, 2002 - 2005
21	小谷 和彦	助手	社会医学	1	[公開講座, 講演会等] 防煙教育のイロハ: 「世界禁煙デーin 米子」健康ととり普及啓発事業, 米子市, 鳥取県, 地域住民, 教職員, 2004
				2	自分の個性(色)を人間関係に活かす: 健康ととり普及啓発事業講演, 鳥取県, 社会人, 2003 地域作りについて: 境港市介護予防事業, 鳥取県境港市, 120, 2003
				3	糖尿病と臨床検査: 「温泉カンファレンス」特別講演, 鳥取県臨床衛生検査技師会臨床化学研究班・一般検査研究班合同研修会, 検査技師, 一般, 2002

22	孝田 雅彦	助教授	内科系臨床医学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取県健康対策協議会肝臓対策専門委員会: 委員, 2003
				2	鳥取県肝臓癌抑制対策評価委員会: 委員, 2003
				3	[公開講座, 講演会等] 肝細胞がん治療の最前線: 肝がん検診講演会, 鳥取県健康対策協議会, 医療従事者, 2003
23	前田 直人	講師	内科系臨床医学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取県健康対策協議会肝がん対策専門委員会: 2005
				2	[公開講座, 講演会等] お酒と肝臓: 酒は百薬の長?: サイエンス・アカデミー in Yonago, 鳥取大学地域共同研究センター, 一般人, 2003
				3	C型肝炎のマネージメント: 「肝がん撲滅運動」講演会, 社団法人日本肝臓学会, 医療従事者, 2005
24	村脇 義和	教授	内科系臨床医学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取県肝臓がん抑制対策評価委員会: 2004
				2	[公開講座, 講演会等] 慢性肝臓病: 市民公開講座, ウイルス肝炎研究財団, 一般市民, 2004
25	谷口 晋一	講師	内科系臨床医学	1	[公開講座, 講演会等] H16, 「生活習慣病予防とチーム医療研究会」設立し、講演会を主催
				2	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] H17 より、鳥取-江府スタディ (生活習慣病実態調査) を、鳥取県日野郡江府町と共同で開始した。
				3	H17, 「鳥取大学医学部附属病院 糖尿病医療支援チーム」設立に向けて準備。
26	千酌 浩樹	講師	内科系臨床医学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取県結核審査会: 審査委員, 2003
				2	[産業支援] 新しい迅速 PCR 法の開発 (トラスト社、兵庫県)、抗菌素材ドロマイトの開発 (用瀬電機、鳥取県)
27	鰐岡 直人	助教授	内科系臨床医学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取県感染症危機管理対策協議会: 委員, 2005
				2	鳥取県健康対策協議会 アレルギー性疾患対策専門委員会: 委員, 2005
				3	[公開講座, 講演会等] タバコは、なぜ悪者になったか? - COPD の予防と診断: 「肺の日」記念行事 市民公開講座, 日本呼吸器学会, 市民公開講座, 2005
28	小川敏英	教授	内科系臨床医学	1	日本放射線科専門医会教育講演 (2005 年)
				2	日本放射線技術学会中国・四国部会第 45 回学術大会特別講演 (2004 年)
				3	日本耳鼻咽喉科学会専門医講習会講演 (2003 年)
29	鈴木 孝夫	助手	基礎医学	1	[公開講座, 講演会等] 「身のまわりの放射線」: まなびピア 2005 「聞いて、見て、考えてみませんか バイオ・遺伝子研究を 2005, 生命機能研究支援センター, 一般市民, 2005
				2	「自然放射線をみる、はかる」: とっとりこども科学祭り, とっとりこども科学祭り実行委員会, 小学生、中学生、高校生, 2004
				3	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] 「ウラン残土問題」に対する放射線関連事項の啓蒙: 2005

30	佐藤 慶祐	教授	基礎医学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 独立行政法人医薬品医療機器総合機構専門委員
31	齊藤 源頭	講師	外科系臨床医学	1	[公開講座，講演会等] 平成 18 年鳥根県東部小児科医会基調講演
				2	平成 18 年鳥取県小児科医会基調講演
				3	平成 18 年倉敷排尿障害セミナー基調講演
32	三浦 典正	助教授	分子生物学、病態検査学、消化器病学、内科学	1	[公開講座，講演会等] 西部医師会講演
33	長谷川 純一	教授	境界医学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] とっとりコンベンションビューロー組織のあり方検討委員会：委員，2004
				2	日本臨床薬理学会認定医試験委員長：2005～
				3	鳥取県医師会医療安全対策委員会：委員，2004
34	祝部 大輔	講師	基礎医学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 医学部動物実験委員会：世話人，2002
				2	[公開講座，講演会等] 薬物乱用について：米子市学校保健会研修会，米子市学校保健会・米子市教育委員会，鳥取県西部地区小・中・養護学校養護教諭，2004
				3	すぐ役に立つ薬の安全知識 -主作用・副作用・相互作用-：第 2 回市民フォーラム，鳥取県西部薬剤師会，一般市民，2002

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名		鳥取大学		学部・研究科等名		医学部・生命科学科	
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果		
1	箸本 英吉	教授	生 物 分 子 科学	1	〔 公開講座，講演会等 〕 生活習慣病の成り立ち－酵素パワー同士のしのぎあい－：サイエンスアカデミー，鳥取大学医学部米子サブセンター，一般市民，2003		
2	佐藤 建三	教授	基礎医学	1	〔 審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等 〕 中国地域バイオ産業推進協議会：評価委員，2005		
				2	鳥取県機能性食品産業クラスター：審議員，2005		
				3	鳥取県中小企業技術開発産学官連携推進事業：産学官連携推進委員会委員，2003		
3	祝部 大輔	講師	基礎医学	1	〔 審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等 〕 医学部動物実験委員会：世話人，2002		
				2	〔 公開講座，講演会等 〕 薬物乱用について：米子市学校保健会研修会，米子市学校保健会・米子市教育委員会，鳥取県西部地区小・中・養護学校養護教諭，2004		
				3	すぐ役に立つ薬の安全知識－主作用・副作用・相互作用－：第2回市民フォーラム，鳥取県西部薬剤師会，一般市民，2002		

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名		鳥取大学		学部・研究科等名		医学部・保健学科	
N0	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果		
1	安藤 泰至	助教授	哲学	1	[公開講座，講演会等] 生命倫理と死生観：放送大学面接授業，放送大学鳥取学習センター，2005		
				2	「病いの知」の可能性：大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」 全学大学院生のためのレクチャーシリーズ，2005		
				3	クオリティ・オブ・ライフについて：大和ハウス山陰支店協力会事業主研修，大和ハウス工業山陰支店，事業主，2003		
2	松田 明子	助手	医歯薬学	1	[公開講座，講演会等] 生活援助技術：介護士2級養成講座，介護労働センター，介護士養成者，2003		
				2	摂食・嚥下リハビリテーション実践と課題：滋賀県訪問看護ステーション15年度研究会，滋賀県訪問看護連絡協議会，訪問看護師，2003		
3	深田 美香	助教授	看護学	1	[公開講座，講演会等] 看護ケアの技術：第5回研修会，（社）鳥取県看護協会講師，看護協会会員，2003		
				2	[産業支援] メディカルケアによるシンクロナイズド・ミュージックによるリラクセーション効果についての検討：（株）ファミリー，2003		
4	前田 迪郎	教授	外科系臨床医学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 鳥取県健康対策協議会胃がん対策委員会：委員，2003		
				2	日本外科学会認定医試験委員：2003		
				3	鳥取大学医工学連携推進委員会委員：2002		
5	南前 恵子	講師	看護学	1	[公開講座，講演会等] 教育講演：軽度発達障害児とその家族への支援、第24回鳥取県小児保健協会総会並びに研修会、2005.1127.		
				2	講演会：軽度発達障害をもつ子の親に寄り添うために、安来市学校（小中学校）保健会研修会、2006.7.14		
				3	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] 研究指導：鳥取県立中央病院（2004年～）、鳥取県済生会境港総合病院（2006年～）の看護師を対象に年数回研究指導を行っている。		
6	落合 潮	教授	心理学	1	[学校支援]…スクールカウンセラー配置事業 鳥取県教育委員会、境港市教育委員会：2005		
				2	鳥取県教育委員会、境港市教育委員会：2004		
				3	鳥取県教育委員会、境港市教育委員会：2003		
7	山下 典子	助教授	看護学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 鳥取大学医学部附属病院講師：平成19年度附属病院看護師採用内定者を対象とした国家試験対策セミナー「臨床看護技術のウイークポイントを克服しよう」		

				2	[公開講座, 講演会等] 講演: 「生活習慣病と健康」対象: ひすいの会 60 歳~70 歳 20 人
8	森本 美智子	助教授	看護学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 日本慢性看護学学会評議員. 平成 18 年度
				2	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] テキストの一部執筆 (2004) : ナーシンググラフィカ 25 成人看護学 セルフマネジメント 第 3 部 セルフマネジメントを目指す看護の実際 慢性呼吸不全とともに生きるセルフマネジメント支援. p p 127-141, メディカ出版
				3	低肺友の会 (岡山患者会) 支援. 平成 14 年~平成 17 年度
9	池田 匡	教授	内科系臨床医学	1	[公開講座, 講演会等] 糖尿病: 成人・老人看護学講座, 糖尿病研究会, 医療関係者, 2004
				2	成人・老人看護学講座, QOL 研究会, 医療関係者, 2004
				3	糖尿病: 成人・老人看護学講座, 糖尿病研究会, 医療関係者, 2003
10	平松 喜美子	教授	看護学	1	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] 平成 16 年糖尿病療養指導士の資格を得、鳥取県内に「鳥取県糖尿病療養指導士チームの会」を発足した。
				2	平成 13 年より現在まで鳥取大学医学部糖尿病研究会を 1 ヶ月に 1 回開催している。延べ人数 2300 名程度のコメディカルの参加数である。
				3	平成 18 年 N P O 中海エリア糖尿病療養研究機構を立ち上げ理事をしている。
11	吉岡 伸一	教授	内科系臨床医学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 日本てんかん協会鳥取県支部副代表: 2005
				2	[公開講座, 講演会等] 職場のメンタルヘルスの実態と今後の対策に向けて: 宮崎県メンタルヘルス推進大会, 宮崎産業保健推進センター, 産業保健関連者, 2004
				3	精神科医からみたてんかん患者を取り巻く諸問題: 広島てんかん懇話会, 広島てんかん協会, 医療関係者, 2003
12	原口 由紀子	助手	看護学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取県中部保健医療圏地域保健医療協議会 健康づくり部会: 委員, 2004
				2	鳥取県看護協会西部地区支部委員: 地区長, 2003
				3	[公開講座, 講演会等] 地方分権化における地域保健活動のあり方: ヘルスプロモーション公開講座, 矢倉紀子, 松浦治代, 原口由紀子, 県内の地域保健福祉にかかわる保健師、栄養士及び事務担当者, 2004
13	松浦 治代	講師	看護学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 地域貢献特別支援事業: 2006
				2	パーキンソン病友の会鳥取県支部: 2006
				3	鳥取県看護協会教育委員: 委員, 2004
14	谷垣 静子	教授	看護学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取県福祉保健サービス評価推進委員会: 副委員長, 2004 ~現在

				2	[公開講座, 講演会等] : 認知症ケア研究会 2 回/年, 保健学科 地域・精神看護学講座・生体制御学講座, 200 名, 2002～現在
				3	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] 訪問看護師養成講習会: 2001～現在
15	矢倉 紀子	教授	看護学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 1. 鳥取県医療審議会委員: 2002～
				2	[公開講座, 講演会等] 山陰認知症ケア研究会: 浦上克哉・矢倉紀子・谷垣静子主催 認知症ケアにかかわる保健・医療・福祉関連職種を対象に毎年 2～3 回開催
				3	「地域づくりの視点から見た現場と大学との協働のあり方」「現場と大学との協働の実際とそのメリット: 第 3 回ヘルスプロモーション研究会公開講座, 矢倉紀子, 地域における保健, 福祉関連職種, 2003
16	西村 正子	教授	看護学	1	[公開講座, 講演会等] 「ウェルネス看護診断の理論と実践」 大阪 岡山 福岡にて講演
				2	「更年期女性の健康」講演
17	鈴木 康江	講師	看護学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取県看護協会: 2003～2006,
				2	鳥取県母性衛生学会幹事 2005～,
				3	山陰母子保健学会理事 2004～
18	北川 かほる	助教授	看護学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 障害児者の親の会: 2003～2006
				2	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] 障害児者の家族交流会 (障害がある子を持つ親・家族がセルフヘルプを得る交流会、10 回開催、参加延べ 152 名): 2003、2004～2006: 1 回/月開催
				3	障害児者の家族学習会 (障害児者の療育に必要な専門知識・技術に関した学習会を障害児者の親の会と共催、6 回開催、参加者延べ 314 名): 2003、4 回開催: 2004、3 回開催: 2005
19	飯島 憲司	助教授	境界医学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取県産官学フェスティバル: 2005
				2	[公開講座, 講演会等] 血小板機能異常症: 中国四国凝固線溶研究会, 中国四国凝固線溶研究会世話人, 中国四国凝固線溶に関する研究者, 検査技師, 2003
				3	肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症予防ガイドラインと臨床検査: 第 6 回日本検査血液学会学術集会, 2005
20	浦上 克哉	教授	内科系臨床医学	1	[公開講座, 講演会等] 認知症タウンミーティング 朝日新聞主催 2005 年 9 月 23 日 東京国際フォーラム
				2	もの忘れフォーラム 朝日新聞主催 2004 年 9 月 23 日 東京国際フォーラム
				3	もの忘れフォーラム 朝日新聞主催 2003 年 8 月 31 日 広島国際会議場
21	成瀬 一郎	教授	内科系臨床医学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 日本先天異常学会生殖発生毒性専門家認定委員会: 2002, 2003, 2004, 2005

				2	[公開講座，講演会等] 健康科学：知的障害者のためのオープンカレッジ in 鳥取， 第 10 回、第 11 回、第 13 回、2004.
				3	健康科学：知的障害者のためのオープンカレッジ in 鳥取， 第 14 回、第 15 回、第 17 回、2005.
22	網崎 孝志	教授	情報学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会 活動の実績等] 米子市情報公開・個人情報保護審査会委員，2005-（鳥取県 西部町村会についても同様）.
				2	Journal of Pharmacokinetics and Pharmacodynamics， Editorial Advisory Board，2004-.
				3	[産業支援] 分子計算に関するコンサルティング（本田技術研究所，大 正製薬総合研究所），2003，2005.
23	加藤 洋介	助手	境界医学	1	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事 項] 知的障害者施設における脳波検査；2004，2005.
24	周防 武昭	教授	内科系臨 床医学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会 活動の実績等] 鳥取県社会保険診療報酬請求書審査委員会：委員
				2	島根県公害健康被害認定審査会：委員
				3	[公開講座，講演会等] C型肝細胞癌後のインターフェロン療法：日本肝臓学会平 成 15 年度肝癌撲滅運動講演会，日本肝臓学会，医師、保健 師、臨床検査技師，2003

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	医学部・医学系研究科

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	押村 光雄	教授	生物分子科学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 日本癌学会評議員
				2	日本人類遺伝学会評議員
				3	鳥取バイオサイエンス振興会理事
2	久留 一郎	助教授	内科系臨床医学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 日本循環器学会全国評議員
				2	[公開講座, 講演会等] 平成 16 年度) 久留一郎 循環器疾患における高尿酸血症の病態とその治療戦略: 治療ガイドラインとポストシーケンス時代の研究からの応用 第 68 回に本循環器学会総会・学術集会 ファイアーサイドセミナー (3 月 東京)
				3	久留一郎 心血管リスクとしての高尿酸血症: ガイドラインに基づく治療戦略 山形痛風・高尿酸血症セミナー (6 月 山形)
3	汐田 剛史	教授	内科系臨床医学	1	[公開講座, 講演会等] 平成 16 年 6 月 14 日、文部科学省スーパーサイエンスハイスクール(SSH)、サイエンスゼミ「遺伝子治療 2」、平成 16 年 6 月 14 日、鳥取東高校
				2	平成 16 年 11 月 27 日、鳥取バイオ財団 10 周年記念会「肝臓を蘇らせる」
				3	平成 17 年 10 月 15 日 市民公開講座 「遺伝子で肝臓・消化器の病気がなおる？」
4	白吉 安昭	助教授	生物科学	1	[公開講座, 講演会等] 平成 14 年度 県立高校・鳥取大学教員交流事業 (鳥取県立米子東高等学校)
				2	平成 16 年度 鳥取大学医学部公開講座 (とっとり県民カレッジ連携講座)
5	飯塚 舜介	助教授	生物科学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 米子市環境審議会: 会長, 2003-2006
				2	米子市都市計画審議会: 会長, 2003-2006
				3	[公開講座, 講演会等] サイエンスアカデミー 「アルミニウムと健康 - アルミニウムはアルツハイマー病の危険因子か? -」 2006
6	山本 康孝	助手	内科系臨床医学	1	[公開講座, 講演会等] 2005 年 4 月; 山陰血管再生医療談話会「血管の再生医療」
				2	2006 年 9 月; 山陰血管再生医療談話会「血管の再生医療」
				3	2007 年 10 月: 日本人類遺伝学会シンポジウム 「遺伝子再生医療の現状と課題」～本邦における細胞移植による血管再生療法の現状

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名		鳥取大学		学部・研究科等名		医学部附属病院	
No	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果		
1	萩野 浩	助教授	外 科 系 臨 床 医 学	1	[公開講座, 講演会等] 骨折り損にならないための虎の巻～骨粗しょう症予防の最新情報:健康と医療フォーラム からだ博, 日本経済新聞社, 一般、医療関係者, 2004		
				2	骨折予防のための積極的骨粗鬆症治療: 第 21 回瑞穂卒後研修セミナー, 瑞穂卒後研修セミナー, 整形外科研修医, 2004		
				3	骨粗鬆症予防で健康長寿～骨の元気度アップしよう:生活習慣病予防教室, 米子市健康対策課, 一般市民, 2004		
2	林 篤	講師	内 科 系 臨 床 医 学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 日本小児腎臓病学会評議員 (平成 16 年 7 月～)		
				2	中国四国小児腎臓病学会幹事		
				3	[公開講座, 講演会等] 平成 17 年度第 1 回島根県小児科医会学術講演会 教育講演 「小児ネフローゼ症候群・慢性糸球体腎炎—治療・管理の実際」		
3	永島 英樹	講師	外 科 系 臨 床 医 学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取県特定疾患診査会委員		
				2	[公開講座, 講演会等] 安来医師会学術講演会		
				3	IOC (石見整形外科医会) 講演会		
4	廣岡 保明	講師	外 科 系 臨 床 医 学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取県成人病検診管理指導協議会: 委員, 2003-2005		
				2	鳥取県健康対策協議会乳がん, 肝がん対策専門委員会: 委員, 2003-2005		
				3	[公開講座, 講演会等] 乳癌の診断: 米子市乳がん市民講座, 鳥取県乳腺疾患研究会, 一般人, 2003		
5	前垣 義弘	助教授	内 科 系 臨 床 医 学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 国家試験作成: 2006		
				2	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] 講演会、年 2 回: 2003		
				3	学術講演回、年 2 回: 2002		
6	古和 久典	講師	内 科 系 臨 床 医 学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取県難病医療連絡協議会委員, 鳥取県, 2004～ (継続中)		
				2	[公開講座, 講演会等] 変貌する脳梗塞急性期診療: 鳥取県理学療法士会総会特別講演, 鳥取県理学療法士会, 理学療法士, 2005		
				3	虚血性脳血管障害の診断と治療: 鳥取県中部医師会講演会, 鳥取県中部医師会, 医師, 2003		

7	田邊 芳雄	助教授	内科系臨床医学	1	[公開講座，講演会等] 鳥取大学市民公開講座：「CT の最近の展開」（2003/11/11）
8	土井 理恵子	講師	歯学	1	[公開講座，講演会等] 口腔機能の向上について（雲南市）
				2	口腔を診る（米子医療センター）

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	医学部・脳幹性疾患研究施設

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	紙谷 秀規	助教授	外 科 系 臨 床医学	1	[国際事業協力] 日本学術振興会 日米がん研究協力事業研究者交流事業 平成 14 年 8 月 26 日～平成 14 年 9 月 14 日 渡航先：アメリカ合衆国
2	大野 耕策	教授	内 科 系 臨 床医学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会 活動の実績等] 鳥取県立米子養護学校校医
				2	米子市就学指導委員会委員長
				3	独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会専門委員
3	中島 健二	教授	神 経 内 科 学	1	[公開講座，講演会等] 市民公開講座：認知症フォーラム in 鳥取 2006 を、2006 年 7 月 26 日に鳥取市で開催
				2	鳥取県地域リハビリテーション推進協議会委員
				3	鳥取県難病医療連絡協議会会長・鳥取県難病相談・支援セ ンター長
4	加藤 信介	助教授	神 経 病 理 学	1	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事 項] American Association of Neuropathologists (米国神経 病理学会)における Editorial Board in Journal of Neuropathology and Experimental Neurology (米国神経病 理学会雑誌編集委員)
				2	[産業支援] 協和メデックス株式会社との共同開発：体外診断用医薬品 の一つである新しい腫瘍マーカーを新規開発中で、ほぼ基 礎研究は確立している。次の段階である臨床応用の研究段 階を見据えて共同研究を実施している。
5	竹島 多賀夫	助教授	内 科 系 臨 床医学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会 活動の実績等] 鳥取県社会保険診療報酬審査委員 2002- 2003
				2	[公開講座，講演会等] 頭痛の正しい治療 ：市民講座「頭痛の悩みと解消法」， 厚生労働省こころの健康科学研究事業研究成果発表会 (H15.3.15)，東京，2003，市民，2003
				3	片頭痛の遺伝子研究 Update：第 31 回日本頭痛学会ラン チンセミナー，第 31 回日本頭痛学会，頭痛学会会員，2003

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名		鳥取大学		学部・研究科等名		生命機能研究支援センター	
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果		
1	北 実	助手	農芸化学	1	[公開講座，講演会等] まなびピア鳥取 2005：「放射線を用いた先端バイオ研究」 (2005)		
				2	平成16年度 原子力体験セミナー【鳥取コース】(2005)		
				3	鳥取大学公開講座：身のまわりの放射線を観察し、原子力、 放射線の有用性を体得する(2004)		
2	木村 宏二	助教授	基礎医学	1	[公開講座，講演会等] 「医療現場での放射線」：まなびピア鳥取 2005「私たちの 生活における放射線の利用」，鳥取大学、鳥取地区放射性 同位元素等共同利用施設，市民一般，2005		
				2	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事 項] 「ウラン残土問題」に対する放射線関連事項の啓蒙：2005		
				3	[産業支援] ラドンの効用：白山名水，2004		

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等 名	医学部・医学系研究科・生命機能研究支 援センター

1. 医学部および附属病院では平成10年に外部評価を受け、研究業績では生命科学科、脳幹性疾患研究施設が高く評価された。臨床講座の総論文は多いが、1研究者あたりの論文数について少ない講座が出てくる可能性が指摘された。また、基礎系講座はもっとがんばってもらいたいという評価を受けた。
2. 今回の研究活動評価でも、組織の再編が行われた平成15年度以降の3年間の教員一人当たりの英文原著は、機能再生医科学専攻は2.22、脳幹性疾患研究施設が1.65、生命科学科1.20、病院診療施設等1.10、生命機能研究センター0.997、医学科基礎医学分野0.91、医学科臨床医学講座分野0.84、保健学科0.21であった。機能再生医科学専攻、脳幹性疾患研究施設の研究活動が活発である。
3. 医学部・医学研究科（機能再生医科学専攻）の押村光雄教授を拠点リーダーとする21世紀COEプログラム「染色体工学技術開発の拠点形成」の平成18年度中間評価では、「当初目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要と判断される。」と評価を受け、後半に向けて目的達成のための努力をしている。
4. 医学部・医学研究科・機能再生医科学専攻（別紙様式①-乙No1）の久留一郎教授は成果1,2によって、日本痛風学会賞を受賞している。
5. 別紙様式②医学科No9 生殖機能医学の寺川直樹教授は厚生労働科学研究費補助金・子ども家庭総合研究事業で、女性の各ライフスタイルに応じた健康支援システムの確立に向けた総合的研究の主任研究者となっている。
6. 別紙様式②-医学科No25 法医学の湯浅勲助教授は別紙様式①-乙医学科No34 成果1によって日本DNA多型学会優秀研究賞を受けた。
7. 別紙様式②-医学科No31 放射線医学の小川敏英教授は別紙様式①-乙医学科No42成果1,2,3によって日本放射線学会賞を受けた。
8. 別紙様式②-生命科学科No6生命科学科 免疫学の林真一教授は別紙様式①-乙生命科学科No12成果1,3によって日本骨代謝学会・研究賞を受賞した。
9. 別紙様式②-生命科学科No2生命科学科 二宮治明助教授はニーマンピック病C型の神経変性機構の解明の課題で特定研究領域(2)の研究代表者となった。
10. 別紙様式②-保健学科No17の網崎孝志教授はタンパク質の構造と機能の予測のための計算資源提供型広域計算の課題で特定領域研究(2)の研究代表者となった。
11. 別紙様式①-保健学科No20の周防武昭教授は別紙様式①-乙保健学科No33成果1,2によって、日本肝臓学会Hepatology Research賞を受けた。
12. 別紙様式②-脳幹性疾患研究施設No2の大野耕策教授は「知的障害のある方への適正な医療の提供に関する研究」で厚生労働科学研究費補助金障害保健福祉

総合研究事業の主任研究者となった。

13. 別紙様式②-附属病院No1)リハビリテーション部の萩野浩助教授は、別紙様式①-乙附属病院成果1,2,3から、日本骨粗鬆症学会・学会賞を受賞した。

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等 名	医学部・医学系研究科・生命機能 研究支援センター

1. 脳幹性疾患研究施設（別紙様式③ No1）紙谷秀規助教授は日本学術振興会 日米がん協力事業研究者交流事業で20日間米国に滞在し国際協力を行った。
2. 医学部医学科（別紙様式③ No9）寺川直樹教授は独立行政法人医薬品医療機器総合機構の専門委員、厚生労働省薬事・食品衛生審議会の専門委員を務めている。
3. 医学部医学科（別紙様式③ No30）佐藤慶佑教授は独立行政法人医薬品医療機器総合機構の専門委員を務めている。
4. 医学部医学科（別紙様式③ No10）池口正英教授は鳥取県健康対策協議会胃がん対策専門委員会・委員長を務めている。
5. 医学部医学科（別紙様式③ No20）岸本拓治教授は鳥取県健康対策協議会がん登録対策専門委員会・委員長を務めている。
6. 医学系研究科（別紙様式③ No4）飯塚舜介助教授は米子市環境審議会・会長、米子市都市計画審議会・会長を務めている。
7. 脳幹性疾患研究施設（別紙様式③ No2）大野耕策教授は米子市就学指導委員会・委員長を務めている。

工 学 部

工学研究科

資 料 目 次

工表－1	研究成果の一覧・・・・・・・・・・・・・・・・	1 4 9
研究活動実績票	別紙様式①－甲・・・・・・・・・・・・・・・・	1 5 0
研究活動実績票	別紙様式①－乙・・・・・・・・・・・・・・・・	1 5 1
研究活動実績票	別紙様式②・・・・・・・・・・・・・・・・	1 7 6
研究活動実績票	別紙様式③・・・・・・・・・・・・・・・・	1 9 0

工表-1. 研究成果の一覧

事 項		件 数			
		平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
研究 成果	①学術論文等（査読付）	211	189	183	211
	②学術論文等（査読なし）	131	149	128	110
	③国際会議議事録 （プロシーディングス）	72	103	193	131
	④著書（単著，共著， 編集・監修）	32	10	20	25
	①＋②＋③＋④／提出人数	446/87=5.12	451/87=5.18	524/87=6.02	477/87=5.48
	芸術・建築・体育系 分野の研究業績	1	0	1	17
	特許出願（発明者）	18	26	14	13
	口頭発表等	588	577	645	594
	学会賞等受賞	12	10	11	21

研究活動実績票

別紙様式①－甲

【学部・研究科等の研究活動の実施状況】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	工学部・工学研究科

＜学部・研究科等の概要＞

本票は、工学部、大学院工学研究科及びものづくり教育実践センターの共同作成である。

工学部には、機械工学科、知能情報工学科、電気電子工学科、物質工学科、生物応用工学科、土木工学科、社会開発システム工学科、応用数理工学科の8学科を置き、幅広い学問領域の教育研究を行っている。

大学院博士前期課程には、機械工学専攻、知能情報工学専攻、電気電子工学専攻、物質工学専攻、生物応用工学専攻、土木工学専攻、社会開発システム工学専攻、応用数理工学専攻の8専攻を置き、萌芽的研究や開発研究を進めることができる高度な技術者および研究者の養成と研究を行っている。

大学院博士後期課程には、情報生産工学専攻、物質生産工学専攻、社会開発工学専攻の3専攻を置き、高度な専門分野の研究能力と基礎学力を有し、研究者として自立した研究活動を行う能力、さらに社会の要請に対応できる応用力、創造力を有する人材の育成と研究を行っている。

また、平成16年に「ものづくり教育実践センター」を設置した。

《教員、研究員等数》

教授	助教授	講師	助手
54	41	6	30

客員教授	客員助教授
国内 0 外国人 0	国内 0

受託研究員	共同研究員	博士研究員		博士(博士後期)課程学生
		JSPS	その他	
4	2	0	1	48

＜学部・研究科等の研究活動の実施状況＞

1. 「ものづくり教育実践センター」を設置し、ものづくり教育を通じて科学技術と、ものづくりの重要性を啓発し、創造的人材の育成と併せて研究を推進した。
2. 建物改修の中で、共通スペースを広げ共同して研究を進めるとともに、プロジェクト実験室を作ることにより研究の進展に即応する体制を作った。
3. 「鳥取大学工学部技術シーズ集」を作成し、学内・学外へ情報発信している。
4. 教育研究の高度化・活性化を図ることを目的として、「教育・研究プロジェクト」9件の設置を推進した。
5. 教育研究重点配分経費を設け、戦略的経費として工学部における教育研究の一層の充実を図るため、積極的に研究活動に取り組んでいる中堅・若手研究者への研究助成に使用している。
6. 競争的研究費の獲得に向け、工学部で科学研究費補助金に関する説明会を開催した。
7. 民間との共同研究及び受託研究について、契約件数と金額が大きく伸びた。

研究活動実績票

別紙様式①ー乙

【研究成果一覧】

大学名	鳥取大学	学部・研究科名	工学部・機械工学科

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	松野 隆	講師	総合工学	1	[論文] 前縁ミニフラップによるデルタ翼のロール制御：松野 隆，横内 滋，中村 佳朗，日本航空宇宙学会論文集，52，608，429-434，2004
				2	デルタ翼におけるロール角に対する流れ場の不連続変化：松野 隆，横内 滋，中村 佳朗，日本航空宇宙学会論文集，52，608， 422-428，2004
				3	45° デルタ翼の失速域におけるウイングロックの振動機構：松野 隆，横内 滋，中村 佳朗，日本航空宇宙学会論文集，52，601， 80-88，2004
2	岸 武保	助教授	機械工学	1	[論文] 地元企業と連携したPBL 教育：機械工学実践教育プロジェク ト：近藤康雄他7，工学教育，51，5，31-36，2003
				2	Prediction of cutting forces and machining error in ball end milling of curved surfaces -II Experimental verification： B. W. Ikua, H. Tanaka, F. Obata, S. Sakamoto, T. Kishi, T. Ishii, Pre- cision Engineering, 26, 1, 69-82, 2002
3	小野 勇一	助手	機械工学	1	[論文] 微小円孔を有するニッケル合金薄膜による平均応力検出法（精度 の向上と周波数の影響）：小野勇一，北岡征一郎，池上洋一，田中 赴夫，鳥山真澄，日本機械学会論文集A 編，71，704，636-641， 2005
				2	円孔を有する電着銅薄膜による成長粒子の分布形状を利用した二 軸応力検出法：小野勇一，北岡征一郎，村松一樹，日本機械学会 論文集A 編，70，693，771-776，2004
				3	The effect of second principal stress on the fatigue propagation of mode I surface crack in Al203/Al alloy composites：S. Kitaoka, Y. Ono, International Journal of Fatigue, 25, 0, 1347-1355, 2003
4	金森 直希	助手	知能機械 学・機械シス テム	1	[論文] Feedback Control of an Active Sound Insulation Unit, Naoki Kanamori, Masaharu Nishimura and Takumi Mishihiro, Proceedings of the First International Symposium on Advanced Technology of Vibration and Sound (VSTech2005), pp.196-201 (2005. 6)
				2	Basic Research on Active Sound Insulation Unit, Masaharu Nishimura, Tomonobu Goto, Naoki Kanamori, Takumi Mishihiro, Yasuhiro Kimura, Proceedings of 18th International Congress on Acoustics (ICA2004), CD-ROM, Vol. III, pp.2169-2172, (2004. 4)
				3	Operating Feeling Based Design in Human-robot Collaborative Control Systems, Naoki Kanamori and Kazuo Tanaka, Journal of Robotics and Mechatronics, Vol. 12, No. 6, pp.604-613 (2002. 12)
5	小出 隆夫	助教授	機械工学	1	[論文] Surface Durability and Wear Characteristics of Plasma-Carburized Rollers：Koide, T., Tsubokura, K., Nakatani, M., Miyachika, K., Yakabe, M., Namba, C. and Oda, S., Proc. of The 3rd Asian Conference on Heat Treatment of Materials, 0, 0, 177-179, 2005

				2	まがりばかき歯車の歯当たり，伝達誤差と接触応力に及ぼす組立誤差の影響：小出隆夫・小田 哲・長田幸晴・加藤昭悟，日本設計工学会誌，39，8，444-449，2004
				3	Equivalent Misalignment of Gears Due to Deformation of Shafts, Bearings and Gears (Model Proposal and Development of Calculation Program) : Koide, T., Oda, S., Matsuura, S. and Kubo, A., JSME Int. J., Ser.C, 46, 4, 1563-1571, 2003
6	西村 正治	教授	機械工学	1	[論文] Effect of Several Kinds of Pile-Fabrics on reducing Aerodynamic Noise : Masaharu Nishimura, Tomonobu Goto, and Kiyotaka Kobayashi, 11th AIAA/CEAS Aeroacoustics Conference, AIAA 2005-3079, 0, 1-10, 2005
				2	Basic Research on Active Sound Insulation Unit : M.Nishimura, T.Goto, N.Kanamori, T.Mishiro and Y.Kimura, Proc. of ICA2004, 0, III, 2169-2172, 2004
				3	A New Concept for Reducing Sound Reflection Coefficient at a Duct Open End : M. Nishimura and K. Ikeda, Proc. of Internoise2003, 0, 0, 836-843, 2003
7	田中 久隆	教授	機械工学	1	[論文] Study on Ball End Milling of Cylindrical Surface (Influence of Cutting Direction on Machining Error) : Lin LU, Hisataka TANAKA, Masahiko SATO, Bernard W. IKUA, Yoshihito MAEDA, Naotoshi SUGIYAMA, Hiroshi YOSHIDA, Int. Conf. on Leading Edge Manufacturing in 21st Century, 0, 0, 933-938, 2005
				2	Study on Vibration Cutting by Using Piezo-electric Actuators : TANAKA Hisataka, SATO Masahiko et. al., 7th Int. Conf. on Progress of Machining Technology , 0, 0, 366-371, 2004
				3	Study on Chatter Vibration in Ramping of Sculptured Surfaces : Bernard W. Ikua, Hisataka Tanaka et al., Metal Cutting and High Speed Machining, 0, 0, 141-149, 2002
8	早川 元造	教授	材料工学	1	[論文] Low temperature martensitic transformation of zirconia with low contents of yttria: M. Hayakawa, J.-H. Pee, Y. Fujiwara, J. de Phys, IV France 112, 1107-1110, 2003
				2	Consolidation induced microstructural inhomogeneities in Al_2O_3 - ZrO_2 composites prepared by centrifugal slip casting: X. Li, M. Nagashima, L. Wang, T. Onda, M. Hayakawa, J. Ceram. Soc. Japan, 111 [12] 890-896, 2003.
				3	The kinetics of isothermal martensitic transformation of zirconia containing a small amount of yttria : J.-H. Pee, T. Akao, S. Ohtsuka, M. Hayakawa, Mater. Trans. , 44, 9, 1783-1789, 2003
9	佐藤 昌彦	講師		1	[論文] Measurement of Binderless CBN Tool Tip Temperature in End Milling by Infrared Radiation Pyrometer : Masahiko Sato, Takashi Ueda and Hisataka Tanaka, International Conference on Leading Edge Manufacturing in 21st Century, 0, 0, 911-914, 2005
				2	ファイバ連結型熱放射温度計によるバインダレス cBN エンドミル工具刃先温度の測定：佐藤昌彦，上田隆司，田中久隆，精密工学会誌，71，11，1437-1441，2005
				3	Measurement of Diamond Abrasive Grain Temperature in Grinding using Infrared Radiation Pyrometer : M. Sato and H. Tanaka, 7th International Symposium on Advances in Abrasive Technology, 0, 0, 471-476, 2004

10	落合 義孝	助手	熱工学	1	[論文] A Flow Visualization Study on Lubricating around Piston Skirt in Reciprocating Air Compressor. Y. OCHIAI, T. SUZUKI and H. KANEDA Proceedings of the 8 th International Symposium on Fluid Control, Measurement and Visualization CD-ROM Proceedings Paper 344
				2	On Dynamic Variation of Lubricating Oil Film Distribution within Piston-Cylinder Clearance in Four Stroke Internal Combustion Engine. Y. OCHIAI, T. SUZUKI and A. TSUTSUMI Proceedings of the 8 th International Symposium on Fluid Control, Measurement and Visualization CD-ROM Proceedings Paper 345
				3	ピストン2次運動とスカート部油膜厚さ測定：鈴木豊彦、落合義孝、RC191 エンジントライボロジーのモデリングに関する研究分科会研究報告書, 0, 0, 0-0, 2003
11	川添 博光	教授	機械工学	1	[論文] Experimental Feasibility-Study on Shock-Shock Interaction Wave-Rider : H. Nagai, H. Kawazoe, T. Mawsaki, Proc. 24th International Symposium on Space Technology and Science (Selected Paper), 0, 0, 535-540, 2004
				2	Effects of Leading Edge Separation Vortex of Flexible Structure Delta Wing on Its Aerodynamic Characteristics : H. Kawazoe,
				3	Ground Effect on the Dynamic Characteristics of a Wing-rock Delta Wing : H. Kawazoe, S. Morita, AIAA Paper, 0, 2004-2352, 1-11, 2004

研究活動実績票

別紙様式①-乙

【研究成果一覧】

大学名		鳥取大学		学部・研究科名		工学部・知能情報工学科	
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果		
1	橋本 隆司	助教授	数学	1	[論文] B_{n-1} -orbits on the flag variety GL_n/B_n : Takashi Hashimoto, Geometriae Dedicata, 105, 1, 13-27, 2004		
				2	A central element in the universal enveloping algebra of type D_n via minor summation formula of Pfaffians : Takashi Hashimoto, arXiv:math.RT/602055		
2	山本 祥弘	教授	制御工学	1	[論文] Identification and Control for Nonlinear Discrete Time Systems Using an Interconnected Neural Network : Y.Ya,mamoto, Proc. of the International Conference on Control, Automation, and Systems, 0, 0, 994-998, 2005		
				2	An simple model matching and an adaptive control for nonlinear discrete-time systems : Y.Yamamoto, T.Yamaguchi, K.Iwamoto, and H.Yoshimura, Proc. of the IFAC Workshop on Adaptation and Learning in Control and Signal Processing, 0, 0, 267-271, 2004		
				3	On a Triangular Neural Network : Y.Yamamoto, M.Aklashi, and H.Yoshimura, Proc. of the 6th Asia/Pacific Conference on Control and Measurement, 0, 0, 68-72, 2004		
3	増山 博	教授	総合領域	1	[論文] New Optimal Channel Assignment for Hierarchical Cellular Networks International Conference on Digital Telecommunications (Volume 1)		
				2	A Conference Network for Group Communications based on Multistage Interconnection Networks, 2006 IEEE International Conference on Networks (Volume 1)		
				3	e-Business and Telecommunication Networks		
4	三好 力	助教授	情報学	1	[論文] The Improvement of Web Page Retrieval by Page Grouping Using Fuzzy Reasoning : Tsutomu Miyoshi, Hiroo Joichi, International Journal of Innovative Computing, Information and Control (IJICIC), 2, 1, 237-247, 2006		
				2	Initial Node Exchange Using Learning Data and Convergence of SOM Learning : MIYOSHI Tsutomu, GESTS International Transactions on Computer Science and Engineering, 21, 1, 216-224, 2005		
				3	[特許出願] 自己組織化ネットワークシステム : 特許出願 2005-144111, , 鳥取大学, 2005		
5	菅原 一孔	教授	情報学	1	[論文] バスネットワークのための実用的な経路探索システム,川村 尚生, 菅原一孔, 情報処理学会論文誌, Vol. 48, No. 2 (2007).		
				2	複数領域抽出のための新しい引力項を持つ動的輪郭モデルのハードウェア実現について,三秋 俊雄, 川村 尚生, 菅原 一孔, 情報科学技術レターズ, pp. 261-264 (2006).		
				3	[共著] Squeak プログラミング入門 -オブジェクトランドへの招待-, 菅原 一孔, 鈴木 元, 阿部 和広, (株)エスアイビー・アクセス (2004).		

6	川村 尚生	助教授	情報学	1	[論文] 徒歩移動を考慮するパス経路探索システム : 川村 尚生, 楠神 元輝, 菅原 一孔, 情報処理学会論文誌, 46, 5, 1207-1210, 2005
				2	モバイルエージェントに基づく会議日程調整システム: 本村 真一, 影本 憲五, 川村 尚生, 菅原 一孔, 情報処理学会論文誌, 46, 12, 3123-3126, 2005
				3	モバイルエージェントに基づく P2P 型 e-Learning システム: 川村 尚生, 菅原 一孔, 情報処理学会論文誌, 46, 1, 222-225, 2005
7	村上 仁一	助教授	情報学	1	[論文]_音節波形接続による単語音声合成 (電子情報通信学会論文誌D-II Vol. J85-D-II No. 7 pp. 1157-1165 (2002-07))
				2	Speech Recognition using Valency Patterns (PACLING 2005 pp. 252-258 (2005-08))
				3	日本語重文・複文を対象とした文法レベル文型パターンの被覆率特性 (言語処理学会論文誌 Vol. 11, No. 4, pp. 148-178 (2004-10))
8	徳久 雅人	助手	情報学	1	[論文] Evaluation of Pattern Generalization Effect under Development of Pattern Dictionary for Machine Translation : Masato Tokuhisa, Kumiko Endo, Yuya Kanazawa, Jin'ichi Murakami, Satoru Ikehara, Proc. of Pacific Association for Computational Linguistics, 311-318, 2005
				2	Emotion Reasoning Based on Valency Patterns - a prototype annotation of causal relationships : Masato Tokuhisa, Tsutomu Tanaka, Satoru Ikehara, Jin'ichi Murakami, Proceedings of the 4th International Symposium on Human and Artificial Intelligence Systems, 1, 534-539, 2004
				3	日本語重文・複文を対象とした文法レベル文型パターンの被覆率特性 : 池原悟, 徳久雅人, 竹内 (村本) 奈央, 村上仁一, 自然言語処理, 11, 4, 147-178, 2004
9	竹森 史暁	助教授	機械工学	1	[論文] Constraint of Center of Gravity in a Biped Walking Robot via Sliding Mode Approach : Fumaki Takemori, Akira Kitamura and Daisuke Kushida, Proc. of 2004 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems, 0, 0, 1960-1965, 2004
				2	Soft Landing Approach for a Reduced Biped Walking Model : Fumiaki Takemori and Akira Kitamura, Proceedings of the IEEE/ASME International Conference on Advanced Intelligent Mechatronics, 0, 0, 753-758, 2003
				3	Robust Stability Analysis for Nonlinear Sampled-Data Control Systems in a Frequency Domain : Yoshifumi Okuyama and Fumiaki Takemori, European Journal of Control, 8, 2, 99-108, 2002
10	藪田 義人	助手	知能機械学・機械システム	1	[論文] Binocular Robot Vision System with Shape Recognition, Yoshito Yabuta, Hiroshi Mizumoto and Shiro Arii, SICE-ICASE International Joint Conference, pp5002-5005 (2006)
				2	Binocular robot vision system with autonomous movement of viewpoint : Y. Yabuta H. Mizumoto S. Arii, Proceedings of Electronic Imaging Three-Dimensional Image Capture and Applications VI, 5302, 0, 61-68, 2004
				3	ABinocular Machine Vision System with Autonomous Movement of Viewpoint : Yoshito Yabuta, Hiroshi Mizumoto, Yasuyuki Hossaka and Shiro Arii, The 6th International Conference on Mechatronics Technology, 0, 0, 146-149, 2002
11	木村 周平	助教授	情報学	1	遺伝的プログラミングを用いた関数最適化手法による遺伝子ネットワークの S-system モデルの推定 : 松村, 種田, 木村, 情報処理学会論文誌, 46, 11, 2814-2830, 2005

				2	Inference of S-system models of genetic networks using a cooperative coevolutionary algorithm : S. Kimura, K. Ide, A. Kashiwara, M. Kano, M. Hatakeyama, R. Masui, N. Nakagawa, S. Yokoyama, S. Kuramitsu and A. Konagaya, Bioinformatics, 21, 7, 1154-1163, 2005
				3	並列化に適した遺伝的ローカルサーチによる非線形関数最適化 : 木村, 高橋, 小林, 小長谷, 計測自動制御学会論文集, 40, 4, 448-457, 2004
12	有井 士郎	助教授	機械工学	1	A STUDY OF SIMULTANEOUS MEASUREMENT OF VOCAL FOLD VIBRATIONS AND FLOW VELOCITY : Shiro ARII, Hideyuki KATAOKA, Yoshitaka OCHIAI, Kensaku HASEGAWA, Hiroya KITANO and Toyohiko SUZUKI, Proceedings of The 16th International Symposium on Transport Phenomena , CD ROM, 0, 0-0, 2005
				2	DEVELOPMENT OF NEW WAVE POWER GENERATION SYSTEM : Hiroshi Kanki, Shiro Arii and Takahiro Hata, Proceedings of World Conference on Wind Energy, Renewable Energy, Fuel Cell, CD ROM, 0, 0-0, 2005
				3	Optimum trajectory planning in order to reduce vibration of one-link flexible arm based on first natural frequency, : S. Arii, M. Inoue, H. Tane, H. Mizumoto, Proceedings of the First Asian Conference on Multibody Dynamics, 0, 0, 266-273, 2002
13	松村 幸輝	教授		1	Walsh 変換を用いた遺伝的プログラミング手法に基づくファジィ交渉エージェント : 松村幸輝, 情報処理学会論文誌, 46, 1, 267-278, 2005
				2	Accelerated of Genetic Programming for Intelligent Fuzzy Robots : 村井保之, 松村幸輝, 巽久行, 辻弘幸, 徳増眞司, Journal of Advanced Computational Intelligence & Intelligent Informatics (ファジィ学会の英文論文誌), 8, 6, 582-590, 2004
				3	Obstacle avoidance fuzzy robot by GP that uses SVM : 村井保之, 鈴木信隆, 松村幸輝, 巽久行, 徳増眞司, Fuzzy Systems & Innovational Computing 2004 (FIC2004), 0, 0, 0-0, 2004

研究活動実績票

別紙様式①ー乙

【研究成果一覧】

大学名	鳥取大学	学部・研究科名	工学部・電気電子工学科

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	西守 克巳	教授	計測・制御工 学	1	[論文] GAによるコジェネレーションシステムの中小商業地域への最適配置 とコスト計算：西守克己, 土居正和, 西村 亮, 石原永伯, 第21回フ ァジシステムシンポジウム講演論文集, 0, 0, 300-303, 2005
				2	MathMLに対応したオンライン手書き数式認識システム：小林一馬, 西 守克己, 西村 亮, 石原永伯, 第19回ファジシステムシンポジウム 講演論文集, 0, 0, 271-274, 2003
				3	Temperature Sensor Around 0°C Using Surface Acoustic Wave Filter on ZnO/LiNbO3 : H. Yamamoto, N. Saiga, K. Nishimori, Trans. IEE of Japan (part E), 122, 5, 285-286, 2002
2	阿部 友紀	助手	応用物性・結 晶工学	1	[論文] High efficiency blue-violet optical modulators of ZnSe/ZnMgSSe asymmetric coupled quantum wells : T. Abe, T. Yoshida, N. Yamane, T. Nishiguchi, H. Kasada and K. Ando, phys. stat. sol. (c), 3, 4, 1209-1212, 2006
				2	High Gain and High Sensitive Blue-Ultraviolet Avalanche Photodiodes (APDs) of ZnSSe n ⁺ -i-p Structure Molecular Beam Epitaxy (MBE) Grown on p-type GaAs Substrates : T. Abe, K. Ando, K. Ikumi, H. Maeta, J. Naruse, K. Miki, A. Ehara and H. Kasada, Jpn. J. Appl. Phys., 44, 17, L508-L510, 2005
				3	New blue-ultraviolet PIN photodiodes of II-VI widegap compounds ZnSSe using p-type GaAs substrates grown by molecular beam epitaxy : T. Abe, H. Maeta, J. Naruse, K. Ikumi, T. Kubota, T. Fujiwara, H. Kasada and K. Ando, phys. stat. sol. (c), 4, 1, 1054-1057, 2004
3	加藤 義人	助教授	電力工学・電 気機器工学	1	[論文] Electronic Ballast Using Neutral Point Type Step-down Converter : Y. Kato, M. Nakamura, N. Takahashi, I. Yokozeki, IEEE PEDS 2005, 0, 0, 672-675, 2005
				2	Development and application of neutral point type down inverter for compact lamp : I. Yokozeki, Y. Kato, Y. Okamura, T. Kuratani, M. Ohkita, N. Takahashi, Journal of Light & Visual Environment, Vol. 29, No. 2, 62-66, 2005
				3	[共著] 新世代工学シリーズ パワーエレクトロニクス オーム社
4	小西 亮介	教授	電気電子工 学	1	[論文] Direction of Arrival Estimation of Multiple Voice Sources by Using Frequency and Phase Estimation Methods, : Yongmei Li, Ryuuji Katsura, Kazunori Sugahara and Ryosuke Konishi., Transactions of the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers of Japan., 86, 3, 320-325, 2003.
				2	[共著] 五感センサの開発最前線：小西亮介 齊藤 剛史, 視覚と聴覚を併用 した単語認識システムの構築, 廣瀬 通孝, 487-494, 2005, 株式会社 NTS, 東京都文京区湯島2-16-16

				3	[解説論文] 携帯電話・ネットワークを利用した個人用の防犯・生活支援システム、 小西亮介、 計測と制御, VOL. 44, No. 3, pp. 180-184, (2005.3).
5	西村 亮	助教授	電気電子工 学	1	[論文] Arrangement of fictitious charges and contour points in charge simulation method for electrodes with 3-D asymmetrical structure by immune algorithm : Ryo Nishimura and Katsumi Nishimori, Journal of Electrostatics , 63, 6-10, pp. 743-748, 2005
				2	“Elekiter” -Japan’ s First Electrical Machine- Restoration and Measuring Characteristics : Ryo Nishimura, Katsumi Nishimori and Naganori Ishihara, Proc. of IEJ-ESA Joint Symposium on Electrostatics ’ 04, pp. 311-322, 2004
				3	Improving the Performance of a PV Module Using Inexpensive Sunlight Concentrators : Ryo Nishimura, Katsumi Nishimori, and Naganori Ishihara, Proc. (CD-ROM) of World Renewable Energy Congress VIII, 2004
6	伊藤 良生	教授	電気電子工 学	1	[論文] A noise reduction method based on linear prediction with variable step-size : A. Kawamura, Y. IIGUNI and Y. Itoh, IEICE Trans. Fundamentals, vol. E88-A, no. 4, pp. 855-861, Apr. 2005.
				2	A noise reduction system for wideband and sinusoidal noise based on adaptive line enhancer and inverse filter : N. Sasaoka, K. Sumi, Y. Itoh, K. Fujii and A. Kawamura, IEICE Trans. Fundamentals, vol. E89-A, no. 2, pp. 503-510, Feb. 2006.
				3	“An Adaptive Algorithm with Variable Step-Size for Parallel Notch Filter : Arata KAWAMURA, Youji IIGUNI, and Yoshio ITOH, IEICE Trans. Fundamentals, vol. E89-A, no. 2, pp. 511-519, February 2006
7	藤村 喜久郎	助手	情報学	1	[論文] 球面 SOM を用いたクラスタ分析 : 中塚大輔, 徳高平蔵(*1), 藤村喜久 郎, 大北正昭, バイオメディカル・ファジィ・システム学会 第 17 回 年次大会講演論文集, 0, 0, 153-156, 2004
				2	指先加速度脈波を用いた視覚的な診断補助システムの提案 : 浦瀬新 也, 馬庭芳朗(*1), 松下大輔, 大田成人, 徳高平蔵(*2), 藤村喜久 郎, 大北正昭, バイオメディカル・ファジィ・システム学会 代 17 回 年次大会講演論文集, 0, 0, 147-150, 2004
				3	自己組織化マップ(SOM)を用いた健康評価システムの構築 : 馬庭芳朗, 池田佳弘, 黒澤仁, 徳高平蔵, 藤村喜久郎, バイオメディカル・ファ ジィシステム学会誌, 5, 1, 9-16, 2003
8	市野 邦男	助教授	応用物理・工 学基礎	1	[論文] Molecular beam epitaxy and structural properties of ZnCrS : Kunio Ichino, Yasuharu Morimoto and Hiroshi Kobayashi, Physica Status Solidi (c), 3, 4, 776-779, 2006.
				2	Li-doped p-type ZnS grown by molecular beam epitaxy : K. Ichino, Y. Matsuki, S. T. Lee, T. Nishikawa, M. Kitagawa and H. Kobayashi, Physica Status Solidi (c), 1, 4, 710-713, 2004
				3	Li-acceptor doping to ZnS by molecular beam epitaxy : Kunio Ichino, Sang Tae Lee, Yoshiyuki Matsuki, Tomonaga Nishikawa, Nobuhiro Sota, Masahiko Kitagawa and Hiroshi Kobayashi, Proc. First Asia-Pacific Workshop on Widegap Semiconductors, Hyogo, Japan, Mar. 9-12, 133-136, 2003.

9	副井 裕	教授	電気電子工学	1	[論文] DWTによるサブバンド分解と適応信号処理を用いたオンライン署名照合：中西、西口、伊藤、副井、電子情報通信学会論文誌A, J87-A, 6, 805-815, 2004
				2	全域通過フィルタを用いた多重適応ノッチフィルタのステップサイズに関する検討：衣笠、伊藤、小林、James Okello、副井、電気学会論文誌C, 123, 4, 0-0, 2003
				3	Current-Mode Biquad Using OTAs and CF : T. Tsukutani, Y. Sumi, M. Higashimura and Y. Fukui, Electronics Letters, 39, 3, 262-263, 2003
10	中井 生央	教授	電気電子工学	1	[論文] Simultaneous fitting with constraints for EXAFS study of anharmonic vibrational system : D.S. Yang, H.M. Park and I. Nakai, Physica Scripta, T115, 0, 240-242, 2005
				2	Feature of Fluorescence Spectra of Polyethylene Terephthalate Films : I. Ouchi, I. Nakai, M. Ono and S. Kimura, Jap. J. Appl. Phys., 43, 0, 8107-8114, 2004
				3	The magnetovolume effect of an amorphous magnet Gd ₆₇ Ni ₃₃ : I. Nakai, H. Tange, K. Konishi, T. Kamimori, A. Chikazawa and Y. Motegi, J. Phys. Soc. Jpn. 72 (2003) 1184-1190, 72, 0, 1184-1190, 2003

研究活動実績票

別紙様式①－乙

【研究成果一覧】

大学名	鳥取大学	学部・研究科名	工学部・物質工学科

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	小林 和裕	助教授	複合化学	1	[論文] Synthesis of 11H-Indolo[3,2-c]quinoline Derivatives Carrying a Substituent at the 6-Position : Kazuhiro Kobayashi, Yusuke Izumi, Kazutaka Hayashi, Osamu Morikawa, and Hisatoshi Konishi, Bull. Chem. Soc. Jpn., 78, 12, 2171-2174, 2005
				2	A convenient synthesis of quinolines by reactions of o-isocyano-b-methoxystyrenes with nucleophiles : Kazuhiro Kobayashi, Keiichi Yoneda, Kazuna Miyamoto, Osamu Morikawa, Hisatoshi Konishi, Tetrahedron, 60, 50, 11639-11645, 2004
				3	Synthesis of 1H-2-Benzopyran-5,8-dione Derivatives from 2-(1-Hydroxyalkyl)-1,4-benzoquinones and Enamines : Kazuhiro Kobayashi, Kosaku Nomura, Toshikazu Ogata, Miyuki Tanmatsu, Osamu Morikawa, Hisatoshi Konishi, Synthesis, 0, 5, 673-676, 2003
2	川面 基	助教授	有機化学	1	[論文] Hafnium Trifluoromethanesulfonate [Hf(OTf) ₄] Catalyzed Conjugate Addition of Indoles to α , β -Enones : Kawatsura, M. ; Aburatani, S. ; Uenishi, J., Synlett, 0, 0, 2492-2494, 2005
				2	Palladium-Catalyzed Construction of Amino Acid Derivatives Possessing Vicinal Chiral Quaternary and Tertiary Carbon Centers at the α and β Positions. : Kawatsura, M. ; Ikeda, D. ; Uenishi, J., Tetrahedron Lett., 46, 0, 6663-6666, 2005
				3	Palladium-Catalyzed Asymmetric Allylic Substitution with a Indenide: Hayashi, T. ; Suzuka, T. ; Okada, A. ; Kawatsura, M. Tetrahedron Asymmetry 2004 15, 545-548
3	高井 茂臣	助手	材料化学	1	[論文] S. Takai, S. Touda, K. Oikawa, K. Mori, S. Torii, T. Kamiyama and T. Esaka: " Powder Neutron Diffraction Study of La-substituted PbWO ₄ Oxide Ion Conductors ", Solid State Ionics, Vol 148, pp.123-133, 2002.
				2	S. Takai, T. Nakanishi, K. Oikawa, S. Torii, A. Hoshikawa, T. Kamiyama and T. Esaka: "Neutron diffraction and IR spectroscopy on mechanically alloyed La-substituted PbWO ₄ ", Solid State Ionics Vol 170, pp.297-304, 2004.
				3	S. Takai, T. Mandai, Y. Kawabata and T. Esaka, "Diffusion Coefficient Measurements of La _{2/3-x} Li _{3x} TiO ₃ using Neutron Radiography", Solid State Ionics, Vol 176, pp.2227-2233, 2005
4	早瀬 修一	助手	基礎化学	1	[論文] Possible origin of modified EAG activity by point-fluorination of the insect pheromone eldanolide : Hayase S, Renou M, Itoh T, EUROPEAN JOURNAL OF ORGANIC CHEMISTRY, 2005, 13, 2777-2781, 2005
				2	Synthesis and Biological Activity of Point-Fluorinated Pheromone Analogues of Eldana saccharina : T. Itoh, K. Kudo, K. Yokota, N. Tanaka, S. Hayase, and M. Renou, Eur. J. Org. Chem., 2004, 2, 406-412, 2004

				3	A B3LYP study of the Effects of Phenyl Substituents on 1,5-Hydrogen shifts in 3-Z-1,3-Pentadiene Provides Evidence against a Chameleonic Transition Structure :S. Hayase, D. A. Hrovat, and W. T. Borden, J. Am. Chem. Soc., 126, 32, 10028-10034, 2004
5	丹羽 幹	教授	プロセス工学	1	[論文] Shape Selective Adsorption of Substituted Benzaldehyde Isomers by Molecular Sieving Silica Overlayer Prepared by Chemical Vapor Deposition Method Using Organic Template on Tin Oxide :S. Yamakita, N. Katada, and M. Niwa,, Bull. Chem. Soc. Jpn., 78, 0, 1425-1430, 2005
				2	Ammonia IRMS-TPD Study on the Distribution of Acid Sites in Mordenite :M. Niwa, K. Suzuki, N. Katada, T. Kanougi and T. Atoguchi, J. Phys. Chem., B, 109, 0, 18749-18757, 2005
				3	Ultra-fine Tuning of Microporous Opening Size in Zeolite by CVD :D. Lu, J. N. Kondo, K. Domen, H. A. Begum, M. Niwa, J. Phys. Chem., B, 108, 0, 2295-2299, 2004
6	片田 直伸	助教授	工学、プロセス工学、触媒・資源化学プロセス経営学	1	[論文] Shape-Selective Adsorption of Substituted Benzaldehyde Isomers by a Molecular Sieving Silica Overlayer Prepared by the Chemical Vapor Deposition Method Using Organic Template on Tin Oxide : Shohei Yamakita, Naonobu Katada* and Miki Niwa, Bull. Chem. Soc. Jpn, 78, 8, 1425-1430, 2005
				2	Standardization of Catalyst Preparation Using Reference Catalyst. Ion Exchange of Mordenite Type Zeolite 1: Remarkable Dealumination Accompanying Ion Exchange :Naonobu Katada*, Tatsuya Takeguchi, Tatsuya Suzuki, Toshihisa Fukushima, Kinya Inagaki, Setsuo Tokunaga, Hiromichi Shimada, Koichi Sato, Yasunori Oumi, Tsuneji Sano, Kohichi Segawa, Kazuyuki Nakai, Hiroshi Shoji, Peng Wu, Takashi Tatsumi, Takayuki Komatsu, Takao Masuda, Kazunari Domen, Eisuke Yoda, Junko N. Kondo, Toshio Okuhara, Yasuyoshi Kageyama, Miki Niwa, Masaru Ogura, Masahiko Matsukata, Eiichi Kikuchi, Noriyasu Okazaki, Motoi Takahashi, Akio Tada, Shogo Tawada, Yoshihiro Kubota, Yoshihiro Sugi, Yasuhiko Higashio, Masahiko Kamada, Yukiyo Kioka, Kohei Yamamoto, Takayuki Shouji, Yusaku Arima, Yasuaki Okamoto and Hideyuki Matsumoto,, Appl. Catal., A: Gen, 283, 1-2, 63-74, 2005
				3	Ammonia IRMS-TPD study on the distribution of acid sites in mordenite :Miki Niwa*, Katsuki Suzuki, Naonobu Katada, Tomonori Kanougi and Takashi Atoguchi, J. Phys. Chem., B, 109, 40, 18749-18757, 2005
7	斎本 博之	教授	複合化学	1	[論文] Preparation of New UV-Curable Chitosan Derivatives and their Biocompatibility :E. Renbutsu, M. Hirose, Y. Omura, F. Nakatsubo, Y. Okamura, Y. Okamoto, H. Saimoto, Y. Shigemasa, S. Minami, Biomacromolecules, 6, 5, 2385-2388, 2005
				2	Reaction of C3 and C4 Ketoses with Alkenals and Alkenones in Water :H. Saimoto, T. Onitsuka, H. Motobe, S. Okabe, Y. Takamori, M. Morimoto, and Y. Shigemasa, Tetrahedron Lett, 45, 48, 8777-8780, 2004
				3	Synthesis of new chitosan derivatives and combination with biodegradable polymer : Omura, Y., Renbutsu, E., Morimoto, M., Saimoto, H., Shigemasa, Y., Polym. Adv. Technol., 14, 1, 35-39,

8	小西 久俊	教授	複合化学	1	[論文] Sc(OTf) ₃ -catalyzed Cyclocondensation of 2-Propylresorcinol with Diethoxymethane. Formation and Fragmentation of Resorcin[n]arenes: Osamu Morikawa, Masashi Yanagimoto, Hijiri Sakakibara, Kazuhiro Kobayashi, Hisatoshi Konishi, <i>Tetrahedron Lett.</i> , 45, 5731-5734, 2004.
				2	Singly bridged double resorcin[4]arene bearing sixteen hydroxyl groups. Formation of capsular-type inclusion complexes in methanol : Hisatoshi Konishi, Osamu Morikawa, Kazuhiro Kobayashi, Kazuyuki Abe, Atsushi Ohkubo, <i>Tetrahedron Lett.</i> , 44, 0, 7425-7427, 2003
				3	[共著] Synthesis and Conformational Properties of Resorcin[4]arenes with Unsubstituted Methylene Bridges: Hisatoshi Konishi, New Trend in Structural Organic Chemistry, Editor: Hiroyuki Takemura, Research Signpost. Kerala, (2005)
9	江坂 享男	教授	材料化学	1	[論文] Analysis of Lithium and Hydrogen Movement in Functional Solid Materials by Neutron Radiography : T. Esaka, <i>Ionics</i> , 10, 5&6, 356-365, 2004
				2	[共著] ﻿Defects and Diffusion in Ceramics -An Annual Retrospective IV- : ﻿S. Takai, T. Esaka﻿Preparation of functional oxide materials by means of mechanical alloying - In view of ionic conductive oxide -, ﻿D. Fisher, 3-18, 2002, ﻿Scitec Publication, London
				3	[特許出願] 全固体二次電池 : 特願 2004-特願 2004-, ﻿江坂享男, 坂口裕樹, 岩倉千秋, 井上博史, 蔭井慎也, 沼田幸一, 2004
10	伊藤 敏幸	教授	化学・複合化学・合成化学	1	[共著] Optically Active <i>gem</i> -Difluorocyclopropanes: Synthesis and Application for Novel Molecular Materials: Itoh, , "Fluorine-Containing Synthons," ACS Symposium Series #911, Ed, V. A. Soloshonok, Oxford University Press/ American Chemical Society: Washington DC, Chapter 25, pp. 430-439, 2005.
				2	[論文] Synthesis and biological activity of point-fluorinated pheromone analogues of Eldana saccharina : Itoh, T. ; Kudo, K. ; Yokota, K. ; Tanaka, N. ; Hayase, S. ; Renou, M. , <i>Eur. J. Org. Chem.</i> , 0, 2, 406-412, 2004
				3	Enhanced Enantioselectivity and Remarkable Acceleration on the Lipase-Catalyzed Transesterification Using Novel Ionic Liquids, Itoh, T. ; Han, S. ; Matsushita, Y. ; Hayase, S. <i>Green Chem.</i> 6, 9, 437-439. 2004.
11	森川 修	助手	複合化学	1	[論文] Sc(OTf) ₃ -catalyzed Cyclocondensation of 2,4-Dialkoxybenzyl Alcohols. Formation of Resorcin[n]arenes Peralkyl Ethers : Osamu Morikawa, Tomonori Ishizaka, Hijiri Sakakibara, Kazuhiro Kobayashi, Hisatoshi Konishi, <i>Polymer Bull.</i> , 53, 97-107, 2005
				2	Sc(OTf) ₃ -catalyzed Cyclocondensation of 2-Propylresorcinol with Diethoxymethane. Formation and Fragmentation of Resorcin[n]arenes : Osamu Morikawa, Masashi Yanagimoto, Hijiri Sakakibara, Kazuhiro Kobayashi, Hisatoshi Konishi, <i>Tetrahedron Lett.</i> , 45, 5731-5734, 2004

				3	Trifluoromethanesulfonic acid-Catalyzed Synthesis of Resorcinarenes: Cyclocondensation of 2-Bromoresorcinol with Aldehydes : Osamu Morikawa, Ryoji Ueno, Kazuki Nakajima, Kazuhiro Kobayashi, Hisatoshi Konishi, <i>Synthesis</i> , 6, 761-765, 2002
12	奥村 和	助手	触媒・資源化学プロセス	1	[論文] Quick XAFS Studies on the Y-Type Zeolite Supported Au Catalysts for CO-O ₂ Reaction : K. Okumura, K. Yoshino, K. Kato and M. Niwa, <i>J. Phys. Chem. B</i> , 109, 25, 12380-12386, 2005
				2	[共著] 分析試料前処理ハンドブック : 奥村 和, XAFS, 342-344, 2003, 丸善
				3	[特許出願] アルキル化反応用触媒およびアルキル置換芳香族化合物の製造方法 : 特願 2005-075976, 山下克彦・平野美穂・丹羽幹, 奥村和, 2005
13	坂口 裕樹	教授	材料化学	1	[論文] Structural Analysis of Pure and Electrochemically Lithiated SiO Using Neutron Elastic Scattering : Y. Nagao, H. Sakaguchi, H. Honda, T. Fukunaga, and T. Esaka, <i>J. Electrochem. Soc.</i> , 151, A1572-A1575, 2004.
				2	Ce-Sn Intermetallic Compounds as New Anode Materials for Rechargeable Lithium Batteries : H. Sakaguchi, H. Honda, Y. Akasaka, and T. Esaka, <i>J. Power Sources</i> , 119, 0, 50-55, 2003
				3	[共著] Chapter 5 ; Construction of solid/solid interface between hydrogen storage alloy electrode and solid electrolyte for battery application : C. Iwakura, H. Inoue, N. Furukawa, S. Nohara, H. Sakaguchi, and M. Morita, <i>Solid State Ionics for Batteries</i> , Edited by Tsutomu Minami, Published by Springer-Verlag, pp.133-186, 2005 年 5 月.

研究活動実績票

別紙様式①-乙

【研究成果一覧】

大学名		鳥取大学	学部・研究科名		工学部・生物応用工学科

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	木瀬 直樹	教授	複合化学	1	[論文] Electroreductive Intramolecular Coupling of Aromatic Imino Esters: Four-membered Cyclization is Much More Favorable Than Six-membered Cyclization?: N. Kise, Y. Hirano, and Y. Tanaka Org. Lett., 8, 7, 1323-1325, 2006
				2	Electroreductive Intramolecular Coupling of Aromatic b- and g-Imino Esters: A New Synthetic Method for N-Alkoxy carbonyl-2-aryl-3-ones and cis-2-Aryl-3-ols of Pyrrolidines and Piperidines : N. Kise, K. Ohya, K. Arimoto, Y. Yamashita, Y. Hirano, T. Ono, and N. Ueda, J. Org. Chem., 69, 22, 7710-7719, 2004
				3	Electroreductive Intramolecular Coupling of Chiral a-Imino Esters: Stereoselective Synthesis of Mixed Ketals of cis-2,4-Disubstituted Azetidine-3-ones : N. Kise, H. Ozaki, N. Moriyama, Y. Kitagishi, and N. Ueda, J. Am. Chem. Soc., 125, 38, 11591-11596, 2003
2	大城 隆	講師	農芸化学	1	[論文] Dibenzothiophene desulfurizing enzymes from moderately thermophilic bacterium Bacillus subtilis WU-S2B: Purification, characterization and overexpression : Takashi Ohshiro, Yoshitaka Ishii, Toshiyuki Matsubara, Koichi Ueda, Yoshikazu Izumi, Kuniki Kino, and Kohtaro Kirimura, J. Biosci. Bioeng., 100, 3, 266-273, 2005
				2	Modification of halogen specificity of a vanadium-dependent bromoperoxidase : T. Ohshiro, J. Littlechild, E. Garcia-Rodriguez, M. N. Isupov, Y. Iida, T. Kobayashi, and Y. Izumi, Protein Science, 13, 0, 1566-1571, 2004
				3	Flavin reductase coupling with two monooxygenases involved in dibenzothiophene desulfurization: purification and characterization from a non-desulfurizing bacterium, Paenibacillus polymyxa A-1 : T. Ohshiro, Y. Aoi, K. Torii, and Y. Izumi, Appl. Microbiol. Biotechnol, 59, 0, 649-657, 2002
3	本郷 邦広	助手	生物科学	1	[論文] Multiple structural transitions of the GroEL subunit are sensitive to intermolecular interactions with cochaperonin and refolding polypeptide : Tatsunari Yoshimi, Kunihiro Hongo, Tomohiro Mizobata and Yasushi Kawata , J. Biochem. , 139, 3, 407-419, 2006
				2	A novel ATP/ADP hydrolysis activity of hyperthermostable group II chaperonin in the presence of cobalt or manganese ion : Kunihiro Hongo, Hidenori Hirai, Chisato Uemura, Shujiro Ono, Junjiro Tsunemi, Takashi Higurashi, Tomohiro Mizobata and Yasushi Kawata , FEBS Lett. , 580, 1, 34-40, 2006
				3	Amyloid fibril formation of α -synuclein is accelerated by preformed amyloid seeds of other proteins: Implications for the mechanism of transmissible conformational diseases : Hisashi Yagi, Eiko Kusaka, Kunihiro Hongo, Tomohiro Mizobata and Yasushi Kawata, J. Biol. Chem. , 280, 46, 38609-38616, 2005

4	櫻井 敏彦	助教授	複合化学	1	[論文] T. Sakurai, M. Horikawa, M. S. Chowdhury, A. Kubo, M. Takafuji, H. Hachisako, I. Taniguchi, and H. Ihara, Structure of Dioctadecyl L-glutamide-derived Lipid Self-assembled Monolayers on Au(111) surface., Applied Surface Science, 253, 869-873 (2006).
				2	[単著] 櫻井敏彦, ペプチド会合構造の制御, 生物工学会誌, 第84巻10号, 2006年
				3	[特許出願] セルロース誘導体粒子及びその製造方法ならびにそれを用いた化粧料, 特開 (P2003-252903A) 特願 (P2002-51921) (2002. 2. 27)
5	吉井 英文	助教授	農芸化学	1	[論文] Microencapsulation of l-menthol by spray drying and its release characteristics : A. Soottitantawat, K. Takayama, K. Okamura, D. Muranaka, H. Yoshii, T. Furuta, M. Ohkawara and P. Linko, Inn. Food Sci. and Emerg. Technol., 6, 0, 163-170, 2005
				2	Retention of cyclodextrin complex shiitake (Lentinus edodes) flavors with spray drying. : H. Yoshii, M. Yasuda, T. Furuta, H. Kuwahara, M. Ohkawara and Pekka Linko, J. Drying Technology, 23, 0, 1217-1227, 2005
				3	シクロデキストリンの食品加工への応用 : 吉井英文, 日本食品科学工学会誌, 51, 12, 64-6, 2004
6	築瀬 英司	教授	農芸化学	1	[論文] Ethanol production from cellobiose by <i>Zymobacter palmae</i> carrying the <i>Ruminococcus albus</i> β -glucosidase gene, H. Yanase K. Yamamoto, D. Sato and K. Okamoto, J. Biotech., 118, 35-43 2005
				2	Formaldehyde dismutase: how the tight binding of NAD(H) is done by a nicotinoprotein : Hideshi Yanase, Kenji Okamoto, Hiroshi Tachihara, Norihiko Mukai, and Nobuo Kato, Gordon Research Conference, 7, 0, 0-0, 2002
				3	エコバイオエネルギーの最前線 (分担執筆), 築瀬英司、植田充美・近藤昭彦監修, p. 53-59 (2005)
7	河田 康志	教授	生物科学	1	[論文] Amyloid Fibril Formation of α -Synuclein is Accelerated by Preformed Amyloid Seeds of Other Proteins: Implications for the Mechanism of Transmissible Conformational Diseases: Hisashi Yagi, Eiko Kusaka, Kunihiro Hongo, Tomohiro Mizobata, and Yasushi Kawata, J. Biol. Chem., 280, 46, 38609-38616, 2005
				2	GroEL-Substrate-GroES Ternary Complexes Are an Important Transient Intermediate of the Chaperonin Cycle : Takuya Miyazaki, Tatsunari Yoshimi, Yoshinobu Furutsu, Kunihiro Hongo, Tomohiro Mizobata, Masaaki Kanemori, and Yasushi Kawata, J. Biol. Chem., 277, 52, 50621-50628, 2002
				3	[著書 (共著)] タンパク質工学 : 河田康志, 分子シャペロンによるタンパク質の構造形成と品質管理, 加藤昭夫, 43-86, 2004, 医学出版, 東京都
8	溝端 知宏	助教授	生物科学	1	[論文] Multiple Structural Transitions of the GroEL Subunit Are Sensitive to Intermolecular Interactions with Cochaperonin and Refolding Polypeptide. : Yoshimi, T., K. Hongo, T. Mizobata and Y. Kawata, J Biochem (Tokyo), 139, 3, 407-419, 2006

				2	Amyloid Fibril Formation of {alpha}-Synuclein Is Accelerated by Preformed Amyloid Seeds of Other Proteins: IMPLICATIONS FOR THE MECHANISM OF TRANSMISSIBLE CONFORMATIONAL DISEASES. :Yagi, H., E. Kusaka, K. Hongo, T. Mizobata and Y. Kawata, J Biol Chem, 280, 46, 38609-38616, 2005
				3	Conformational Changes in the GroEL Apical Domain: Relationships between Movements in the Apical Domain and the Quaternary Structure of GroEL : Masaaki Taniguchi, Tatsunari Yoshimi, Kunihiro Hongo, Tomohiro Mizobata, and Yasushi Kawata, J. Biol. Chem., 279, 16, 16368-16376, 2004
9	和泉 好計	教授	農芸化学	1	[論文] Biosynthesis of ϵ -poly-L-lysine in a cell-free system : T. Kawai, T. Kubota, J. Hiraki, and Y. Izumi, Biochem. Biophys. Res. Commun., 311, 0, 635-640, 2003
				2	Flavin reductase, coupling with two monooxygenases involved in DBT desulfurization: Purification and characterization from a non-desulfurizing bacterium, Paenibacillus polymyxa A-1 : T. Ohshiro, Y. Aoi, K. Torii and Y. Izumi, Appl. Microbiol. Biotechnol., 253, 0, 1082-1089, 2002
				3	Enhancement and stabilization of desulfurization activity of Rhodococcus erythropolis KA2-5-1 by feeding ethanol and sulfur components : O. Yoshikawa, Y. Ishii, K. Koizumi, T. Ohshiro, Y. Izumi, and K. Maruhashi, J. Biosci. Biotechnol., 94, 0, 447-452, 2002
10	古田 武	教授	化学工学	1	[論文] Microencapsulation of l-menthol by spray drying and its release characteristics : 4) A. Soottitantawat, K. Takayama, K. Okamura, D. Muranaka, H. Yoshii, T. Furuta, M. Ohkawara and P. Linko, Inn. Food Sci. and Emerg. Technol., 6, 0, 163-170, 2005
				2	[共著] 食品工学ハンドブック : 古田 武, 「乾燥」, 松野隆一、宮脇長人, 249-283, 2006, 朝倉書店, 東京都新宿区
				3	[編集・監修] 食品の高機能粉末・カプセル化技術 : 古田 武、村勢則朗、安達修二、辻本 進、中村哲也, 336, 2003, Science Forum 社, 東京都文京区本郷 2-40-14

研究活動実績票

別紙様式①-乙

【研究成果一覧】

大学名	鳥取大学		学部・研究科名	工学部・土木工学科	
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	野口 竜也	助手	土木工学	1	[論文] Determination of Subsurface Structure of Tottori Plain Using Microtremors and Gravity Anomaly : Tatsuya Noguchi, Ryohei Nishida, Journal of Natural Disaster Science, 1-13, 2002
				2	人工地震・微動・重力観測による鳥取平野の地盤構造の推定：野口竜也，西田良平，岡本拓夫，平澤孝規，土木学会地震工学論文集，CD-ROM，2003
				3	1943 年鳥取地震の被害状況と地盤震動特性の関係：野口竜也，窪田彰夫，西田良平，第 12 回日本地震工学シンポジウム論文集，CD-ROM，No. 58，2006
2	吉野 公	助教授	土木工学	1	[論文] フライアッシュの性質が混和剤の添加量に及ぼす影響：吉野 公，井上正一，黒田 保，村山真一，コンクリート工学年次論文報告集，27，1，175-180，2005
				2	フェロニッケルスラグ微粉末を用いた高流動コンクリートの硬化後の性質：吉野 公，井上正一，黒田 保，コンクリート工学年次論文集，25，1，983-988，2003
				3	[共著] フレッシュコンクリートの流動特性とその予測：谷川恭雄，三島直生，黒川善幸，吉野 公，橋爪 進，寺西浩司，渡辺健治，井上和政，森 博嗣，材料性状と調合の関係，谷川恭雄，42-52，2004，セメントジャーナル社，東京都新宿区新宿
3	黒田 保	助手	土木工学	1	[論文] NaOH 溶液に浸せきしたコンクリートの ASR 膨張に与える保存条件の影響：黒田保，井上正一，吉野公，西林新蔵，コンクリート構造物の補修，補強，アップグレード論文報告集，第 5 巻，pp. 159-166，2005
				2	EFFECTS OF PARTICLE SIZE, GRADING AND CONTENT OF REACTIVE AGGREGATE ON ASR EXPANSION OF MORTARS SUBJECTED TO AUTOCLAVE METHOD : Tamotsu Kuroda, Shoichi Inoue and Akira Yoshino and Shinzo Nishibayashi, Proceedings of the 12th International Conference on Alkali-Aggregate Reaction in Concrete, Volume II, pp. 736-743, 2004
				3	各種試験環境下におけるモルタルの ASR 膨張特性：黒田保，小谷憲司，高見新一，西林新蔵，コンクリート工学年次論文集，第 25 巻，第 1 号，pp. 95-100，2003
4	藤村 尚	教授	土木工学	1	[論文] 鮮新世火山岩類風化土の安定処理：藤村尚，坂口雅範，新任修，日本材料学会，第 5 回地盤改良シンポジウム，pp. 99-102，2002
				2	2000 年鳥取県西部地震を考える・特別講演：藤村尚，中国地質業協会，pp. 1-11，2002
				3	藤村 尚：鳥取県岩石の作成データベース，(社)地盤工学
5	梶川 勇樹	助手	土木工学	1	[論文]： 梶川勇樹，道上正規，檜谷治，中村真郷：常射流混在場における段落ち下流部の局所洗掘現象に関する数値計算，水工学論文集，第 49 巻，pp. 775-780，2005.

				2	Kajikawa, Y., Michiue, M., Matsubara, Y., Hinokidani, O. and H. Nakamoto: Numerical simulation of complex flow over back-ward facing step, Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering, November, 2004.
				3	梶川勇樹, 道上正規, 松原雄平, 檜谷治, 中本英利: 段落ち部における常射流混在流れの数値計算, 水工学論文集, 第47巻, pp. 823-828, 2003.
6	上田 茂	教授	土木工学	1	[論文] Examination of Ship Suffering at the Hatsukaichi Area Lumber Wharf: 上田茂, 紀村亮, 日根野元裕, Proc. of the 2nd(2005) ICS 2005, 2, A3-3, 1-12, 2005
				2	信頼性理論による船舶接岸用防舷材の性能設計に関する研究: 上田茂, 岡田達彦, 長尾毅, 海岸工学論文集, 51, 0, 846-850, 2004
				3	Velocity and Temperature Factor on the Performance of Solid Type Rubber Fender Applying "Temperature-Frequency Reducibility" to Rubber Fender: 山瀬晴義, 上田茂, Proc. of the 14th(2004) ISOPE 2004, 14, 0, 794-801, 2004
7	谷口 朋代	助教授	土木工学	1	[論文] Rocking dynamics of unanchored model flat-bottom cylindrical shell tanks subjected to harmonic excitation: T. Taniguchi, Journal of Pressure Vessel Technologies, 127, 4, 373-386, 2005
				2	Nonlinear response analysis of rectangular rigid bodies subjected to horizontal and vertical ground motion: T. Taniguchi, Journal of Earthquake Engineering and Structural Dynamics, 31, 8, 1481-1500, 2002
				3	[編集・監修] Seismic Engineering-2005; Seismic Response of Structures: C. S. Tsai (T. Taniguchi), 41, 2005, American Society of Mechanical Engineers, Three Park Avenue New York, NY 10016
8	矢島 啓	助教授	土木工学	1	[論文] 選択取水方式がダム貯水池の長期・短期の水質保全に与える影響に関する研究: 矢島 啓・吉川栄・石黒潤, 土木学会水工学論文集, 第50巻, 1375-1380, 2006
				2	湖山池における海陸風が支配する流れ場と内部波に関する研究: 矢島 啓・石黒 潤・Jorg IMBERGER, 土木学会水工学論文集, 第48巻, 1399-1404, 2004
				3	[共著] 土砂災害の警戒・避難システム: 小川滋・久保田哲也・平松晋也・矢島啓他, 土砂災害をもたらす豪雨の特性, 小川滋, 78-84, 2006, 九州大学出版会, 福岡市東区箱崎 7-1-146
9	塩崎 一郎	助教授	地球惑星科学	1	[論文] Resistivity imaging across the source region of the 2004 Mid-Niigata Prefecture earthquake (M6.8), central Japan: Uyeshima M, Ogawa Y, Honkura Y, Koyama S, Ujihara N, Mogi T, Yamaya Y, Harada M, Yamaguchi S, Shiozaki I, Noguchi T, Kuwaba Y, Tanaka Y, Mochido Y, Manabe N, Nishihara M, Saka M, Serizawa M, EARTH PLANETS AND SPACE, 57, 5, 441-446, 2005
				2	Network-MT survey in Japan to determine nation-wide deep electrical conductivity structure: Uyeshima M., M. Ichiki, I. Fujita, H. Utada, Y. Nishida, H. Satoh, M. Mishina, T. Nishitani, S. Yamaguchi, I. Shiozaki, H. Murakami, and N. Oshiman, In Seismotectonics at the Convergent (Eds. Y. Fujinawa and A. Yoshida), Terra Science Publishing Company, 0, 0, 107-121, 2002
				3	Water-weakened lower crust and its role in the concentrated deformation in the Japanese Islands: Iio Y., T. Sagiya, Y. Kobayashi and I. Shiozaki, Earth and Planetary Science Letters, 203, 245-253, 2003, 0, 245-253, 2002

10	井上 正一	教授	土木工学	1	フライアッシュの性質が混和材の添加量に及ぼす影響：吉野公, 井上正一, 黒田 保, コンクリート工学年次論文集, 27, 1, 175-200, 2005
				2	まさ土を細骨材として用いたコンクリートの物性：井上正一, 黒田保, 吉野 公, 材料, 53, 10, 1077-1082, 2004
				3	Prediction Equations for Creep and Drying Shrinkage in Concrete of Wide-range Strength：Kenji Sakata, Tatsuya Tsubaki, Shoichi Inoue, Toshiki Ayano, Concrete Libraly International, JSCE, 39, 145-166, 2002

研究活動実績票

別紙様式①ー乙

【研究成果一覧】

大学名	鳥取大学		学部・研究科名		工学部・社会開発システム工学科
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	山田 茂	教授	社会・安全システム科学	1	[論文] 「ソフトウェア設計レビューにおける信頼性に影響を及ぼす人的要因の品質工学的評価」:山田茂, 松田僚太郎, 日本経営工学会論文誌, Vol. 54, No. 1, pp. 71-79, 2003
				2	[共著] 「ソフトウェアの信頼性: モデル, ツール, マネジメント」: 全章, 山田茂, pp. 1-104, 2004, プロジェクトマネジメント学会
				3	” Software Reliability Models”, in “Stochastic Models in Reliability and Maintenance” : Shigeru Yamada, pp. 253-280, 2002, Springer-Verlag, Berlin
2	井上 真二	助手	社会・安全システム科学	1	[論文] Discrete software reliability assessment with discretized NHPP models : Shinji Inoue and Shigeru Yamada, Computers & Mathematics with Applications: An International Journal, 51, 2, 161-170, 2006
				2	Testing-coverage dependent software reliability growth modeling : Shinji Inoue and Shigeru Yamada, International Journal of Reliability, Quality and Safety Engineering, 11, 4, 303-312, 2004
				3	[共著] Advanced Reliability Modeling : Shinji Inoue and Shigeru Yamada, Continuous-state software reliability growth modeling with testing-effort and its goodness-of-fit, Tadashi Dohi and Won Young Yun, 189-196, 2004, World Scientific, Singapore
3	谷本 圭志	助教授	土木工学	1	[論文] 公共交通のサービスレベル低下による生活行動の格差分析: 宮崎耕輔, 徳永幸之, 菊池武弘, 小枝昭, 谷本圭志, 喜多秀行, 土木計画学研究・論文集 22, pp. 583-591, 2005.
				2	Cost Allocation in Joint Replacement for Multi-State Deteriorating Systems : K. Tanimoto, Proc. of the 2005 IEEE Int. Conf. on Systems, Man and Cybernetics, CR-ROM, pp. 1150-1155, 2005.
				3	環境管理施設の共同更新のための費用配分に関する研究: 谷本圭志, 環境システム研究論文集 33, pp. 295-303, 2005.
4	細井 由彦	教授	土木工学	1	[論文] 分散して存在する小規模な水道施設の維持管理の効率化に関する研究: 細井由彦・Dagnachew Aklog・増田貴則・中村真理子, 土木学会論文集No. 804/VII-37, pp. 125-135, 2005
				2	Reliability-based optimal design of water distribution systems : D. Aklog and Y. Hosoi, Water Science and Technology: Water Supply, 3, 2, 11-18, 2003
				3	2001 年芸予地震における断水による住民生活への影響: 細井由彦・増田貴則, 土木学会論文集, No. 734/VII-27, pp. 143-156, 2003. 5

5	小池 淳司	助教授	土木工学	1	[論文] Air Service Development of Local Airports and its Influence on the formation of Aviation Networks, : Hideyuki KITA, Atsushi KOIKE and Keishi TANIMOTO, Research in Transportation Economics, Global Competition in Transportation Markets: Analysis and Policy Making,, Volume 13, 0, 233-252, 2005
				2	Spatial Benefit Incidence Analysis of Airport Capacity Expansion: Application of SCGE Model to the Haneda Project, : Takayuki UEDA, Atsushi KOIKE, Katsuhiro YAMAGUCHI and Kazuyuki TSUCHIYA:, Research in Transportation Economics , Global Competition in Transportation Markets: Analysis and Policy Making,, Volume 13, 0, 165-195, 2005
				3	Spatial Computable General Equilibrium Model for Passenger Transport Improvement - Evaluation of Japanese New Shinkansen Project- : Atsushi KOIKE and Takayuki UEDA, Selected-Proceedings of 9th World Conference on Transport Research, 0, 0, 0-0, 2002
6	松見 吉晴	助教授	土木工学	1	[論文] 魚礁マウンド構築における投入工法管理システムの開発 : 松見吉晴・住谷圭一・浅沼丈夫, 土木学会海洋開発論文集, 第 21 巻, 0, 343-348, 2005
				2	Minimum Number of Waves in Irregular Wave Trains for Laboratory Stability Tests of Armour Units : Y. Matsumi, K. Ohno and A. Kimura, the 29th International Conference on Coastal Engineering, 29, 4, 3579-3591, 2004
				3	多方向不規則波浪場における護岸越波量の空間分布特性 : 大野賢一・松見吉晴・竹田 壘・塚本倫也・木村 晃, 土木学会海岸工学論文集, 51, 1, 631-635, 2004
7	増田 貴則	助教授	土木工学	1	[論文] 中山間地域における非点源水質汚染源の潜在力評価 : 史承煥、細井由彦, 増田貴則, 水工学論文集, 48, 0, 1429-1434, 2004
				2	Estimation of Pollutant Loads from Paddy Fields using GIS including Irrigation Networks Model : Takanori MASUDA, Hyun NAMKUNG, Seunghwan SA and Yoshihiko HOSOI, Proc. of 6th International Conference on Diffuse/Nonpoint Pollution and Watershed Management, 0, 0, 0-0, 2002
				3	河川に流出する粒子態物質の粒度と富栄養化に及ぼす影響 : 史承煥、増田貴則、細井由彦, 水工学論文集, 47, 0, 1039-1044, 2003
8	太田 隆夫	助手	土木工学	1	[論文] 断面変形を伴う人工リーフ上での波浪変形計算について : 太田隆夫, 小林信久, 木村 晃, 土木学会海岸工学論文集, 52, 0, 51-55, 2005
				2	波・流れ場における人工海藻の水理特性 : 太田隆夫, 小林信久, 木村 晃, 海岸工学論文集, 51, 0, 666-670, 2004
				3	Wave and current interactions with vegetation : Takao Ota, Nobuhisa Kobayashi and James T. Kirby, Proceedings of 29th International Conference on Coastal Engineering, 0, 0, 508-520, 2004
9	木村 晃	教授	土木工学	1	[論文] 鳥取海岸における海底地形の短期変化について : 木村 晃, 大野賢一, 海岸工学論文集, 第 53 巻, pp. 571-575, 2006
				2	Generation of low frequency waves from a large floating body : Kimura, A. and H. Fijii, Proc. Long wave symposium, pp. 149-159, 2005
				3	大型浮体の長周期動揺について : 木村 晃, 藤井秀和, 海洋開発論文集, 第 51 巻, pp. 1265-1270, 2004

研究活動実績票

別紙様式①ー乙

【研究成果一覧】

大学名	鳥取大学	学部・研究科名	工学部・応用数理工学科

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	林 農	教授	機械工学	1	[論文] Wind Tunnel Test on a Different Phase Three-Stage Savonius Rotor: Tsutomu Hayashi, et al, JSME International Journal Series B, Volume 48, No. 1, pp.9-16, 2005
				2	Wind Power in Japan : Tsutomu Hayashi, Proc. of the 30 the Annual Congress of the American Romanian Academy of Arts and Sciences (ARA), Chisinau, Moldova, pp.559-562, 2005
				3	傾斜円柱からの放出渦の組織構造に関する研究: 林農、他、日本機械学会論文集, 58 巻, 546 号, pp.297-304, 1992
2	藤村 薫	教授	物理学	1	[論文] Folded solution branches in Rayleigh-Benard convection in the presence of avoided crossings of neutral stability curves: Yuki Kato and Kaoru Fujimura, J. Phys. Soc. Jpn., 75, 3, 034401-1-5, 2006.
				2	Weakly nonlinear evolution of an elliptical flow: Yasuhide Fukumoto, Yuji Hattori and Kaoru Fujimura, in Proc. International Conference on Vortex Flows and Vortex Models, (ed. K. Kamemoto, the Japan Society of Mechanical Engineers), 149-154, 2005.
				3	The onset of penetrative convection: Yuki Kato, Makoto Hashiba and Kaoru Fujimura, Fluid Dynamics Research, 32, 295-316, 2003
3	加藤 由紀	助手	数理解物理, 物性基礎	1	[論文] Benney 方程式の多重周期解: 伊藤裕子, 加藤由紀, 藤村薫, 日本流体力学会年会 2005 講演論文集(CDROM), 0, 0, 5pages-0, 2005
				2	Folded solution branch due to an avoided crossing of neutral stability curves in Rayleigh-Benard convection: Yuki Kato and Kaoru Fujimura, J. Phys. Soc. Japan, 75, 0, 034401-1-034401-5, 2006
				3	The onset of penetrative double-diffusive convection: Yuki Kato, Makoto Hashiba and Kaoru Fujimura, Fluid Dynamics Research, 32, 6, 295-316, 2003
4	後藤 知伸	教授		1	[論文] Effect of Several Kinds of Pile- Fabrics on Reducing Aerodynamic Noise : M. Nishimura, T. Goto, and K. Kobayashi, Proc. 11th AIAA/CEAS Aeroacoustics Conference (26th AIAA Aeroacoustics Conference), 0, 0, 0-0, 2005
				2	A fluid-dynamic interpretation of the asymmetric motion of singly flagellated bacteria swimming close to a boundary : T. Goto, K. Nakata, K. Baba, Masaharu Nishimura & Y. Magariyama, Biophys. J., 89, 0, 3771-3779, 2005
				3	De Novo Formation of Left-Right Asymmetry by Posterior Tilt of Nodal Cilia : S. Nonaka, S. Yoshida, D. Watanabe, S. Ikeuchi, T. Goto, W. F. Marshall, H. Hamada, PLoS Biology, 3, 8, 1467-1472, 2005

5	原 豊	助教授	総合工学	1	[論文] An experimental study on water-making system using natural energy in Tottori Sand Dune : T. Hayashi, W. Liu, Y. Hara, K. Nojima, K. Tagawa, K. Tanaka, Eighth International Conference on Development of Drylands, Abstracts of oral presentations, Beijing, China, 0, 0, 88-88, 2006
				2	Wind Tunnel Tests on a Different Phase Three-Stage Savonius Rotor : T. HAYASHI, Y. LI, Y. HARA, JSME International Journal, Series B, 48, 1, 9-16, 2005
				3	傾斜円柱まわりの流れ構造に関する数値的研究 ―上流端近傍の流れについての考察― : 原 豊, 樋口 博, 河村哲也, 林 農, 日本風工学会論文集, 0, 94, 107-116, 2003
6	福井 茂寿	教授	機械工学	1	[論文] Dynamic Characteristics of Flying Head Slider with Ultra-thin Spacing (CIP Method and Linearized Method) : Fukui, S., Matsui, H., Yamane, K. and Matsuoka, H., Microsystem Technologies, 11, 0, 805-811, 2005
				2	Flying Characteristics in the Free Molecular Region (Influence of Accommodation Coefficients) : Fukui, S., Shimada, H., Yamane, K. and Matsuoka, H., Microsystem Technologies, 11, 0, 805-811, 2005
				3	近接する複合層に働くファンデルワールス力の汎用的近似式の導出 (超微小すきま浮動形磁気ヘッドスライダの静的浮上解析への適用) : 松岡広成, 福井茂寿, 日本機械学会論文集, 69, 686, 2810-2817, 2003

研究活動実績票

別紙様式①ー乙

【研究成果一覧】

大学名	鳥取大学	学部・研究科名	工学部・工学研究科

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	小幡 文雄	教授	機械工学	1	[論文] 高張力鋼板の塑性異方性の及ぼす引張ひずみと引張ひずみ速度の影響：和田肇・上原一剛・岡本尚機・小幡文雄，塑性と加工，47，542，200-204，2006
				2	Frictional Characteristics of a Newly Developed Hybrid-type Linear Guide：Kazutake UEHARA and Fumio OBATA, The Third International Conference on Leading Edge Manufacturing in 21st Century (LEM21), VOL. 2, 0, 455-458, 2005
				3	フレートレんがの滑り摩擦係数に及ぼす表面粗さの影響（第2報）－高温下における滑り摩擦特性－：小幡文雄、小西大二郎、山本堅二、橋本則孝、青石 稔，トライボロジスト，47，5，384-391，2002
2	近藤 康雄	助教授	総合工学	1	[論文] A Metabolic System for Water soluble Coolant -Water Resource Recovery from Spent Water-soluble Coolant-：Yasuo KONDO Kenji YAMAGUCHI Kouji YAMADA Satoshi SAKAMOTO, Proc. of the 1st Int. Conf. on ICMdT, 0, 0, FCT1-0, 2005
				2	マルチワイヤソー切断用スラリーからの砥粒分離と砥粒再利用の可能性：近藤康雄、坂本 智、佐藤友紀、河本良太，精密工学会誌，70，5，656-660，2004
				3	部品・素材選別を目的とした家電製品の分解特性と相似性：近藤康雄、出口憲司、中野智之，廃棄物学会論文誌，14，2，25-33，2003
3	上原 一剛	助手	機械工学	1	[論文] EFFECTS OF MICROSCOPIC SPHERICAL PARTICLES MIXED IN LUBRICATING OIL ON FRICTIONAL CHARACTERISTICS OF LINEAR SLIDE GUIDE：Kazutake UEHARA, Fumio OBATA, Hisaki OKAMOTO and Kenichi INOUE, Proceedings of WTC2005, (CD-ROM).
				2	Frictional Characteristics of a Newly Developed Hybrid-type Linear Guide：Kazutake UEHARA and Fumio OBATA, Proceedings of the LEM21, p. 455-458
				3	[特許出願] ハイブリッド型直動案内：特願 2005-085721，小幡文雄，上原一剛，2005

研究活動実績票

別紙様式①ー乙

【研究成果一覧】

大学名	鳥取大学	学部・研究科名	工学部・ものづくり教育実践センター

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	長島 正明	助手	材料工学	1	[論文] 地元企業と連携したPBL教育の実践と教育効果:長島 正明、近藤 康雄、田中 久隆、宮近 幸逸、秋山 雅彦、石渕 信孝、早川 元造, 工学教育, 54, 2, 21-25, 2006
				2	Fabrication of MgO Based Nanocomposites with Multifunctionality :T. Nakayama, B.-S. Kim, H. Kondo, Y.-H. Choa, T. Sekino, M. Nagashima, T. Kusunose, Y. Hayashi, and K. Niihara, J. Eur. Ceram. Soc, 24, 2, 259-264, 2004
				3	[特許出願] 透光性アルミナ焼結体と光フィルタ :001308, 早川元造, 鳥取大学, 2005

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名		鳥取大学		学部・研究科等名		工学部・機械工学科	
N0	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果		
1	松野 隆	講師	総合工学	1	[受賞（研究）]（平成 17 年 日本航空宇宙学会奨励賞）		
				2	[競争的資金]（平成 13 年度～15 年度 科学研究費（特別研究員奨励費））		
2	岸 武保	助教授	機械工学	1	[競争的資金] 民間等との共同研究：新規，共同，2003		
3	小野 勇一	助手	機械工学	1	[競争的資金] GPa オーダの圧力測定を可能にするゲージの開発に関する研究 ：若手研究(B)，新規，代表，2005		
4	金森 直希	助手	機械工学	1	[競争的資金] ANC (Active Noise Control) 技術の導入による歩行衝撃音低減 工法の開発 その2：継続，共同，2005		
				2	人間－機械協調系のための操作感モデルの開発と制御系設計へ の適用：若手研究 (B)，新規，代表，2005		
				3	非定常音の音質評価技術の研究：新規，共同，2004		
5	小出 隆夫	助教授	機械工学	1	[競争的資金] 奨学寄付金：新規，代表，2005		
				2	高周波焼入れ歯車の強度増強と焼入れ条件の最適化に関する研 究：新規，共同，2005		
				3	高周波焼入れシミュレーションによる焼入れ条件の最適化シス テムの開発と実用化：継続，共同，2002		
6	西村 正治	教授	機械工学	1	[競争的資金] 山梨リニア実験線騒音低減に関する研究：継続，代表，2005		
				2	ANC 技術の導入による歩行衝撃音低減工法の開発（その2）：継 続，代表，2005		
				3	タイヤ近傍吸音システムに関する研究：継続，代表，2005		
7	田中 久隆	教授	機械工学	1	[競争的資金] 民間等との共同研究（区分B）：継続，代表，2005		
				2	民間等との共同研究（区分B）：新規，代表，2004		
				3	民間等との共同研究（区分B）：継続，代表，2003		
8	早川 元造	教授	材料工学	1	[競争的資金] 抗ウイルス作用を有するドロマイトを加工した新素材の応用開 発：新規，共同，2004		
				2	ジルコニアの等温および非等温マルテンサイトの結晶学的研究 ：基盤研究（C），新規，代表，2004		
				3	電子機器部品の損傷原因の解明：新規，代表，2002		
9	川添 博光	教授	機械工学	1	[競争的資金] 弱電離プラズマ高温気流の材料開発および有害物質処理への適 用とその流れ場の研究：基盤研究(C)(2)，継続，代表，2003～2005		
				2	プラズマ現象の光学的計測：新規，代表，2003～2004		
				3	P S P 解析ソフトウェアの開発：新規，代表，2002		
10	佐藤 昌彦	講師	機械工学	1	[競争的資金] 高橋産業経済研究財団：継続，代表，2005		
				2	硬脆材料の微小切削における脆・塑性境界温度の測定と工具摩耗 に関する研究：若手(B)，継続，代表，2005		
				3	硬脆材料の微小切削における脆・塑性境界温度の測定と工具摩耗 に関する研究：若手 (B)，新規，代表，2004		

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	工学部・知能情報工学科

N0	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	橋本 隆司	助教授	数学	1	[競争的資金] 科学研究費補助金 (基盤研究 (C) (2))
2	山本 祥弘	教授	制御工学	1	[受賞 (研究)] Proc. of the International Conference on Control, Automation, and Systems, 2005 にて Best Presentation Award を受賞
3	三好 力	助教授	情報学	1	[受賞 (研究)] GESTS best paper award: Initial Node Exchange Using Learning Data and Convergence of SOM Learning, GESTS, 個人, 2005
				2	[競争的資金] コンピュータ・ネットワークの故障診断アルゴリズムの開発 基盤研究: (C) (2), , 共同, 継続, 2005
				3	並列計算機の通信送放アルゴリズムに関する研究: 基盤研究 (C) (2), 共同, 継続, 2003
4	菅原 一孔	教授	情報学	1	[研究成果が学会誌, 雑誌, 新聞記事等として掲載された] 平成 17 年 12 月 7 日, 日本海新聞, ネットで “行き先” 簡単ナビ
				2	[競争的資金] 高雑音下における実時間読唇ヒューマン・マシンインターフェースの開発に関する研究: 基盤研究 (C) (2), 新規, 代表, 2004
				3	LCD バックライト不良検出装置の開発に関する研究: 新規, 代表, 2004
5	川村 尚生	助教授	情報学	1	[研究成果が学会誌, 雑誌, 新聞記事等として掲載された] ソフトウェアデザイン: 番原睦則, 2003 年 12 月
				2	[競争的資金] 国際学会等派遣事業: 新規, 代表, 2004
				3	高雑音下における実時間読唇ヒューマン・マシンインターフェースの開発に関する研究: 基盤研究 (C) (2), 継続, 共同, 2004
5	徳久 雅人	助手	情報学	1	[競争的資金] インターネット上の掲示板等を対象とした感情の自動抽出のための言語知識ベースの構築: 若手研究 (B), 新規, 代表, 2005
6	木村 周平	助教授	情報学	1	[競争的資金] 平成 17 年度中堅・若手研究者への研究助成 (学内競争的資金)
7	増山 博	教授	総合領域	1	[競争的資金] 科学研究費 基盤研究 (C)
8	有井 士郎	助教授	機械工学	1	[研究成果でテレビ・ラジオに出演した] 17:30~: 日本海テレビ, 有井士郎, 平成17年12月10 日
				2	まるごとワイドとっとり, 環境最前: NHK, 鳥取 , , 有井, 平成16年11月16日
				3	[受賞 (研究)] Best Paper Award: A Novel Picometer Positioning System for Machine Tools and Measuring Machines, 2005 International Conference on Control, Automation, and System, 共同, 2005

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	工学部・電気電子工学科

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	西守 克巳	教授	計測・制御工学	1	[競争的資金] 電氣的・光学的・音響学的計測法による氷温センサーの開発 ：継続，代表，2002
2	阿部 友紀	助手	応用物理学 ・工学基礎	1	[競争的資金] ZnSe 系白色発光ダイオードの劣化機構解明とその制御：継続， 共同，2003
				2	ワイドバンドギャップ半導体光デバイス用超格子共鳴トンネル 電極の実用開発：若手研究(B)，継続，代表，2002-2004
				3	ZnSe 系白色発光ダイオードの劣化機構解明とその制御：継続， 共同，2002
3	加藤 義人	助教授	電力工学・電 気機器工学	1	[受賞（研究）] 研究奨励賞受賞（岡村優希、照明学会） 2006. Development and application of neutral point type down inverter for compact lamp : I. Yokozeki, Y. Kato, Y. Okamura, T. Kuratani, M. Ohkita, N. Takahashi, Journal of Light & Visual Environment, Vol. 29, No. 2, 62-66, 2005
				2	[競争的資金] 奨学寄付金：新規，2006
				3	奨学寄付金：新規，代表，2006
4	西村 亮	助教授	電気電子工 学	1	[競争的資金] 中国電力技術研究財団 「国際交流活動（海外渡航）助成金」 ：新規，代表，2004
				2	財団法人C & C 振興財団 「国際会議論文発表者助成」：新 規，代表，2002
				3	若手会員国際会議参加補助（電気学会中国支部）：新規，代 表，2002
5	伊藤 良生	教授	電気電子工 学	1	[競争的資金] 科学研究補助金「騒音抑圧システム」2005～2007.
				2	低消費電力型超高速無線通信システムの開発とその IP 化に 関する研究：新規，共同，2005
6	藤村 喜久郎	助手	情報学	1	[競争的資金] 簡易型脈波測定装置の基盤技術開発：新規，代表，2004
7	市野 邦男	助教授	応用物理学 ・工学基礎	1	[競争的資金] 硫化亜鉛系強磁性半導体の作製とシリコン集積回路への適用 に関する基礎研究：新規，代表，2005
				2	シリコン基板上への硫化亜鉛系強磁性ワイドバンドギャップ 半導体の作製に関する研究：新規，代表，2005
				3	近紫外励起白色蛍光体の高効率化：新規，共同，2005
8	副井 裕	教授	電気電子工 学	1	[受賞（研究）] 電子情報通信学会フェロー称号「アナログ・デジタル両面 での信号処理技術の研究と国際的な教育活動」2004

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名	鳥取大学		学部・研究科等名	工学部・物質工学科	
N0	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	小林 和裕	助教授	複合化学	1	[競争的資金] 日本化薬株式会社からの奨学寄附金：継続，代表，2005
				2	バイエルクロップサイエンス株式会社からの奨学寄附金：継続，代表，2005
				3	有用ヘテロ環化合物の新しい一般的簡便合成法の開発：基盤研究(C)(2)，新規，代表，2003
2	川面 基	助教授	有機化学	1	[受賞（研究）] 有機合成化学協会「東レ」研究企画賞：立体選択的3級・4級連続不斉中心の構築とアミノ酸誘導体合成，有機合成化学協会，個人，2005
				2	[競争的資金] 遷移金属触媒反応による立体選択的4級アミノ酸合成：基盤研究(C)，新規，代表，2005-2006
3	岡野 多門	助教授	複合化学	1	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] 水産経済新聞：岡野多門，2005年12月2日
				2	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] 水産経済新聞：岡野多門，2005年12月2日
				3	テルペン合成：新規，代表，2004
4	高井 茂臣	助手	材料化学	1	[競争的資金] 陽イオン空孔生成型酸化物イオン伝導体の導電機構の解明：基盤研究(C)，新規，代表，2005-2006
				2	中性子ラジオグラフィによるペロブスカイト型リチウムイオン伝導体の拡散係数の測定：若手研究(B)，新規，代表，2003-2004
				3	メカニカルアロイングにより得たPbWO4系イオン伝導体の欠陥構造の解析：若手研究(B)，継続，代表，2002
5	丹羽 幹	教授	プロセス工学	1	[受賞（研究）] 学会賞(学術部門)：シリカの化学蒸着による触媒の高機能化に関する研究，触媒学会，個人，2003
				2	[競争的資金] 奨学寄附金：新規，代表，2003
				3	ゼオライト結晶内における超強酸点の触媒機能：基盤研究(B)(2)，継続，代表，2002-2004
6	片田 直伸	教授	プロセス工学	1	[受賞（研究）] 平成15年度石油学会奨励賞：アンモニア昇温脱離法によるゼオライト触媒の酸性質の解析，石油学会，個人，2003
				2	平成14年度触媒学会奨励賞：アンモニア昇温脱離法の改良と固体触媒の酸性質の解明，触媒学会，個人，2002
				3	[競争的資金] 科学技術振興機構戦略的創造研究推進事業(さがけ研究，ポスドク雇用型)「変換と制御」領域，代表，2002 - 2005
7	斎本 博之	教授	複合化学	1	シアン耐性呼吸酵素阻害剤(アスコフラノン)を用いた抗トリパノソーマ薬の開発：基盤研究(B)，新規，共同，2005
				2	キトサン、グルコサミンのケナフ抽出液への適用：新規，代表，2004
				3	プラスチックリサイクルを可能とする真空蒸着プライマーの開発：新規，共同，2002

8	江坂 享男	教授	材料化学	1	[一般雑誌, 新聞等に掲載された論文・記事等] ”中性子ラジオグラフィの機能性材料研究への応用 - 固体中のイオンの動きを画像として観察する-: 江坂享男, 化学, 58, 8, 56-57, 2003
				2	[競争的資金] マグネシウム合金薄膜のリチウム吸蔵特性 (軽金属奨学会) : 新規, 代表, 2005
				3	電気化学キャパシタ用負極の高性能化に関する基礎的研究 (関西電力) : 新規, 代表, 2005
9	伊藤 敏幸	教授	複合化学	1	[研究成果が学会誌, 雑誌, 新聞記事等として掲載された] Green Chemistry (Royal Society of Chemistry) : Toshiyuki Itoh, 2002, June, G32, ” Highlights” として紹介
				2	[競争的資金] イオン液体による酵素反応のブレークスルー: 科研費, 特定領域研究「イオン液体の科学」新規, 計画班, 代表, 2005-2010
				3	イオン液体コーティングによる酵素活性化法の開発; 科研費, 基盤 B(2) : 新規, 代表, 2005-2007
10	森川 修	助手	複合化学	1	[競争的資金] 平成 17 年度鳥取大学ベンチャービジネスラボラトリ (VBL) 研究開発テーマ: 新規, 代表, 2005
				2	平成 16 年度鳥取大学工学部教育研究重点配分経費: 新規, 代表, 2004
				3	平成 14 年度鳥取大学学長裁量経費: 新規, 代表, 2002
11	奥村 和	助手	プロセス工業	1	[競争的資金] DXAFS 法によるゼオライトでの金属ナノクラスターの動的構造変化観察: 新規, 代表, 2005
				2	MMA 合成触媒の放射光解析研究: 継続, 代表, 2005
				3	in-situ XAFS による Cu シフト触媒の物性変化の測定及び解析に関する研究: 新規, 代表, 2005
12	坂口 裕樹	教授	材料化学	1	[競争的資金] 水素吸蔵合金/プロトン伝導性固体電解質界面の反応とその全固体電池への応用: 特定領域研究(2), 継続, 共同, 2000-2004
				2	二次電池用リチウム貯蔵性金属間化合物の創製と中性子をプローブとしたリチウムの評価: 基盤研究(C)(2), 新規, 代表, 2003-2004
				3	リチウム貯蔵性金属間化合物中リチウムの占有位置と拡散挙動の解明: 基盤研究(C)(2), 継続, 代表, 2001-2002

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	工学部・生物応用工学科

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	木瀬 直樹	教授	複合化学	1	[競争的資金] 奨学寄付金：新規，代表，2005
				2	α-アミノ酸を原料とする不斉化合物の立体選択的合成：基盤研究(C)，継続，共同，2005
				3	α-アミノ酸を原料とする不斉化合物の立体選択的合成：基盤研究(C)，新規，代表，2004
2	福間 三喜	助手	化学工学、環境工学	1	閉鎖性水域研究プロジェクト：新規，共同，2004-2005
3	大城 隆	講師	農芸化学	1	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] 日本海新聞：大城 隆，2004. 6. 12
				2	[競争的資金] 含硫有機化合物の代謝に関与する酵素について－蛋白質工学的改変と新規機能の検索－：基盤研究 (C) (2)，新規，代表，2004
				3	長瀬科学技術振興財団：新規，共同，2003
4	本郷 邦広	助手	生物科学	1	[競争的資金] 蛋白質のコンフォメーション変化と分子シャペロン：特定領域研究(2)，継続，共同，2005
				2	生命機能と病気に関わる蛋白質分子の大きな構造変化の分子論的研究：基盤研究(B)(2)，継続，共同，2005
				3	生命機能と病気に関わる蛋白質分子の大きな構造変化の分子論的研究：基盤研究(B)(2)，継続，共同，2005
5	櫻井 敏彦	助教授	複合科学	1	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] 櫻井敏彦，ペプチド会合構造の制御，生物工学会誌，第84巻10号，2006年
				2	平成16年度トヨタ自動車共同研究助成，ATP依存性プロテアーゼによる自走型分子シャトルの創成，440万円
				3	平成17年度トヨタ自動車共同研究助成，ATP依存性プロテアーゼによる自走型分子シャトルの創成，462万円
6	吉井 英文	助教授	農芸化学	1	奨励賞：機能性食品粉末の作成とその特性に関する研究，日本食品工学会，個人，2003
				2	プラスチックレンズの屈折率分布形成機構の解析と評価法の開発：新規，共同，2005
				3	機能性脂質粉末の形態・安定性制御手法の構築：基盤研究(C)(2)，継続，代表，2004 [研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された]
7	古田 武	教授	化学工学	1	[受賞(研究)] ポスター賞：，日本食品工学会，共同，2005
				2	[競争的資金] 環状オリゴ糖の分子包接と吸着を利用した難分解有毒物質汚染土壌の除染手法の開発：基盤研究 (C)，継続，代表，2005
				3	機能性樹脂繊維の超精密高速引上げ装置の開発：新規，代表，2005 全国スポレク祭の開催意義（鳥取県生涯スポーツ推進協議会長）日本海新聞 平成14年9月23日

8	築瀬 英司	教授	農芸化学	1	新エネルギー・産業技術開発機構、平成 17、18 年度、「バイオマスエネルギー先導技術開発：新規エタノール発酵細菌のゲノム情報に基づくリグノセルロース連続糖化並行発酵技術開発」、代表
				2	新エネルギー・産業技術開発機構、平成 14、15、16、17 年度、「バイオマスエネルギー高効率転換技術開発：細胞表層提示技術によるザイモナスの育種研究」、代表
				3	タンパク 3000 プロジェクト、平成 14、15、16、17 年度、微生物酵素の構想・機能の解析：代表
9	河田 康志	教授	生物科学	1	[一般雑誌，新聞等に掲載された論文・記事等] 再生医療の最前線：河田康志，日本海新聞，5 月 8 日，0，11-11，2004
				2	タンパク質のふじぎを解明して難病治療の糸口を見出したい：河田康志，理工系 VOICE（河合塾），2，0，11-0，2002
				3	[競争的資金] 蛋白質のコンフォメーション変化と分子シャペロン：特定領域研究，新規，代表，2002-2006
10	溝端 知宏	助教授	生物科学	1	[受賞（研究）] The Journal of Biochemistry/Oxford Journal Poster Prize for the 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress（2006）
				2	[競争的資金] 蛋白質のコンフォメーション変化と分子シャペロン：特定領域研究（2），継続，共同，2005
				3	蛋白質のコンフォメーション変化と分子シャペロン：特定領域研究 2，継続，共同，2004
11	和泉 好計	教授	農芸化学	1	[研究成果でテレビ・ラジオに出演した] おはよう日本：NHK 総合，和泉好計，2003 年 10 月 1 日
				2	[競争的資金] 石油の脱硫代謝における新規酵素群のタンパク質工学・分子遺伝学的研究による：科学研究費補助金基盤研究 C，新規，代表，2003
				3	新規有用酵素を生産する欧州の大型海藻類分布調査と酵素の構造—機能特性調査研究：科学研究費補助金基盤研究 B，新規，代表，2003

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	工学部・土木工学科

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	野口 竜也	助手	社会・安全システム科学	1	[競争的資金] 科学研究費補助金（ 基盤研究(C) ）多様な高密度地盤震動観測情報に基づく福井平野の三次元地盤構造の推定 （研究期間平成 16 年度～平成 18 年度）研究分担者
2	吉野 公	助教授	土木工学	1	[競争的資金] 工学部における研究助成金：新規，代表，2005
				2	フレッシュコンクリートの施工性能の設定，照査および検査技術の構築に関する企画調査：基盤研究(C)（企画調査）(1)，新規，共同，2002
3	黒田 保	助手	土木工学	1	[競争的資金] 奨学寄附金：新規，2005
				2	オートクレーブを用いたアルカリシリカ反応促進試験法の開発に関する研究：若手研究 (B)，継続，代表，2004
				3	オートクレーブを用いたアルカリシリカ反応促進試験法の開発に関する研究：若手研究 (B)，新規，代表，2003
4	藤村 尚	教授	土木工学	1	[一般雑誌，新聞等に掲載された論文・記事等]液状化、日本海新聞
				2	[研究成果でテレビ・ラジオに出演した]液状化
				3	[受賞（研究）]土質工学会功労賞
5	梶川 勇樹	助手	土木工学	1	[受賞（研究）]： 第 56 回土木学会中国支部研究発表会優秀発表賞，平成 16 年 5 月．
6	上田 茂	教授	土木工学	1	[競争的資金] 工学部における研究助成金（プリヂストン）：継続，代表，2005
				2	工学部における研究助成金（株テトラ）：継続，代表，2005
				3	工学部における研究助成金（株エコー）：新規，代表，2005
7	谷口 朋代	助教授	土木工学	1	[競争的資金] 平底円筒貯槽の浮き上がり挙動を解析する有限要素法ベースの解析プログラムの開発：新規，代表，2005
				2	海洋構造物の動的安全性評価に関する基礎的研究：基盤研究 C，新規，共同，2004
				3	地震を受ける平底円筒貯槽の底板浮上り挙動の解明：新規，代表，2003
8	矢島 啓	助教授	土木工学	1	[研究成果でテレビ・ラジオに出演した] NHK 特集番組：NHK，矢島 啓，2004. 6. 6
				2	[競争的資金] 湖山池の水質浄化及びその有効利用に関する研究：継続，代表，2005
				3	殿ダム貯水池内及びダム下流河川の水質予測評価：継続，代表，2005
9	井上 正一	教授	土木工学	1	廃がれきの再資源化に関する研究：代表，2005
				2	低品質骨材を用いたコンクリート部材の静的および疲労性状とその有効利用に関する研究：基盤研究（C），代表，2005
				3	コンクリート用細骨材の開発とその有効利用に関する研究：基盤研究（C）(2)，代表，2003

10	塩崎 一郎	助教授	地球惑星科学	1	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] 東京大学地震研究所 広報：塩崎一郎，2003 年 3 月
				2	[競争的資金] 内陸地震空白域の深部比抵抗構造に関する研究：新規，代表，2003
				3	中国地方の第四紀火山の深部低比抵抗領域に関する研究：継続，代表，2002

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	工学部・社会開発システム工学科

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	山田 茂	教授	社会・安全システム科学	1	[受賞 (研究)] 論文賞: グローバル時代のソフトウェア品質マネジメントシステムの提案と試行, プロジェクトマネジメント学会, 共同, 2005
				2	平成 15 年度研究功績賞: ソフトウェア信頼性工学に関する研究, 鳥取大学, 個人, 2003
				3	International Leadership Award in Reliability Engg. Research: Software Reliability Research, The Organising Committee of International Conference on Reliability, Quality and IT (ICQRIT), and The Society for Reliability Engineering, Quality and Operations Management, 個人, 2003
2	井上 真二	助手	社会・安全システム科学	1	[研究成果が学会誌, 雑誌, 新聞記事等として掲載された] 日本海新聞: 山田茂, 2005 年 1 月 23 日
				2	[受賞 (研究)] Best Paper Award: Testing-coverage dependent software reliability growth modeling and its applications, 2004 International Computer Symposium, 個人, 2004
				3	[競争的資金] ソフトウェア信頼性評価技術の高精度化とその応用に関する研究: 新規, 代表, 2004
3	谷本 圭志	助教授	土木工学	1	[一般雑誌, 新聞等に掲載された論文・記事等] 過疎社会 自立へ: 日本海新聞, 2004. 2. 29.
				2	「コバス」の利用実態は?: 神戸新聞, 2004. 4. 5
				3	[研究成果でテレビ・ラジオに出演した] 過疎社会経営シンポジウム: 日本海ケーブルネットワーク, 2006. 3. 1.
4	細井 由彦	教授	土木工学	1	[受賞 (研究)] 下水道協会奨励論文賞 (1999)
				2	土木学会環境工学フォーラム優秀ポスター賞 (2005)
				3	[競争的資金] 科学研究費補助金 基盤 (C) 人口減少高齢社会をむかえる小規模自治体の環境計画管理方策 (2005-2006)
5	小池 淳司	助教授	土木工学	1	[競争的資金] 地域貢献研究補助金: 新規, 代表, 2002
				2	都市圏応用一般均衡分析に関する研究: 一般研究 (B), 新規, 共同, 2002
				3	便益計測の精度に関する研究: 奨励研究 (B), 新規, 代表, 2002
6	松見 吉晴	助教授	土木工学	1	[競争的資金] 消波構造物の被災変形に伴う防波機能の劣化度評価: 基盤研究 (C), 新規, 代表, 2005
				2	河口部船溜まり改修に伴う河川流動変化に関する研究: 新規, 代表, 2004
				3	消波被覆材の所要重量評価法に関する研究: 基盤研究 (C) (2), 継続, 代表, 2002

7	増田 貴則	助教授	土木工学	1	[一般雑誌，新聞等に掲載された論文・記事等] 下水道技術者のための GIS 講座第 14 回：増田貴則、市川新，月刊下水道，26，14，88-90，2003
				2	[競争的資金] ネットワークポロジータリレーショナル情報に基づいた流域水物質循環解析手法の開発：若手 (A)，新規，代表，2005
				3	GIS を用いた水田からの栄養塩類汚濁負荷の流出と地域循環の評価手法に関する研究：若手 (A)，新規，代表，2002
8	太田 隆夫	助手	土木工学	1	[競争的資金] 消波構造物の被災変形に伴う防波機能の劣化度評価：基盤研究 C，新規，共同，2005

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	工学部・応用数理工学科

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	林 農	教授	機械工学	1	[競争的資金] (文部科学省) 21 世紀 COE プログラム「乾燥地科学プログラム」自然エネルギー利用グループ: 継続, 共同, 2002-2006
				2	「砂漠化防止・沙漠緑化に活躍する新技術風車の研究開発」: 科学研究費補助金・地域連携推進研究費(2), 継続, 代表, 2000-2002
				3	[受賞(研究)] Poster Award: Possibility of Using Mini Doppler Sodar for Wind Characteristics Investigation, The World Wind Energy Conference and Exhibition, (Berlin) 6 July, 2002, 代表, 2002
2	藤村 薫	教授	物理学	1	[競争的資金] 渦管の 3 次元不安定性における対称性の破れとハミルトニア ン分岐理論: 基盤研究 C (2), 継続, 共同, 2003
				2	渦管の 3 次元不安定性における対称性の破れとハミルトニア ン分岐理論: 基盤研究 C (2), 新規, 共同, 2002
3	加藤 由紀	助手	数理物理, 物 性基礎	1	[競争的資金] 矩形流路内の熱対流におけるロールの非線形相互作用と非 定常化条件の縦横比依存性: 若手 B, 継続, 代表, 2003
				2	矩形流路内の熱対流におけるロールの非線形相互作用と非 定常化条件の縦横比依存性: 若手 B, 新規, 代表, 2002
4	後藤 知伸	教授		1	[競争的資金] 奨学寄附金: 新規, 代表, 2005
				2	山梨リア実験線騒音低減に関する研究: 新規, 共同, 2005
				3	タイヤ近傍吸音システムを用いたタイヤ道路騒音の防止技 術に関する研究: 新規, 共同, 2005
5	福井 茂壽	教授	機械工学	1	[受賞(研究)] 日本機械学会賞(論文): 近接する複合層に働くファンデル ワールス力の汎用的近似式の導出(超微小すきま浮動形磁気 ヘッドスライダの静的浮上解析への適用), 日本機械学会, 共同, 2005
				2	日本機械学会賞(論文): 分子気体潤滑特性に及ぼす境界面 の適応係数の影響(せん断応力の解析手法と DSMC 法による 結果との比較), 日本機械学会, 共同, 2004
				3	日本機械学会船井賞: ヘッド・媒体インターフェースにおけ る分子流体潤滑の研究, 日本機械学会, 代表, 2003

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名		鳥取大学		学部・研究科等名		工学部・工学研究科	
N0	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果		
1	小幡 文雄	教授	機械工学	1	[競争的資金] 平成 17 年度 地域新生コンソーシアム研究開発事業 「接合面・摺動面の表面制御による高性能難削材加工機械の研究開発：新規，共同，2005		
				2	ツールホルダのオンマシンたわみ修正と耐びり性向上による高精度・高能率金型加工：基盤研究（C）（2），新規，代表，2003		
				3	鳥取県環境学術研究振興事業 「プラスチックリサイクルを促進する意匠性塗膜高速剥離装置の研究開発」：新規，代表，2003		
2	近藤 康雄	助教授	総合工学	1	[受賞（研究）] 発明協会会長奨励賞：鍛造工程で生成する鉄粉を利用した携帯用カイロの開発，発明協会，代表，2002		
				2	[競争的資金] 産業廃棄物の処理システムに関する研究：新規，代表，2005		
				3	エコマテリアルとエコデザインのベストミキシングによるクリーナープロダクションシステムに関する研究：代表，2003～2005		
3	上原 一剛	助手	機械工学	1	ツールホルダのオンマシンたわみ修正と耐びり性向上による高精度・高能率金型加工：基盤研究(C)(2)，新規，共同，2003		
				2	ナノバブル援用によるすべり案内の高性能化に関する研究：若手研究(B)，2004～2006		
				3	[研究成果でテレビ・ラジオに出演した] 過疎社会経営シンポジウム：日本海ケーブルネットワーク，2006. 3. 1.		

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果一覧】

大学名	鳥取大学	学部・研究科名	工学部・ものづくり教育実践センター

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	長島 正明	助手	材料工学	1	[競争的資金] 透光性セラミックスの開発：継続，代表，2005
				2	透光性セラミックスの開発：新規，代表，2004
				3	チタン合金の高速加工に関する研究：新規，代表，2004

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名		鳥取大学		学部・研究科等名		工学部・機械工学科	
N0	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果		
1	岸 武保	助教授	機械工学	1	[公開講座, 講演会等] 機械技術者のための有限要素法の基礎と実践:平成 14 年度 鳥取大学高度技術研修, 鳥取大学地域共同研究センター, 民間技術者・研究者, 2002		
				2	[産業支援] 射出成形機スクリーシャフトのたわみ解析:株式会社 ワイエスエンジニアリング (米子市) , 2002		
2	金森 直希	助手	知 能 機 械 学・機械シ ステム	1	[産業支援] OA機器・電子機器冷却系低騒音化技術:中国四国ブロッ ク産学官連携ビジネスショウ出展, 2005		
				2	産学連携フェスティバル 2005(2005 年 11 月 14 日):鳥取県, 2005		
				3	産学連携フェスティバル 2004(2004 年 11 月 12 日):鳥取県, 2004		
3	小出 隆夫	助教授	機械工学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会 活動の実績等] (社)日本機械学会 研究協力事業部会 RC-205 歯車装置に 関する実用技術革新のための調査研究分科会:運営委員, 2003, 2004		
				2	社)日本機械学会 研究開発事業部会 RC-218 歯車装置の 使用限界向上とトラブル未然防止のための設計・製造技術 調査研究分科会:運営委員, 2005		
				3	[公開講座, 講演会等] 日本材料学会 第 53 期 (2004) 通常総会・学術講演会 実行 委員		
4	西村 正治	教授	機械工学	1	[公開講座, 講演会等] 宇宙実験と装置開発の現状:特別講演会 (企画実施) , 日 本機械学会中国四国支部, 一般市民、学生, 2005		
				2	感性デザインの進めー一人にフィットした製品の創出ー :地方講習会 (企画実施) , 日本機械学会中国四国支部, 一般市民、学生, 2004		
				3	音の世界ー”らしい音”を求めてー:サイエンスアカデミ ー, 鳥取大学地域共同研究センター, 一般市民, 2003		
5	川添 博光	教授	機械工学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会 活動の実績等] JAXA 宇宙研究本部風洞委員会:委員, 2003～		
				2	[公開講座, 講演会等] 『空へ・宇宙へ・そして未来へ』:宇宙工学講座, 日本機 械学会, 学生, 一般, 2003		
				3	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事 項] テレビ番組「伊東家の食卓」における物理, 数学, 流体問 題に対する専門知識の提供:2002～2003		
6	田中 久隆	教授	機械工学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会 活動の実績等] 鳥取県人材高度化研究会:委員, 2004		
				2	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事 項] 鳥取大学ビジネス交流会(H18.2.13, 東京)にて研究シー		

					ズ発表：2005
				3	[産業支援] マシニングセンタ加工の高精度化：碌々産業（株），2005
7	早川 元造	教授	材料工学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会 活動の実績等] 科学研究費委員会：第1段審査委員，2002

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	工学部・知能情報工学科

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	三好 力	助教授	情報学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 鳥取県 製造中核人材育成調査委員会：委員，2005
				2	鳥取県 産業クラスター調査部会：委員，2005
				3	総務省 戦略的情報通信研究開発推進制度：専門評価委員，2005
2	川村 尚生	教授	情報学	1	[公開講座，講演会等] 家庭内，事業所内のネットワーク構築術：鳥取大学工学部公開講座（鳥取県民カレッジ），鳥取大学工学部知能情報工学科，一般市民，2004
				2	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] 情報処理振興事業協会未踏ソフトウェア創造事業「Java による分散協調制約解消システム」プロジェクト分担開発者：2003
				3	情報処理振興事業協会未踏ソフトウェア創造事業「Java による異種協調制約解消システムの開発」プロジェクト分担開発者：2002
3	徳久 雅人	助手	情報学	1	[公開講座，講演会等] ネットワーク接続実験：鳥取大学工学部公開講座「家庭内，事業所内のネットワーク構築術」，鳥取大学工学部，一般，2004
4	竹森 史暁	助教授	機械工学	1	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] 「鳥大ロボットコンテスト」の企画・開催に従事し，日本海 TV，朝日新聞，日本海新聞に記事掲載：2005
				2	産学連携フェスティバル 2004、研究成果 1 件：2004
5	有井 士郎	助教授	機械工学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 日本機械学会 機械状態監視資格認証事業部会 振動技術者 資格認証委員会 試験問題データ作成委員：2003
6	菅原 一孔	教授	情報学	1	[ベンチャービジネスへの経営・参画] ベンチャービジネスとして日本トリップ有限責任事業組合を立ち上げ，専務理事として参画

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	工学部・電気電子工学科

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	西守 克巳	教授	電気電子工学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2002 中国地区大会: 2002
				2	[公開講座, 講演会等] 太陽光発電ー太陽からのおくりものー: 鳥取市民講座, 鳥取市生涯教育課, 一般市民, 2003
				3	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] 中国電力鳥取支社アドバイザー(助言、啓発活動): 2002-2005
2	阿部 友紀	助手	応用物理学・工学基礎	1	[公開講座, 講演会等] ふれてみる不思議な電気の世界(小学生対象の見学・工作): 2002-2006 年
				2	鳥取工業高校にてフロンティアハイスクール 講師: 2005 年 3 月
3	小西 亮介	教授	電気電子工学	1	[公開講座, 講演会等] 人の5感を模したシステムの開発: , 鳥取大学振興協力会, 鳥取大学振興協力会交流会, 2002
				2	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] ビジネス交流会発表(東京): 2005
				3	ビジネス交流会発表(広島): 2005
4	西村 亮	助教授	電気電子工学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] アイデア対決: 全国高等専門学校ロボットコンテスト 2002[プロジェクトBOX]: 2002
				2	[公開講座, 講演会等] 静電気のはなし: 鳥取大学サイエンスアカデミー, 鳥取大学地域共同研究センター, 一般, 2003
				3	[産業支援] エレキテル(まさつ電気発生装置)からの火花放電による揮発性物質への着火: さぬき市誕生1周年記念行事, 2003
5	伊藤 良生	教授	電気電子工学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 総務省「戦略的情報通信研究開発推進制度」専門評価委員会: 専門評価委員, 2005
				2	総務省「戦略的情報通信研究開発推進制度」専門評価委員会: 専門評価委員, 2004
				3	総務省「戦略的情報通信研究開発推進制度」専門評価委員会: 専門評価委員, 2003
6	藤村 喜久郎	助手	情報学	1	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] 自己組織化マップ研究会の開催: 2000 年から 2005 年
				2	[ベンチャービジネスへの経営・参画] 有限会社 SOM ジャパン: ソフトウェア, 300 万円, , 技術相談, 2003
7	副井 裕	教授	電気電子工学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 雇用・能力開発機構「人材育成鳥取地域協議会」: 委員、座長, 2004
				2	中国経済産業局技術支援制度審査委員会: 委員, 2004

				3	社団法人電気学会：理事、中国支部長，2004
8	市野 邦男	助教授	応用物理学 ・工学基礎	1	[産業支援] 鳥取大学 MOT イノベーションスクールアドバイザー，2005
9	中井 生央	教授	電気電子工 学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 博士論文審査委員（北陸先端科学技術大学院大学 材料科学研究科）：2003
				2	[公開講座，講演会等] 知って、なっとく、電気電子の世界(2003/08/02 9:50-16:30) 「インターネット」：鳥取大学工学部公開講座（とっとり県民カレッジ連携講座），電気電子工学科，企業関係者，市民一般，2003

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	工学部・物質工学科

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	小林 和裕	助教授	複合化学	1	[公開講座, 講演会等] 分子で見る日常の世界: スーパーカレッジ, 湖山西地区公民館, 一般, 2002
				2	[産業支援] 医薬の開発を目指した新規有機化合物の合成: 日本化薬株式会社, 2005
				3	農薬の開発を目指した新規有機化合物の合成: バイエルクロップサイエンス株式会社, 2005
2	岡野 多門	助教授	複合化学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 環日本海環境協力センター: 2005
				2	社団法人 海と渚環境美化機構: 2005
				3	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] 海浜プラスチックゴミ調査に付随した 8 海岸の月次清掃
3	伊藤 敏幸	助教授	化学・複合化学・合成化学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 日本化学会中国四国支部, 化学教育協議会副委員長 (H16 年), 同委員長 (H17 年): 2004-2005
				2	日本化学会化学教育部会, 化学グランプリ WG 委員 (H17 年): 2005
				3	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] イオン液体の研究でシンガポール国際学会で基調講演 (Symposium "Recent Advances in Separation & Purification Techniques for Biological & Pharmaceutical Products Development". Nanyang University of Technology (Singapore), K-2): 2005
4	早瀬 修一	助手	基礎化学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取市立湖山西小学校 PTA 副会長 (平成 16 年~17 年)
5	丹羽 幹	教授	プロセス工学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] ゼオライト学会会長: 2005
				2	NEDO: 2003
				3	学術振興会: 2003
6	坂口 裕樹	教授	材料化学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] NEDO WE-NET(World Energy Network System) Task11 探索ワーキンググループ委員 1999 年~2003 年
				2	NEDO「水素安全利用等基盤技術」 審査員 2003 年
				3	[公開講座, 講演会等] 日本化学会・化学工学会・鳥取大学工学部物質工学科主催「夢化学 21・化学への招待 鳥取大学一日体験化学実験教室」 世話人 2004 年および 2005 年
7	片田 直伸	助教授	プロセス工学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取県 MOT 開発委員: 2003 - 2004

				2	[公開講座, 講演会等] 木材からの活性炭の簡便な製造: 研修会, 米子商工会議所, 会員, 2002
				3	木材からの活性炭の簡便な製造: 鳥取大学振興協力会, 鳥取大学振興協力会, 会員, 2002
8	斎本 博之	教授	複合化学	1	[産業支援] グルコサミン、ポリフェノールの梨リキュールへのブレンド: とっとり産業技術フェア 2005, 2005
				2	梨酢の製造: (有) エー・オー・エヌ・ケミカル, 2005
				3	プラスチックリサイクルを可能にするコーティングシステムの構築: とっとり産業技術フェア 2003, 2003
9	江坂 享男	教授	材料化学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 平成 16 年度新発電システム等調査研究委員会: 委員, 2005
				2	[公開講座, 講演会等] 高性能二次電池用電極材料の開発とその評価手法: 産学交流会 (東京), 鳥取大学、鳥取県, 一般, 2003
				3	固体電解質物性評価・解析法: 第 32 回電気化学講習会, 電気化学会, 一般、大学生, 2002
10	森川 修	助手	複合化学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 平成 17 年度地域貢献特別支援事業 (事業名: 出張おもしろ科学実験室): 2005
				2	[公開講座, 講演会等] 平成 15 年度地域貢献特別支援事業 [出張おもしろ科学実験室]: 鳥取県公設試験研究機関・県内大学合同発表会, 鳥取県総務部教育・学術振興課, 一般市民, 2004
				3	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] 日本海テレビ [とっとり Why? (テーマ名: 『知の地域づくり (科学編)』) へ出演 (この番組中, 5 分程度の放映時間でいくつかの演示実験を見てもらい, これまで鳥取県内でさまざまな科学啓蒙活動を行っていることを紹介してもらった, 1 回) : 2005
11	奥村 和	助手	プロセス工業	1	[産業支援] 三菱レイヨン (株) に対する研究支援
				2	出光興産 (株) に対する研究支援
				3	日産アーク (株) に対する研究支援
12	高井 茂臣	助手	材料化学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 日本化学会「化学と工業」誌トピックス委員 2004-2005
				2	[公開講座, 講演会等] 知的財産セミナー (中国技術振興センター) 2004
				3	原子力体験セミナー「放射線の工業利用」担当 2005

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	工学部・生物応用工学科

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	大城 隆	講師	農芸化学	1	[公開講座, 講演会等] やさしいバイオ講習会 2003 年 9 月 27, 28 日 (鳥取大学 教育地域科学部附属教育実践総合センタ, 鳥取大学生命機 能研究支援センター、日本生物工学会西日本支部主催, 一 般、高校生, 2003
2	本郷 邦広	助手	生物科学	1	[公開講座, 講演会等] まなびピア鳥取 2005 鳥取大学工学部公開講座「健康とバ イオ」講演会, 体験実験 主催, 分担
				2	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事 項] Hongo K, Uemura C, Hirai H, Mizobata T, Kawata Y. Molecular mechanism of groupII chaperonin thermosome in the presence of divalent cation. The 77th Annual Meeting of the Japanese Biochemical Society(Yokohama)
				3	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事 項] 産官学連携フェスティバル 2005 ポスター発表
3	櫻井 敏彦	助教授	複合科学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会 活動の実績等] 生涯教育運営センター運営委員会委員
				2	入試問題委員
				3	[ベンチャービジネスへの経営・参画] 鳥取大学 VBL 研究開発テーマ, 特異 seq-モデルペプチド シリカナノハイブリッドによる精密分子認識システムの開 発, 2006 年 12 月 27 日
4	吉井 英文	助教授	農芸化学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会 活動の実績等] 富山県農林水産試験研究評価外部委員: 評価委員, 2005
				2	富山県農林水産試験研究評価外部委員: 外部評価委員, 2004
				3	中国技術振興センター (バイオテクノロジー交流研究会) : 2002
5	築瀬 英司	教授	農芸化学	1	燃料用エタノール製造技術研究推進委員会: 委員, 平成 14、 15、16、17 年度
				2	岩美町バイオガスプラント具体化検討委員会: 委員長, 平 成 15、16、17 年度
				3	鳥取県リサイクル技術研究検討会議: 委員, 平成 16、17 年 度
6	河田 康志	教授	生物科学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会 活動の実績等] 生涯学習推進事業: 2005
				2	科学技術振興事業団審査委員会委員: 2002-2004
				3	[公開講座, 講演会等] 健康とバイオ: 鳥取大学工学部公開講座, 鳥取大学工学部 生物応用工学科 河田康志, 社会人, 一般市民, 高校生, 2005

7	古田 武	教授	化学工学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 平成15年度地域新生コンソーシアム事業委員会:委員, 2003
8	溝端 知宏	助教授	生物科学	1	[公開講座，講演会等] 鳥取大学工学部公開講座「健康とバイオ」，鳥取大学工学部生物応用工学科・日本生物工学会西日本支部・日本農芸化学会中国支部，一般市民，学生，2005
9	和泉 好計	教授	農芸化学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 科学研究費委員会：専門委員，2003
				2	科学研究費委員会：専門委員，2002
				3	[公開講座，講演会等] ポストゲノム時代の生物工学技術：，生物工学技術セミナー，高校生、中学生、市民，2003

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	工学部・土木工学科

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	野口 竜也	助手	社会・安全システム科学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] (財)地震予知総合研究振興会 震害連鎖研究委員会 委員 平成 15 年 5 月～
				2	[公開講座, 講演会等] 鳥取大学サイエンス アカデミー「地震災害に備える あなたの『すまい』だいじょうぶですか」講演題目:地震による地面の揺れやすさのはなし, 平成 18 年 3 月
2	吉野 公	助教授	土木工学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 廃棄物・資源循環研究会: 委員, 2005
				2	鳥取県: 2005
				3	鳥取県生コンクリート品質管理監査会議: 副委員長, 2005
3	黒田 保	助手	土木工学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取県生コンクリート品質管理監査会議: 監査員, 2005
				2	鳥取県生コンクリート品質管理監査会議: 監査員, 2004
				3	中小企業活路開拓調査・実現化事業: 委員, 2003
4	藤村 尚	教授	地盤工学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取県土砂災害警戒区域等指定検討委員会: 委員長, 2003
				2	鳥取県採石場安全対策審議会、: 委員長, 2004
				3	[公開講座, 講演会等] 土木考古学による古代山陰道:山陰道を探る, 国土交通省, 一般市民, 2003
5	上田 茂	教授	土木工学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 兵庫県新温泉町都市計画審議会: 委員長, 2005
				2	国土交通省中国地方整備局事業評価監視委員会: 委員, 2005
				3	国土交通省中国地方整備局総合評価審査会: 委員及び第二部会長, 2005
6	谷口 朋代	助教授	土木工学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 土木学会・巨大地震への対応検討特別委員会・耐震診断及び耐震対策検討部会/タンクワーキンググループ委員 (2004～2006)
				2	技術提案書評価委員会委員、鳥取県日野総合事務所県土整備局 (2004)
				3	Technical Committee, Seismic Engineering Group & Fluid-Structure Interaction Group, Pressure Vessel and Pippings Division, American Society of Mechanical Engineers (2004～現在)
7	塩崎 一郎	助教授	地球惑星科学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 地震予知のための新たな観測研究計画 (第 2 次) 研究課題中間評価委員: 2005

				2	鳥取県地下構造調査委員会：委員，2003
				3	地震予知研究協議会平成 16 年度概算要求ワーキンググループ：委員，2002
8	矢島 啓	助教授	土木工学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 鳥取市水道審議会：委員，2005
				2	[公開講座，講演会等] 河川水質に対する下水処理の影響とその植生浄化について：日本水道協会中国四国地区地方支部技術講習会，日本水道協会，水道局職員，2003
				3	[産業支援] 休耕田を利用した水質浄化プロジェクト：鳥取県智頭町，2003
9	井上 正一	教授	土木工学	1	日本コンクリート工学協会：理事，2004，2005
				2	日本材料学会：理事，2005
				3	鳥取県生コンクリート品質管理監査会議：議長，2010～

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	工学部・社会開発システム工学科

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	山田 茂	教授	社会・安全システム科学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] デミング賞委員会: 委員およびデミング賞委員会実施賞小委員会: 委員, 2002~2005
				2	[公開講座, 講演会等] ソフトウェア工学: ソフトウェアの品質向上と開発手順, 三菱重工業(株) 技術研修所, ソフトウェア技術者, システムエンジニア, 2002~2005
				3	[産業支援] TQM(総合的品質管理)における統計的品質管理手法の実践: 西川ゴム工業(株)・三菱重工業(株)・富士通周辺機(株)・(株)日新システムズ, 2002~2005
2	井上 真二	助手	社会・安全システム科学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 国土交通省中国運輸局 第4回鳥取県交通アドバイザー会議: 鳥取県交通アドバイザー, 2005
				2	国土交通省中国運輸局 第3回鳥取県交通アドバイザー会議: 鳥取県交通アドバイザー, 2004
				3	第4回 IEEE 広島支部学生シンポジウム実行委員: 論文・テクニカルプレゼンテーション委員長, 2002
3	谷本 圭志	助教授	土木工学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取市生活交通検討協議会鳥取西ブロック: 会長, 2005
				2	豊岡市市街地循環バス検討委員会: 委員, 2003~
				3	[公開講座, 講演会等] 中山間地域における新たな交通システムシンポジウム, 中国地方中山間地域復興協議会, 20035
4	細井 由彦	教授	土木工学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] (財)下水道新技術推進機構第4審査証明委員会: 委員長, 2005
				2	鳥取県環境審議会: 会長, 2003
				3	(財)水道技術研究センター「管路施設の機能診断評価に関する研究委員会」: 第1研究グループ委員長, 2005
5	小池 淳司	助教授	土木工学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取県公共投資評価委員会委員
				2	国土交通政策研究所政策効果の分析システムに関する研究会委員
				3	国土交通省交通アドバイザー委員会座長
6	松見 吉晴	助教授	土木工学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取県政府調達苦情検討委員会: 委員長, 2005
				2	石材による人工海底山脈造成の可能性調査研究会: 委員, 2004
				3	土木学会海岸工学委員会: 地区幹事, 2003
7	増田 貴則	助教授	土木工学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取市 浄水施設見直し検討委員会: 副委員長, 2002

				2	[公開講座，講演会等] 公開講座 痛みを知る 化学物質がもたらす未来 環境 ホルモン問題，2004
				3	[研修事業（外国人向け研修）] 閉鎖性水域の水環境管理技術コース：国際協力事業団，7 名，講師，2003
8	木村 晃	教授	土木工学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会 活動の実績等] 皆生海岸技術検討委員会委員
				2	皆生海岸利用促進委員会委員
				3	[公開講座，講演会等] 国土建設フェア出展（広島，2006）

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名		鳥取大学		学部・研究科等名		工学部・応用数理工学科	
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果		
1	林 農	教授	機械工学	1	〔 審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等 〕 「再生可能エネルギー2006 国際会議」組織委員会：委員，2005		
				2	鳥取県風力発電推進協議会：会長，2002		
				3	〔 国際事業協力 〕 ノッティングラム大学との国際交流協定締結記念シンポジウム 開催：イギリス，平成 14 年 10 月，日本，事業実施代表者，ノッティングラム大学，2002		
2	藤村 薫	教授	物理学	1	〔 専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項 〕 京都大学情報学研究科非常勤講師「複雑系力学特論 A」 2003 年 1 月（集中講義）		
				2	鳥取県立倉吉総合看護専門学校非常勤講師「生活科学（物理学）」2005 年前期		
3	福井 茂壽	教授	機械工学	1	〔 審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等 〕 日本学術振興会 科学研究費専門委員：2004		

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	工学研究科

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	小幡 文雄	教授	機械工学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 平成17年度地域新生コンソーシアム研究開発事業「接合面・摺動面の表面制御による高性能難削材加工機械の研究開発」に係わる「研究開発推進会議」及び「研究会」: 委員長, 2005
				2	MOT開発委員会: 委員長, 2003
				3	[公開講座, 講演会等] ツールホルダを装着したマシニングセンタ主軸系のアンバランス修正: 最新ツーリング技術講演会, 社団法人 日本工作機器工業会, ツーリングメーカー及びツーリング利用者, 2004
2	近藤 康雄	助教授	総合工学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取県環境審議会委員 2004~2005
				2	精密工学会校閲委員会委員 2005
				3	鳥取県廃棄物専門員会委員 2002~2003
3	上原 一剛	助手	機械工学	1	2005年2月28日 小学4年生を対象とした「『もののあたたまり方』のサーモグラフィーを使った実験」鳥取県倉吉市立河北小学校
				2	2002年9月9~10日 企業・研究者等を対象とした「鳥取大学高度技術研修 『機械技術者のための有限要素法解析の基礎と実践』」分担 (小出, 宮近, 岸, 上原)

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	ものづくり教育実践センター

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	長島 正明	助手	材料工学	1	[公開講座，講演会等] 実践フィールド学習の問題点を探る：第1回学生フォーラム，鳥取大学，学生、教職員、一般，2005

農 学 部

農 学 研 究 科

連合農学研究科

資 料 目 次

農表－1	職員数・・・・・・・・・・・・・・・・	2 0 7
農表－2	職階・学科別研究業績・・・・・・・・	2 0 7
農表－3	年次別研究業績の推移・・・・・・・・	2 0 8
農表－4	科学研究費の申請数，採択数の年次別推移・・・・・・・・	2 0 8
農表－5	共同研究・受託研究の年次別推移・・・・・・・・	2 0 8
研究活動実績票	別紙様式①－甲・・・・・・・・	2 0 9
研究活動実績票	別紙様式①－乙・・・・・・・・	2 1 1
研究活動実績票	別紙様式②・・・・・・・・	2 3 1
研究活動実績票	別紙様式③・・・・・・・・	2 4 6

農表－１ 職員数（平成18年5月1日現在）

	教授	助教授	講師	助手	事務職員	技術職員
生物資源環境学科・獣医学科	35	29	5	9	10	
附属フィールドサイエンスセンター	4	2				12
附属菌類きのご遺伝資源研究センター	1					
附属動物病院	1				1	
附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター	1	1				
連合農学研究科	1				3	

農表－２ 職階・学科別研究業績

職名	学科	年齢(18年4月1日現在)	原著論文数		最近5年(01-)論文数		著書数		総説・評論数		その他		最近3年(03-)学会発表数		特許件数	受賞数
			数	筆頭著者	数	筆頭著者	数	筆頭著者	数	筆頭著者	数	筆頭著者	数	筆頭		
教授	生物資源環境*	56.6	43.2	17.9	12.2	1.5	6.1	4.9	4.9	4.1	23.5	15.4	13.4	1.8	0.5	1.3
	獣医	51.3	78.8	21.7	21.4	3.3	5.3	2.5	5.5	3.9	17.7	6.5	25.6	10.1	0.2	1.8
助教授・講師	生物資源環境	43.0	23.5	9.3	10.5	3.7	4.3	3.1	1.7	1.1	12.2	6.1	13.9	4.4	0.2	0.7
	獣医	44.1	41.9	12.2	16.0	4.3	1.9	1.3	1.7	1.0	9.0	2.2	11.7	4.2	0.4	0.6
助手	生物資源環境	34.6	13.2	4.2	7.4	1.8	1.0	0.8	0.4	0.2	2.6	1.2	15.0	5.0	0.8	0.0
	獣医	33.2	9.0	4.6	7.6	4.0	0.6	0.6	0.0	0.0	5.2	3.4	8.2	4.8	0.0	1.0

*連合農学研究科専任教員（教授）を含む。

農表－３ 年次別研究業績の推移

研究成果の種類	件 数			
	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
①学術論文等（査読付）	201	214	224	258
②学術論文等（査読なし）	33	38	43	46
③国際会議議事録（プロシーディングス）	25	16	34	30
④著書（単著，共著，編集・監修）	30	19	32	23
特許出願（発明者）	5	11	15	15
学会発表等	299	317	442	364
学会賞等受賞	6	4	3	10
教員あたり学術論文数（査読付）	2. 5	2. 6	2. 8	3. 2

農表－４ 科学研究費の申請数，採択数の年次別推移

		平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
申請件数	継続	20	21	16	21
	新規	69	63	72	57
	合計	89	84	88	78
新規採択数		15	11	17	12
%		21. 7	17. 5	23. 6	21. 1
内定経費（継続＋新規）（千円）				122, 680	100, 080
1 件当たり経費（千円）				3, 718	3, 072

農表－５ 共同研究・受託研究の年次別推移

		平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
共同研究	件数	15	37	41	48
	受け入れ金額（円）	13, 120, 000	23, 562, 000	48, 555, 000	40, 839, 302
	1 件あたり受け入れ金額（円）	874, 667	636, 810	1, 184, 268	850, 819
受託研究	件数	12	13	14	19
	受け入れ金額（円）	73, 865, 700	65, 340, 200	49, 563, 400	47, 905, 000
	1 件あたり受け入れ金額（円）	6, 155, 475	5, 026, 169	3, 540, 243	2, 521, 316

研究活動実績票

別紙様式①－甲

【学部・研究科等の研究活動の実施状況】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	農学部・農学研究科

〈学部・研究科等の概要〉

I. 研究の目的

鳥取大学農学部は、大正9年（1920年）に全国で3番目に創設された鳥取高等農業学校を前身とし、農学部設置（昭和24年）、農学研究科設置（昭和42年）、その他学科の新設・統合・再編整備を経て、今日まで農学教育と生命・生物生産・環境に関わる研究を核としながら、地域社会のみならず広く国際社会の発展に貢献してきた。昭和42年（1967年）には、鳥取大学大学院農学研究科（修士課程）が設置され、現在、生物生産科学専攻、農林環境科学専攻、農業経営情報科学専攻の3専攻より構成されている。また、平成元年（1989年）には、後期3年のみの博士課程の独立研究科として、鳥取大学、島根大学及び山口大学の各大学院農学研究科（修士課程）の教員組織、研究設備及び施設を連合して設立された。さらに、平成17年には、附属菌類きのこ遺伝資源研究センター、附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センターが新設、既設の附属農場と演習林の統合による附属フィールドサイエンスセンターの設置を行い、既設の附属動物病院とあわせ、4附属施設を擁している。

《教員、研究員等数》 〈平成18年5月1日現在〉

教 授	助 教 授	講 師	助 手
43	32	5	9

産官学連携研究員	博士研究員
	JSPS その他

客員教授	客員助教授	客員研究員

＜学部・研究科等の研究活動の実施状況＞

1. 農学部では、生物資源環境学科および獣医学科の2学科を置き、農学に関する次の11課題の研究を進めている。

- 安全で良質な食料供給を保障するための社会・自然科学融合研究
- 環境に配慮した持続性のある食料生産技術に関する研究
- 未知の生物資源利用とバイオ技術による生物機能開発に関する研究
- 食と環境の問題を解決するための学際的研究
- 農地や森林等の生存環境基盤の保全・管理・活用技術に関する研究
- 乾燥地域の農林業と砂漠化防止に関する研究
- 菌類きのこの遺伝資源の活用に関する研究
- 動物の生命機能に関する基礎研究

- 動物の病気発生機構の解明に関する研究
- 動物の病気の診断・治療・予防法に関する研究
- 人獣共通感染症の研究

特に、附属菌類きのこ遺伝資源研究センターは、財団法人日本きのこセンター菌蕈研究所より寄付された系統を含む 1,000 種 10,000 株の菌類きのこ遺伝資源を保有し、自然生態系の維持、植物の成長促進やストレス耐性の付与、環境汚染物資の浄化など多様な機能を持つ菌類きのこに関し、高レベルで特色のある体系的な教育と研究を行っている。

また、附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センターは、鳥インフルエンザなど社会的にインパクトの大きな鳥由来人獣共通感染症における防疫対策を確立し、農林水産省から高病原性鳥インフルエンザの研究を行う学術研究機関の承認を受け、P 3 レベル感染動物実験室を使用した実験を開始した。

研究活動実績票

別紙様式①－乙

【研究成果一覧】

大学名	鳥取大学	学部・研究科名	農学部・生物資源環境学科		
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	尾谷 浩	教授	農学	1	Host-specific AB-toxin production by germinating spores of <i>Alternaria brassicicola</i> is induced by a host-derived oligosaccharide. :Oka, K., Akamatsu, H., Kodama, M., Nakajima, H., Kawada, T. and Otani, H., Physiological and Molecular Plant Pathology, 66, 12-19, 2005
				2	Detection of fungi producing infection-inhibiting metabolites against <i>Alternaria alternata</i> Japanese pear pathotype from fungi inhabiting internal tissues of Japanese pear shoots :Aremu, E. A., Tanaka, K., Akagi, Y., Maekawa, N., Akamatsu, H., Kodama, M. and Otani, H., Journal of General Plant Pathology, 70, 139-142, 2004
					Specific inhibition of spore germination of <i>Alternaria brassicicola</i> by fistupyrone from <i>Streptomyces</i> sp. TP-A0569. :Aremu, E. A., Furumai, T., Igarashi, Y., Sato, Y., Akamatsu, H., Kodama, M. and Otani, H., Journal of General Plant Pathology, 69, 211-217, 2003
2	甲斐 英則	教授	農学	1	The molecular mechanism of the termination of insect diapause, part 1: A timer protein, TIME-EA4, in the diapause eggs of the silkworm <i>Bombyx mori</i> is a metallo-glycoprotein : M. Isobe, H. Kai, T. Kurahashi, S. Suwan, S. Pitchayawasin-Thappasarakhong, T. Franz, N. Tani, K. Higashi, H. Nishida, ChemBioChem, 7, 1590-1598, 2006
				2	The peptide PIN changes the timing of transitory burst activation of timer-ATPase TIME in accordance with diapause development in eggs of the silkworm, <i>Bombyx mori</i> : X. Ti, N. Tuzuki, N. Tani, M. Isobe, H. Kai, J. Insect Physiol., 51, 1025-1032, 2005
				3	Demarcation of diapause development by cold and its relation to time-interval activation of TIME-ATPase in eggs of the silkworm, <i>Bombyx mori</i> : X. Ti, N. Tuzauki, N. Tani, E. Morigami, M. Isobe, H. Kai, J. Insect Physiol., 50, 1053-1064, 2004
3	木村 靖夫	教授	農芸化学	1	Kimura, Y., Sawada, A., Kuramata, M., Kusano, M., Fujioka, S., Kawano, T., and Shimada, A. Brevicompanine C, cyclo-(D-Ile-L-Try) and cyclo-(D-Leu-L-Try), Plant growth regulators from <i>Penicillium brevis-compactum</i> . J. Natural Products 68, 237-239 (2005) .
				2	Shimada, A., Hisakazu, Y.,and Kimura, Y. Interaction between aspteric acid and indole-3-acetic acid on reproductive growth in <i>Alrabbidopsis thaliana</i> . Z.Naturforsch. 60c, 572-576 (2005).
				3	Kawano, T., Kataoka, N., Abe, S., Ohtani, M., Honda, Y.,Honda, S., and Kimura, Y Lifespan extending activity of substances secreted by the nematode <i>Caenorhabditis elegans</i> that include the Dauer-inducing pheromone. Biosci. Biotech. Boichem., 69, 2479-2481, (2005) B.B.B. 論文賞

4	田中 淨	教授	境界農学	1	Enhanced tolerance to salt stress and water deficits by overexpressing ascorbate peroxidase in tobacco (<i>Nicotiana tabacum</i>) chloroplasts (2004) G.H. Badawi, Y. Yamauchi, E. Shimada, R. Sasaki, N. Kawano, A. Kubo and K. Tanaka, <i>Physiol. Plant.</i> 121: 1-8.
				2	Cloning of a putative monogalactosyldiacylglycerol synthase gene from rice plants (<i>Oryza sativa</i> L.) and its expression in response to submergence and other stresses. (2004) Y. Qi, Y. Yamauchi, J. Ling, N. Kawano, D. Li and K. Tanaka, <i>Planta</i> , 219: 450-458.
				3	Identification and cloning of a submergence induced gene OsGGT (glycogenin glucosyltransferase) from rice (<i>Oryza sativa</i> L.) by suppression subtractive hybridization (2005) Y. Qi, Y. Yamauchi, J. Ling, N. Kawano, D. Li and K. Tanaka, <i>Planta</i> , 221: 437-445.
5	田邊 賢二	教授	農学	1	Spur Characteristics, Fruit growth, and carbon partitioning in two late-maturing Japanese pear (<i>Pyrus pyrifolia</i> Nakai) cultivars with contrasting fruit size. Zhang, C., K. Tanabe, F. Tamura, A. Itai, and S. Wang. <i>J. Amer. Soc. Hort. Sci.</i> , 130, 2: 252-260, 2005
				2	Determination of ethylene synthetic genotypes related to ripening in Japanese pear cultivars. Itai, A., T. Kotaki, K. Tanabe, M. Fukuda, Y. Kawada, Y. Amano and N. Fujita., <i>J. Japan Soc. Hort. Sci.</i> , 74: 361-366, 2005
				3	Genetic relationships of <i>Pyrus</i> species and cultivars native east Asia revealed by randomly amplified polymorphic DNA markers. : Teng, Y., K. Tanabe, F. Tamura and A. Itai., <i>J. Amer. Soc. Hort. Sci.</i> , 127: 262-270, 2002
6	辻本 壽	教授	農学	1	Extended application of barley EST markers for the genomic analysis of wheat and barley-related species : A. A. Hagrass, M. Kishii, K. Sato, H. Tanaka, H. Tsujimoto, <i>Breeding Science</i> , 55, 0, 335-341, 2005
				2	Centromere-specific repetitive sequence from <i>Torenia fournieri</i> , a model plant for fertilization, and whole-mount FISH of its embryo sac cells, 109:228-235. : S. Kikuchi, M. Kishii, M. Shimizu, H. Tsujimoto, <i>Cytogenetic and Genome Research</i> , 109, 0, 228-235, 2005
				3	Production of wheat- <i>Leymus racemosus</i> chromosome addition lines : M. Kishii, T. Yamada, T. Sasakuma, H. Tsujimoto, <i>Theoretical and Applied Genetics</i> , 109, 0, 255-260, 2004
7	中島 廣光	教授	農芸化学	1	Botcinins A, B, C, and D, metabolites produced by <i>Botrytis cinerea</i> , and their antifungal activity against <i>Magnaporthe grisea</i> , a pathogen of rice blast disease : H. Tani, H. Koshino, E. Sakuno, H. Nakajima, <i>J. Nat. Prod.</i> , 68, 12, 1768-1772, 2005
				2	A plant growth retardant related to chlamydocin and its proposed mechanism of action : H. Tani, T. Honma, Y. Fujii, K. Yoneyama, H. Nakajima, <i>Phytochemistry</i> , 62, 0, 1133-1140, 2003
				3	Fungal melanin inhibitor and related compounds from <i>Penicillium decumbens</i> : Y. Fujii, M. Asahara, M. Ichinoe, H. Nakajima, <i>Phytochemistry</i> , 60, 0, 703-708, 2002
8	森嶋 伊佐夫	教授	農芸化学	1	A novel leibocin-like gene from eri-silkworm, <i>Samia cynthia ricini</i> , which does not encode antibacterial peptide leibocin. : Bao Y., Yamano Y. and Morishima I., <i>Comp. Biochem. Physiol. Part B.</i> , 140, 0, 127-131, 2005
				2	cDNA cloning and expression of bacteria-induced Hdd11 gene from eri-silkworm, <i>Samia cynthia ricini</i> . : Bao Y., Mega K., Yamano Y. and Morishima I., <i>Comp. Biochem. Physiol., Part C</i> , 136, 0, 337-342, 2003

				3	Protein purification, cDNA cloning and gene expression of attacin, an antibacterial protein, from eri-silkworm, <i>Samia cinthia ricini</i> . : Kishimoto K., Fujimoto S, Matsumoto K., Yamano Y. and Morishima I., <i>Insect Biochem. Molec. Biol.</i> , 32, 0, 881-887, 2002
9	山崎 良平	教授	農芸化学	1	R. Yamasaki, T. Maruyama, U. Yabe, and S. Asuka, Normal human sera contain bactericidal IgG that binds to the oligosaccharide epitope expressed within lipooligosaccharides of <i>Neisseria gonorrhoeae</i> , <i>J Biochem (Tokyo)</i> , 137(2005)487-94.
				2	Ichianagi T, and Yamasaki R, Anomeric O-acylation of Kdo using alkyl and aryl isocyanates, <i>Carbohydr. Res</i> 340 (2005)2682-2687
				3	Synthesis of a 2,3-Di-O-substituted heptose structure by regioselective 3-O-silylation of a 2-O-substituted heptose derivative : Synthesis of a 3,4-di-O-substituted heptose structure: a partial oligosaccharide expressed in <i>Neisseria</i> lipooligosaccharide, <i>Eur. J. Org. Chem</i> , 1214-1227, 2004
10	渡邊 文雄	教授	農芸化学	1	Characterization of Corrinoid Compounds from a Japanese Black Tea (Batabata-cha) Fermented by Bacteria : H. Kittaka-Katsura • S. Ebara • F. Watanabe • Y. Nakano, <i>Journal of Agricultural and Food Chemistry</i> , 52, 4, 909-911, 2004
				2	Purification and Characterization of a Corrinoid-Compound in an Edible Cyanobacterium <i>Aphanizomenon flos-aquae</i> as a Nutritional Supplementary Food: E. Miyamoto • Y. Tanioka • T. Nakao • F. Barla • H. Inui • T. Fujita • F. Watanabe • Y. Nakano, <i>Journal of Agricultural and Food Chemistry</i> , 54, 12, 9604-9608, 2006
				3	PLC of Hydrophilic Vitamins. In <i>Preparative Layer Chromatography</i> (Eds. Kowalska, T., Sherma, J.). ISBN:0-8493-4039-X, F. Watanabe • E. Miyamoto, CRC Press, pp. 237-250. 2005
11	奥村 武信	教授	林学	1	風化花崗岩斜面の表層崩壊発生に関するコラプス沈下 : 小山 敢 • 西郡彩菜 • 三森利昭 • 落合博貴 • 奥村武信 • 本田尚正, <i>日本森林学会誌</i> , 87, 6, 457-464, 2005
				2	飛来種子による樹林化のための生育基盤 : 奥村武信 • 澤 教子 • 藪下祐己 • 田中 博, <i>日本緑化工学会誌</i> , 28, 1, 67-72, 2002
				3	環境のはなしー鳥取発・地球再生の智慧 住みよい社会をめざして : 奥村武信, 緑は生存の源, 吉谷昭彦, 250-255, 2002, 富士書店, 鳥取市
12	北村 義信	教授	農業工学	1	Classification of Salinization Processes in Luohui Irrigation Scheme, China -Part of Water Management Research to Prevent Salinization in Semiarid Land- : Solomon, H., Kitamura, Y., Li, Z., Yamamoto, S., Yang, S. L., Li, P., Waleed, A. and Otagaki, K., <i>Journal of Arid Land Studies</i> , 15, 2, 89-105, 2005
				2	Short term effects of saline irrigation on evapotranspiration from lysimeter-grown citrus trees : S. L. Yang, T. Yano, M. Aydin, Y. Kitamura and S. Takeuchi, <i>Agricultural Water Management</i> , 56, 2, 131-141, 2002
				3	Restoration of inland valley ecosystems in West Africa : Y. Kitamura, Chapter 2 Ecological Environment of West Africa 1. Climatic characteristics, 4. Characteristics of the hydrologic environment, S. Hirose and T. Wakatsuki, 83-91, 137-173, 2002, Association of Agriculture & Forestry Statistics, Tokyo, Japan
13	黒川 泰亨	教授	林学	1	地域林業の活性化に対する意識構造に関する事例分析 : 黒川泰亨, <i>森林応用研究</i> , 14, 1, 9-16, 2005
				2	森林管理における林分保有期間の最適決定に関するシステム論的考察 : 黒川泰亨, 鳥取大学農学部研究報告, 0, 56, 19-26, 2003
				3	林業における就労配分のシステム化に関する研究ー確率的 PERT による林業労働の管理と計画ー : 黒川泰亨, <i>森林計画学会誌</i> , 37, 1, 1-12, 2002

14	古塚 秀夫	教授	農業経済学	1	国際会計基準第 41 号「農業」のわが国への適用上の課題について－農産物および自己育成資産を中心として－：永利和裕・古塚秀夫，農林業問題研究，42，1，60-64，2006
				2	自計式農家経済簿に基づくキャッシュ・フロー計算書の作成方法に関する研究：二川智恵・古塚秀夫，農林業問題研究，41，4，124-128，2005
				3	生シイタケの需要に関する研究：大浦明子・古塚秀夫・松田敏信，農林業問題研究，37，4，153-156，2002
15	小林 一	教授	農業経済学	1	一筆圃場カルテに基づく経営支援システムの開発：三浦修平・小林一，システム農学，20，1，16-22，2004
				2	国際競争に打ち勝つ農業経営自立化戦略：小林一・傳武平，WTO 体制下の中国稲作の振興方策，持田紀治，244-264，2004，農林統計協会，東京
				3	日本農業年報 50 米政策の大転換：小林 一，新たな担い手像＝集落経営体をどうみるか，梶井功・谷口信和，142-156，2004，農林統計協会，東京
16	佐藤 俊夫	教授	農業経済学	1	乾燥地農業論：佐藤俊夫，228，2002，九州大学出版会，福岡市
				2	環境のはなし－鳥取発・地球再生の知恵：佐藤俊夫，環境に優しく、生産力の高い農業とは？87-92，2002，富士書店，鳥取市
17	田熊 勝利	教授	農業工学	1	黒ぼくの土壌流出に影響する侵食因子に関する研究：田熊勝利，猪迫耕二，中原 恒，鳥取大学農学部研究報告，57，0，9-13，2005
				2	塩類集積時に生じる塩結晶のデジタル解析：鈴鹿淳一，安田 裕，猪迫耕二，田熊勝利，大野香織，日本砂丘学会誌，51，1，27-32，2004
				3	土壌改良剤混入による赤土系国頭まあじの侵食抑制効果：田熊勝利、猪迫耕二、小林 清、村本英恵，鳥取大学農学部研究報告，56，0，7-11，2003
18	長澤 良太	教授	地理学	1	ディジタル植生図の技術的課題：長澤 良太，景観生態学，11，1，15-25，2006
				2	リモートセンシングによる土地資源評価：長澤 良太，132pp，2002，古今書院，東京
				3	地形環境と歴史景観：長澤 良太，第 2 部「蒜山高原における土地利用とランドスケープの変化」，日下 正義編，地形環境と歴史景観，132-140，2004，古今書院，東京
19	能美 誠	教授	農業経済学	1	時期区分法の開発と農業時期区分への実証的適用－凝集型・階層的クラスター分析法の応用－：能美誠，農業経営研究，40，3，1-12，2002
				2	農業地域区分・時期区分手法論：能美誠，357，2005，農林統計協会，東京
20	服部 九二雄	教授	農業工学	1	郭 世文・服部九二雄・緒方英彦・高田龍一：クリンカーアッシュを細骨材に用いたコンクリートの諸性状と耐凍結融解性，農業土木学会論文集，233 (72-5)，93-99(2004.10)
				2	H. Khaled・K. Hattori・H. Ogata・A. Hayashi：Evaluating the Pozzolanic Activity of Pulverized Cinder Ash for Use as Cement Replacement in Concrete, Trans. of JSIDRE, 235 (73, 1), 1-7 (2005. 2)
				3	青山咸康・服部九二雄・野中資博・長束勇編（分担執筆）：建設材料―地域環境の創造―，pp. 8-12, pp. 18-26, pp. 225-226，朝倉書店（2003）
21	藤山 英保	教授	境界農学	1	Adequate internal water status of NaCl-salinized rice shoots enhanced selective calcium and potassium absorption：Song J. Q., Mei X. R. and Fujiyama, H. Soil Sci. Plant Nutr., 52, 300-304, 2006
				2	Differences in Short-term Responses of Rice and Tomato to Sodium Salinization and Supplemental Potassium and Calcium：Baba, T. and Fujiyama, H., Soil Sci. Plant Nutr., 49, 5, 669-675, 2003
				3	Short-term Response of Rice and Tomato to NaCl Stress in Relation to Ion Transport：Baba, T. and Fujiyama, H., Soil Sci.

					Plant Nutr., 49, 4, 513-519, 2003
22	古川 郁夫	教授	林学	1	Radial Variation of Fiber Length Increment in <i>Acacia mangium</i> : K. Honjo, I. Furukawa, M. H. Sahri, IAWA Journal, 26, 3, 339-352, 2005
				2	Wood Anatomy of <i>Tamarix austromongolica</i> and <i>T. chinensis</i> from Ecological Perspective : S. Yang, I. Furukawa, Sand Dune Research, 50, 1, 23-29, 2003
				3	Anatomical Features of Rayless Woody Xerophyte <i>Haloxylon ammodendron</i> : S. Yang, I. Furukawa, Sand Dune Research, 49, 3, 99-104, 2003
23	八木 俊彦	教授	林学	1	遺跡と里山の一体的保全—妻木晩田遺跡の事例にもとづいて— : 八木 俊彦, 日本の科学者, 38, 421, 16-22, 2003
24	山本 福壽	教授	林学	1	Sheng Du and Fukuju Yamamoto. 2003. Ethylene evolution changes in the stems of <i>Metasequoia glyptostroboides</i> and <i>Aesculus turbinata</i> seedlings in relation to gravity-induced reaction wood formation. Trees. 17:522-528.
				2	Sheng Du, Hiroki Uno & Fukuju Yamamoto 2004. Roles of auxin and gibberellin in gravity-induced tension wood formation in <i>Aesculus turbinata</i> seedlings. IAWA Journal. 25(3), 337-347.
				3	Sheng Du, Mami Sugano, Miho Tsushima, Teruko Nakamura & Fukuju Yamamoto 2004. Endogenous indole-3-acetic acid and ethylene emission changes in tilted <i>Metasequoia glyptostroboides</i> stems in relation to compression wood formation. J. Plant Res. 117 : 171-174.
25	會見 忠則	助教授	農芸化学	1	Identification and linkage mapping of the genes for the putative homeodomain protein (<i>hoxI</i>) and the putative pheromone receptor protein homologue (<i>rcbI</i>) in a bipolar basidiomycete, <i>Pholiota nameko</i> . : T. Aimi, R. Yoshida, M. Ishikawa, D. Bao, Y. Kitamoto, Curr. Genet., 48, 184-194, 3, 2005
				2	Physiology and molecular characteristics of a pine wilt nematode trapping fungus, <i>Monacrosporium megalosporum</i> . : S. Kano, T. Aimi, S. Masumoto, Y. Kitamoto and T. Morinaga, Curr. Microbiol., 49, 3, 158-164, 2004
				3	Heterologous diploid nuclei in the violet root rot fungus, <i>Helicobasidium mompa</i> . : Tadanori Aimi, Yoshinori Iwasaki, Sanae Kano, Yoshiki Yotsutani and Tsutomu Morinaga, Mycol. Res., 107, 9, 1060-1068, 2003
26	東 政明	助教授	農学	1	Membrane-penetrating trehalase from silkworm <i>Bombyx mori</i> . Molecular cloning and localization in larval midgut. : Mitumasu, K., Azuma, M., Niimi, T., Yamashita, O. and Yaginuma, T., Insect Mol. Biol., 14, 0, 501-508, 2005
				2	Molecular cloning and expression of aquaporin from the silk gland of <i>Bombyx mori</i> . : Miyake, S. and Azuma, M., XXII International Congress of Entomology, 0, 0, 0-0, 2004
				3	東 政明 : みずみずしい体のしくみ 水の通り道「アクアポリンの働きと病気 (分担執筆) , ISBN4-87805-060-8, 昆虫のくらしとアクアポリン, pp.63-71, 第19回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会, 佐々木成 編, (株)クパプロ, 東京。(2005)
27	板井 章浩	助教授	農学	1	Determination of the ethylene synthetic genotypes related to ripening in Japanese pear cultivars : Itai, A., T. Kotaki, K. Tanabe, M. Fukuda, Y. Kawada, Y. Amano and N. Fujita. , J. Japan. Soc. Hort. Sci. , 74, 361-366, 2005
				2	ニホンナシ成熟果実のエチレン生成に関する DNA マーカーの開発 : 板井章浩, 園芸学研究, 3, 323-328, 2004
				3	Rapid identification of 1-aminocyclopropane-1-carboxylate (ACC) synthase genotypes in cultivars of Japanese pear (<i>Pyrus pyrifolia</i> Nakai) using CAPS markers. : Itai, A., T. Kotaki, K. Tanabe, F. Tamura, D. Kawaguchi, and M. Fukuda. , Theor. Appl.

					Genet. , 106, 1266-1272, 2003
28	一柳 剛	講師	境界農学	1	Anomeric O-acylation of Kdo using alkyl and aryl isocyanates : Tsuyoshi Ichianagi, Ryohei Yamasaki, Carbohydrate Chemistry, 340, 0, 2682-2687, 2005
				2	A novel method for the formation of N-glycoside using hydroxamate : 1. Jun Nakano, Tsuyoshi Ichianagi, Hiromichi Ohta, Yukishige Ito, Tetrahedron Lett. , 44, 0, 2853-2856, 2003
				3	Synthesis of Mucin-Type Glycopeptide (b hCG 130-145) by On-resin Fragment Condensation of the Glycopeptide Segment Carrying Unmasked Oligosaccharides : T. Ichianagi, M. Takatani, K. Sakamoto, Y. Nakahara, Y. Ito, H. Hojo, Y. Nakahara, Tetrahedron Lett. , 43, 0, 3297-3300, 2002
29	岡 真理子	助手	生物科学	1	Nitrogen nutrition of rice plants under salinity. Biologia Plantarum : E. M. Abdelgadir, M. Oka, H. Fujiyama, 49, 99-104, 2005
				2	Thermoinduction of genes encoding the enzymes of gibberellin biosynthesis and a putative negative regulator of gibberellin signal transduction in Eustoma grandiflorum : M. Mino, M. Oka, Y. Tasaka, M. Iwabuchi, Plant Cell Rep , 22, 0, 159-165, 2003
				3	Response of Vegetable Crops to Salinity and Sodidity in Relation to Ionic Balance and Ability to Absorb Microelements : Achmadi Jumberi, Mariko Oka, Hideyasu Fujiyama, Soil Science and Plant Nutrition , 48, 0, 203-209, 2002
30	河野 強	助教授	境界農学	1	Molecular cloning of a cDNA for the glutamate transporter of the nematode Caenorhabditis elegans : Kawano, T., Takuwa, K., and Nakajima, T., Biochem. Biophys. Res. Commun., 228, 415-420, 1996
				2	Lifespan extending activity of substances secreted by the nematode Caenorhabditis elegans that include the dauer-inducing pheromone. : Kawano, T., Kataoka, N., Abe, S., Ohtani, M., Honda, Y., Honda, S., and Kimura, Y., Biosci. Biotechnol. Biochem. , 69, 2479-2481, 2005
				3	Molecular cloning and characterization of a new insulin/IGF-like peptide of the nematode Caenorhabditis elegans. : Kawano, T., Ito, Y., Ishiguro, M., Takuwa, K., Nakajima, T., and Kimura, Y., Biochem. Biophys. Res. Commun, 273, 431-436, 2000
31	児玉 基一朗	助教授	農学	1	Catalog of Micro-Tom tomato responses to common fungal, bacterial, and viral pathogens. : Takahashi, H., Shimizu, A., Arie, T., Rosmalawati, S., Fukushima, S. Kikuchi, M., Hikichi, Y., Kanda, A., Takahashi, A., Kiba, A., Ohnishi, K., Ichinose, A., Taguchi, F., Yasuda, C., Kodama, M., Egusa, M., Masuta, C., Sawada, H., Shibata, D., Hori, K. and Watanabe, Y., Journal of General Plant Pathology, 71, 1, 8-22, 2005
				2	Host-specific AB-toxin production by germinating spores of <i>Alternaria brassicicola</i> is induced by a host-derived oligosaccharide. : Oka K., Akamatsu H., Kodama M., Nakajima H., Kawada T. and Otani H., Physiological and Molecular Plant Pathology, 66, 1, 12-19, 2005
				3	An appropriate increase in the transcription of <i>Aspergillus nidulans</i> uvsC improved gene targeting efficiency. : Natsume, T., Egusa, M., Kodama, M., Johnson, R., Itoh T. and Itoh, Y, Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry, 68, 8, 1649-1656, 2004
32	富田 因則	助教授	農学	1	Advances in Rice Genetics : Tomita. M., H. Yamagata, H. and Tanisaka, Developmental cytology on the gametic abortion caused by the induced complementary genes, gal and d60, in Japonica

					rice, Eds. G. S. Khush, D. S. Brar and B. Hardy ISBN 971-22-0199-6, 179-181, 2003, IRRI, Manila
				2	植物育種学各論 一作物の特性と育種- 富田因則, ライコムギの育種. 日向康吉・西尾 剛編 ISBN 971-22-0199-6, 87-95, 2003, 文永堂, 東京
				3	[特許出願] A novel transposon-like element: Tomita, M., US10/927,100, 2004
33	山口 武視	助教授	農学	1	ダイズ茎基部からの出液を用いた過湿による根系機能低下の評価: 馬啓林・山口武視・中田昇・中野貴章・田中朋之・中野淳一, 根の研究, 14, 0, 3-8, 2005
				2	ダイズ幼植物における茎基部からの出液速度に関する要因: 馬啓林・山口武視・中田昇・田中朋之・中野淳一, 日本作物学会紀事, 73, 0, 431-435, 2004
				3	The two subfamilies of rice glutelin differ in both primary and higher-order structures. : Katsube-Tanaka, T., Joy Bartolome A. Duldulao, Yuka Kimura, Shuichi Iida, Takeshi Yamaguchi, Junichi Nakano, Shigeru Utsumi, Biochemica et Biophysica Acta, 1699, 0, 95-102, 2004
34	山田 智	助教授	境界農学	1	Comparison of the mineral distribution characteristics of seven species of plants growing on Tottori coastal sand dune during summer and early autumn: Yamada, S., Kawai, Y., Yamanouchi, M., Yamanaka, N., Endo, T., and Manabe, H. Sand Dune Research., 51, 75-81, 2004
				2	Function of node unit in photosynthate distribution to root in higher plants. Osaki, M., Shinano, T., Yamada, M., and Yamada, S. Photosynthetica, 42, 123-131, 2004
				3	Mineral characteristics of the leaves of 166 plant species with different phylogeny in the temperate region. Osaki, M., Yamada, S., Ishizawa, T., Watanabe, T., Shinano, T., Tuah, S. J., and Urayama, M. Plant Foods for Human Nutrition, 58, 139-152, 2003
35	万里	助教授	農業経済学	1	実質価格, 名目価格それぞれにおける時系列予測に関する研究: 万里・笠原浩三, 農林業問題研究, 40, 1, 64-69, 2004
				2	ネギ, しいたけの輸入と国内生産・消費に関する分析: 万里, 農林業問題研究, Vol. 37, No. 4, pp. 199-204, 37, 4, 199-204, 2002
				3	生鮮食料品流通の時系列分析: 万里, 207, 2002, 財団法人 農林統計協会, 東京
36	市原 恒一	助教授	林学	1	倒立形二重振り子によるトラクタローリング角の測定. 市原恒一, 藤井禧雄, 高久 博昭; 森林利用学会誌 18, 175-182 2003
				2	林道が横断する谷流域の集水面積累積頻度分布. 市原恒一, 小笠原祐介, 豊川勝生; 森林利用学会誌 18, 13-20 2003
				3	Factors Affecting Workload and Work Efficiency : YOVI, E., TAKIMOTO, Y., ICHIHARA, K. and MATSUBARA, C., Journal of the Japan Forest Engineering Society, 20, 3, 141-150, 2005
37	猪迫 耕二	助教授	農業工学	1	磁気シード法による赤土濁水の固液分離処理: 猪迫耕二, 岸田悟, 大木誠, 田熊勝利, 久保里美, 畑地農業, 0, 561, 2-7, 2005
				2	塩類集積時に生じる塩結晶のデジタル解析, 鈴鹿淳一・安田裕・猪迫耕二・田熊勝利・大野香織, 日本砂丘学会誌, 51, 1, 27-32, 2004
				3	Effect of root distribution on change in soil moisture: Koji Inosako, Yoshisuke Nakano, Masaharu Kuroda, Katsutoshi Takuma, Advanced in Hydraulics and Water Engineering, 1, 1, 505-510, 2002
38	大津 亨	助教授	法学	1	「法律家の社会学序説」(国士館法学第 29 号、1997 年)
				2	イギリス法の特殊性は何によるのか」(法学志林第 97 巻第 1 号、1999 年)、
				3	「マックス・ウェーバーの法社会学における『イギリス』問題」(法学志林第 99 巻第 2 号、2001 年)
39	緒方 英彦	助教授	農業工学	1	柱状レーヤ工法による重力式コンクリートダム の温度応力解析の検討: 緒方英彦, 服部九二雄, 野中資博, 長束 勇, 青山咸康, 農

					業土木学会論文集, 0, 232, 75-81, 2004
				2	超音波法によるコンクリートの耐凍結融解特性の評価: 緒方英彦, 服部九二雄, 高田龍一, 野中資博, コンクリート工学年次論文集, 24, 0, 1563-1568, 2002
				3	[特許出願] 超音波によるコンクリート構造物のひび割れ深さ探査方法及びそのひび割れ深さ探査装置: 特願 2006-24605, , 国立大学法人鳥取大学, 2005
40	本田 尚正	助教授	林学	1	土石流の数値解析に基づく治山砂防施設の土砂流出調節機能の評価: 本田尚正・奥村武信, 森林応用研究, 15, 1, 13-22, 2006
				2	数値計算結果に基づく除石による砂防ダムの機能回復の評価: 本田尚正, 奥村武信, 水工学論文集, 50, 0, 901-906, 2006
				3	数値シミュレーションによる砂防施設の土石流調節効果の検証: 本田尚正, 奥村武信, 水工学論文集, 49, 0, 1057-1062, 2005
41	松田 敏信	助教授	農業経済学	1	Incorporating Generalized Marginal Budget Shares in a Mixed Demand System: Matsuda, Toshinobu, American Journal of Agricultural Economics, 86, 4, 1117-1126, 2004
				2	Forms of Scale Curves and Differential Inverse Demand Systems: Matsuda, Toshinobu, American Journal of Agricultural Economics, 87, 3, 786-795, 2005
				3	A Trigonometric Flexible Consumer Demand System: Matsuda, Toshinobu, Canadian Journal of Economics, 39, 1, 145-162, 2006
42	松村 一善	助教授	農業経済学	1	The Development Trends of Chinese Rice Production Under the WTO Agreement—Based on the International Comparison of Rice Cost of Production Analysis: Hajime Kobayashi, Ichizen Matsumura, Wuping Fu, 鳥取大学農学部研究報告, 56, 0, 35-45, 2003
				2	砂丘地園芸の経営戦略: 松村一善, 日本砂丘学会誌, 第49巻, 第3号, 135-139, 2003
				3	砂丘地園芸の経営戦略: 松村一善, 日本砂丘学会誌, 第49巻, 第3号, 135-139, 2003
43	山本 定博	助教授	農芸化学	1	A comparative evaluation of wet digestion and dry ashing methods for the determination of some major nutrients in composted manure.: A. E. Eneji, S. Yamamoto, G. Wen, S. Inanaga and T. Honna, Toxicological & Environmental Chemistry Volume 87, Number 2 147 - 158, 2005
				2	Trace Elements Solubilization in Waste Amended Saline-Sodic Conditions.: M. Irshad, S. Yamamoto and T. Honna, J. Food, Agriculture & Environment Vol. 2 (3 & 4): 255-259 2004
				3	Sodium-Calcium Exchange Selectivity as Influenced by Clay Minerals and Composition.: T. Endo, S. Yamamoto, T. Honna and A. E. Eneji, Soil Science, 167, 2, 117-125, 2002
44	上中 弘典	助手	基礎生物学	1	Overexpression of monodehydroascorbate reductase in transgenic tobacco confers enhanced tolerance to ozone, salt and polyethylene glycol stresses: Amin Elsadig Eltayeb, Naoyoshi Kawano, Ghazi Hamid Badawi, Hironori Kaminaka, Toshiyuki Sanekata, Toshiyuki Shibahara, Shinobu Inanaga and Kiyoshi Tanaka, Planta, in press, 2007
				2	bZIP10-LSD1 antagonism modulates basal defense and cell death in Arabidopsis following infection: Hironori Kaminaka, Christian Näke, Petra Eppele, Jan Dittgen, Katia Schütze, Christina Chaban, Ben F Holt III, Thomas Merkle, Eberhard Schäfer, Klaus Harter and Jeffery L Dangl, EMBO Journal, 25, 18, 4400-4411, 2006
				3	Stress-responsive zinc finger gene <i>ZPT2-3</i> plays a role in drought tolerance in petunia: Shoji Sugano, Hironori Kaminaka, Zbigniew Rybka, Rafael Catala, Julio Salinas, Kyoko Matsui, Masaru Ohme-Takagi, Hiroshi Takatsuji, Plant Journal, 36, 6, 830-841, 2003

45	作野 えみ	助手	農芸化学	1	A new inhibitor of 5'-hydroxyaverantin dehydrogenase, an enzyme involved in aflatoxin biosynthesis, from <i>Trichoderma hamatum</i> . : Emi Sakuno, Kimiko Yabe, Takashi Hamasaki, and Hiromitsu Nakajima, Journal of Natural Products, 63, 1677-1678, 2000
				2	Involvement of two cytosolic enzymes and a novel intermediate, 5'-oxoaverantin, in the pathway from 5'-hydroxyaverantin to averufin in aflatoxin biosynthesis. : Emi Sakuno, Kimiko Yabe, and Hiromitsu Nakajima, Applied and environmental microbiology, 69, 11, 6418-6426, 2003
				3	<i>Aspergillus parasiticus</i> cyclase catalyzes two dehydration steps in aflatoxin biosynthesis. : Emi Sakuno, Ying, Wen, Hidemi Hatabayashi, Hatsue Arai, Chiemi Aoki, Kimiko Yabe, and Hiromitsu Nakajima, Applied and environmental microbiology, 71: 2999-3006, 2005
46	田中 裕之	助手	農学	1	Diversity of low-molecular-weight glutenin subunit genes in Asian common wheat (<i>Triticum aestivum</i> L.) : H. Tanaka, S. Toyoda, H. Tsujimoto, Breeding Science, 55, 0, 349-354, 2005
				2	Genetical analysis of contribution of low-molecular-weight glutenin subunits to dough strength in common wheat (<i>Triticum aestivum</i> L.) : H. Tanaka, R. Shimizu, H. Tsujimoto, Euphytica, 141, 1-2, 157-162, 2005
				3	Limited but specific variations of seed storage proteins in Japanese common wheat (<i>Triticum aestivum</i> L.) : H. Tanaka, M. Tomita, H. Tsujimoto, Y. Yasumuro, Euphytica, 132, 2, 167-174, 2003
47	遠藤 常嘉	助手	農芸化学	1	メキシコ・バハカリフォルニア半島中央部に分布する灌漑農地の塩類動態：藪ンソン, 日本土壤肥科学雑誌, 71, 1, 18-26, 2000
				2	Sodium-Calcium Exchange Selectivity as Influenced by Clay Minerals and Composition : T. Endo, S. Yamamoto, T. Honna and A. E. Eneji, Soil Science, 167, 2, 117-125, 2002
				3	The Reclamation of Saline Wastelands by Halophytes: Irshad M., Endo T., Honna T., Yamamoto S. and Eneji A. E., <i>J. Arid Land Research</i> , 14, 199-207, 2005

研究活動実績票

別紙様式①－乙

【研究成果一覧】

大学名	鳥取大学	学部・研究科名	農学部・獣医学科

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	上原 正人	教授	畜産学・獣医学	1	D-b-hydroxybutyrate protects against corneal epithelial disorders in a rat dry eye model with jogging board. : Nakamura, S., Shibuya, M., Nakashima, H., Imagawa, T., Uehara, M. & Tsubota, K., Investigative Ophthalmology & Visual Science, 46, 7, 2379-2387, 2005
				2	A quantitative study of the Purkinje cells in the cerebellum and the inferior olivary neurons in the chicken. : RASHED R., IMAGAWA T., and UEHARA M. , Journal of Veterinary Medical Science, 67, 12, 1261-1263, 2005
				3	Finr structure of the retino-optic nerve junction in dogs : Miyake, E., Imagawa, T., Uehara, M., J. Vet. Med. Sci., 66, 12, 1549-1554, 2004
2	澁谷 泉	教授	畜産学・獣医学	1	Sabatier N, Shibuya I, Dayanithi G.: Intracellular calcium increase and somatodendritic vasopressin release by vasopressin receptor agonists in the rat supraoptic nucleus: involvement of multiple intracellular transduction signals. J. Neuroendocrinol, 16, 221-236. 2004
				2	Sasaki N, Dayanithi G, Shibuya I.: Ca ²⁺ clearance mechanisms in neurohypophysial terminals of the rat. Cell Calcium, 37, 45-56. 2005
				3	Kow L-M, Devidez N, Pataky S, Shibuya I, Pfaff DW.: Acute estradiol application increases inwards and decrease outward currents of neurons in rat hypothalamic ventromedial nucleus. Brain Res, 1116, 1-11. 2006
3	佐藤 宏	教授	境界医学	1	佐藤 宏: イヌおよびネコにおけるインドメタシン小腸潰瘍の形成における食物繊維の役割、潰瘍、 32, 13-18, 2005
				2	「プラム 動物用医薬品ハンドブック」(” Veterinary Drug Handbook” by D.C. Plumb, IOWA STATE UNIVERSITY PRESS の翻訳本、778 頁) 佐藤 宏、監修、NEW LLL PUBLISHER, 2003
				3	[特許出願] 「非ステロイド性抗炎症薬による動物の消化管副作用の予防・治療方法」(出願: 特願 2004-244679)
4	山野 好章	教授	畜産学・獣医学	1	Expression of small stress protein Hsp20 gene in the maturing rat testis: Y. Yamano, K. Ohyama, M. Ohta, J. Nakamura and I. Morishima, J. Vet. Med. Sci., 67, 11, 1183-1186, 2005
				2	A novel spermatogenesis related factor-2 (SRF-2) gene expression affected by TCDD treatment : Y. Yamano, K. Ohyama, M. Ohta, T. Sano, A. Ritani, J. Shimada, N. Ashida, , Endocrine. J., 52, 1, 75-81, 2005
				3	Regulation of CRF, POMC and MC4R gene expression after electrical foot shock stress in the rat amygdala and hypothalamus : Y. Yamano, M. Yoshioka, Y. Toda, Y. Oshida, S. Chaki, K. Hamamoto, and I. Morishima, J. Vet. Med. Sci., 66, 11, 1323-1327, 2004
5	村瀬 敏之	教授	畜産学・獣医学	1	Effects of different molting procedures on incidence of <i>Salmonella</i> infection in flocks naturally contaminated laying hens in a commercial egg-producing farm by detection of yolk antibodies to <i>Salmonella</i> in eggs. : Murase, T, Chiba K, Sato, T, Otsuki K, Holt PS., J Food Prot, 69, 12, 2883-2888, 2006.

				2	Detection of the esp gene in high-level gentamicin resistant <i>Enterococcus faecalis</i> strains from pet animals in Japan. : Harada T, Tsuji N, Otsuki K, Murase T., <i>Vet Microbiol</i> , 106, 1-2, 139-143, 2005
				3	水とドロマイト添加樹脂の即効性を持つ強力な抗菌活性.:山名英明, 大槻公一, 伊藤壽啓, 伊藤啓史, 村瀬敏之, 若林一夫, 三好伸宣., <i>日獣会誌</i> , 58, 3, 201-204, 2005
6	伊藤 壽啓	教授	畜産学・獣医学	1	Shengqing, Y., Kishida, N., Ito, H., Kida, H., Otsuki, K., Kawaoka, Y., and Ito, T. (2002) Generation of Velogenic Newcastle Disease Viruses from a Nonpathogenic Waterfowl Isolate by Passaging in Chickens. <i>Virology</i> , 301(2): 206-211
				2	Shinya, K., Fujii, Y., Ito, H., Ito, T., and Kawaoka, Y. (2004) Characterization of a neuraminidase-deficient influenza A virus as a potential gene delivery vector and a live vaccine. <i>J. Virol.</i> , 78(6): 3083-3088.
				3	[特許出願] 発明の名称「抗ウイルス剤、これを用いた繊維及び抗ウイルス部材」出願日 平成 15 年 8 月 12 日 出願番号 特願 2003-292073 号
7	太田 康彦	教授	畜産学・獣医学	1	Epithelial c-jun and c-fos are temporally and spatially regulated by estradiol during neonatal rat oviduct differentiation. : Okada, A., Ohta, Y, Brody, S.L. and Iguchi, T. , <i>J. Endocrinol.</i> , 182 , 0, 219-227, 2004
				2	Role of foxj1 and estrogen receptor alpha in ciliated epithelial cell differentiation of the neonatal oviduct. : Okada, A., Ohta, Y, Brody, S.L., Watanabe, H., Krust, A., Chambon, P. and Iguchi, T. , <i>J. Mol. Endocr.</i> , 32, 0, 615-625, 2004
				3	Evaluation of estrogenic activity in diets for experimental animals using in vitro assay. : Kato, H., Iwata, T., Katsu, Y., Watanabe, H., Ohta, Y. and Iguchi, T. , <i>J. Agr. Food Chem.</i> , 52 , 0, 1410-1414, 2004
8	島田 章則	教授	畜産学・獣医学	1	Acute Pulmonary Toxicity Caused by Exposure to Colloidal Silica: Particle Size Dependent Pathological Changes in Mice. : Kaewamatawong T., Kawamura N., Okajima M., Sawada M., Morita T., Shimada A., <i>Toxicol. Pathol.</i> , 33, 0, 743-749, 2005
				2	Localization and role of Metallothioneins in the olfactory pathway after exposure to mercury vapor. : Shimada A, Nagayama Y, Morita T, Yoshida M, Suzuki JS, Satoh M, Tohyama C., <i>Exp. Toxicol. Pathol.</i> , 57, 0, 117-125, 2005
				3	Ultrastructural Demonstration of Mercury Granules in Placenta of Metallothionein-Null Pregnant Mice after Exposure to Mercury Vapor : Shimada A., Yamamoto E., Morita T., Yoshida M., Suzuki J.S., Satoh M., Tohyama C, <i>Toxicol. Pathol.</i> , 32, 0, 1-8, 2004
9	日笠 喜朗	教授	畜産学・獣医学	1	Influence of medetomidine on stress-related neurohormonal and metabolic effects caused by butorphanol, fentanyl and ketamine in dogs. : Ambrisko, T.D., Hikasa, Y., and Sato, K., <i>American Journal of Veterinary Research</i> , 66, 3, 406-412, 2005
				2	The antagonistic effects of atipamezole and yohimbine on stress-related neurohormonal and metabolic responses induced by medetomidine in dogs. : Ambrisko, T., Hikasa, Y., <i>Canadian Journal of Veterinary Research</i> , 67, 1, 64-67, 2003
				3	Cardiopulmonary, hematological, serum biochemical and behavioral effects of sevoflurane compared with isoflurane or halothane in spontaneously ventilating goats. : Hikasa, Y., Hokushin, S., Takase, K. Ogasawara, S. , <i>Small Ruminant</i>

					Research, 43, 2, 167-178, 2002
10	南 三郎	教授	畜産学・獣医学	1	Enhanced healing of cartilaginous injuries by glucosamine hydrochloride. : Tamai, K., Miyatake, K., Okamoto, Y., Takamori, Y., Sakamoto H., Minami, S., Carbohydr. Polym., 48, 0, 369-378, 2002
				2	Effects of chitin and chitosan on release of type I collagenase of fibroblasts. : Okamura, Y., Nomura, A., Minami, S. Okamoto, Y. Biomacromolecules, 6:2385-2388, 2005
				3	Preparation of new UV-curable chitosan derivatives and their biocompatibility. : Renbutsu, E., Hirose, M., Omura, Y., Nakatsubo, F., Okamura, Y., Okamoto, Y., Saimoto, H., Shigemasa, Y., Minami, S., Biomacromolecules, 6:2382-2384, 2005
11	菱沼 貢	教授	畜産学・獣医学	1	Recovery, morphological quality and in vitro maturation of follicular oocytes from bitches with pyometra. : Hishinuma, M., Minami, S., Okamoto, Y., Miyatake, K. and Sekine, J., Theriogenology, 62, 12, 1652-1662, 2004
				2	Separation of canine epididymal spermatozoa by Percoll gradient centrifugation. : Hishinuma, M. and Sekine, J., Theriogenology, 61, 4, 365-372, 2004
				3	Recovery and cryopreservation of sika deer (Cervus nippon) spermatozoa from epididymides stored at 4°C : Hishinuma, M., Suzuki, K. and Sekine, J., Theriogenology, 59, 0, 813-820, 2003
12	今川 智敬	助教授	畜産学・獣医学	1	Fine structure of the retino-optic nerve junction in dog : Miyake E., Imagawa T. and Uehara M., Journal of Veterinary Medical Science, 66, 0, 1549-1554, 2004
				2	Appearance of T cell subpopulations in the chicken and embryo retina. : IMAGAWA T., KITAGAWA H. and UEHARA M., Journal of Veterinary Medical Science, 65, 0, 23-28, 2003
				3	牛の解剖アトラス, 第7章腹壁および腹腔, 日本獣医解剖学会編, 76-77, 2005, チクサン出版, 東京
13	北村 直樹	助教授	畜産学・獣医学	1	Y. Komagiri, N. Kitamura. Effect of intracellular dialysis of ATP on the hyperpolarization-activated cation current in rat dorsal root ganglion neurons. <i>Journal of Neurophysiology</i> 90: 2115-2122 (2003)
				2	N. Kitamura, A. Konno, T. Kuwahara, Y. Komagiri. Nerve growth factor-induced hyperexcitability of rat sensory neuron in culture. <i>Biomedical Research</i> 26 (3): 123-130 (2005)
				3	K. Kimura, A. Niijima, R. Yoshida, T. Kitamura, A. Kamikawa, D. T., Furuya, N. Kitamura, A. Konno, H. Nakamoto, N. Sakane, T. Yoshida, M. Saito. Proinsulin C-peptide activates vagus efferent output in rats. <i>Peptides</i> 26: 2547-2553 (2005)
14	斎藤 俊之	助教授	畜産学・獣医学	1	ENEJI, A.E., HONNA, T., YAMAMOTO, S., SAITO, T. & MASUTA, T. (2002): Nitrogen transformation in four Japanese soils following manure+urea amendment. <i>Commun. Soil.Sci. Plant Anal.</i> , 33(1&2): 53-66
				2	斎藤俊之(2003): ダチョウ雛の初期育成 一育雛率 100%をめざしての試み, 日本ダチョウ・走鳥類研究会誌、3、11-18
				3	[特許出願] 発明の名称「動物油脂の製造方法及び製造装置」出願日 平成 17 年 11 月 11 日 出願番号 特願 2005-327198 号
15	浅野 淳	助教授	畜産学・獣医学	1	Asano, A., Jin, H.K., Watanabe, T.: Mouse Mx2 gene: organization, mRNA expression and the role of the interferon-response promoter in its regulation. <i>Gene</i> 306: 105-113. 2003
				2	Asano, A., Kon, Y., Agui, T.: The mRNA regulation of porcine double-stranded RNA-activated protein kinase gene. <i>J. Vet.</i>

					Med. Sci. 66:1523-1528. 2004
				3	Nakamura, T., Asano, A., Okano, S, Ko, J. -H., Kon, Y, Watanabe, T., Agui, T.: Intracellular localization and antiviral property of canine Mx proteins. J. Interferon Cytokine Res. 25: 169-173. 2005
16	伊藤 啓史	助教授	畜産学・獣医学	1	Outbreak of highly pathogenic avian influenza in Japan and anti-influenza virus activity of povidone-iodine products. : Ito, H., Ito, T., Hikida, M., Yashiro, J., Otsuka, A., Kida, H., and Otsuki, K., Dermatology, 212 Suppl 1, 115-118, 2006.
				2	インフルエンザウイルスの種間伝播. 伊藤啓史、伊藤壽啓. 獣医畜産新報. Vol. 58 No. 10 2005 年
				3	[特許出願] 「抗ウイルス材剤、これを用いた繊維及び抗ウイルス部材」(発明者として)
17	岡本 宗裕	助教授	畜産学・獣医学	1	Multiple genotypes of Taenia solium- ramifications for diagnosis, treatmet and control : Ito A., Yamasaki H., Nakao M., Sako Y., Okamoto M., et al., Acta Tropica, 87, 1, 95-101, 2003
				2	Phylogenetic relationships of snails of the genera Oncomelania and Tricula inferred from mitochondrial 12SrRNA gene. :Okamoto M., Lo C. -T. et al., Japanese Journal of Tropical Medicine and Hygiene, 31, 1, 5-10, 2003
				3	A phylogenetic hypothesis for the distribution of two genotypes of the pig tapeworm Taenia solium worldwide. : Nakao M., Okamoto M., Sako Y., Yamasaki H., Nakaya K. and Ito A., Parasitology, 124, 6, 657-662, 2002
18	森田 剛仁	助教授	畜産学・獣医学	1	Changes in extracellular neurotransmitters in the cerebrum of familial idiopathic epileptic Shetland sheepdog: study with the use of intracerebral microdialysis technique and imunohistochemical study for glutamate metabolism. :Morita T., Takahashi M., Takeuchi T., Hikasa Y., Ikeda S., Sawada M., Sato K., Shibahara T., Shimada A. : J. Vet. Med. Sci. 67, 11, 1121-1128, 2005
				2	Immunohistochemical and ultrastructural findings related to the blood brain barrier in the blood vessels of the cerebral white matter in aged dogs. : Morita T., Mizutani Y., Sawada M., Shimada A., J. Comp. Pathol., 133, 14-22, 2005
				3	Renal dysplasia associated with unilateral renal agenesis in a dog. :Morita T., Michimae Y., Sawada M, Araki Y., Uemura T., Haruna A., Shimada A., J. Comp. Pathol., 133, 64-67, 2005
19	實方 剛	助教授	畜産学・獣医学	1	Human group B rotavirus infections cause severe diarrhea in children and adults in Bangladesh : Takeshi Sanekata, Muzahed Uddin Ahmed, Abdul Kader, Koki Taniguchi and Nobumichi Kobayashi, J. Clin., Microbilo. 41. 2187-2190. , 41, 5, 2187-2190, 2003
				2	[特許出願] 犬下痢症ウイルス抗原検出用キット 特開 2004-219346 平成 16 年
20	辻野 久美子	講師	畜産学・獣医学	1	Chronic Myocardial Infarction Due to Arteriosclerosis of Coronary Arteries Followed by Acute Thromboembolism of Caudal Abdominal Aorta in a Cat : Kumiko Tsujino, Yoshiaki Hikasa, Saburo Minami, Yosiharu Okamoto, Takehito Morita and Akinori Shimada, The Journal of Veterinary Medical Science, 67, 6, 631-634, 2005
21	竹内 崇	助教授	畜産学・獣医学	1	Milk-derived lactoferrin may block tolerance to morphine analgesia. : Tsuchiya T, Takeuchi T, Hayashida K, Shimizu H, Ando K and Harada E., Brain Res., 1068, 102-108, 2006
				2	Opioid mediated suppressive effect of milk-derived lactoferrin on distress induced by maternal separation in the

					rat pups. : Takeuchi T, Hayashida K, Inagaki H, Kuwahara M, Tsubone H and Harada E, Brain Research, 979, 216-224, 2003
				3	Age-related changes in sleep-wake rhythm in dog. : Takeuchi T and Harada E, Behavioural Brain Research, 136, 193-199, 2002
22	岡村 泰彦	助手	畜産学・獣医学	1	Biomacromolecules. 6: 2382-2384. 2005
				2	J. Vet. Med. Sci. 66: 651-658. 2004.
				3	J. Vet. Med. Sci. 65: 913-915. 2003.
23	永野 昌志	助手	畜産学・獣医学	1	Relationship between bovine oocyte morphology and in vitro developmental potential. Zygote, 14: 53-61, 2006 ATP content and mitochondrial distribution of bovine oocytes with various cytoplasmic morphologies. Zygote, 14: 299-304, 2006
				2	新版 主要症状を基礎にした猫の臨床 (2004)
24	杉山 晶彦	助手	畜産学・獣医学	1	A. Sugiyama, K. Ozaki and I. Narama: Deformed liver with prominent proliferation of bile ducts in a pig, The Journal of Veterinary Medical Science, 65: 655-658, 2003
				2	A. Sugiyama, K. Ozaki and I. Narama: Diffuse global granulomatous glomerulonephritis in a pig, The Journal of Veterinary Medical Science, 67: 87-90, 2005
				3	杉山晶彦: と畜解体されたクローディン16欠損症の黒毛和種牛6例の腎臓病変, 日本獣医師会雑誌, 58: 763-767, 2005
25	柄 武志	助手	畜産学・獣医学	1	Tsuka T, Okamura S, Nakaichi M, Une, Taura Y. Transorbital echoencephalography in cattle. Vet Radiol & Ultrasound 2002 ; 43 : 55-61
				2	柄 武志, 岡村真吾, 田浦保穂. VC 比を用いた牛の頭部 MRI 量的解析法. 日本獣医師会雑誌 2004 ; 57 : 571-574
				3	柄 武志, 中川和克, 川口めぐみ, 山西富野, 中谷英嗣, 松本容二, 國吉佐知子, 村上久志. めん羊牧場における捻転胃虫症の被害と害虫対策の検討. 日本獣医師会雑誌 2006 ; 59 : 607-611

研究活動実績票

別紙様式①-乙

【研究成果一覧】

大学名	鳥取大学	学部・研究科名	農学部附属フィールドサイエンスセンター

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	唐橋 需	教授	農業工学	1	背負い板形両肩掛け式ベルトによる中山間地水田畦畔刈払い作業負担の軽減効果：唐橋 需、深井昭吾、三竿善明，農作業研究，40，別1，119-120，2005
				2	SR-2型土壌抵抗測定器による土壌剪断抵抗測定法の検討：唐橋 需・三竿善明，鳥取大学農学部研究報告，0，56，1-6，2003
				3	[特許出願] 吊支バンド：2003-291157，大西久雄，株式会社ニッカリ，2003
2	山名 伸樹	教授	農業工学	1	細断型ロールペーラで調製したサイレージの発酵品質：志藤博克・高橋仁康・渋谷幸憲・山名伸樹，日本草地学会誌，51，0，87-92，2005
				2	青刈りトウモロコシの省力化収穫調製技術の開発(第3報)：志藤博克・高橋仁康・山名伸樹・渋谷幸憲・奥村政信・正田幹彦・福森宏一・上村雄二・只野克紀・玉森幸雄・高田雅透・福森功，農業機械学会誌，67，3，106-113，2005
				3	[特許出願] ROLL-BALER，米国特許US7,003,933 B2，2006
3	中田 昇	教授	農学	1	Responses of three wheat genotypes to high soil temperature during grain filling : I. S. A. Tahir, N. Nakata and T. Yamaguchi , Plant production Science , 8, 0, 192-198, 2005
				2	Remobilization of nitrogen and carbohydrate from stems of bread wheat in response to heat stress during grain filling : I. S. A. Tahir and N. Nakata , J. Agronomy and Crop Science , 191, 0, 106-115, 2005
				3	異なる光質条件下で栽培したコマツナの生育と品質に及ぼす紅色非硫黄細菌(Rhodobacter sphaeroides) 施用の影響：近藤謙介・中田昇・西原英治，生物環境調節，42，0，247-253，2004
4	田村 文男	教授	農学	1	Characteristics of the Respiration Chain in Relation to Flooding Tolerance in Pear Rootstocks. : F. Tamura, K. Tanabe and A. Itai, ActaHortic, 636, 191-198, 2004
				2	Effect of summer-pruning and gibberellin on the watercore development in Japanese pear 'Akibae' fruit. : Tamura, F. Chun, J-P., Tanabe, K., Morimoto, M. and Itai, Journal of the Japanese Society for Horticultural Science, 72, 4, 372-377, 2003
				3	Regulation of endodormancy in Japanese pear : Tamura, F., K. Tanabe and A. Itai, Acta Horticulturae, 587, 1, 325-336, 2002
5	佐野 淳之	助教授	林学	1	Yamashita, A., Sano, J. and Yamamoto, S. : Impact of a strong typhoon on the structure and dynamics of an old-growth beech (<i>Fagus crenata</i>) forest, southwestern Japan. Folia Geobotanica, 37: 5-16, 2002
				2	Sano J., Tamai, S. and Ando, M. Effects of global warming on the species composition and vegetation in arid areas- Species composition and stand structure of predominant vegetation types in the eastern Mediterranean region of Turkey - . Workshop for the Research Project on Impact of Climate Changes on Agricultural Production System in Arid Areas (ICCAP)、Cappadocia, Turkey : 57-59, 2004

				3	佐野淳之：森林の科学、ISBN 4-254-47038-X、落葉広葉樹林の構造と更新―攪乱に依存した森林の成立―、pp. 36-37、中村太・小池孝良編、朝倉書店、東京、2005

研究活動実績票

別紙様式①-乙

【研究成果一覧】

大学名	鳥取大学	学部・研究科名	農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センター

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	前川 二太郎	教授	基礎生物学	1	Corticoid fungi (Basidiomycetes) collected in Sichuan Province, China. : Maekawa, N., Yang, Z.L. and Zang, M., Mycotaxon, 83, 0, 81-95, 2002
				2	Haloaleurodiscus mangrovei gen. sp. nov. (Basidiomycotina) from mangrove forest in Japan : Maekawa, N., Suhara, H., Kinjo, K., Kondo, R. and Hoshi, K., Mycological Research, 109, 0, 825-832, 2005
				3	[編集・監修] 世界きのこ図鑑 : 前川二太郎, 304 pp, 2005, 新樹社, 東京
2	岩瀬 剛二	教授	境界農学	1	[論文] Yamato, M., Yagame, T., Suzuki, A. and Iwase, K. : Isolation and identification of mycorrhizal fungi associating with an achlorophyllous plant, <i>Epipogium roseum</i> (Orchidaceae). Mycoscience, 46:73-77 2005
				2	Yamato, M. and Iwase, K. : Community analysis of arbuscular mycorrhizal fungi in a warm-temperate deciduous broad-leaved forest and introduction of the fungal community into the seedlings of indigenous woody plants. Mycoscience, 46:334-342 2005
				3	岩瀬剛二・大藪崇司・下野義人 : いのちの森-生物親和都市の理論と実践-, ISBN4-87698-655-X, 2-3 都市緑地の菌類, pp. 130-151, 森本幸裕・夏原由博編, 京都大学学術出版会, 京都 2005
3	須原 弘登	講師	資源保全学	1	Suhara, H., Maekawa, N., Kaneko, S., Hattori, T., Sakai, K., Kondo, R. : A new species, <i>Ceriporia lacerata</i> , isolated from white-rotted wood. Mycotaxon 86: 335-347. 2003
				2	Suhara, H., Daikoku, C., Takata, H., Suzuki, S., Matsufuji, Y., Sakai, K., Kondo, R. : Monitoring of white-rot fungus during bioremediation of polychlorinated dioxin-contaminated fly ash. <i>Applied Microbiology and Biotechnology</i> 62: 601-607 2003
				3	Kamei, I., Suhara, H., Kondo R. : Phylogenetical approach for the isolation of the white rot fungi which can degrade polychlorinated dibenzo- <i>p</i> -dioxin. <i>Applied Microbiology and Biotechnology</i> 69:358-366 2005

研究活動実績票

別紙様式①－乙

【研究成果一覧】

大学名	鳥取大学	学部・研究科名	農学部附属動物病院

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	岡本 芳晴	教授	畜産学・獣医学	1	A case report of canine hemangiopericytoma by photodynamic therapy with a new photosensitizer, PAD-S31. Okamoto, Y., Ogura, K., Okamura, Y., Ishii, H., Sakata, I., Hakamada, K., , Sueo Miyaki, S., Nakajima, S., and Minami, S. Jpn. Vet. Surg. Aneths., 36: 69-73, 2005
				2	小動物外科学大系（ヘルニア）：岡本芳晴、他，山根義久 12-20, 2005, インターズー，東京都

研究活動実績票

別紙様式①-乙

【研究成果一覧】

大学名	鳥取大学	学部・研究科名	農学部附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	小野 悦郎	教授	畜産学・獣医学	1	Nested polymerase chain reaction for detection of the avian leucosis virus causing so-called fowl glioma : H. Hatai, K. Ochiai, Y. Tomioka, T. Toyoda, K. Hayashi, A. Toda, K. Ohashi, E. Ono, T. Kimura and T. Umemura, Avian Pathology, 34, 6, 473-479, 2005
				2	Persistent hyperplastic primary vitreous in transgenic mice expressing the immediate-early protein IE180 of pseudorabies virus : S. Taharaguchi, K. Yoshida, Y. Tomioka, S. Yoshino, T. Uede and E. Ono, Investigative Ophthalmology & Visual Science, 46, 5, 1551-1556, 2005
2	新矢 恭子	助教授	畜産学・獣医学	1	Shinya K, Ebina M, Yamada S, Ono M, Kasai N, Kawaoka Y. Avian flu: influenza virus receptors in the human airway. Nature. 2006 Mar 23;440(7083):435-6.
				2	Kobasa, D., Takada, A., Shinya, K., Hatta, M., Halfmann, P., Theriault, S., Suzuki, H., Nishimura, H., Mitamura, K., Sugaya, N., Usui, T., Murata, T., Maeda, Y., Watanabe, S., Suresh, M., Suzuki, T., Suzuki, Y., Feldmann, H., Kawaoka, Y. Enhanced virulence of influenza A viruses with the haemagglutinin of the 1918 pandemic virus. Nature. 2004 431:703-7.
				3	Yamada S, Suzuki Y, Suzuki T, Le MQ, Nidom CA, Sakai-Tagawa Y, Muramoto Y, Ito M, Kiso M, Horimoto T, Shinya K, Sawada T, Kiso M, Usui T, Murata T, Lin Y, Hay A, Haire LF, Stevens DJ, Russell RJ, Gamblin SJ, Skehel JJ, Kawaoka Y. Haemagglutinin mutations responsible for the binding of H5N1 influenza A viruses to human-type receptors. Nature. 2006 Nov 16;444(7117):378-82.

研究活動実績票

別紙様式①－乙

【研究成果一覧】

大学名	鳥取大学	学部・研究科名	連合農学研究科

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	森 信寛	教授	農芸化学	1	Purification and Characterization of Mr 43,000 Protein Similar to Mr 25,000 Protein, a Substrate for Protein Ser/Thr Kinases, Identified as a Part of Xenopus laevis Vitellogenin B1 : Xi Jin, Sugimoto Isamu, Yoshitome Satoshi, Yasuda Hiroko, Ogura Kumiko, Mori Nobuhiro, Li Zhijun, Ito Susumu and Hashimoto Eikichi, Journal of Protein Chemistry, 22, 6, 571-583, 2003
				2	The second cholesterol oxidase produced by γ -Proteobacterium Y-134 : Kimiyasu Isobe, Nobuhiro Mori, Norio Wakao, Journal of Bioscience and Bioengineering, 96, 3, 257-261, 2003

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名		鳥取大学		学部・研究科等名		農学部・生物資源環境学科	
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果		
1	尾谷 浩	教授	農学	1	[受賞（研究）] 研究功績賞，鳥取大学， 2003		
				2	[競争的資金] 植物感染における基本的親和性関係成立の分子機構：宿主特異的毒素生産菌を例として：基盤研究(B)，代表，2003-2005		
				3	植物病原糸状菌の宿主特異的毒素：生成と宿主応答の分子機構：特定領域研究(A)，代表，2003		
2	甲斐 英則	教授	農学	1	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] タンパク質が時間インターバルをはかる機構に関する研究が高く評価されChemBioChem誌（インパクトファクター4）第7巻10号（2006）の表紙を飾り、巻頭に取り上げられた。		
				2	International Congress of Insect Biotechnology and Industry 2007（Daegu, Korea）に招待講演。		
				3	岩手大学21世紀COEプログラム熱-生命システム関連学拠点創成COEフォーラムに招待講演（2007. 2. 21）		
3	木村 靖夫	教授	農芸化学	1	[一般雑誌，新聞等に掲載された論文・記事等] Aspergillus terreus の生産するジヒドロイソクマリン類の植物生長促進作用.：島田淳巳、藤岡昭三、木村靖夫.，日本農芸化学学会，0，0，0-0，2004		
				2	花粉形成阻害物質asperterric acidとIAAの相互作用.：島田淳巳、山根久和、木村靖夫.，植物化学調節学会，0，0，0-0，2004		
				3	Aspergillus sp.No.K55-2の生産する殺線虫物質 α 、 β -dehydrocurvularinとその類縁化合物：草野 都、中上和美、藤岡昭三、河野 強、木村靖夫，日本農薬学会，0，0，0-0，2002		
4	田中 淨	教授	境界農学	1	[競争的資金] 乾燥地研究プログラム：COE，2003		
				2	受託研究：継続，代表，2003		
				3	受託研究：継続，代表，2002		
5	田邊 賢二	教授	農学	1	[研究成果でテレビ・ラジオに出演した] 鳥取二十世紀 100 年の歴史とこれから：NHK 鳥取，田辺賢二，2004 年 12 月		
				2	[競争的資金] 遺伝子分析によるニホンナシ栽培種と大陸産ナシ属種の類縁性ならびに分類に関する研究：基盤研究（B），継続，代表，2002～2004		
				3	遺伝子工学的手法によるニ高機能次世代ニホンナシ新品種の早期育成の効率化：地域連携推進研究，継続，代表，2002		
6	辻本 壽	教授	農学	1	[競争的資金] ナショナルバイオリソースプロジェクト：継続，代表，2005		

				2	多様性ゲノムプロジェクト：新規，代表，2005
				3	超遠縁作物間の雑種胚における染色体脱落機構の解明（II）：基盤B，新規，代表，2004
7	中島 廣光	教授	農芸化学	1	[競争的資金] 乾燥地など原野土壌に対する土壌保全および緑化に関する研究：新規，共同，2005
				2	食用ケナフに含まれる有用成分の解析：新規，代表，2004
				3	植物病原糸状菌における毒素生合成機構の解明：基盤研究（C）（2），継続，代表，2002
8	森嶋 伊佐夫	教授	農芸化学	1	[競争的資金] 昆虫生体防御の分子機構：基盤研究（C）（2），継続，代表，2004
				2	昆虫生体防御の分子機構：基盤研究（C）（2），新規，代表，2003
				3	昆虫生体防御の分子機構：基盤研究（C）（2），継続，代表，2002
9	山崎 良平	教授	境界農学	1	JST シーズ試験研究，代表，2006-2007
				2	広域糖鎖コンジュゲートワクチンの開発：基盤研究（B）（2），継続，代表，2003
				3	広域糖鎖コンジュゲートワクチンの開発：基盤研究（B）（2），新規，代表，2002
10	渡邊 文雄	教授	農芸化学	1	[一般雑誌，新聞等に掲載された論文・記事等] Bacteria Brew a B Vitamin Boost, Science News Online, Jan. 31, 2004; Vol. 165, No. 5
				2	[研究成果でテレビ・ラジオに出演した] おもいきりテレビ：日本テレビ，渡辺文雄，平成15年2月3日
				3	[競争的資金] 日本人の食事摂取基準（栄養所要量）の策定に関する研究：継続，共同，2005
11	奥村 武信	教授	林学	1	[競争的資金] 奨学寄付金： ，共同，2002
12	北村 義信	教授	農業工学	1	[競争的資金] 中国黄土高原下流域における物質循環を利用した塩害対策と農地の保全：基盤研究（B），継続，代表，2004-2006
				2	乾燥地科学プログラム：21 世紀 COE プログラム「乾燥地科学プログラム」，継続，共同，2002-2006
				3	戦略的創造研究推進事業（CREST：科学技術振興機構）：「人口急増地域の持続的な流域水政策シナリオ-モンsoon・アジア地域等における地球規模水循環変動への対応戦略-」，継続，共同，2003-2008
13	古塚 秀夫	教授	農業経済学	1	[受賞（研究）] 財団法人東日本鉄道文化財団（優秀研究として受賞）：日本型グリーン・ツーリズムの展開方向と定着条件に関する実証的研究，宮崎猛・北川太一・竹歳一紀・古塚秀夫，1999
				2	地域農林経済学会奨励賞：単著『シイタケ栽培経営管理論』，1992
				3	[競争的資金] 財団法人韓国文化研究振興財団：宮崎猛代表「グリーン・ツーリズムに関する日韓比較研究」，2001
14	小林 一	教授	農業経済	1	[競争的資金]

			学		先端的技術を活用した農林水産研究高度化事業：継続，代表，2005
				2	地図情報システムを活用した中山間地域の農地保全：基盤研究（C）（2），継続，代表，2005
				3	大規模水田作営農における圃場作業管理システムの開発：継続，代表，2003
15	田熊 勝利	教授	農業工学	1	[競争的資金] 農学部における研究助成のため：新規，代表，2002
				2	農学部における研究助成金：新規，代表，2002
				3	農学部における研究助成金：新規，代表，2004
16	長澤 良太	教授	地理学	1	[一般雑誌，新聞等に掲載された論文・記事等] 旧日本軍撮影の空中写真の特徴：長澤 良太，地図情報，25，3，20-24，2005
				2	[競争的資金] 科学研究費補助金（基盤研究 A）：新規，共同研究，2004
				3	科学技術振興調整費（緊急）：新規，共同研究，2004
17	服部 九二雄	教授	農業工学	1	[受賞（研究）] 農業土木学会学術奨励賞（1985）
				2	[競争的資金]（科学研究費） 農業水利施設の性能評価・機能診断手法に関する研究（代表），15,500 千円，2004～2005
				3	未分級中国産フライアッシュを用いたコンクリートの耐硫酸塩性（代表：外国人特別研究員奨励費），2,400 千円，2006～2007
18	藤山 英保	教授	境界農学	1	[競争的資金] 科学研究費基盤研究（A）海外学術調査：代表，2004 - 2007
				2	湖山池環境負荷削減事業：代表，2002 - 2004
				3	開発パートナー事業「乾燥地域における農業及び農村振興」：代表，2001 - 2004
19	山本 福壽	教授	林学	1	[競争的資金] 山本福壽 平成 17 年度公益信託エスベック地球環境研究・技術基金：海面上昇にともなう陸域の塩濃度変化が低地湿原の森林植生に及ぼす影響
20	會見 忠則	助教授	農芸化学	1	[競争的資金] 鳥取県環境研究助成：新規，代表，2005
				2	マツタケおよびその近縁種の分子系統学的解析と交配システムの解明：特別研究員奨励費，新規，代表，2004
				3	松枯れ防除を目的とした微生物農薬の開発：若手研究 B，新規，代表，2003
21	東 政明	助教授	農学	1	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] 昆虫と水，アクアポリン：東政明・三宅誠司，日本比較内分沁学ニュース，No. 115，19-21，2004
				2	[競争的資金] 昆虫直腸のアクアポリンをコントロールして昆虫に便秘を誘導させ害虫制御する試み：萌芽研究，代表，2005
				3	昆虫の乾燥耐性の分子基盤の解明とその調節制御：基盤研究 B，代表，2004-2006
22	板井 章浩	助教授	農学	1	[受賞（研究）] 園芸学会賞奨励賞：ニホンナシ果実の成熟と貯蔵性に関する分子生物学的研究，園芸学会，個人，2005

				2	[競争的資金] 果実の軟化と貯蔵性に関わる諸要因の生理学および分子レベルでの解析：基盤研究B，新規，共同，2005
				3	ニホンナシACC合成酵素遺伝子 (PPACS2) の品種特異的発現機構の解明：若手研究B，継続，代表，2003
23	一柳 剛	講師	境界農学	1	[競争的資金] 病原性細菌に発現する「普遍的糖鎖」解析のバイオプローブ開発：若手B，継続，代表，2005
				2	病原性細菌に発現する「普遍的糖鎖」解析のバイオプローブ開発：若手B，継続，代表，2004
				3	病原性細菌に発現する「普遍的糖鎖」解析のバイオプローブ開発：若手B，新規，代表，2003
24	岡 真理子	助手	生物科学	1	[競争的資金] 塩性植物の耐塩性機構の解明に関する研究：新規，代表，2003-
				2	低窒素条件下におけるクロロフィルの増加に関わるアミノレブリン酸の役割：新規，代表，2005
25	河野 強	助教授	境界農学	1	[受賞（研究）] Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry 論文賞： Lifespan extending activity of substances secreted by the nematode <i>Caenorhabditis elegans</i> that include the dauer-inducing pheromone，日本農芸化学会，代表，2006
				2	[競争的資金] 第28回 日産学術研究助成金：新規，代表，2002
				3	リガンド分子を基軸とした線虫のインスリンシグナリングの多様性に関する研究：基盤研究(B)(2)，新規，代表，2002
26	児玉 基一郎	助教授	農学	1	[競争的資金] トマト育種史の中での病原菌進化をフィールド分離株に探る：科学研究費基盤研究(B) 海外学術調査，共同，2004-2006
				2	植物病原糸状菌における“病原性染色体”の比較解析：科学研究費基盤研究(B)，共同，2003-2004
				3	遺伝子の水平移動による植物病原菌の進化と多様性形成：科学研究費基盤研究(C)，代表，2003-2004
27	富田 因則	助教授	農学	1	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] 朝日新聞：富田因則，平成16年12月5日
				2	[研究成果でテレビ・ラジオに出演した] 台風に強い米の新品種の開発：NHK，富田因則，平成16年12月3日、12月6日
				3	[競争的資金] コムギ近縁種の新規多重遺伝子族の構造・機能解析とゲノム局在化：基盤研究(C)(2)，代表，2002
28	山口 武視	助教授	農学	1	[競争的資金] 鳥取県内産農作物の特産化を目指したリサイクル液肥の開発研究：新規，代表，2005-2006
				2	シリカ系植物に対するケイ酸肥料の開発：新規，代表，2002
				3	JICA 開発パートナー事業「乾燥地域における農業及び農村振興」：継続，共同，2002-2003
29	山田 智	助教授	境界農学	1	[競争的資金] 乾燥地研究プログラム：COE，2003
				2	中国内陸部の砂漠化防止及び開発利用に関する研究：継続，

					共同，2005
				3	[競争的資金] 科学研究費基盤研究（A）海外学術調査：共同，2004-2007
30	万 里	助教授	農業経済学	1	[受賞（研究）] 奨励賞：「生鮮食料品流通の時系列分析」，地域農林経済学会，個人，2003
				2	[競争的資金] 世界におけるコメの消費拡大・普及戦略に関する学際的総合研究：基盤 A，継続，共同，2005
				3	世界におけるコメの消費拡大・普及戦略に関する学際的総合研究：基盤 A，新規，共同，2004
31	市原 恒一	助教授	林学	1	[競争的資金] 重力エネルギーを利用した林業用モノレールの開発：基盤研究 B，新規，代表，2005
32	猪迫 耕二	助教授	農業工学	1	[競争的資金] 人口急増地域の持続的な流域水政策シナリオーモンsoon・アジア地域等における地球規模水循環変動への対応戦略ー：継続，共同，2005
				2	中国内陸部の砂漠化防止及び開発利用に関する研究：継続，共同，2005
				3	乾燥地における土壌の塩集積・溶脱と河川水質との相互作用に関する研究：若手研究（B），継続，代表，2003
33	緒方 英彦	助教授	農業工学	1	[競争的資金] 農業水利施設の性能設計・性能施工に関する研究：基盤研究（B），継続，共同，2005
				2	農業水利施設の性能評価・機能診断手法に関する研究：基盤研究（B），継続，共同，2005
				3	初殻炭の特性を活用した親環境型多機能コンクリートに関する研究：若手研究（B），継続，代表，2005
34	松田 敏信	助教授	農業経済学	1	[競争的資金] 消費者需要の次世代型計量モデルの開発と食料需要分析への応用：萌芽研究，新規，代表，2005
				2	日本を含むアジア諸国の食料自給率の動向と農業の対応：基盤研究（B）(1)，新規，共同，2002
				3	ライフスタイルの変化と食料需要の構造変化に関する計量経済学的実証研究：若手研究（B），新規，代表，2002
35	松村 一善	助教授	農業経済学	1	科研費：志賀永一代表「輪作採用度要因の解明による持続的土地利用確立に関する研究」（研究分担者）平成 14-16 年度
				2	科研費：小林一代表「地図情報システムを活用した中山間地域の農地保全と営農支援に関する研究」（研究分担者）、平成 16-17 年度
				3	独）農業・生物系特定産業技術研究機構「中山間地域における地域支システムの開発」（研究分担者）、平成 16、17 年度
36	上中 弘典	助手	基礎生物学	1	[競争的資金] 実吉奨学会：新規，代表，2005
				2	住友財団：新規，代表，2006
37	田中 裕之	助手	農学	1	[競争的資金] 小麦粉の品質関連遺伝子が地域別加工適性におよぼす効果。学長裁量経費（鳥取大学）：新規，代表，2005
				2	財団法人エリザベス・アーノルド富士財団：新規，代表，2004

				3	財団法人飯島記念食品科学振興財団：新規，代表，2003

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名		鳥取大学		学部・研究科等名		農学部・獣医学科	
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果		
1	上原 正人	教授	畜産学・獣医学	1	[競争的資金] 乾燥条件が角膜前上皮細胞の増殖、分化に及ぼす影響について：継続，代表，2005		
				2	乾燥条件が角膜前上皮細胞の増殖，分化に及ぼす影響について：継続，代表，2004		
				3	乾燥条件が角膜前上皮細胞の増殖，分化に及ぼす影響について：新規，代表，2003		
2	澁谷 泉	教授	畜産学・獣医学	1	[競争的資金] 文部省科研費(基盤C)PACAP I 型受容体(PAC1)ノックアウトマウスを用いた神経内分泌機構の解析 (代表)		
				2	[競争的資金] 文部省科研費(基盤B)浸透圧受容、飲水量、体液量調節機構の分子・細胞・行動レベルでの解析 (代表)		
3	佐藤 宏	教授	境界医学	1	[受賞 (研究)] 「実験潰瘍賞」 (「インドメタシンによる小腸潰瘍形成における不溶性食物繊維の役割」の発表に対して、第33回日本潰瘍学会にて受賞 (平成17年12月3日))		
4	山野 好章	教授	畜産学・獣医学	1	[競争的資金] 平成16年度鳥取大学科学研究業績表彰 (日の丸奨学寄付金)：新規，代表，2004		
				2	MC4受容体のストレスへの関与：継続，代表，2003		
				3	疾患モデルにおける脳内 MC4 受容体およびその内因性リガンド発現の変化：継続，代表，2002		
5	村瀬 敏之	教授	畜産学・獣医学	1	[受賞 (研究)] 動物に由来する食品媒介性感染症の防除法確立に関する研究：日本獣医学会賞、2006		
				2	鳥由来感染症の疫学的解明に関する研究：文部科学大臣表彰 (科学技術賞・研究部門)、2005		
				3	[競争的資金] 鶏卵内におけるサルモネラの動態とその増殖抑制、とくに卵黄抗体の関与について：基盤研究 (C)，新規，代表，2005		
6	伊藤 壽啓	教授	畜産学・獣医学	1	[研究成果でテレビ・ラジオに出演した] 平成16年2月4日 NHK クローズアップ現代		
				2	[受賞 (研究)] 平成17年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞研究部門「鳥由来感染症の疫学的解明に関する研究」		
				3	[競争的資金] 平成15～19年 (法) 農研機構受託研究「人獣共通感染症の診断・流行予察技術の開発」		
7	太田 康彦	教授	畜産学・獣医学	1	[競争的資金] 奨学寄付金 (NUS)： ， ， 2005		
				2	奨学寄付金 (東亜科学)： ， ， 2005		
				3	クレスト： ， 共同，2004		

8	島田 章則	教授	畜産学・獣医学	1	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] Science news 167 Nano hazards：島田章則，05March19
				2	赤旗「地をほう排ガス（浮遊性粒子状物質）、大都市の犬の肺侵す」：島田章則，H16.3.33
				3	東京新聞夕刊「都会の犬肺が汚染」：島田章則，H16.3.19
9	日笠 喜朗	教授	畜産学・獣医学	1	[受賞（研究）] 平成 17 年度日本小動物獣医学会 [中国] 地区学会賞：犬の高脂血症に対するポリフェノールと ω 3 多価不飽和脂肪酸の併用効果，日本獣医師会，個人，2005
				2	[競争的資金] 共同研究：小動物における高脂血症の病態解析と治療に関する研究：新規，代表，2002-2005
				3	イヌにおける遺伝性心筋症モデルの確立とイミダゾリン受容体作用薬の有用性：基盤研究 C（2），新規，代表，2002-2004
10	南 三郎	教授	畜産学・獣医学	1	[研究成果でテレビ・ラジオに出演した] おはよう日本：NHK，南 三郎 1，
				2	[受賞（研究）] 日本小動物獣医学会地区学会賞（中国）
11	菱沼 貢	教授	畜産学・獣医学	1	[競争的資金] JICA 平成 16 年度国別研修・ブラジル C/P「乾燥地緑化技術」：新規，共同，2004
12	今川 智敬	助教授	畜産学・獣医学	1	[競争的資金] 乾燥条件が角膜前上皮細胞の増殖・分化に及ぼす影響：継続，代表，2005
				2	乾燥条件が角膜前上皮細胞の増殖、分化に及ぼす影響について：新規，代表，2004
				3	農学部における研究助成金：新規，共同，2002
13	北村 直樹	助教授	畜産学・獣医学	1	[競争的資金] 財団法人秋山記念生命科学振興財団 奨励助成 採択時期：平成 14 年 研究題目：ラット後根神経節細胞の過分極活性化陽イオン電流の生理的調節機構に関する研究
				2	文部科学省 科学研究費補助金 若手研究 B（代表） 採択時期：平成 16 年～平成 18 年 採択分野：農学／畜産学・獣医学／基礎獣医学・基礎畜産学研究題目：神経因性疼痛の細胞レベルでの発生機序の解明
				3	文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究 C（分担） 採択時期：平成 17 年～平成 18 年 採択分野：農学／畜産学・獣医学／臨床獣医学 研究題目：神経因性疼痛モデルの fMRI による可視化と獣医領域での痛み治療の基礎研究
14	斎藤俊之	助教授	畜産学・獣医学	1	[競争的資金] 奨学寄付金（鍋倉金属）：，2005
				2	奨学寄付金（草薙ファーム）：，2006
				3	農学部における研究助成金：新規，共同，2006
15	伊藤 啓史	助教授	畜産学・獣医学	1	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] 「松下エコ、鳥インフルエンザウイルスを機能性材フィルターで抑制」朝日新聞、2006 年 9 月 26
				2	[受賞（研究）] 文部科学技術賞 平成 17 年

				3	[競争的資金] 野鳥由来インフルエンザウイルスの家禽集団への侵入機序の 解明：若手研究 B，新規，代表，2005
16	岡本 宗裕	助教授	畜産学・獣 医学	1	[競争的資金] NOD-scid マウスを用いた囊虫症ワクチン候補遺伝子のスクリ ーニング系の確立：基盤研究 C，新規，代表，2004～2006
				2	ラットモデル系へのライブラリーワクチン投与法による囊虫 感染防御抗原遺伝子の探索：基盤研究 (C) (2)，継続，代表， 2001～2003
				3	オサムシの進化における形態多様化の不連続性とタイプスイ ッチングの検証：基盤研究 (B) (1)，継続，代表，2001～2003
17	森田 剛仁	助教授	畜産学・獣 医学	1	[競争的資金] 家族性てんかんシェルティー犬における神経伝達物質の代謝 に関する分子病理学的研究：若手研究 (B)，新規，代表， 2003-2004
				2	家族性てんかんシェルティー犬におけるグルタミン酸代謝に 関する分子病理学的研究：基盤研究 (C)，新規，代表，2005-2006
18	實方 剛	助教授	畜産学・獣 医学	1	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] 2004 年 5 月 モンゴル農業新聞「モンゴルにおける家畜の疾 病」
				2	[競争的資金] イヌの「がん」に対するワクチン抗原の開発 代表 2005
				3	イヌパルボウイルスに対する迅速診断薬の開発 代表 2005
19	辻野 久美子	講師	畜産学・獣 医学	1	[競争的資金] タングルウッド株式会社：新規，共同，2005
				2	アトピー性皮膚炎における幹細胞因子と神経成長因子の役割 ：若手研究 B，継続，代表，2005
				3	アトピー性皮膚炎モデルマウスにおける慢性ストレスによる 病態悪化のメカニズム：学長経費，2006
20	竹内 崇	助教授	畜産学・獣 医学	1	[受賞（研究）] 第 1 回ラクトフェリンフォーラム 「フォーラム賞」：ラク トフェリンによるモルヒネ耐性発現遅延効果とその作用機 序，ラクトフェリンフォーラム実行委員会，代表，2004
				2	[競争的資金] 大学発事業創出実用化研究開発費助成金（NEDO）：新規，代 表，2005
21	岡村 泰彦	助手	畜産学	1	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] J. Vet. Med. Sci. 66: 651-658. 2004.
				2	J. Vet. Med. Sci. 65: 913-915. 2003
				3	[競争的資金] Waltham Foundation grant 2005
22	永野 昌志	助手	畜産学・獣 医学	1	[一般雑誌，新聞等に掲載された論文・記事等] アムールトラとヒグマに人工授精（北海道新聞・平成 16 年 7 月 6 日
				2	[受賞（研究）] 日本獣医学会・獣医繁殖学分科会賞（平 成 16 年）
				3	[競争的資金] 若手研究 B（個人研究）（代表）平成 17～19 年度 遺伝的価値のある疾患モデル動物と野性動物の精子保存およ び体外受精に関する研究

23	杉山 晶彦	助手	畜産学・獣医学	1	[受賞（研究）] 平成 17 年度 獣医三学会（近畿）奨励賞受賞（演題：クローディング 16 欠損症の遺伝子型に一致しない黒毛和種牛の尿細管形成不全症の病理組織学的検討
24	柄 武志	助手	畜産学・獣医学	1	[受賞（研究）] 平成 15 年度 日本産業動物獣医学会（中国）学会長賞 柄 武志，長谷川恵子，森本将弘，林 俊春，萬場光一，田浦保穂 牛の下垂体後葉嚢胞の MRI 検査成績
				2	平成 17 年度 農林水産大臣賞 柄 武志，中村博行，中川和克，鹿島毅之，永見 愛，村上明美，村上久志 ネザサ給与を主体とする黒毛和種牛生産農家にみられたセレン欠乏

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名		鳥取大学		学部・研究科等名		農学部附属フィールドサイエンスセンター	
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果		
1	唐橋 需	教授	農業工学	1	[一般雑誌，新聞等に掲載された論文・記事等] 地方の現場に対応：唐橋 需，農機新聞，0，2962，38-38，2003		
				2	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] 農機新聞：唐橋 需，2003 年 11 月 1 8 日		
				3	[競争的資金] 農学部における研究助成：継続，代表，2002		
2	山名 伸樹	教授	農業工学	1	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] 草地更新と草地更新機，日本草地学会誌，51，98-101，2005		
				2	Development and Utilization of Narrow-Ditch Type Pasture Renovator, JARQ, 37, 15-19, 2003		
				3	[競争的資金] 農林水産技術会議・プロジェクト研究，新鮮でおいしい「ブランド・ニッポン」農産物提供のための総合研究 を分担，2002-2005		
3	田村 文男	教授	農学	1	[一般雑誌，新聞等に掲載された論文・記事等] ナシつくり事始め：田村文男，因伯の果樹，58，1-12，0-0，2005		
				2	[競争的資金] ポリアミンの園芸利用に関する研究：新規，共同，2005		
				3	ニホンナシにおけるわい化栽培技術の開発並びにわい化機構の解明：基盤研究 c，継続，代表，2002		

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センター

No	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	前川 二太郎	教授	基礎生物学	1	[一般雑誌, 新聞等に掲載された論文・記事等] 知っていますか, きのこたちの物語 4, 「マングローブ調査」, 山陰中央新報 (2005 年 6 月 26 日)
				2	[一般雑誌, 新聞等に掲載された論文・記事等] 知っていますか, きのこたちの物語 4, 「マングローブ調査」, 山陰中央新報 (2005 年 6 月 26 日)
				3	[競争的資金] 平成 14 年度～平成 16 年度 科学研究費 (基盤研究 C) 「日本 亜熱帯産コウヤクタケ類の種多様性の解析」 (代表)
2	岩瀬 剛二	教授	境界農学	1	[研究成果が学会誌, 雑誌, 新聞記事等として掲載された] [研究成果でテレビ・ラジオに出演した]Q とサイエンス, テレビ大阪, 「きのこ」, 2003.10.18
				2	[競争的資金] 経済産業省, 地球環境国際研究推進事業, 2005-2006 (2 年) フロンティア土壌形成基盤技術開発, 分担 者
				3	関西電力委託研究, 菌類を利用した環境調和型森林再生技術 の開発研究, 2005-2006, 代表者
3	須原 弘登	講師	資源保全 学	1	[競争的資金] 平成 16 年度笹川科学研究助成 / 「未同定担子菌の多検 体同時識別と同定」 須原弘登 470 千円 研究代表者
				2	九州大学 21 世紀 COE プログラム「循環型住空間システ ムの構築」平成 17 年度「若手研究活動の助成」 / 「担 子菌を用いた環境汚染物質浄化の際の定量的モニタリ ング」須原弘登 500 千円 研究代表者
				3	九州大学 21 世紀 COE プログラム「循環型住空間システ ムの構築」平成 17 年度「萌芽研究活動の助成」 / 「居 住環境中のアレルゲンとなるダニ・カビの高感度検出技 術の開発」堤祐司、須原弘登、入江正洋 1800 千円 研 究分担者

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	農学部附属動物病院

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	岡本 芳晴	教授	畜産学・獣医学	1	[受賞（研究）] 平成17年度日本小動物獣医学会地区学会賞（中国）：動物の自然発症腫瘍に対する自家がんワクチンの作製とその有効性：57例，日本小動物獣医学会中国地区，共同，2005
				2	[競争的資金] イヌの「がん」に対するワクチンの臨床応用：新規、代表、2005
				3	植物長期熟成濾過液（体元水）の生物活性：継続、代表、2005

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	農学部附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	小野 悦郎	教授	畜産学・獣医学	1	[競争的資金] オーエスキー病抵抗性豚の開発モデルとしての可溶型ブタネクチン1発現マウスの作出：基盤研究（C），新規，代表，2005
2	新矢 恭子	助教授	畜産学・獣医学	1	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] 2006年3月23日掲載、読売新聞（2面）、「鳥インフルエンザ人間の肺の奥に感染しやすい部位」
				2	2006年3月23日掲載、朝日新聞（3面）、「鳥インフルエンザ・人は肺の奥で感染・鳥取大・東大グループ」
				3	2006年3月23日掲載、日本経済新聞（42面）、「ウイルス肺の奥で増殖・人同士の感染少ない鳥インフルエンザ・せき、媒介難しく」

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	連合農学研究科

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	森 信寛	教授	農芸化学	1	[一般雑誌，新聞等に掲載された論文・記事等] 「酵素で健康チェック」～分析に利用されている酵素～：森 信寛，日本海新聞（5.23），0，0，0-0，2003
				2	[競争的資金] カルニチンを醗酵生産する微生物に関する研究：新規，共同， 2003

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名		鳥取大学		学部・研究科等名		農学部・生物資源環境学科	
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果		
1	尾谷 浩	教授	農学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 生物遺伝資源委員会：委員，2005		
				2	日本学術振興会：科学研究費審査会専門委員，2004-2005		
				3	日本学術振興会：特別研究員等審査会専門委員，2002-2003		
2	木村 靖夫	教授	農芸化学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 日本学術振興会特別研究員審査委員		
				2	日本学術振興会科学研究費審査委員		
				3	植物化学調節学会：評議委員，2003		
3	田中 淨	教授	境界農学	1	[国際事業協力]乾燥地拠点研究		
4	田邊 賢二	教授	農学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 大学評価機構大学評価委員会評価員：2002～2004		
				2	[公開講座，講演会等] 1、春夏の樹体生理と管理 2、第32回秋冬の樹体生理と管理：梨栽培生理講座，鳥取大学農学部，梨生産者，2004		
				3	[国際事業協力] ナシ新高の高品質果実安定多収穫技術の確立：大韓民国，3年(2004～2006年)，韓国および日本，研究指導と技術教育，韓国農村振興庁，2004		
5	辻本 壽	教授	農学	1	学術会議遺伝学研究連絡委員会：委員，2002，2003，2004		
6	中島 廣光	教授	農芸化学	1	[公開講座，講演会等] 化学物質による食品汚染－農薬とアフラトキシン汚染－：鳥取大学公開講座，鳥取大学，一般，2003		
				2	農薬汚染とアフラトキシン汚染：鳥取県栄養士会生涯学習研修会，鳥取県栄養士会，栄養士，2002		
				3	[国際事業協力] 国際協力機構 開発パートナー事業 「乾燥地における農業及び農村振興」：メキシコ合衆国，6/11-7/5，メキシコ合衆国，病害虫管理の専門家，CIBNOR，2003		
7	森嶋 伊佐夫	教授	農芸化学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等]		
				2	[公開講座，講演会等] 遺伝子組換え食品とは？ サイエンスアカデミー，鳥取大学地域共同研究センター，一般市民，2006		
				3	遺伝子組換え食品とは？：遺伝子を考えよう PART2，鳥取大学遺伝子実験施設，一般市民，2002		
8	山崎 良平	教授	農芸化学	1	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] 日本糖質学会、評議員（1998-2007）、農芸化学会支部評議員(2000-2006)		
				2	European J. Organic Chemistry の論文審査委員(2004-2007)		
				3	European J. Biochemistry (2004-2005), Carbohydrate Research (2004-2005), Infection & Immunity (2005)の論文審査委員		
9	奥村 武信	教授	林学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等]		

					鳥取砂丘景観保全調査研究会（鳥取県鳥取砂丘室）：委員，2002～2005
				2	広留野地域におけるエコロード検討委員会（鳥取県道路課）：委員長，2003～2004
				3	〔公開講座，講演会等〕 「人が災害をつくる」 ～いわゆる自然災害へのヒトの活動の影響～：「災害」を知る ―災害に学び、備え、生きる―，社会貢献推進課，一般市民，2005
10	北村 義信	教授	農業工学	1	〔審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等〕 日本学術会議農業土木学研究連絡委員会：委員，2003～2005
				2	緑資源機構海外農業開発事業評価委員会：委員，2002～2006
				3	鳥取県農業農村整備事業の環境配慮に係る意見交換会：常任委員（委員長），2002～2006
11	黒川 泰亨	教授	林学	1	〔審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等〕 鳥取県産材輸出検討委員会：2003
				2	日野川流域活性化センター原木供給部会：2003
				3	日野川流域林業活性化協議会：2003
12	小林 一	教授	農業経済学	1	〔審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等〕 (財)大学基準協会相互評価委員会評価員：2005
				2	〔専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項〕 パソコン用ソフトウェア「水田作経営の一筆圃場管理システム」：2005
				3	〔国際事業協力〕 JICA 開発パートナー事業：メキシコ合衆国，2004 年 6 月 12～27 日，メキシコ合衆国，経営指導，メキシコ北西部生物学研究センター，2004
13	田熊 勝利	教授	農業工学	1	〔審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等〕 日本技術者教育認定機構：2005
				2	日本技術者教育認定機構：2004
14	長澤 良太	教授	地理学	1	〔審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等〕 宇宙開発研究機構（JAXA）：地球観測委員会委員，2002～2006
				2	〔専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項〕 鳥取県立鳥取東高校：スーパーサイエンスハイスクールにおける GIS 指導講師，2005～2006
				3	〔研修事業（外国人向け研修）〕 国際協力機構（JICA）：乾燥・半乾燥地における水資源（集団研修），リモートセンシング講師，2003～2006
15	能美 誠	教授	農業経済学	1	〔審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等〕 地域貢献特別支援事業：2005
				2	日本学術会議農村計画学研究連絡委員会：委員，2005
				3	鳥取県経営構造対策関係施策評価委員会：委員長，2004
16	服部 九二雄	教授	農業工学	1	〔審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等〕 農業用ダム技術検討委員会：委員，1995～
				2	〔国際事業協力〕 JICA 専門家長期派遣：ケニヤ共和国ジョモケニアッタ農工大学，1 年間（1985）

				3	[研修事業（外国人向け研修）] 乾燥地水資源の開発と環境評価：独立行政法人国際協力機構，12名，コース・リーダー，講師，1999～現在
17	藤山 英保	教授	境界農学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 鳥取県放射能専門家会議：委員，1990 -
				2	[国際事業協力] JICA 開発パートナー事業「乾燥地域における農業及び農村振興」：メキシコ合衆国，2001 - 2004，メキシコ合衆国，プロジェクトマネージャー，メキシコ北西部生物学研究センター，2003
				3	[研修事業（外国人向け研修）] 乾燥地水資源の開発と環境影響評価：国際協力機構，10名，講師，2002 -
18	古川 郁夫	教授	林学	1	審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 国土交通省中国整備局・総合評価審査会（鳥取県部会）：審査委員 2006-
				2	国土交通省中国整備局・中国圏広域地方計画学識者会議：委員 2006-
				3	兵庫教育大学大学院連合教育研究科・外部評価委員会：外部評価委員 2003
19	八木 俊彦	教授	林学	1	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] 鳥取県の森林ボランティア団体「森っ子倶楽部」の理事として活動。：2004～
				2	国連環境NGO「CASA」の理事として活動。：2004～
				3	[国際事業協力] 持続可能な開発に関する世界首脳会議：国連加盟国，8月26日～9月2日，国連加盟国，国連NGO，国連，2002
20	山本 福壽	教授	林学	1	[研修事業（外国人向け研修）] JICA 研修生に対する講義（平成14～17年）
21	東 政明	助教授	農学	1	[公開講座，講演会等] 昆虫のくらしとアクアポリン。第19回「大学と科学」公開シンポジウム「みずみずしい体のしくみ 水の通り道“アクアポリン”の働きと病気」。平成16年度文部科学省科学研究費補助金研究成果公開促進費「研究成果公开发表(A)」補助事業，東京都，2004年10月20-21日
				2	やさしいバイオ講習会，鳥取大学生命機能研究支援センター，一般市民（大学生・高校生を含む），2004
				3	やさしいバイオ講習会，鳥取大学生命機能研究支援センター，一般市民（大学生・高校生を含む），2003
22	板井 章浩	助教授	農学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 鳥取県農業技術審議会：委員，2005
				2	鳥取県農業技術審議会：2004
				3	[公開講座，講演会等] ナシ果実の生長と成熟：梨栽培生理学講座，鳥取大学，栽培農家，2005
23	一柳 剛	講師	境界農学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 甲種危険物取扱者 取得（平成16年12月）
				2	[公開講座，講演会等] 第2回ファインケミカルズを指向する有機合成プロセス専門部会 講師（三重）（2005年12月）
24	岡 真理子	助手	生物科学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 鳥取県環境評価審査委員会委員

				2	[公開講座，講演会等] 鳥取総合分析研究懇談会講演会
				3	[国際事業協力] 国際協力機構 開発パートナー事業「乾燥地域における農業及び農村振興」：メキシコ合衆国，平成13年7月～平成16年7月，メキシコ合衆国，作物生理の研究，メキシコ北西部生物学研究センター，2003
25	河野 強	助教授	境界農学	1	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] 日本農芸化学会中四国支部評議員
				2	日本農芸化学会英文誌審査員
26	児玉 基一郎	助教授	農学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 鳥取県病害虫談話会：幹事，2003-2005
				2	[公開講座，講演会等] 高校生への出前講義：八頭高校（鳥取），三木高校（兵庫），英明高校（高松）2004
				3	[国際事業協力] 日本学術振興会外国人招へい研究者（ニュージーランド）受入研究者 2004
27	富田 因則	助教授	農学	1	[公開講座，講演会等] やさしいバイオ講習会，鳥取大学遺伝子実験施設，社会人，高校生，2002
				2	[研修事業（外国人向け研修）] JICA 集団研修 乾燥地水資源の開発と環境評価 II，乾燥地適性作物，2004
				3	[産業支援] とっとり大地と海のフェスタ，鳥取県市場開拓課，2005
28	山口 武視	助教授	農学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 鳥取県主要農作物奨励品種改廃協議会：委員，2002
				2	鳥取県農林水産技術協議会主要作物部会：委員，2002－2005
				3	[国際事業協力] JICA 開発パートナー事業「乾燥地域における農業及び農村振興：メキシコ合衆国，2001年から2003年，メキシコ合衆国，，CIBNOR，2002－2003
29	山田 智	助教授	境界農学	1	[国際事業協力] JICA 開発パートナー事業「乾燥地域における農業及び農村振興」：メキシコ合衆国，2001－2004，メキシコ合衆国，施肥管理，メキシコ北西部生物学研究センター，2003
				2	[研修事業（外国人向け研修）] 乾燥地水資源の開発と環境影響評価：国際協力機構，10名，講師，2002－
30	万 里	助教授	農業経済学	1	[公開講座，講演会等] コンピュータによる農業情報処理：農業経営情報科学講座，鳥取大学農学部，社会一般，2005
				2	日本と諸外国における農産物流通方法の比較：放送大学鳥取学習センター，県民ガレージ公開講座，2005
				3	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] 放送大学鳥取学習センター・客員教員：2005
31	市原 恒一	助教授	林学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 鳥取県公共事業評価委員会：委員，2004-2005

32	猪迫 耕二	助教授	農業工学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] Intenational Committee of Irrigation and Drainage 推進委員会: 委員, 2003~2005
				2	[国際事業協力] JICA キリマンジャロ農業技術者訓練センターフェーズ II 計画: タンザニア共和国, 2004/2/21-2004/3/20, タンザニア共和国, 国際協力機構短期専門家として稲作圃場における土壌の塩害対策の指導を行った., キリマンジャロ農業技術者訓練センター, 2003
				3	[研修事業 (外国人向け研修)] 乾燥地水資源の開発と環境評価: 鳥取大学-JICA, 7 名, 土壌・圃場水管理グループ主査, 講師, 2002~2005
33	緒方 英彦	助教授	農業工学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 性能規定化技術検討委員会構造分科会: 委員, 2005
				2	[公開講座, 講演会等] 構造性能に関する検討状況: 性能設計講習会, 農林水産省 中国四国農政局, 日本農業土木総合研究所, 中国四国管内の国営事業所職員及び県職員, 2005
				3	[研修事業 (外国人向け研修)] 乾燥地水資源の開発と環境評価 II: 鳥取大学農学部・乾燥地研究センター, 11 名, 調整担当・講師, 2005
34	本田 尚正	助教授	林学	1	[公開講座, 講演会等] 特別講演「土砂災害への提言ー崩壊・土石流に関する研究の現状と課題ー」: 技術講習会「地盤災害を考えるー治山・砂防ー」, 中国地質調査業協会鳥取県支部, 実務技術者, 2005
				2	講習会講師: 技術士第一次試験対策講習会, (社)鳥取県測量設計業協会, 実務技術者, 2005
				3	[産業支援] 土木工学分野全般に関する技術支援: テクノメイトコープ (環境NPO) 技術顧問, 2003~
35	松田 敏信	助教授	農業経済学	1	[公開講座, 講演会等] パソコンによる情報発信: コンピュータによる農業情報処理講座, 鳥取大学農学部, 一般, 2003
				2	[研修事業 (外国人向け研修)] JICA 集団研究: 鳥取大学, 15 名, 講師, 2005
				3	JICA 集団研究: 鳥取大学, 15 名, 講師, 2004
36	松村 一善	助教授	農業経済学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 全国農業協同組合中央会水田営農専門研究会委員, 平成 16-17 年度
				2	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] 東伯町農村婦人グループ活動支援: 平成 14 年度ー17 年度
				3	[国際事業協力] 乾燥地の農業および農村振興: メキシコ合衆国, 2002/8/21~2002/10/1, メキシコ合衆国, 営農・流通分野専門家, CIBNOR, 2002
37	山本 定博	助教授	農芸化学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取県特別栽培農産物認証審査会 座長
				2	鳥取県有機農産物等判定委員会 座長
				3	[国際事業協力] JICA 開発パートナー事業「乾燥地域における農業及び農村振興」: メキシコ, 2002~2004 年
38	作野 えみ	助手	農芸化学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会

					活動の実績等] 鳥取県環境審議会
39	遠藤 常嘉	助手	農芸化学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 鳥取県自然生態系の再生による水質浄化研究会
				2	[公開講座，講演会等] 過酷な栽培環境－乾いた大地に豊かな農地に－：遠藤常嘉，日本砂丘学会市民公開講座，2003
				3	[国際事業協力] 科学技術振興機構戦略的創造研究推進事業，人口急増地域の持続的な流域水政策シナリオ－モンスーン・アジア地域等における地球規模水循環変動への対応戦略－，カザフスタン共和国，2004年8月－9月

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名		鳥取大学		学部・研究科等名		農学部・獣医学科	
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果		
1	伊藤 壽啓	教授	畜産学・ 獣医学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 平成 16 年～農林水産省高病原性鳥インフルエンザ感染経路究明チーム副座長		
				2	平成 16 年～環境省鳥インフルエンザ対策に係る野鳥専門 家会議メンバー		
				3	[公開講座，講演会等] 平成 16 年 4 月 10 日第 167 回市民公開講座サイエンスアカ デミー「鳥インフルエンザの国内発生について」鳥取市		
2	上原 正人	教授	畜産学・ 獣医学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 鳥取県イノシシ保護管理検討会：会長，2004		
				2	獣医事審議会：2003		
				3	鳥取県イノシシ保護管理検討会：会長，2003		
3	澁谷 泉	教授	畜産学・ 獣医学	1	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事 項] Journal of Neuroendocrinology Editorial advisory board member		
4	山野 好章	教授	畜産学・ 獣医学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 大学等放射線施設協議会常議員：2003 から今日に至る		
				2	[公開講座，講演会等] 身のまわりの放射線を観察し、原子力、放射線の有用性を 体得する：市民講座，鳥取県，市民一般、中学・高校教諭， 2004		
				3	食品のもつ放射能：原子力体験セミナー，財団法人放射線 利用振興協会，市民一般、中学・高校教諭，2004		
5	村瀬 敏之	教授	畜産学・ 獣医学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等]鳥取県農林水産技術協議会：2005		
				2	鶏病研究会専門委員会委員、小委員長：2006		
6	太田 康彦	教授	畜産学・ 獣医学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 環境省内内分泌攪乱に関する日英共同プロジェクト実務者 会議委員：委員，2005		
				2	独立行政法人国立環境研究所客員研究員：研究員，2005		
				3	農林水産省獣医事審議委員：委員，2005		
7	島田 章則	教授	畜産学・ 獣医学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会：専門委 員，2005		
				2	環境省大気環境基準等レビューワーキンググループ：検討 員，2005		
				3	複合大気汚染」：2003.8.2, 9.6 平成 1 5 年度鳥取大学公 開講座 「環境を知る」（，鳥取大学学生センター，一般 市民，2003		
8	日笠 喜朗	教授	畜産学・ 獣医学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 農林水産技術情報協会：専門評価委員，2004-2005		
				2	農林水産省 獣医事審議会：専門委員，2004-2005		
				3	日本学術振興会 科学研究費委員会：専門委員，2003-2004		
9	南 三郎	教授	畜産学・	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会		

			獣医学		活動の実績等] 鳥取県家畜畜産物衛生指導協会理事
				2	[公開講座，講演会等] 2004 年鳥取大学医学部市民公開講座：キッチンと健康
				3	2005 年まなびピア 2005：いつまでも足腰を健康に保つには
10	菱沼 貢	教授	畜産学・獣医学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 鳥取県畜産技術業績発表会：2005
				2	鳥取県畜産技術業績発表会：2004
				3	鳥取県畜産技術業績発表会：2003
11	今川 智敬	助教授	畜産学・獣医学	1	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] 組織学実習図譜 CD-ROM：2003
12	斎藤俊之	助教授	畜産学・獣医学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 日本農業研究所 ダチョウ生産利用技術確立調査研究委託事業委員 2005
				2	[公開講座，講演会等] 鳥取アグリテクノ研究会シンポジウム講演 2004
				3	[公開講座，講演会等] 農水省主催のアグリビジネス創出フェア出展 2005 及び 2006
13	伊藤 啓史	助教授	畜産学・獣医学	1	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] 鳥インフルエンザ発生地周辺における野鳥のウイルス保有状況の調査：2003
14	岡本 宗裕	助教授	畜産学・獣医学	1	[研修事業（外国人向け研修）] アジアにおける難治性寄生虫病流行把握戦略：科学技術振興調整費 代表 2004
				2	アジアにおける難治性寄生虫病流行把握戦略：科学技術振興調整費 代表 2003
15	實方 剛	助教授	畜産学・獣医学	1	[公開講座，講演会等] モンゴルの牧畜対策 まなびぴあ， 2005
				2	Study on rotavirus and norovirus in Mongolia Health sciences university of Mongolia, 2005
				3	[国際事業協力] 家畜感染症診断技術改善計画：モンゴル国，モノクローナル抗体の作製に関する技術援助，モンゴル農業大学 獣医免疫センター，2005
16	辻野 久美子	講師	畜産学・獣医学	1	[公開講座，講演会等] アレルギー性皮膚炎の治療における注意点：小動物臨床研究会，鳥取県獣医師会，鳥取県内一般開業獣医師，2005
17	竹内 崇	助教授	畜産学・獣医学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] サイエンス・パートナーシップ・プログラムの実施（八頭高校理数科），分担，2005
18	永野 昌志	助手	畜産学・獣医学	1	[公開講座，講演会等] 家畜繁殖技術講習会（平成 14 年、17 年）
				2	[研修事業（外国人向け研修）] JICA 獣医技術研修（平成 14 年～17 年）
19	杉山 晶彦	助手	畜産学・獣医学	1	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] 民間動物病院に対し，伴侶動物の疾患の細胞学的診断，病理組織診断および術後の獣医療に関する指導を実施
				2	島根県農林水産部農畜産振興課家畜病性鑑定室に対し，黒毛和種牛の遺伝性疾患に関する病理学的研究の指導を実施

				3	京都市衛生公害研究所に対し，黒毛和種牛の遺伝性疾患に関する病理組織診断の指導を実施

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	農学部附属フィールドサイエンスセンター

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	唐橋 需	教授	農業工学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 民間結集型アグリビジネス創出技術開発事業評価会: 委員, 2005
				2	独立行政法人日本学術振興会: 2004
				3	プロジェクト研究「環境負荷低減のための革新的農業技術の開発」評価会: 委員, 2003
2	山名 伸樹	教授	農業工学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 養鶏省力化機器研究開発事業企画委員及び研究・開発専門委員会委員, 日本養鶏協会, 2004-2005
				2	全国飼料増産行動会議幹事会幹事, 農林水産省, 2005
				3	全国飼料増産行動会議幹事会幹事, 農林水産省, 2005
3	田村 文男	教授	農学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取県試験研究審議会: 委員, 2005
				2	鳥取県園芸試験場: 2005
				3	[公開講座, 講演会等] 梨栽培の基礎科学: ナシ栽培生理講座, 農学部長, ナシ生産者, 2005
4	佐野 淳之	助教授	林学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 岡山県真庭市環境市民会議委員および第2回真庭市環境フォーラム実行委員長
				2	[公開講座, 講演会等] 全国草原サミット in 蒜山・大山 (一般市民対象) のコーディネータ: 鳥取県江府町・岡山県川上村
				3	[国際事業協力] 日本とトルコの気候変動と農業生産に関する国際プロジェクト (ICCAP) 参加

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名		鳥取大学		学部・研究科等名	農学部附属菌類きのこ遺伝研究センター
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	前川 二太郎	教授	基礎生物学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 日本菌学会編集委員会（責任編集委員），2005年度～
				2	[公開講座，講演会等] 「新機能開発シーズとしてのきのこ遺伝資源」，アグリビジネス創出フェア2005、農林水産省主催，東京，2005年10月6，7日
				3	「きのこの世界」，東京キャンパス・イノベーションセンター・イブニングセミナー「きのこは健康と環境を守る」（鳥取大学・鳥取県主催），東京，2005年12月15
2	岩瀬 剛二	教授	境界農学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等]林野庁組み替えきのこワーキンググループ委員，2002-2003
				2	[公開講座，講演会等] いのちの森が目指すもの，京都市環境活動交流会，京都，2005.6.18
				3	[国際事業協力] 森林再生技術協力，2005.8.21～8.25，菌根菌に関する専門家としてモンゴルにおける森林再生事業に技術協力，ひょうご環境創造協会
3	須原 弘登	講師	資源保全学	1	[公開講座，講演会等] 須原弘登「分子生物学的手法による担子菌類の同定と特異的検出」2003年度夏期日本木材学会生物劣化研究会（2003.8.8-9. 於オリエントホテル高知）

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	農学部附属動物病院

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	岡本 芳晴	教授	畜産学・ 獣医学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公的社会活動の実績等] 日本獣医師会獣医学術奨励賞選考委員会
				2	[公開講座，講演会等] 進化したがん治療ー自家がんワクチン療法の可能性ー：中国地区小動物講習会、2005
				3	進化したがん治療：愛媛県獣医師会、2005

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	農学部附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	新矢 恭子	助教授	畜産学・ 獣医学	1	[公開講座，講演会等] 実験動物学会講演
				2	[研修事業（外国人向け研修）] ラボ外国人研究生の指導

乾燥地研究センター

資 料 目 次

表－1	平成 17年度の研究組織と教員等の在籍数・・・・・・・・・・	2 5 9
表－2	教員等の在籍数の変化・・・・・・・・・・	2 5 9
表－3	平成17年度の事務組織と職員等の在籍数・・・・・・・・・・	2 5 9
表－4	事務職員等の在籍数の変化・・・・・・・・・・	2 5 9
表－5	平成17年度の技術組織と技術職員等の在籍数・・・・・・・・・・	2 5 9
表－6	技術職員等の在籍数の変化・・・・・・・・・・	2 5 9
表－7	鳥取大学乾燥地研究センター年報の印刷部数と配布先・・	2 6 0
表－8	一般公開の開催月日と参加者数・・・・・・・・・・	2 6 0
表－9	大学地域開放特別事業の開催月日と参加者数・・・・・・・・	2 6 0
表－10	科学研究費補助金の採択件数と採択額・・・・・・・・・・	2 6 0
表－11	日本学術振興会拠点大学方式による学術交流事業費・・	2 6 0
表－12	21世紀C O Eプログラムによる研究費・・・・・・・・・・	2 6 1
表－13	共同研究の受入件数と受入額・・・・・・・・・・	2 6 1
表－14	受託研究の受入件数と受入額・・・・・・・・・・	2 6 1
表－15	奨学寄附金の受入件数と受入額・・・・・・・・・・	2 6 1
表－16	学生や研究生などの在籍数・・・・・・・・・・	2 6 1
表－17	外国からの研究員・・・・・・・・・・	2 6 2
表－18	国内外からの受託研究員・・・・・・・・・・	2 6 2
表－19	日中合同セミナーの開催時期と参加者数・・・・・・・・	2 6 3
表－20	乾燥地科学プログラムに関するセミナー・・・・・・・・	2 6 3
表－21	公開セミナー・・・・・・・・・・	2 6 3
表－22	実施した研究課題数と参画した外部研究員数・・・・・・・・	2 6 3
表－23	それぞれのカテゴリーごとの研究課題数と参画した 外部研究員数・・・・・・・・・・	2 6 3
表－24	共同研究発表会の開催日と参加者数・・・・・・・・	2 6 3
表－25	学術交流協定の締結期間・・・・・・・・・・	2 6 4
表－26	平成14年度の国際共同研究・・・・・・・・・・	2 6 4
表－27	平成15年度の国際共同研究・・・・・・・・・・	2 6 4
表－28	平成16年度の国際共同研究・・・・・・・・・・	2 6 4
表－29	平成17年度の国際共同研究・・・・・・・・・・	2 6 5
表－30	学術誌に掲載された論文集・・・・・・・・・・	2 6 5
表－31	教員等の外国への派遣数と外国人研究員の招聘集・・	2 6 5
	外部評価委員の評価結果の概要・・・・・・・・・・	2 6 6
研究活動実績票	別紙様式①－甲・・・・・・・・・・	2 7 1
研究活動実績票	別紙様式①－乙・・・・・・・・・・	2 7 3
研究活動実績票	別紙様式②・・・・・・・・・・	2 7 6
研究活動実績票	別紙様式③・・・・・・・・・・	2 7 8

表-1 平成 17 年度の研究組織と教員等の在籍数

部門	分野	教授	助教授
乾地環境部門	自然環境 水資源	1 1	1 1
生物生産部門	生理生態 植物生産	1 (客員) 1	1
緑化保全部門	緑化・草地 土地保全	1 1	1 1
総合的砂漠化対処部門		1 (講師)	
乾地科学部門 (国内客員)		2 (教授)	1 (助教授)
乾地科学部門 (国外客員)		3 (教授)	
21 世紀 COE プログラムによる研究員		11	
研究機関研究員		3	
日本学術振興会特別研究員 (JSPS)		3	

表-2 教員等の在籍数の変化

年	専任教員			客員教員		研究員		
	教授	助教授	講師	国内	国外	COE	機関	JSPS
14	6	6		3	3		3	
15	6	5		3	3	4	3	
16	6	5	1	3	3	8	3	
17	5	5	1	4	3	11	3	3

表-3 平成 17 年度の事務組織と職員等の在籍数

事務室長	係長	主任	係員	事務補佐員
1	1	1	2	5

表-4 事務職員等の在籍数の変化

年	事務室長	係長	主任	係員	事務補佐員
14	1	1		2	5
15	1	1		2	5
16	1	1		3	6
17	1	1	1	2	5

表-5 平成 17 年度の技術組織と技術職員等の在籍数

技術専門職員	技術職員	研究推進支援員
1	3	1

表-6 技術職員等の在籍数の変化

年	技術専門職員	技術職員	研究推進支援員
14	1	3	2
15	1	3	2
16	1	3	1
17	1	3	1

表-7 鳥取大学乾燥地研究センター年報の印刷部数と配布先

年度	印刷部数	配布先						
		省庁	自治体	国立大	私立大	公立大	外国	関係者
14	600	53	55	124	23	11	114	146
15	650	52	55	122	23	11	117	127
16	500	50	20	58	14	10	119	99
17	500	49	20	56	14	10	120	113

表-8 一般公開の開催月日と参加者数

年度	開催月日	開催時間	参加者数
14	08月10日	16:00～21:00	450
	10月14日	10:00～16:00	400
15	08月09日	16:00～21:00	293
	10月11日	10:00～16:00	200
16	08月07日	16:00～21:00	450
	10月09日	10:00～16:00	200
17	08月06日	16:00～21:00	433
	10月09日	10:00～16:00	189

表-9 大学地域解放特別事業の開催月日と参加者数
(小学生高学年対象：君もなろう砂漠博士)

年度	開催月日	開催時間	参加者数
14	11月03日	12:40～16:30	30
15	08月09日	12:40～16:30	36
16	08月07日	12:40～16:30	22
17	11月26日	12:40～16:30	7

表-10 科学研究費補助金の採択件数と採択額

年度	継続		新規	
	件数	金額千円	件数	金額千円
14	3	8,400	0	
15	2	6,400	1	2,300
16	0		2	8,600
17	2	5,800	5	16,180

表-11 日本学術振興会拠点大学方式による学術交流事業費

年度	金額千円
13	23,100
14	27,070
15	22,700
16	23,500
17	24,800

表-12 21世紀COEプログラムによる研究費

年度	金額千円
14	87,000
15	118,000
16	112,000
17	145,200

表-13 共同研究の受入件数と受入額

年度	件数	金額
14	2	410,000
15	4	4,568,000
16	0	0
17	4	4,490,910

表-14 受託研究の受入件数と受入額

年度	件数	金額
14	3	12,173,500
15	3	9,276,500
16	3	8,797,000
17	4	11,399,500

表-15 奨学寄附金の受入件数と受入額

年度	件数	金額
14	5	5,300,000
15	6	4,900,000
16	8	7,040,000
17	5	3,840,000

表-16 学生や研究生などの在籍数

年度	卒論 学生	修士 学生	博士 学生	国内外 研究生	J S P 特別研究員		C O E 研究員	研究機関 研究員
					国内	国外		
14	7	30	10	3			1	3
15	10	35	14	5			4	3
16	8	29	15	3	1		10	3
17	4	25	16	3	2	1	11	3

表-17 外国からの研究員

年度	人員	国籍	期間	経費負担の種別
14	1	中国	2002. 11. 02～2002. 11. 30	日本学術振興会
	2	中国	2002. 02. 20～2003. 04. 19	日本学術振興会
15	1	イスラエル	2003. 08. 23～2003. 09. 08	21 世紀 COE プログラム
	2	スーダン	2003. 08. 20～2003. 09. 03	21 世紀 COE プログラム
	3	中国	2003. 11. 25～2004. 02. 15	21 世紀 COE プログラム
	4	中国	2003. 12. 06～2003. 12. 14	21 世紀 COE プログラム
	5	中国	2003. 12. 06～2003. 12. 14	21 世紀 COE プログラム
	6	中国	2003. 12. 06～2003. 12. 14	21 世紀 COE プログラム
	7	シリア	2004. 01. 30～2004. 02. 17	21 世紀 COE プログラム
	8	中国	2003. 12. 27～2004. 05. 28	ライフサイエンス国際基金
	9	中国	2004. 01. 06～2004. 12. 28	中国政府
16	1	中国	2003. 10. 02～2005. 09. 30	国費奨学金
	2	中国	2003. 12. 27～2004. 05. 28	ライフサイエンス国際基金
	3	中国	2004. 01. 05～2005. 01. 05	中国政府
	4	中国	2004. 05. 21～2005. 01. 20	ライフサイエンス財団
	5	中国	2004. 07. 01～2004. 09. 30	中国政府
	6	中国	2004. 08. 20～2005. 02. 20	中国河北省政府
17	1	中国	2003. 10. 02～2005. 09. 30	国費奨学金

表-18 国内外からの受託研究員

年度	人員	国籍	期間	経費負担の種別
14	1	日本	2002. 10. 01～	三菱重工
	2	ミャンマー	2002. 04. 15～2002. 04. 17	国際協力事業団
	3	ミャンマー	2002. 04. 15～2002. 04. 17	国際協力事業団
	4	日本	2002. 12. 02～2003. 02. 28	文部科学省
15	1	日本	2002. 10. 01～	三菱重工
	2	セネガル	2003. 10. 14～2003. 10. 17	国際協力事業団
	3	セネガル	2003. 10. 14～2003. 10. 17	国際協力事業団
	4	セネガル	2003. 10. 14～2003. 10. 17	国際協力事業団
	5	セネガル	2003. 10. 14～2003. 10. 17	国際協力事業団
	6	セネガル	2003. 10. 14～2003. 10. 17	国際協力事業団
	7	モロッコ	2003. 11. 19	国際協力事業団
	8	モロッコ	2003. 11. 19	国際協力事業団
	9	チリ	2004. 03. 12	国際協力事業団
	10	コートジボワール	2004. 03. 17	国際協力事業団
	11	コートジボワール	2004. 03. 17	国際協力事業団
	12	コートジボワール	2004. 03. 17	国際協力事業団
16	1	日本	2002. 10. 01～	三菱重工
	2	セネガル	2004. 07. 20～2004. 07. 22	国際協力事業団
	3	セネガル	2004. 07. 20～2004. 07. 22	国際協力事業団
	4	ブラジル	2004. 10. 17～2004. 11. 21	国際協力事業団
	5	ブラジル	2004. 10. 17～2004. 11. 21	国際協力事業団
	6	ブラジル	2004. 10. 17～2004. 11. 21	国際協力事業団
	7	セネガル	2004. 11. 09～2004. 11. 11	国際協力事業団
	8	セネガル	2004. 11. 09～2004. 11. 11	国際協力事業団
17	1	日本	2002. 10. 01～	三菱重工
	2	ブラジル	2005. 10. 26～2005. 11. 18	国際協力事業団
	3	ブラジル	2005. 10. 26～2005. 11. 18	国際協力事業団

表-19 日中合同セミナーの開催時期と参加者数

年度	期間	会場	参加者数		
			国内	内島大	国外
14	11月15～16日	水土保持研究所	17	11	25
15	11月14～15日	水土保持研究所	21	15	25
16	11月04～05日	乾燥地研究センター	90	76	18
17	09月03～04日	水土保持研究所	32	26	38

表-20 乾燥地科学プログラムに関するセミナー

年度	開催回数	話題数	招聘外国人の話題数
15	4	5	5
16	3	6	4
17	12	18	2

表-21 公開セミナー

年度	開催回数	話題数
14	9	11
15	5	7
16	6	8
17	7	8

表-22 実施した研究課題数と参画した外部研究員数

年度	研究課題数	外部研究員数
14	52	74
15	54	81
16	53	91
17	50	94

表-23 それぞれのカテゴリーごとの研究課題数と参画した外部研究員数

年度	計画研究 (A)		計画研究 (B)		自由研究	
	課題数	外部研究員数	課題数	外部研究員数	課題数	外部研究員数
14	18	26	9	18	25	30
15	18	29	8	15	28	37
16	18	32	8	15	27	44
17	15	32	3	6	32	56

表-24 共同研究発表会の開催日と参加者数

年度	開催日	参加者数		
		学内	学外	合計
14	12月3日	71	74	145
15	12月2日	73	66	139
16	12月7日	60	52	112
17	12月6日	83	51	134

表-25 学術交流協定の締結機関

国名	機関名	締結年月
中国	北京林業大学	平成 10 年 08 月
	科学院水利部水土保持研究所	平成 12 年 10 月
	科学院遺伝及び発育生物学研究所	平成 12 年 11 月
	新疆農業大学	平成 17 年 02 月
	北京師範大学	平成 17 年 07 月
イスラエル	ヘブライ大学	平成 04 年 06 月
トルコ	ムスタファケマル大学	平成 15 年 09 月
スーダン	農業研究機構	平成 10 年 11 月

表-26 平成 14 年度の国際共同研究

課題 番号	共同研究機関		研究期間（年度）		経費
	国名	機関名	開始	終了	
1	中国	水土保持研究所	14	18	21 世紀 COE プログラム
	中国	北京師範大学			
2	スーダン	農業研究機構	12	未定	委任経理金
3	中国	水土保持研究所	12	未定	委任経理金
4	中国	北京林業大学	12	未定	校費
	中国	遼寧省林業科学研究院			
5	トルコ	ムスタファケマル大学	13	未定	総合地球環境学研究所
	イスラエル	ベングリオン大学			
6	中国	水土保持研究所	13	22	日本学術振興会

表-27 平成 15 年度の国際共同研究

課題 番号	共同研究機関		研究期間（年度）		経費
	国名	機関名	開始	終了	
1	スーダン	農業研究機構	12	未定	委任経理金
2	中国	水土保持研究所	13	22	日本学術振興会
3	中国	水土保持研究所	15	18	研究拠点形成補助金
	シリア	国際乾燥地農業研究センター			
4	トルコ	ムスタファケマル大学	13	未定	総合地球環境学研究所
	トルコ	チクロバ大学			
5	トルコ	ムスタファケマル大学	13	15	総合地球環境学研究所
	イスラエル	ベングリオン大学			

表-28 平成 16 年度の国際共同研究

課題 番号	共同研究機関		研究期間（年度）		経費
	国名	機関名	開始	終了	
1	スーダン	農業研究機構	12	未定	委任経理金
2	トルコ	ムスタファケマル大学	13	未定	総合地球環境学研究所
	トルコ	チクロバ大学			
3	中国	水土保持研究所	13	22	日本学術振興会
	中国	新疆農業大学			
4	中国	水土保持研究所	15	18	研究拠点形成補助金
	シリア	国際乾燥地農業研究センター			
5	中国	水土保持研究所	16	18	科学研究補助金

表-29 平成 17 年度の国際共同研究

課題 番号	共同研究機関		研究期間（年度）		経費
	国名	機関名	開始	終了	
1	中国	水土保持研究所	13	22	日本学術振興会
	中国	新疆農業大学			
	中国	北京師範大学			
2	中国	水土保持研究所	15	18	研究拠点形成補助金
	シリア	国際乾燥地農業研究センター			
3	トルコ	ムスタファケマル大学	13	未定	総合地球環境学研究所
	トルコ	チクロバ大学			
4	サウジアラビア	King Eahd 大学 King Abdulaziz 大学 科学技術庁	14	18	産学連携等研究費
	タイ	Kasetsart 大学			
5	オーストラリア	熱帯農学研究センター	15	17	共同研究経費
		カーチン工科大学			
6	中国	水土保持研究所	16	18	科学研究補助金
7	モンゴル	気象・水分研究所	15	18	科学研究補助金
8	モンゴル	科学院	14	17	科学研究補助金

表-30 学術誌に掲載された論文数

年度	学術誌に掲載された論文数	国際学術誌に掲載された論文数
14	38	13
15	40	18
16	35	18
17	39	22

表-31 教員等の外国への派遣数と外国人研究員の招聘数

年度	教員等の外国への派遣数	外国人研究員の招聘数	共同研究員の受入数
14	50	22	75
15	46	45	105
16	39	67	78
17	49	29	82

I 外部評価委員 Prof. Saeed M. Farah
Agricultural Research Corporation, Sudan
Land and Water Research Center, Irrigation Water Management Section
「スーダン農業研究法人ゼジーラ研究所農業研究部門長」

1. 序論

乾燥地研究センターの年報を基に以下のような評価をした。

1970 年以前の研究対象は日本の土壌における砂の移動に関する問題に焦点が置かれていた。その結果は、砂丘地の改良において重要な成果を挙げることが出来たとも述べられている。しかしながら、1970 年以降、研究活動は海外の乾燥地域における農業開発問題を取り巻くものへと広げられた。1990 年の設立以降、乾燥地研究センターは基本的に 6 分野（自然環境、水資源、生理生態、植物生産、緑化・草地、土地保全）から成る 4 部門のもとでの研究活動に中心を置いてきた。これらの研究は国内の大学や海外の研究所との間で行う様々な共同研究プログラム及び共同プロジェクトを通じての実験や技術がかみ合った包括的なセットでの開発により取り組まれてきた。

このレポート中に各部門の活動についての手短なコメントをいくつかの提案とともに述べておく。

「乾地環境部門」

この部門は気候条件に関連した自然環境一般と特に土壌及び水利の研究を目指している。検討の対象としているプロジェクトが乾燥地問題にとって重要なものであることは確かである。しかしながら天水農業においては、特に重粘土壌においては、雨水が早く流れ去ってしまい十分な水量が得られないということが制限要因となっている。

土壌中への水分浸透を増加することに関するいくつかの研究プログラムを含め、水分保持技術の向上による浸透率強化が必要であると思われる。

「生物生産部門」

この部門における研究は水分不足又は塩類が引き起こす水分ストレスの影響に焦点を置いている。双方は共に植物根系により摂取される栄養分に対して不利な影響を及ぼす。水分ストレス条件下において葉面散布のような施肥を行うとかなりの収量増和がもたらされることが多い。

しかしながら、塩類ストレス下での葉面施肥技術の利用に関しての研究はほとんど行われなかった。この方針に沿ったいくつかの研究が行われることを提言したい。とくに、いろいろな灌水法と関連させて果物や野菜のような高価値作物のために行われることを提案する。

塩水 (brackish water) を作物生産へ利用することは特に考慮されるべきである。これは水資源の乏しい地域において必要度が高いと思われるからである。

「緑化保全部門」

砂丘研究試験地の創設以来継続しているセンターでの緑化に関連した研究活動は満足のいくものであり、ほぼ最終目標を達成したとも言える。砂の移動 (sand creep) に悩まされている乾燥地域においてこれらの技術の有効性や適用性をテストし、技術移転を行うことが残された課題である。

土地保全に関する一つの局面について言うならば、土地保全のために有機物マルチを行うことは他でも非常に多く研究されてきた。それは有機物マルチが局地的に採用でき、費用がかからないからである。

温帯においては、化学的安定剤が斜面や海浜砂丘を固定するために使用されてきた。しかしながら、乾燥地帯においては利用されなかった。そこでその可能性を見極めるためにそれらをテストすべきであろう。

2. 提言

研究活動の成果が各年度末に発行されるセンターの年報に整然とまとめられているのは良いことである。成果を国際的に発表する事を通じて、それらの普及の展望を広げていくことにより、それらを本当に必要としている地域の人々が知ることができ、そして利用できるようにする必要がある。

第2点は、それぞれの分野の研究がそれぞれの特定の分野に狭く限定されているということである。これら分野間ではもっと協力しあった研究のアプローチをして欲しい。

乾燥地条件下での特定の問題を解決するためには、通常一つの方法だけでは不十分な場合がある。農工学的技術に加えて、経済的、社会的、風土（気候）的なことも考慮にいれて、それぞれの方法を適切に組み合わせることが必要である。そうすることにより、それらを組み合わせた一つのパッケージにして利用する事ができるのである。

センターに計画中のアリッドランドドームは乾燥・半乾燥環境に対応した様々な条件下において異なる分野の研究者が協力して研究ができるようにすると思う。ドーム内での研究では、乾燥地の環境に適応した植物を育てることもあるだろう。その歴史の中で人類は約3000種の植物を有しているが、今日ではたったの30種類ほどしか食用としていないのである。乾燥及び湿潤・熱帯地域の自生種の消滅により知識が失われる前に、野生植物界の体系的な調査のための経済植物学及び生物工学に関する研究を充実させる必要がある。この種の研究はすでに行われているが、まだ十分とはいえないのである。

3番目は、センターが乾燥地域の他の研究所、とりわけアフリカ地域との接触を強めることである。これが作物生産を増加させ、アフリカでの土地劣化、塩類化、砂漠化による被害を緩和する上で非常に重要な役割を果たすであろう。

日本には砂漠化又は乾燥の問題はないが、土地劣化、砂漠化、塩類化と戦っている国内外の専門家を通じて、日本が被害地に技術を伝えるために非常な努力を行っているという事実は、とくに高い評価に値する。乾燥地研究センターが事務及び研究職員を通して行っている努力は注目に値する。乾燥地研究センターは世界で土地劣化や砂漠化の影響を軽減するために必要な情報の中心機関となることは間違いないであろう。

最後に指摘しておきたいことは、乾燥地研究センターはその使命を達成するための正しい進路をたどっていると評価できることである。しかし乾燥地問題を研究している多くの他の研究施設と同様に、このセンターでたくさんの改良された生産技術が生まれたが、それらの成果が実際に受益者（農家）に取り入れられているものはほとんどないということを指摘しておかなければならない。私の意見では、重要なことは適切なチャンネルを通してこれらの技術を伝えることを十分に考慮すべきである。そのような伝達があってはじめて農家の圃場で実際にその技術が利用されるのである。

また、乾燥地関連の問題のプロジェクトを修士、博士課程で研究しているセンターの学生達に、これらのプロジェクトを乾燥環境のもとで研究を行っている機関の研究者達と共同で研究することのできる機会を与えることを提案する。

さらに、発展途上国の研究者がこの研究センターで研修する機会を広げれば、有効な施設を使い彼らの研究プロジェクトを行うことができるであろう。

II 外部評価委員 Dr. Rami Keren

Agricultural Research Organization, Israel

The Volcanic Center, Institute of Soil and Water

「イスラエル農業研究機構土壌及び水研究所所長」

序 論

鳥取大学乾燥地研究センターの役割は、乾燥・半乾燥地域における持続的農業生産に関する研究を行うこと、及びそれらの地域で増加しつつある人々の生活上の必要を充足させるため、砂漠化と取り組むことである。

センターは以下の4つの部門に分けられる。

- (1) 乾地環境部門（自然環境分野・水資源分野）
- (2) 生物生産部門（生理生態分野・植物生産分野）
- (3) 緑化保全部門（緑化・草地分野・土地保全分野）
- (4) 乾地科学部門

下記のような研究テーマがある。

- (1) 乾燥地における水資源及び太陽・風力エネルギーの利用
- (2) 灌漑及び排水
- (3) 植物に関する耐乾性, 耐塩性及びその他のストレス耐性とストレス軽減のための技術
- (4) 新耐性植物の育種
- (5) 微気象学的環境制御
- (6) 造林及び草地管理
- (7) 水及び風による浸食
- (8) 土壌の塩類化及び土壌改良

現在のセンターの運営は他の国の農業関係国立機関と同様の方法をとっている。これは今後も続けるべきである。全体として、私は面談した研究員の動機づけや対象への深い関わり方が印象に残っている。

所 見

1. 研究活動

論文・著書リストを見たところ、学術論文のほとんどが日本語の雑誌等で発表されており、国際的な学術雑誌への投稿はごくわずかであった。それによると、センターの研究者の年間の平均論文数は、2.1 報であった。鳥取大学農学部で講義を受け持っている研究者としては妥当な数である。しかしながら、いくつかの分野の論文発表率が他より高かったということは特筆すべきことである。

鳥取大学大学院の一部としてのセンターは、修士・博士課程の履修学生を指導するという役割を担っている。センターの各部門において、農学修士・農学博士課程の学生への指導が行われている。1995-1996 年度の例で言えば、センターの全部門にわたり博士課程 4 人と修士課程 12 人の院生が教官の指導を受けた。

農学部に所属するセンターの教官は学術会議や学会へ非常に活発に参加している。1995-1996 年度の間、主に日本で行われた会議・学会において、37 件の論文が発表されている。その中のいくつかについては国際会議・学会において発表されている。このセンターの規模にくらべると年間発表論文数は注目すべきであろう。

国内の他大学との共同研究プロジェクトの数についてもまた注目すべきである。学部の教官ごとのこのプロジェクトの平均担当数は 2.6 件である。少なくとも 18 の国内の他大学が共同研究に参加している。乾燥地研究センターの研究者と共同研究を行う大学の数が非常に多いことから考えて、砂漠化及び乾燥・半乾燥地域における持続的農業の研究に取り組んでいる日本人研究者の中でセンターの教官が重要な役割を果たしていることを証明している。

センターの教官は海外における活動をかなり積極的に行っている。乾燥地問題に取り組んでいる研究所及び個人との共同研究プロジェクトは 11 ケ国に及んでいる。(例：ブラジル、中国、エジプト、イラン、カザフスタン、ケニヤ、メキシコ、パキスタン、米国)

注目すべきことは、ほとんどの研究助成金が日本国内からのものであること（文部省、JICA など）であり、またさほど競争的ではなく安定しているようである。

2. 設備

センターにはすばらしい施設や装置が備えられている。各種計量型ライシメーター、制御付き温室、2 次元土槽付き風洞、気象観測装置、グロースチャンバー、乾燥地気候を再現するコンピュータシステム、エネルギー分散型 X 線スペクトロメータ付き走査電子顕微鏡、核磁気共鳴スペクトロメータ。これらに加え、土壌、水分及び植物研究のための一般的研究施設が整っている。

乾燥・半乾燥地の気候条件のシミュレーションができる新しい施設 (Arid Land Dome) が現在建設中である。アリッド・ランド・ドームは 2 つの区画に分割されている。そのうちの 1 つで乾燥地域における一般的な天候条件のシミュレーションをし、もう 1 つでは、乾燥・半乾燥地域に自生する植物を育ててゆきながら、同時に土壌中の塩分動態、降雨装置を使って土壌浸食状況の観察が行われる。この施設には、新しい耐乾性植物や耐塩性植物の開発のた

めの遺伝工学研究室も附属している。

提 言

1. すでに述べたように、乾燥地研究センターは全国の研究者が利用することのできる独立した研究センターである。センターに装備された施設や鳥取大学農学部教官や乾燥・半乾燥地を持つ多くの国々からの協力者との協力体制により、センターを乾燥・半乾燥地における世界のリーダーへ発展させることを提案する。この目標を達成するためにも、国際的な学術雑誌への論文発表や、またメジャーな国際的に競争力のある研究助成金（例えば；国際会議の促進や参加）へ応募してみることを積極的にやってみてはどうだろうか。また、国際会議やワークショップを主催したり、乾燥地問題に取り組んでいる他の研究所や大学との共同研究プロジェクトを考えてみることも提案できる。

2. 乾燥地域における社会文化的要因の研究のための新分野も必要である。その新分野の研究テーマは①悪条件の土地利用の方法（正しい耕起方法と新耕作法の利用に関する公的教育、人口密集地区から人口過疎地域への農民の移住）、②過放牧、③作物残渣の燃料への利用、④灌漑用水の分配等である。

3. 砂漠化の抑制及び灌漑の分野で活動している日本国内外の他の研究所の専門家達との相互交流と協力を広げてゆくことが極めて重要である。

4. 乾燥地問題（例えば；天水農業、持続的農業、土地保全、塩類化条件下での灌漑効率と灌漑管理）に関する短期研修コースを開講することを提案する。

5. 作物気候学との関連における不足分補充灌漑（deficit irrigation）についての研究をする必要があると考えられる。

6. 塩水を利用した灌漑に関する研究を続けることは必要であるが、灌漑用に排水をリサイクルした水を利用することも含めて、長期的持続性に関する問題も注目してゆくべきである。

7. 土壌物理学者は点滴灌漑や地中点滴灌漑との関わり合いも含め、水の流れと溶質の輸送に関する研究活動を継続し、拡大してゆくべきである。

8. センターの土壌物理化学者のグループを強化することが重要である。この分野の研究者は水質の影響を受ける場合の土壌流体特性の変化などに加えて天水農業（流亡水に関連した地表の現象や土壌浸食）の問題について力を入れ取り組まなくてはならない。

9. 作物に関する特定の栄養学的要求に関する研究は続けるべきであるが、塩類条件下での根系に注目した研究は頑張って取り組んでいただきたい。このテーマの研究にはリゾトロン又は適当なライシメーターを備える必要があると思われる。

Ⅲ 外部評価委員 Prof. Liu Changming (劉 昌明)

The Chinese Academy of Science, China

Shijiazhuang Institute of Agricultural Modernization

「中国科学院石家莊農業現代化研究所所長」

1. 外部評価

1.1 乾燥地研究センターの基本構成は6分野の一環境、水資源、生物生産、緑化保全、すべての乾燥地でおこる事柄に関連した乾地科学部門も含む—4部門からなる。乾燥地研究センターは総合的、包括的な研究を進めているところに特色が認められる。乾燥地研究センターの研究目標は非常に明確にたてられていると評価できる。

1.2 乾燥地研究センターは、教授、助教授、講師、ポストドクター、博士課程の学生など異な

ったレベルの、気象学、水文学、土壌学、水資源、農業工学、生物学、林学、遺伝学、農業化学、リモートセンシング、情報システム、その他等のような乾燥地研究に密接な関係を持つ異なった専門分野をもつ研究者達によって構成されている。

さらに、先進国および発展途上国の双方から共同研究のために外国人客員研究員が多く招待されている。これにより、研究レベルがあがり、世界でも国際的に知られた研究施設へとなる重大なチャンスをセンターに与えている。

1.3 乾燥地研究センターでは国内はもとより海外一とりわけ広大な乾燥・半乾燥地帯を持つ発展途上国などからも多くの学生がやってきて研修を受けている。

これにより、疲らの国の乾燥・半乾燥地の研究及びその利用を向上してゆくべく発展途上国の手助けをしている。

1.4 乾燥地研究センターはセンターにおける研究活動がスムーズにできるようすばらしい実験装置を持つ先端施設を備えている。さらに、1998 年完成予定で現在建設が進められているアリッド・ランド・ドームは、先駆的プロジェクトであり、これにより乾燥地研究センターは間違いなく世界の乾燥地・半乾燥地研究にとって最も魅力的な施設の一つになるであろう。

1.5 乾燥地研究センターの設立以来、多くの関連論文が発表されてきた。乾燥地研究センターの年報によれば 1996 年だけで、70 以上の論文、著書が発表された。これら発表論文のほとんどが、国際的に権威のあるものである。

2. 提言

乾燥地、半乾燥地の生態型は世界的に広く分布する生態型の一つである。従って、鳥取大学乾燥地研究センターは科学的研究の場として必要性の高いものであり、地球環境の持続的発展と改善のために大きく貢献しなければならない。

2.1 地球環境問題が深刻化しており、土地劣化及び砂漠化が特に重要な 2 つの問題である。砂漠化防止や乾燥地管理の研究が必要である。

2.2 キープロジェクトとしての砂漠化に関する研究プロジェクトと平行して、砂漠形成の制御に関する基礎的研究、土地利用を考えた砂漠の分類や砂漠化防止対策のために重要となるマクロレベルとミクロレベルの研究を同時に統合するメカニズムに関する基礎的研究が必要である。

2.3 研究対象地から判断すると、乾燥地から半乾燥地へ、あるいは半乾燥地から半湿潤地へ推移する砂漠の周辺の遷移地域に注目しているようである。多分、これらの遷移地域が人間の活動や地球温暖化のような気候の変動の影響をととても受けやすいからという理由からであろう。

2.4 日本には乾燥地は存在しないので、乾燥地に関する知識や研究経験の交流のため、先進国および発展途上国双方からの研究者や学生をもっとひきつけてセンターのスタッフとの共同活動を進めてゆく必要がある。

外国人学生が増えれば国際的な研究プログラムをもっと増やすことができ、アリッド・ランド・ドームで乾燥地の条件を再現するためのきちんとした情報が得られるであろう。

2.5 国際学術交流の促進と、乾燥地研究センターの国際的地位を向上するために、4 番目の乾地科学部門の名称を乾地研究国際協力部門と変更してみるのも良いかもしれない。

研究活動実績票

別紙様式①－甲

【学部・研究科等の研究活動の実施状況】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	乾燥地研究センター

<学部・研究科等の概要>

本研究センターは、鳥取大学における乾燥地研究の中核を担っており、また、乾燥地研究は鳥取大学の大きな特色となっている。研究組織は、乾地環境部門（自然環境分野、水資源分野）、生物生産部門（生理生態分野、植物生産分野）、緑化保全部門（緑化・装置分野、土地保全分野）、総合的砂漠化対処部門、乾地科学部門（国内客員教員、外国人客員教員）の5部門6分野及びポスドク（21世紀COEプログラム研究員、研究機関研究員、日本学術振興会特別研究員）、事務局、技術部で構成されている。

本研究センターには、大型の研究施設としてアリド・ドーム実験棟、アリド・ドロン・グロースチャンバー実験棟を有し、中でもドーム状のガラス温室「アリド・ドーム」は、現地情報に基づいた乾燥地のシミュレーション実験を行う大型の人工環境制御施設を中心に構成されている。また、研究設備（大型設備機器）として全天候型乾燥地土壌浸食動態三次元解析システム、砂漠化機構解析風洞システム、リアルタイム乾燥地現地調査支援システム、乾燥地気候情報解析装置、土壌水分環境実験装置などが導入され、特に利用度が高く、研究業績を多く生み出している設備としてグロースチャンバー、塩分動態モニタリングシステム、乾燥地地球温暖化反応解析システムが挙げられる。

《教員、研究員等数》H18.5.1現在

教授	助教授	講師	助手
5	6	1	0

客員教授		客員助教授	
国内	3	国内	1
外国人	3		

受託研究員	共同研究員	博士研究員		博士（博士後期）課程学生
		JSPS	その他	
1	54	2	14	14

<学部・研究科等の研究活動の実施状況>

1. 本研究センターは、1990年に全身である農学部附属砂丘利用研究施設から乾燥地研究センターに改組され、同時に全国共同利用施設として認められた。本研究センターでは、農学分野を中心とした乾燥地技術を開発し、イラン、中国などの海外研究を展開してきた。
2. 1985年には文部省の中核的研究機関支援プロジェクトの対象機関に選定され、2001年には日本学術振興会拠点大学方式による国際学術交流事業が中国科学院水土保持研究所との間で開始された。
3. 2002年には文部科学省の21世紀COEプログラムに「乾燥地科学プログラム」が採択され、従来の農業を中心とした砂丘利用のための技術開発から、医学、工学、社会経済学も含めた、より総合的な乾燥地科学の構築に向けた研究を進めて

きた。医学部からは公衆生成学の専門家、工学からはエネルギー工学の専門家を招き入れるなどして、学際的な共同研究が開始された。総合的な研究体制は世界的にも先駆的なものであり、本研究センターの特筆すべき特徴となっている。

4. 乾燥地で作物に害を及ぼす寄生植物「ストライガ」の発芽メカニズムの解明、導根管を用いた根の成長促進技術の開発などの研究成果が得られた。
5. 中国科学院水土保持研究所等に海外研究教育基地を設置し、海外の研究機関との連携を深めてきた。
6. 本研究センターは、乾燥地研究分野における国内で唯一の全国共同利用機関として、乾燥地研究者が相互に交流する機会を設け、乾燥地研究の活性化に貢献してきた。共同研究件数の実績（2002年度～2005年度）は、50件～55件。
7. 本研究センターの研究成果を活かし、日本人及び留学生の大学院教育及び若手研究者の育成を行っている。本研究センターで学んだ留学生は、帰国後の活躍により母国に貢献すると同時に、本研究センターにとっても彼らが形成する人的ネットワークは大きな資産となっている。

研究活動実績票

別紙様式①ー乙

【研究成果一覧】

大学名	鳥取大学	学部・研究科名	乾燥地研究センター

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	安田 裕	助教授	土木工学	1	[論文] Analyses of Rainfall Time Series in the Loess Plateau of China : Hiroshi Yasuda, Kang Wang, Mohamed Abd Elbasit Mohamed Ahmed, Hisao Anyoji and Xingchang Zhang, 農業気象学会誌, 60, 0, 617-620, 2005
				2	乾燥地月降雨量時系列と海水面温度、南方振動及び太陽黒点周期変動との関係について : 安田 裕・川戸渉・安部征雄・山田興一, 沙漠研究, 13, 0, 131-138, 2003
				3	西オーストラリア州スタートメドー地区における植生指数時系列と降雨量時系列との関係について : 安田 裕・川戸渉・安部征雄・山田興一, 沙漠研究, 12, 1, 27-30, 2002
2	安養寺 久男	教授	農学・農業工学	1	[論文] 畑地灌漑施設の設計 : 安養寺久男, 初版, 東京, 畑地農業振興会, 2003.9, 247 (他研究機関)
				2	Design of sprinkler lateral and submain lines in a rotation block : Anyoji, H., Rural and Environmental Engineering, 43, 40-51, 2002 (他研究機関)
				3	灌漑における水の利用効率向上の必要性 : 安養寺久男・安田裕, 日本砂丘学会誌, 52, 2, 51-68, 2005
3	篠田 雅人	教授	環境学	1	Influence of soil moisture anomaly on temperature in the Sahel: A comparison between wet and dry decades : Shinoda, M. and Y. Yamaguchi, Journal of Hydrometeorology, Vol. 4, No. 2, 437-447, 2003 (他研究機関)
				2	モンゴル国における気象災害の早期警戒システムの構築に向けて : 篠田雅人・森永由紀, 地理学評論, 第78巻, 第13号, 928-950, 2005 (他研究機関)
				3	砂漠と気候 : 篠田雅人, 成山堂書店, 東京, 169p, 2002 (他研究機関)
4	木村 玲二	助教授	地球惑星科学	1	[論文] Estimation of evapotranspiration, transpiration ratio and water use efficiency from a sparse canopy using a compartment model : Kato, T., R. Kimura and M. Kamichika, Agric. Water. Management, 65, 173-191, 2004
				2	Relationships among the leaf area index, moisture availability, and spectral reflectance in an upland rice field : Kimura, R., Okada, S., Miura, H. and Kamichika, M., Agricultural water management, 69, 0, 83-100, 2004
				3	Heat and water balances of the bare soil surface and the potential distribution of vegetation in the Loess Plateau, China : Kimura, R., Liu, Y., Takayama, N., Zhang, X., Kamichika, M. and Matsuoka, N., Journal of Arid Environments, 63, 0, 439-457, 2005
5	安 萍	助教授	農学	1	[論文] Ameliorating effect of calcium on primary root elongation of soybean under sodium stress : An, P., Inanaga, S., Shimizu, H., El-Siddig, K., Li, X.J., Zheng, Y.R., Hibino, T., Morita, S., and Sugimoto, Y., Biologia, 59, 13, 1 - 7, 2004
				2	Interactive effects of salinity and air humidity on two tomato cultivars differing in salt tolerance : An, P., Inanaga, S., Li, X.J., Eneji, A.E., Shimizu, H. and Zhu, N.W., Journal of Plant Nutrition, 28, 0, 459-473, 2005

				3	Salt tolerance in two soybean cultivars : An, P., Inanaga, S., Cohen, Y., Kafkafi, U. and Sugimoto, Y., Journal of Plant Nutrition 25, 3, 407-423, 2002 (他研究機関)
6	恒川 篤史	教授	環境学	1	緑地環境の評価とモニタリング : 恒川篤史, 東京, 朝倉書店, 248p, 2005
				2	Methodology for assessment of desertification based on vegetation degradation using net primary productivity (NPP) as a key indicator : Tsunekawa A, Ito TY, Shinoda M, Nemoto M, Suhama T, Ju H, Shimizu H, Phytion, 45, 4, 185-192, 2005
				3	Modeling the production and uses of biological resources from the viewpoint of energy flow in a rural village in Sichuan, China : Tsunekawa A, Zhu B, Abe K, Saito C, Takeuchi K, Environmental Management, 32, 1, 47-61, 2003 (他研究機関)
7	坪 充	助教授	農学	1	A simulation model of cereal-legume intercropping systems for semi-arid regions: I Model development, Tsubo M, Walker S and Ogindo HO, Field Crops Research, 93, 10-22, 2005
				2	Quantifying risk for water harvesting under semi-arid conditions: Part I. Rainfall intensity generation : Tsubo M, Walker S and Hensley M, Agricultural Water Management, 76, 77-93, 2005
				3	Estimating percolation and lateral water flow on sloping land in rainfed lowland rice ecosystem : Tsubo M, Fukai S, Basnayake J, Tuong TP, Bouman B and Harnpichitvitaya D, Plant Production Science, 8, 354-357, 2005
8	縄田 浩志	講	環境学	1	2つのエコトーンの交差地としてのスーダン東部、紅海沿岸域 : 縄田浩志, 地球環境 10, 17-28, 2003 (他研究機関)
				2	乾燥熱帯沿岸域と牧畜システム : 縄田浩志, アジア・アフリカ地域研究 4, 229-248, 2003 (他研究機関)
				3	塩生植物とマングローブに依存するラクダ牧畜 : 日本沙漠学会奨励賞, 日本沙漠学会, 2003 (他研究機関)
9	井上 光弘	助教授	農業工学	1	プロファイル水分計を用いた不飽和透水係数の原位置試験法 : 井上光弘・森井俊広・西村 拓・藤巻晴行, 農業土木学会論文集, 0, 231, 39-45, 2004
				2	Measurement of fertilizer leaching from root zone using an automated infiltration soil water sampler in an unsaturated sandy field : Higashi Naoko, Mori Yasushi and Inoue Mitsuhiro, Soil Science and Plant Nutrition, 51, 7, 1023-1033, 2005
				3	不飽和地盤の挙動と評価 : 井上光弘, 保水性および透水性, サクシオン・水分量の計測, 1章 計測, 2章 1. 7節 マルチステップ流出法, 地盤工学会, 編集委員会, 14-24, 191-195, 202-204, 2004, 社団法人, 地盤工学会, 東京都文京区
10	玉井 重信	教授	林学	1	塩水灌漑下におけるギンドロの成長及び土壌水分・塩分動態について : 劉洪慶, 玉井重信, 古川郁夫, 片桐成夫, 日本砂丘学会誌, 49, 3, 113-120, 2003
				2	施肥がヤナギ属4種の成長に及ぼす影響 : 山本牧子・玉井重信・徳地直子・山中典和, 日本緑化工学会誌, 29, 1, 95-100, 2003
				3	Future textiles 監修堀照夫 : 玉井重信, 植林用保水材, 日本, 繊維社, 440(169-172), 2006
11	山中 典和	助教授	林学	1	乾燥地の自然と緑化-砂漠化地域の生態系修復に向けて- : 吉川賢・山中典和・大手信人編著, 東京, 共立出版 pp. 233, 2004, ISBN4-320-05609-4
				2	施肥がヤナギ属4種の成長に及ぼす影響 : 山本牧子・玉井重信・徳地直子・山中典和, 日本緑化工学会誌, 29, 1, 95-100, 2003
				3	Seasonal Changes of Forest Ecosystems in an Artificial Forest of Robinia pseudoacacia in the Loess Plateau in China : Otsuki, K., Yamanaka, N., Du, S., Yamamoto, F., Xue, Z., Wang, S. and Hou, Q., Journal of Agricultural Meteorology, 60, 5, 613-616, 2005
12	山本 太平	教授	農業工学	1	Rehabilitation techniques for degraded, irrigated soil in arid lands : Tahei Yamamoto, Hossein DehghaniSanij and Menachem Agassi, International Society for Southeast Asian Agricultural Sciences, 10, 1, 41-50, 2004

				2	乾燥地農業における劣化土壌とリサイクル資材の活用：山本太平, 山田美奈, Guang Wen, 祐谷有恒, 農業土木学会誌, 70, 7, 597-600, 2002
				3	アフリカのサヘル地帯における気象特性と持続的な灌漑計画：山本太平, アムメンサ フレドリック, 藤巻晴之, 宇都宮 淳, 農業土木学会誌, 70, 11, 43-46, 2002

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名		鳥取大学		学部・研究科等名		乾燥地研究センター	
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果		
1	安養寺 久男	教授	農学・農業工学	1	これまでの研究が評価され、平成14年度、15年度、16年度、17年度に、日本技術者教育認定機構より、技術者教育プログラム認定・審査に係る審査員及び審査長に委嘱された。（一部、他研究機関）		
				2	これまでの研究が評価され、平成15年度と16年度に、日本学術振興会より、科学研究費委員会専門委員に委嘱された。（一部、他研究機関）		
				3	これまでの研究が評価され、農業土木学会より、平成16年度農業土木学会賞（学術賞）選考委員会専門委員に委嘱された。（他研究機関）		
2	篠田 雅人	教授	環境学	1	研究成果1をはじめとする乾燥地域の土壌水分メモリに関する一連の研究は気候学・気象学関係者のなかで評価され、世界気象機関（WMO）などの主催の国際学会（International Conference on High-Impact Weather and Climate: Understanding, Prediction and Socio-Economic Consequences）で2つの招待講演を行った。（他研究機関）		
				2	研究成果2で提案した気象災害の早期警戒システムの構築が、独立行政法人国際協力機構（Japan International Cooperation Agency: JICA）による「モンゴル国気象予測及びデータ解析のための人材育成プロジェクト」のなかの活動として取り上げられた。科学的な理論研究がモンゴル国の気象現業に生かされ、国際貢献が可能となった。（他研究機関）		
				3	研究成果3は2152部印刷され、沙漠学会・地理学会・気象学会などの学会関係者・学生や一般読者のあいだで広く読まれ、雑誌地理（古今書院）、日本農業新聞には書評が掲載された。残部も残り少なくなったため、近々重版が出版される予定である。（他研究機関）		
3	木村 玲二	助教授	地球惑星科学	1	研究成果1は、Web of Science において（2006年9月6日検索）、合計5回引用された。		
				2	研究成果2は、「21世紀COEプログラム」下の共同研究であり、中間評価ではAランクとの評価が与えられた。		
				3	研究成果3は、「21世紀COEプログラム」下の共同研究であり、中間評価ではAランクとの評価が与えられた。		
4	安 萍	助教授	農学	1	砂漠と砂漠化に関する国際年：安 萍，アイユ，176，1，0-0，2006		
				2	トクダネ：富士テレビ，稲永，2005年12月8日		
				3	作物の耐塩性とねの細胞壁との関係：若手研究B，新規，代表，2005		
5	坪 充	助教授	農学	1	平成15年8月、スーダン・ハツーム、UNESCO ウォーター・ハーベスティング会議に招待され、雨水強度モデルに関する研究（後に、研究成果2）を発表した。		
				2	平成16年9月、オーストラリア・ブリスベン、第5回アジア作物学会（第4回世界作物学会と合同で開催）に招待され、天水田における水収支に関する研究（後に、研究成果3）を発表した。		
6	縄田 浩志	講師	環境学	1	研究成果1、2は、塩生植物とマングローブに依存するラクダ牧畜に関する研究で日本沙漠学会より日本沙漠学会奨励賞を受賞した研究（研究成果3）を発展させる形で、まとめた研究成果である。		
7	井上 光弘	助教授	農業工学	1	研究成果1は、平成13年度から3年間実施していた科学研究費補助金基盤研究Bの新しい成果で、農業土木学会に投稿した。学会から注目され、「論文をかたる」への投稿依頼があった。		
				2	研究成果2は、平成16年から3年間実施している科学研究費補助金基盤研究Bの成果で、初めての博士課程主指導教員として指導した学生と国際誌へ投稿した論文で、本人も3年間で平成17年度に博士の学位を取得した。		

				3	研究成果3は、米国の共同研究者と土壌の水分移動パラメータを推定する新しい方法を開発し、その成果が国際誌に掲載され、2002年にMethod of Soil Analysisに公開されたことから、所属していない地盤工学会から「不飽和地盤の挙動と評価」の執筆依頼があつてまとめたもので、その内容について、2004年12月に地盤工学会の招待講演を行った。
8	玉井 重信	教授	林学	1	ブラジルにおいて半乾燥地緑化プロジェクトを長年に渡り実施しその方法を確立しブラジルにおいて評価を得た。
				2	塩生植物の生態学的特性を解明しその成果を踏まえ更に奨学金、科研費により発展させた。
				3	砂地における植物の環境と成長特性を明らかにしその成果は学生の博士論文などに投影された。
9	山中 典和	助教授	林学	1	研究成果1、2は中国乾燥地における植生回復に関する一連の研究成果の一つであり、これら一連の成果に対し、「中国乾燥地における植生回復に関する樹木生理生態学的研究」という題目のもと日本緑化工学会賞を受賞した（2006.9.15）
10	山本 太平	教授	農業工学	1	平成16年度学術賞：点滴灌漑の用水計画と乾燥地の沙漠化対処に関する一連の研究、農業土木学会、個人、2004
				2	農林省中四国農政局東伯農業水利事業所：継続、代表、2005
				3	高透水性土壌に対する人工ゼオライトの施用効果に関する研究：新規、2003

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	乾燥地研究センター

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	安養寺 久男	教授	農学・農業工学	1	平成8～11年の間海外勤務のため中断期間があるが、昭和63年度より現在まで、畑地農業振興会が主催する「畑地かんがい技術士養成講習会」の講師及び認定委員として、毎年、約100名の国内灌漑技術者の養成にあたってきた。（一部、他研究機関）
				2	勤務の関係で中断期間があるが、昭和54年度より現在まで、JICAが主催する研修講師として、外国人技術者への灌漑技術の普及に努めてきた。（一部、他研究機関）
				3	農林水産研究「つくばリサーチギャラリー」のホームページの中で、「農業技術バーチャルミュージアム」、「世界と日本の技術交流」に、これまでの活動が4ページにわたって紹介されており、一般に人々にたいしても灌漑技術の普及に努めている。
2	篠田 雅人	教授	環境学	1	「IPCC（気候変動に関する政府間パネル）WGI/II 2007」の作成に日本政府推薦 Expert Reviewer として参加。（他研究機関）
				2	独立行政法人国際協力機構（Japan International Cooperation Agency: JICA）による「モンゴル国気象予測及びデータ解析のための人材育成プロジェクト」へ専門家として参加。（他研究機関）
				3	（財）地球・人間環境フォーラム 北東アジアにおける砂漠化・干ばつ対策検討委員会委員として、砂漠化対処条約の枠組みのなかで、アジア地域の「干ばつの影響緩和と砂漠化の制御のための能力強化」を目的とするテーマ別プログラムに参加。（他研究機関）
3	安 萍	助教授	農学	1	砂漠化対処のための技術移転検討委員会：委員，2005
				2	大学の一般公開に砂漠化の紹介：2005
				3	拠点大学交流事業中国内陸部の砂漠化防止及び開発利用に関する研究：中国，H13～H22，中国，研究グループのサブリーダー，中国科学院水土保持研究所，2005
4	井上 光弘	助教授	農業工学	1	研究成果1は，土壌を現場から持ち込めない場合，現場の簡易な試験法として採用され，実際に中国黄土高原の試験地で測定された。
				2	研究成果2は，現在，さらに砂丘地圃場から水田土壌，森林土壌へと適用され，自動化採水装置の開発が行われていて，平成18年度中には商品化する予定である。
				3	研究成果3は，大学の工学部土木系で講義の参考書として広く使用されている。また，2006年3月に発行した「土壌物理学」は，大学院で講義テキストとして使用されている。
5	玉井 重信	教授	林学	1	JICAのブラジルにおけるプロジェクトを14年間にわたり指導し乾燥地緑化法を確立し現地政府に評価された。
				2	塩類集積地における土壌改良植物によるを国内、中国で行い奨学金、科研費を得、現在その成果は論文として公表されつつある。
				3	保水材による土壌環境改良を環境に優しい材料により行うことを試み共同研究により国内、海外半乾燥地でその成果を実施中である
6	山本 太平	教授	農業工学	1	日本学術振興会科学研究費委員会専門委員：2003
				2	砂漠化，荒廃した農地の痛みを知る，痛みを知る体の中から地球まで：平成16年度鳥取大学公開講座，度鳥取大学，一般，2004
				3	鳥取大学 JICA 集団研修：JICA，11名，土壌・圃場水管理担当講師，2005

地域共同研究センター

資 料 目 次

研究活動実績票 別紙様式①－甲	2 7 9

研究活動実績票

別紙様式①－甲

【学部・研究科などの研究活動の実施状況】

大学名	鳥取大学	学部・研究科名	地域共同研究センター

〈学部・研究科などの概要〉

地域共同研究センターは、地域の課題に知的財産を活用することや、産官学連携を推進し、研究者が蓄積している知的財産を活用することで、イノベーションを興す役割を担っている。また、異分野の研究者間の交流を図り、医工、医農、工農連携などの研究プロジェクトを立ち上げ、研究活動を活性化し、研究成果を生み出すコーディネートを行っている。

〈教員、研究員等数(専任に限る)〉

教授	助教授	講師	助手
0	2	0	0

〈学部・研究科などの研究活動の実施状況〉

- 研究者の交流・情報発信や研究会の立ち上げ等を目的とした、とっとりネットワークシステム（TNS）を運営し、新しい研究分野を創造して行く。
- 地域との連携を図り、地域振興へ大学が所有する知的財産を活用するために、コーディネーター会議を開催する。鳥取大学振興協力会と協力して、交流会を開催している。
- 東京リエゾンオフィス、大阪オフィス、鳥取駅南オフィス、日南町オフィスを活用して、大学の研究成果を内外に発信する体制、共同研究・競争的資金獲得の推進をはかるため、ビジネス交流会、研究会を開催している。
- 「サイエンスアカデミー」を開催し、大学の研究を地域社会に判りやすく、紹介している。

総合メディア基盤センター

資 料 目 次

研究活動実績票	別紙様式①－甲	2 8 1
研究活動実績票	別紙様式①－乙	2 8 2
研究活動実績票	別紙様式②	2 8 4
研究活動実績票	別紙様式③	2 8 5

研究活動実績票

別紙様式①－甲

【学部・研究科等の研究活動の実施状況】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	総合メディア基盤センター

<学部・研究科等の概要>

総合メディア基盤センターは、鳥取大学における情報基盤・共通教育の情報教育の中核を担っており、研究、教育、事務業務がスムーズに実施できるように管理及び保守を行っている。研究組織は、情報基盤研究開発部門、情報メディア教育研究開発部門、学術情報システム研究開発部門の三部門と技術職員で構成されている。

本センターは、学内の情報関係の共同施設として、情報ネットワーク、大型高速計算機システム、e-learningシステム、情報教育のコンピュータシステムの提供等を行い、学内の情報システム構築などの支援も行っている。

従って、本センターは、鳥取大学の情報関連全ての業務に対しての支援を行うとともに、情報セキュリティの保守といった、中核を担っている。

《教員，研究員等数》

教授	助教授	講師	助手
1	2	1	1

受託研究員	共同研究員	博士研究員		博士(博士期)課程学生
		J S P S	その他	
0	0	0	0	0

<学部・研究科等の研究活動の実施状況>

- 平成16年4月、鳥取大学における情報基盤の充実を図る目的で、総合情報処理センターを改組して総合メディア基盤センターが設置され、教員の増員、技術職員の増員が図られた。本センターは、従来の情報ネットワーク、大型高速計算機・各種サーバー、教育用コンピュータの提供に加え、共通教育の情報教育を担当することになった。
- 本センターは相談窓口の充実、各部局における情報システム構築の支援、大学の情報ネットワークの管理運営に力を入れてきた。平成17年2月と本学の情報セキュリティ規則の制定、それに伴う情報セキュリティ研修会の実施、情報セキュリティ実施手順書作成への支援など、大学の情報セキュリティを守るための活動を積極的に行っている。
- サーバー等の一元管理を本学の目標として、掲げている。平成17年度から本センターでホームページ、電子メールのホスティングサービスを始めている。

研究活動実績票

別紙様式①-乙

【研究成果一覧】

大学名		鳥取大学		学部・研究科名		総合メディア基盤センター	
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果		
1	井上 仁	助教授	情報学	1	[論文] 認知症予防教室における対象者の判別法と評価法の検討： 斉藤 潤、井上 仁、北浦 美貴 他, Dementia Japan, 19, 0, 177-186, 2005		
				2	Evaluation of a computerized test system to screen for mild cognitive impairment. : Masashi INOUE, Katuya URAKAMI, Miyako TANIGUCHI, et al., Psychogeriatrics, 5, 0, 36-41, 2005		
				3	A Web-based dynamic animation system for presenting infectious disease surveillance data : Masashi Inouea, Shinsaku Hasewgawab, Akihiko Suyama, Medinfo 2004, 0, 0, 1661-1661, 2004		
2	本村 真一	助手		1	[論文] Maglog: A Mobile Agent Framework For Distributed Models : Shinichi Motomura, Takao Kawamura and Kazunori, Proceedings of the IASTED International Conference Parallel and Distributed Computing and Systems, 0, 0, 414-420, 2005		
				2	分散型 e-Learning システムへの相互援助のためのユーザ間通信機能の実装について：本村 真一, 中谷 亮介, 川村 尚生, 菅原 一孔, 情報科学技術レターズ, 0, 0, 315-318, 2005		
				3	モバイルエージェントに基づく会議日程調整システム:本村 真一, 影本 憲五, 川村 尚生, 菅原 一孔, 情報処理学会論文誌, 46, 12, 3123-3126, 2005		
3	山岸 正明	教授	科学教育・教育工学	1	[論文] CCD カメラ付きノートパソコンと無線 LAN を活用した校舎外授業の提案： 鳥仁吉徳・山岸正明, 日本教育工学会研究報告集, 2005 JSET 05-6, 0, 21-24, 2005		
				2	受講生の自己評価による情報リテラシ授業の学習効果の検討： 山岸正明・石田雅・大野賢一, 日本教育工学会研究報告集, JSET 05-6, 0, 1-6, 2005		
				3	共通教育における情報教育の検討：山岸正明外 12 名, 鳥取大学総合メディア基盤センター広報, VOL1, 0, 29-0, 2005		
4	石田 雅	助教授	科学教育・教育工学	1	[論文] e-Learning システムを利用した情報リテラシ講義の実践：石田 雅, 大野賢一, 鈴木輝博, 木本雅也, 山岸正明, 平成 17 年度情報処理教育研究集会講演論文集, 0, 0, 228-231, 2005		
				2	全学規模の情報リテラシ講義に対する評価と検討：石田雅, 大野賢一, 鈴木輝博, 亀山知文, 山岸正明, 平成 16 年度情報処理教育研究集会講演論文集, 0, 0, 391-394, 2004		
				3	OTA と CC を用いた LTA フィルタの構成：河岡茂雄, 石田 雅, 副井 裕, 第 15 回回路とシステム(軽井沢)ワークショップ論文集, 0, 0, 65-69, 2002		
5	大野 賢一	講師	土木工学	1	[論文] 受講学生の自己評価による情報リテラシ授業の学習効果の検討： 山岸正明, 石田 雅, 大野賢一, 日本教育工学会研究報告集, JSET05-6, 0, 1-6, 2005		
				2	Minimum Number of Waves in Irregular Wave Trains for Laboratory Stability Tests of Armour Units : Y. Matsumi, K. Ohno and A. Kimura, the 29th International Conference on Coastal Engineering, 29, 4, 3579-3591, 2004		

				3	多方向不規則波浪場における護岸越波量の空間分布特性：大野賢一，松見吉晴，竹田壘，塚本倫也，木村晃，海岸工学論文集，51，0，631-635，2004

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	総合メディア基盤センター

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	井上 仁	助教授	情報学	1	[一般雑誌, 新聞等に掲載された論文・記事等] コンピュータ痴呆テストによる痴呆スクリーニング:井上 仁, 薬事日報, 0, 0, 0-0, 2002
				2	[競争的資金] ユニバーサル財団研究助成:新規, 代表, 2002
2	大野 賢一	講師	土木工学	1	[競争的資金] 鳥取県における土砂災害関連情報に関するデータベース:新規, 共同, 2005

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	総合メディア基盤センター

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	井上 仁	助教授	情報学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 米子市 : 2005
				2	伯耆町 : 2005
				3	琴浦町 : 2005
2	本村 真一	助手		1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] とっとりネットワークシステムホームページ管理委員会 : 委員, 2005
3	山岸 正明	教授	科 学 教 育・教育工 学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取市こども科学館協議会 : 座長, 2005
				2	中国電子政府推進協議会 : 委員, 2005
				3	学校評価の外部的検証検討委員会 : 座長, 2005
4	石田 雅	助教授	科 学 教 育・教育工 学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取県民チャンネルコンテンツ協議会 : 部会員, 2003
				2	[公開講座, 講演会等] コンピュータと情報ネットワーク : , 鳥取県, 総合メディア基盤
				3	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] 出張講義 : I T と情報ネットワーク : , 倉吉総合産業高校, 2004
5	大野 賢一	講師	土木工学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 学術地域 IX とっとり相互接続実験協議会 : 委員, 2005
				2	学術地域 IX とっとり相互接続実験協議会 : 委員, 2004
				3	第4回デジキッズふるさと鳥取ホームページコンテスト審議会 : 審査委員長, 2003

アドミッションセンター

資 料 目 次

研究活動実績票	別紙様式①－甲	2 8 7
研究活動実績票	別紙様式①－乙	2 8 8
研究活動実績票	別紙様式②	2 8 9
研究活動実績票	別紙様式③	2 9 0

研究活動実績票

別紙様式①－甲

【学部・研究科等の研究活動の実施状況】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	アドミッションセンター								
＜学部・研究科等の概要＞ 本票は、学内共同教育研究施設であるアドミッションセンターが作成したものである。この組織は入試に関する研究を行っており、その内部には、入試方法や入試制度分野の研究を行う教員がいる。特にＡＯ入試に関連した任期付き教員が配置されていることが特徴である。											
《教員，研究員等数》（平成１８年５月１日現在） <table border="1"> <tr> <td>教授</td> <td>助教授</td> <td>講師</td> <td>助手</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				教授	助教授	講師	助手	1	1		
教授	助教授	講師	助手								
1	1										

研究活動実績票

別紙様式①－乙

【研究成果一覧】

大学名	鳥取大学	学部・研究科名	アドミッションセンター

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	中村 肖三	教授	経営学	1	[論文] 鳥大方式 A0 入試『入学前教育』について－アウェアネスを持った学生づくりのために：中村肖三、福島真司，大学入試研究ジャーナル，0，15，111-117，2005

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	アドミッションセンター

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	中村 肖三	教授	経営学	1	[研究成果が学会誌に掲載された] 進化するAO入試―“青い鳥”を求めて：中村肖三，長崎大学アドミッションセンター年報 第2号，58-68，2006
				2	[研究成果でテレビ・ラジオに出演した] 日本海テレビ「ごじきん！」2005. 8. 5 放送 鳥取大学発ライフセービングクラブでの活動について

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	アドミッションセンター

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	中村 肖三	教授	経営学	1	[審議会, 公的社会活動の実績等]とっとりFM番組審議委員、鳥取大学発ライフセービングクラブ事務局長
				2	[公開講座, 講演会等] まなびピア 2006 「キャリアデザイン入門」公開講座
				3	[専門分野に関連した社会貢献活動] 鳥取県高等学校PTA指導者研究大会 2005. 11. 19 シンポジウム「わが子にどう職業観をしどうしていくか」パネリスト

大学教育総合センター

資 料 目 次

大一表－1	教員構成	2 9 1
大一表－2	研究業績	2 9 1
大一表－3	科学研究費補助金（含分担）	2 9 1
研究活動実績票	別紙様式①－甲	2 9 2
研究活動実績票	別紙様式①－乙	2 9 4
研究活動実績票	別紙様式②	2 9 7
研究活動実績票	別紙様式③	2 9 9

大-表-1 教員構成

	教育研究 開発部	共通教育企 画・実施研究 部	外国語教育 研究部	健康スポーツ 科学教育研究 部	計
教授	0	1	3	1	5
助教授	1	3	4	0	8
講師	0	1	1	1	3
計	1	5	8	2	16

大-表-2 研究業績

	平成 14 年 度	平成 15 年 度	平成 16 年 度	平成 17 年 度	計
学術論文等（査読付）	3	6	10	5	24
学術論文等（査読なし）	11	11	11	9	42
学術論文・合計	14	17	21	14	66
国際会議議事録（プロ シーディングス）	1	2	3	3	9
著書（単著，共著，編 集・監修）	4	2	0	3	9
体育系分野研究業績	0	0	3	4	7
口頭発表等	11	7	16	16	50

大-表-3 科学研究費補助金（含分担）

	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	計
新規申請	8	7	3	8	26
新規採択	3	3	0	6	12
継続	3	4	8	2	17
採択計	6	7	8	8	29
新規採択率	37.5%	42.9%	0.0%	75.0%	38.8%*

*4年間の平均

研究活動実績票

別紙様式①－甲

【学部・研究科等の研究活動の実施状況】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	大学教育総合センター

〈学部・研究科等の概要〉

本センターは、平成7年の教養部改組を受けて全学共通教育の企画・実施・運営機関として設置された大学教育センターが平成15年の省令化によって拡充整備され発足した組織で、教育研究開発部、共通教育企画・実施研究部、外国語教育研究部、健康スポーツ科学教育研究部の4部門から成り、16人の専任教員が所属している。教育研究開発部は教育課程・教育方法改善のための高等教育研究を行なっているが、その他の3研究部では、教養教育の理念を実現すべく、それを基礎づける研究活動として、全学共通教育の遂行に必要な人文・社会・自然科学の個別研究を行なっている。その専門領域は、人文科学、社会科学、外国語・外国文学、数学、体育学の5分野にわたっており、全体として、旧教養部時代の各分野にわたる研究体制には比すべくもないが、その流れを汲んで人員数に比しては幅広い領域において研究が展開されている。その専門領域の性格上、研究はそれぞれ共通教育棟にある各人の研究室においておこなわれており、教育研究開発部は研究の性格上、センター長室にも研究スペースを確保している。他に主な設備としては、各種資料室がある。

《教員，研究員等数》

教 授	助教授	講 師	助 手
5	8	3	0

〈学部・研究科等の研究活動の実施状況〉

1. 大学教育総合センター専任教員の教育研究活動においては、平成19年度から2名体制となる教育研究開発部は組織内での共同研究も行なわれる予定であるが、その他の3研究部では、その専門領域の性格上、また人員構成上、研究はそれぞれ各人の個別的な研究としておこなわれている。共同研究も組織内ではなく、各研究者と学外の研究者・研究機関との間でおこなわれている。
2. 本センター専任教員は、平成14年から17年度において研究論文66篇(内24篇が査読付)、著書9冊を発表しており、その他、プロシーディング9篇、体育系分野研究業績7件、口頭発表50件である。また他の大学・研究機関との共同研究も実施し、科研費への申請状況も、平成14年度から17年度において新規申請26件(継続を含めれば申請43件)、新規採択12件(継続を含めれば採択29件)である(大-表-2、大-表-3、「研究活動実績表別紙様式1－乙」)。

「研究活動実績表別紙様式 2」、参照)。

3. 本センター専任教員が平成 14 年から 17 年度において獲得した科研費は 29 件（4 年間の平均新規採択率は 38.8%）、その他の競争的研究資金は 3 件、研究成果の学術雑誌（査読付き）への論文掲載は 24 件、一般雑誌・新聞等への記事掲載は 6 件、受賞は 2 件である。（大-表-2、大-表-3、「研究活動実績表別紙様式 2」、参照）

4. 本センター専任教員は、その研究する各専門領域に応じて、種々様々な公開講座や講演会の講師、あるいは各種の審議会や委員会、国家試験、資格試験委員会などの審査員・委員等を務め、積極的に社会活動をおこない、研究の社会的還元に努めている。（「研究活動実績表別紙様式 3」参照）

研究活動実績票

別紙様式①－乙

【研究成果一覧】

大学名		鳥取大学		学部・研究科名		大学教育総合センター	
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果		
1	福安 勝則	教授	言語学	1	[論文] 英語の“計量表現”における修飾について：福安勝則，鳥取大学英語研究，5, 0, 13-25, 2005		
				2	動いているのか動いていないのか、それが問題だ。：福安勝則，鳥取大学英語研究，4, 0, 53-66, 2004		
				3	On the ‘Occurrence of Events’ —With a Special Reference to the Kara-Dialect in Japanese— Fukuyasu, Katsunori, Tsukuba English Studies, 21, 0, 1-18, 2002		
2	武田 元有	講師	史学	1	[論文] エリザヴェータ女帝時代のロシア海外貿易と経済・外交政策——英露バルト海貿易の発展と仏露黒海貿易の萌芽——：武田元有，鳥取大学・大学教育総合センター紀要，0, 2, 33-112, 2005		
				2	オスマン帝国の黒海穀物貿易独占とモルダヴィア・ワラキア（上）（下）：武田元有，鳥取大学教育地域科学部紀要，4, 2, 1-39, 5, 1, 25-73, 2003		
				3	イギリス自由貿易運動とトルコ保全政策—— 1838 年英土通商条約の経済的・戦略的背景——：武田元有，西洋史研究，0, 31, 105-132, 2002		
3	永松 利文	助教授	社会学	1	[単著] 「カナダ電気通信事業における競争的市場環境構築のためのコスト分析手法構築過程」『情報通信学会年報』125-143 ページ、平成11年。		
				2	「米国におけるメディア・オーナーシップの電波規制に与える影響」電気通信普及財団研究成果報告書、平成17年。		
				3	[共著] “e-Governance Initiatives in India- Citizens would rather be on line than inline” <i>Policy Science</i> , vol.12 No.1pp.1-12、平成16年。Tandon Himansh氏との共著。本人担当pp.1-9.		
4	SARGENT TREVOR	助教授	言語学	1	Foreign Language Learning and Cross-cultural Preparedness : Trevor Sargent, Tottori University Journal of the Faculty of Education and Regional Sciences, 3, 2, 101-112, 2002		
				2	Cross-cultural Adjustment of Westerners in Japan: Comparing Expatriates with “Overseas Experiencers” : Trevor Sargent, Human Communication Studies, 32, 109-127, 2004		
				3	Advocacy-oriented Global Education in TLT special issues, Trevor Sargent, The Language Teacher 28 (2), 9-12, 2004		
5	後藤 和雄	助教授	数学	1	[論文] Lower bounds for the discrepancy of some sequences : K. Goto and Y. Ohkubo, Math. Slovaca, 54, 0, 487-502, 2004		
				2	Discrepancy of Some Special Sequence : Goto and Ohkubo, Analytic Number Theory, Kluwer, 6, 0, 143-155, 2002		
				3	[共著]初歩からの微分積分，共立出版，p.288+ ix，2004 年 11 月		
6	小林 昌博	講師	言語学	1	[論文] 動的な日本語解析モデルと計算機上での実装：小林昌博，鳥取大学大学教育総合センター紀要，0, 1, 145-158, 2004		
				2	逐次的な解析による日本語の数量詞遊離構文の解釈：小林昌博. 吉本啓. 中村裕昭. 森芳樹.，言語処理学会第1回年次大会発表論文集，0, 0, 233-236, 2005		

				3	Association of Floating Quantifiers with NPs: A Linear Order Perspective. :Kobayashi, Masahiro and Kei Yoshimoto, Proceedings of The Ninth Annual Meeting of The Association for Natural Language Processing, 6, 0, 171-174, 2003
7	松本 雅弘	助教授	文学	1	[論文] 《といき》と《嗟嘆》のあいだ——上田敏訳マラルメ《Soupir》をめぐる : 松本雅弘, 鳥取大学教育地域科学部紀要(教育・人文科学), 5, 2, 253-268, 2004
				2	逸話と三面記事——マラルメの〈散文詩〉と〈批評詩〉をめぐる : 松本雅弘, 鳥取大学教育地域科学部紀要(教育・人文科学), 4, 1, 165-177, 2002
				3	[共著] 結社の世界史3 「アソシアシオンで読み解くフランス史」: 松本雅弘, 第III章 新たな政治文化と芸術の生成のなかで 4「マラルメとアソシアシオンをめぐる変奏 火曜会/国際詩人協会/文学基金」, 福井憲彦, 218-231, 2006, 山川出版社, 東京
8	筏津 成一	教授	言語学	1	[論文] Group Learning as an Effective Strategy in Large EFL Classes : 筏津成一, 鳥取大学英語研究, 0, 5 1, 1-12, 2005
				2	The Burns Text of Tam Lin Revisited:Seiichi Ikadatsu, English Philology and Stylistics, 0, 0, 124-132, 2004
				3	An Experimental Project on Student's Autonomous Learning : Yanhong DUAN* Seiichi IKADATSU**, 鳥取大学地域学部紀要『地域学論集』, 1, 3, 179-143, 2005
9	武田 修志	助教授	文学	1	[論文] 「教養教育」改善のために : 武田修志, 大学教育研究年報, 0, 8, 2-11, 2003
				2	近代日本の青春1 : 武田修志, 道標, 0, 5, 44-62, 2003
				3	[単著] 大学教育の現場から : 武田修志, 303, 2003, NK文庫, 熊本市龍田弓削1-4-12
10	柳谷 保	教授	文学	1	[論文] 外国語の学習における縦と横の関係 : 柳谷保, 鳥取大学 大学教育総合センター紀要 , 0, 1, 113-126, 2005
				2	憂い・孤独・故郷」考 : 柳谷保, 鳥取大学 大学教育総合センター紀要 , 0, 1, 159-167, 2004
				3	生の彼方にあるもの : 柳谷保, 鳥取大学教育地域科学部紀要(教育・人文科学), 5, 2, 187-207, 2004
11	石川 雅雄	助教授	数学	1	[論文]. Generalizations of Cuachy's determinant and Schur's Pfaffian : Masao Ishikawa, Hiroyuki Tagawa, Soichi Okada and Jiang Zeng, Advances in Applied Mathematics, 36, 3, 251-287, 2006
				2	Applications of Minor Summation Formula III, Plucker Relations, Lattice Paths and Pfaffian Identities : Masao Ishikawa and Masato Wakayama, Journal of Combinatorial Theory, Series A, 113, 1, 113-155, 2006
				3	M. Ishikawa, F. Jouhet and J. Zeng, "A generalization of Kawanaka's identity for Hall-Littlewood polynomials and applications", J. Algebraic Combin. 23, (2006) 395 - 412.
12	田畑 博敏	教授	哲学	1	論理とレトリック——なぜ「矛盾」と「反対」を区別する必要があるのか? : 田畑博敏, 鳥取大学大学教育総合センター紀要, 0, 2, 9-22, 2005
				2	フレーゲ論理主義の可能性 : 田畑 博敏, 哲学論文集, 40, 1, 55-72, 2004
				3	第二階論理の非標準モデル : 田畑博敏, 鳥取大学教育地域科学部紀要・地域研究, 5, 1, 147-164, 2003
13	上野 耕平	講師	健康・スポーツ科学	1	運動部活動への参加による目標設定スキルの獲得と時間的展望の関係 : 上野耕平, 体育学研究, 51, 1, 49-60, 2006
				2	ユース選手を対象としたライフスキルプログラム 体育の科学, 55, 2, 101-105, 2005
				3	[共著] 教養としてのスポーツ心理学 (分担執筆) 大修館書店, 2005

14	福元 和行	教授	健康・スポーツ科学	1	[論文] スポーツに見る英米の国民性：福元和行，大学教育研究年報，0，10，32-34，2005
				2	県民の運動・スポーツに関する調査報告書：鳥取県教育委員会，1-70，2005 健康・スポーツ科学
				3	平成14年度学生生活実態調査報告：鳥取大学，2002
15	和田 綾子	助教授	文学	1	[論文] 美しき土塊－仁風閣のフラクスマン・タイル再考（‘Beautious Clay: Revisiting Flaxman Tiles in Jinkukaku [Tottori, Japan]’），『地域学論集』（鳥取大学地域学部紀要），2，2，2005，309-26.
				2	[共著] （分担執筆：Chapters in Books） ‘Revisions of Blake’s America and Their Meaning’，Voyages of Conception: Essays in English Romanticism, Tokyo: Japan Association of English Romanticism, 2005, 86-103
				3	‘Blake’s Oriental Heterodoxy: Yanagi’s Perception of Blake’，The Reception of Blake in the Orient, ed. Steve Clark and Masashi Suzuki, London/New York: Continuum Press, 2006, 161-171.

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名	鳥取大学		学部・研究科等名	大学教育総合センター	
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	武田 元有	講師	史学	1	[競争的資金] 黒海貿易と東方問題：若手研究B，新規，代表，2005
				2	自由貿易体制期におけるイギリス資本主義とトルコ市場：若手研究B，継続，代表，2003－04
				3	自由貿易体制期におけるイギリス資本主義とトルコ市場：若手研究B，新規，代表，2002
2	永松 利文	助教授	社会学	1	[受賞（研究）] 情報通信学会設立 15 周年記念論文賞（佳作）
				2	[競争的資金] 独立行政法人国際交流基金 2005 年フェローシップ
				3	電気通信普及財団研究助成平成 16 年度
3	後藤 和雄	助教授	数学	1	[受賞（研究）] 平成 1 5 年科学研究業績表彰：The Discrepancy of the sequence $\sum_{n=1}^N (\log n)^{\alpha} + (\log n)^{\beta}$ ，鳥取大学，個人，2003
				2	[競争的資金] 自治体政策評価シミュレーションモデルに関する研究：基盤研究（C）（一般），新規，共同，2005
				3	P F I の V F M 計算における公共事業の公共と民間とのコスト比較に関する研究：基盤C，継続，共同，2004
4	筏津 成一	教授	言語学	1	[一般雑誌，新聞等に掲載された論文・記事等] 韓国における日本学研究的現状（中）：筏津成一 他，日本海，0，0，0-0，2004
				2	韓国における日本学研究的現状（上）：筏津成一，日本海新聞，0，0，0-0，2004
				3	[競争的資金] 日本学術会議研究費補助金：日本・中国・韓国 3 カ国間の「交流の場」における英語使用に関する実証的研究：研究（1）基盤研究（（C）（11）），継続，代表，2005
5	武田 修志	助教授	文学	1	[一般雑誌，新聞等に掲載された論文・記事等] よく生きるための知恵を書物に求めて：武田修志，致知，0，341，40-43，2003
				2	知識人のあり方を問う：渡辺京二／武田修志，読売新聞（西部），0，0，0-0，2002
6	井上 順子	助教授	数学	1	[競争的資金] 誘導表現の構成に関わる可解リー群上の調和解析：基盤研究(C)，継続，代表，2003－2005
				2	可解リー群における誘導表現の構成と分解およびその応用：基盤研究(c)，継続，代表，2002
7	石川 雅雄	助教授	数学	1	[競争的資金] 平面分割の数え上げ問題と行列式・パフィアンの超幾何級数的評価に関する研究：基板研究（C），新規，代表，2005
8	田畑 博敏	教授	哲学	1	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] 科学哲学：田畑博敏，2002 年 35 巻 2 号
9	上野 耕平	講師	健康・スポーツ科学	1	[一般雑誌，新聞等に掲載された論文・記事等] 連載 現場で役立つメンタルトレーニングの技法 第3回：メンタルトレーニングを学校生活にも生かす：上野耕平，体育科教育，51，6，66-67，2003

				2	[競争的資金] 運動部活動への参加による時間的展望の獲得：若手B，新規，代表，2005
				3	運動部活動への参加によるライフスキル獲得プログラムの開発と実践：若手研究（B），継続，代表，2004
				10	和田 綾子
		助教授	文学	1	[一般雑誌，新聞等に掲載された論文・記事等] 「国際ブレイク学会ーブレイクと東洋」報告：和田綾子，イギリス・ロマン派学会会報，2004，28.
				2	[研究成果が学会誌，雑誌，新聞記事等として掲載された] 英語青年：2004 年 3 月（国際学会発表内容への言及）
				3	[競争的資金] 国際ブレイク学会組織委員会：新規，共同，2003

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名	鳥取大学		学部・研究科等名	大学教育総合センター	
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	武田 元有	講師	史学	1	[公開講座, 講演会等] 西洋経済史への招待：面接授業, 放送大学鳥取学習センター, 一般, 2005
				2	イギリス紅茶文化の光と影：公開授業「複眼で世界を見る」, 鳥取大学・大学教育総合センター, 一般, 2004
				3	ロビンソン・クルーソーが無人島から生還したのは何故か？ーイギリス資本主義と中産階級ー：放送大学鳥取学習センター公開講座・とっとり県民カレッジ連携講座, 放送大学鳥取学習センター, 放送大学学生及び一般鳥取県民, 2003
2	福安 勝則	教授	言語学	1	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] 作品『アメリカ手話-Handbook 365ー』(2006)
				2	作品『英単語のみちしるべー動詞編ー』(2005)
				3	[研修事業 (外国人向け研修)] 教職員語学研修コーディネータ
3	永松 利文	助教授	社会学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 平成 16 年~特色ある大学教育書面審査委員
				2	平成 12 年~財団法人ハイパーネットワーク社会研究所共同研究員
				3	平成 17 年独立行政法人国際交流基金フェロー
4	SARGENT TREVOR	助教授	言語学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] STEP Test Examiner (Certified up to pre-Step 1) : 2005~
				2	Prince Takamado Trophy; All Japan Inter-Middle School English Oratorical Contest, Tottori City, Judge: 2005, 2006
				3	[公開講座, 講演会等] “Cross-cultural Adjustment of Westerners in Japan: Comparing Expatriates with “Overseas Experiencers” : Communication Association of Japan Annual Convention, Sapporo, 2003
5	後藤 和雄	助教授	数学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] DNC : 専門委員, 2005
				2	玉野市行政改革推進委員会委員：副会長, 2003
				3	玉野市情報化推進懇談会委員：委員長, 2002
6	松本 雅弘	助教授	文学	1	[公開講座, 講演会等] 第 3 回「ものとひとの移動」「イギリス紅茶文化の光と影」(コーディネーター)：公開授業「複眼で世界を見る」, 大学教育総合センター, 一般市民、学生, 2004
7	筏津 成一	教授	言語学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] JACET (全国大学英語教育学会評議員) : 2005
				2	鳥取県国際交流財団「とっとり国際塾」コーディネーター: 2005
				3	日本英語検定協会主催「実用英語検定試験」実施委員: 2005

8	武田 修志	助教授	文学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 第29回鳥取県出版文化賞審査委員会: 審査委員長, 2005
				2	鳥取県出版文化賞審査委員会: 審査委員, 2004
				3	[公開講座, 講演会等] 極限状況における人間の生き方を考える: まつえ花の詩画展を開く会設立総会, 富弘美術館を囲む会, 一般市民, 2003
9	井上 順子	助教授	数学	1	[公開講座, 講演会等] 文様をめぐる数学:, 鳥取ロータリークラブ, ロータリークラブ会員, 2005
10	田畑 博敏	教授	哲学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 高等教育に関するニーズ研究会: 委員, 2005
				2	[公開講座, 講演会等] 名作映画を複眼で見る: 学びピア鳥取, 鳥取県, 一般市民, 2005
				3	米国・フロリダ・マイアミ: 公開授業「複眼で世界を見る」, 鳥取大学大学教育総合センター, 一般市民及び学生, 2004
11	上野 耕平	講師	健康・スポーツ科学	1	[公開講座, 講演会等] 運動部活動指導者講習会, 鳥取県教育センター, 2006
				2	運動部活動外部指導者研修会, 鳥取県教育委員会, 2006
				3	体育指導者講習会, 鳥取県体育協会, 公認スポーツ指導者, 2005
12	福元 和行	教授	健康・スポーツ科学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] とっとり広域スポーツセンター企画運営委員会: 委員長, 2005
				2	[公開講座, 講演会等] スポーツ経営学、スポーツ社会学: 公認B級スポーツ指導員養成講習会, 日本体育協会, 少年スポーツ指導者, 2003
				3	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] 鳥取県教育委員会の依頼による富山県の総合型地域スポーツクラブの実情視察: 2005
13	和田 綾子	助教授	文学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] イギリス・ロマン派学会第32回全国大会における特別講演の司会 2006
				2	日本英文学会 78 回全国大会における研究発表の司会 2006
				3	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] イギリス・ロマン派学会第32回全国大会開催 (於: 鳥取大学、2006年9月23日-24日)

国際交流センター

資 料 目 次

研究活動実績票	別紙様式①－甲	• 3 0 1
研究活動実績票	別紙様式①－乙	• 3 0 2
研究活動実績票	別紙様式②	• 3 0 3
研究活動実績票	別紙様式③	• 3 0 4

研究活動実績票

別紙様式①－甲

【学部・研究科等の研究活動の実施状況】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	国際交流センター

<学部・研究科等の概要>

本票は、学内共同教育研究施設である国際交流センターの作成である。国際交流センターには、日本語・日本事情教育分野（2名）、留学生指導分野（1名）、大学院入学前予備教育分野（3名）の教員が所属している。日本語・日本事情教育分野1名と大学院入学前予備教育分野1名の教員を除く4名の教員は、学内公募及び配置換えによるものである。特に、学部所属時に工学系及び農学系を専門としていた3名の教員は、国際交流センター所属となった後、専門分野に関する研究の継続が困難な状況にある。しかしながら、2名の日本語・日本事情教育分野の教員については、国際交流センター所属後も教材開発に関する研究を中心に活発な研究活動を続けており、科学研究費への採択実績もある。

《教員，研究員等数》（平成18年5月1日現在）

教授	助教授	講師	助手
1	1	4	

研究活動実績票

別紙様式①ー乙

【研究成果一覧】

大学名		鳥取大学		学部・研究科名		国際交流センター	
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果		
1	若 良二	教授	流体力学	1	[論文] 鳥取砂丘における自然エネルギー評価 ―風力および太陽エネルギー：若良二, 田川 公太郎, 趙 解春, 鳥取大学教育地域科学部紀要, 4, 2, 119-130, 2003		
2	竹田 洋志	講師	農業情報工学	1	[論文] Development of an Automatic Planting System for Baker's Garlic in a Sandy Field III. Influence of Seed Bulb Cluster Separator on the Growth of Baker's Garlic:Haitao CHEN, Masami IASAKI and Hiroshi TAKEDA 52(1) 9 2005		
				2	Development of an Automatic Planting System for Baker's Garlic in a Sandy Field II. Optimization of Parameters of the Seed Bulb Cluster Separator Using Response Surface Methodology :Haitao CHEN, Masami IWASAKI, Hiroshi TAKEDA, Motomu KARAHASHI and Makoto DOHI 51(1) 33 2004		
				3	ラッキョウ運搬作業省力化に関する研究 ―収穫作業におけるコンテナ運搬の省力化―：岩崎正美、竹田洋志、有本 健, 農業機械学会関西支部報, 94, 0, 79-80, 2003		
3	谷守 正寛	助教授	言語学	1	[論文] 中国語と日本語の主題表現比較―「是」と「は」―：谷守正寛・趙微微, 地域学論集 (鳥取大学地域学部紀要), 2, 3, 401-409, 2006		
				2	ハとガおよび日英存在文小考：谷守正寛, 鳥取大学教育地域科学部紀要教育・人文科学, 4, 3, 133-140, 2003		
				3	[共著] 促音・濁音化字典：谷守正寛・金孝珍・董建栄,, 谷守正寛, 1-226, 2004, 鳥取大学留学生センター、鳥取市		

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	国際交流センター

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	若 良二	教授	機械工学	1	[一般雑誌, 新聞等に掲載された論文・記事等] 鳥取大学の派遣留学推進への取組：大学と学生、日本学生支援機構編, 平成16年第9号, pp. 17
				2	鳥取大学の国際戦略とその取組：留学交流、日本学生支援機構、Vol. 18 No. 1, pp. 16. 2006
				3	[競争的資金] 介護(床擦れ防止)用マットの商品開発：継続, 代表, 2003
2	御館 久里恵	講師	言語学(日本語教育)	1	[競争的資金] 外国人研修生の日本語修得と、受け入れ企業や地域との関わり：若手研究B, 新規, 代表, 2005

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名		鳥取大学		学部・研究科等名		国際交流センター	
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果		
1	若 良二	教授	流体工学	1	〔 審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等 〕 鳥取県国際交流財団：理事, 2003		
				2	日本風力エネルギー協会関西支部：理事, 2003		
				3	日本・エクアドル友好協会：理事, 2003		
2	竹田 洋志	講師	農業情報工学	1	〔 研修事業（外国人向け研修） 〕 江原大学校日本語研修プログラム(2004 年冬)：鳥取大学国際交流センター, 20 名, 講義および施設見学, 2003		
				2	韓国・江原大学校、中国・貴州大学日本語研修プログラム(2005 年冬)：鳥取大学国際交流センター、15 名、講義、2004		
3	御館 久里恵	講師	言語学 (日本語教育)	1	〔 公開講座, 講演会等 〕 多文化共生ってなに？異文化コミュニケーションを学ぼう：子どもサポーター研修, (財)しまね国際センター, 外国人児童生徒への日本語指導に興味を持つ一般市民, 2005		
				2	みんながすみやすいまちをつくろう！ -多文化共生のまちへの第一歩-：日本語ボランティア講座 第1回, (財)鳥取県国際交流財団米子事務所, 日本語学習支援ボランティア, 2004		
				3	平成 15 年度日本語講座, (財)鳥取県国際交流財団, 地域外国人住民, 2003		
4	谷守 正寛	助教授	言語学	1	〔 審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等 〕 国際交流センター専門委員会：委員, 2005		
				2	社会貢献委員会：委員, 2005		
				3	国際交流センター専門委員会：委員, 2004		

生涯教育総合センター

資 料 目 次

研究活動実績票	別紙様式①－甲	3 0 5
研究活動実績票	別紙様式①－乙	3 0 6
研究活動実績票	別紙様式②	3 0 7
研究活動実績票	別紙様式③	3 0 8

研究活動実績票

別紙様式①－甲

【学部・研究科等の研究活動の実施状況】

大学名	鳥取大学	学部・研究科	生涯教育総合センター

<学部・研究科等の概要>

生涯教育総合センターは、生涯教育に関する研究を行っており、その内容は学校教育から教育臨床、成人教育まで多岐に渡る。

他大学には生涯学習系のセンター、教育学部附属の教育実践センターがあるが、本施設はその両者を包含する研究内容と地域における実践的な研究が特徴である。

《教員，研究員等数》

教授	助教授	講師	助手	客員教授
2	3	0	0	1

<学部・研究科等の研究活動の実施状況>

1. 当センターでは、2003年度までプロジェクト研究を行っており、地域の教育実践に関わる研究を推進している。

2. 2004年度からは専任教員による共同研究を開始し、地域の生涯教育を総体として把握する視点を形成しつつある。特に専任教員全員と地域学部地域教育学科教員との共同研究（地域の教育福祉諸機関の連携に関する総合的研究：基盤研究（B）一般，共同，2005-2007）は、新しい地域生涯教育のあり方を提起するものとなる。

3. また教育実践という点でも専任教員全員と地域学部教員が、教育・研究改善推進費（学長裁量経費）により、「学部改革による学生の意識変化と教育の課題」と題する調査を実施している（2004年度～継続中）。本調査では地域学部生（800名）の他、農学部・工学部や環境大学も対象として、学生の生き方と関連付けた調査に展開している。当該研究の成果は、学内FD研修として利用されている。

研究活動実績票

別紙様式①ー乙

【研究成果一覧】

大学名	鳥取大学	学部・研究科名	生涯教育総合センター

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	柿内 真紀	助教授	教育学	1	[論文] 山陰の山村地域における教育の状況と学校統廃合問題 (3) : 高口明久・山根俊喜・一盛真・柿内真紀, 鳥取大学教育地域科学部紀要, 5, 2, 17-63, 2004
				2	EU の教育政策 : 柿内真紀・園山大祐, 日本教育政策学会年報, 12, 93-101, 2005
				3	[共著] 教育改革の社会学 : ジェフ・ウィッティー, 2章, 堀尾輝久・久富善之監訳, 39-64, 2004, 東京大学出版会
2	小林 勝年	助教授	心理学	1	[論文] 幼児のアニミズムについて : 小林勝年, 鳥取大学生涯教育総合センター研究紀要, 2, 0, 11-23, 2006
				2	[個別支援システムと発達診断 : 小林勝年, 発達障害支援システム学研究, 3, 1, 23-30, 2003
				3	[共著] 寺川志奈子他 23 名 : 寺川志奈子 渡部昭男, 教育臨床心理学の立場から, 寺川志奈子 渡部昭男, 215-228, 2005, 明治図書, 東京都豊島区
3	大谷 直史	助教授	教育学	1	[論文] 「総合的な学習の時間」はどのように受けとめられているか : 大谷直史、小灘愛悠美、柿内真紀、広富博, 鳥取大学生涯教育総合センター研究紀要, 1, 0, 93-102, 2005
				2	大学生にとってのボランティア活動の意味 : 倉掛比呂美、大谷直史, 鳥取大学教育地域科学部紀要, 5, 2, 209-227, 2003
				3	「総合的な学習の時間」で地域の環境を取り上げる意味 : 大谷直史, 鳥取大学教育地域科学部 教育実践総合センター研究年報, 0, 12, 17-23, 2002
4	奥野 隆一	教授	教育学	1	[論文] 総合施設は保育の充実につながるのか : 奥野隆一、保育研究所編「保育情報」NO345、2-9 2005
				2	保育制度改革と総合施設の役割 : 奥野隆一、保育研究所編「保育情報」NO336、6-9、2004
				3	「地方自治体サービスのフルコスト分析をどうみるのか : 奥野隆一 保育研究所編「保育情報」NO313、2-7、2003
5	西田 英樹	教授	科学教育・ 教育工学	1	[論文] 鳥取市近郊における中高年者の I T スキル : 西田英樹・本城晃・大谷直史, 鳥取大学生涯教育総合センター研究紀要, Vol12, , 25-36, 2005
				2	小中学生のインターネット利用状況に関する調査 : 西田英樹、高田泰昭, 鳥取大学教育地域科学部紀要 (教育・人文科学), 5, 1, 45-51, 2003
				3	学校におけるホームページとプレゼンテーションの作成指導に役立てる 評価法 : 西田英樹・山岸正明, 日本教育工学会誌増刊号, 0, 26, 201-204, 2002

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名		鳥取大学	学部・研究科等名	生涯教育総合センター	
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	柿内 真紀	助教授	教育学	1	[競争的資金] E U加盟国における統合政策と教育改革の政治力学に関する比較研究:基盤研究 (B) 一般, 共同, 2005-2007
				2	地域の教育福祉諸機関の連携に関する総合的研究: 基盤研究 (B) 一般, 共同, 2005-2007
				3	ヨーロッパ統合化過程のスコットランドの公教育における教育空間次元の変化: 若手研究 (B), 代表, 2003-2005
2	小林 勝年	助教授	心理学位	1	[競争的資金] 軽度発達障害児の学校不適応軽減を目的とした5歳児健診の有用性に関する研究: 基盤研究B, 新規, 共同, 2004
				2	地域の教育福祉諸機関の連携に関する総合的研究: 基盤研究B, 新規, 共同, 2006
				3	日本における子供の認知・行動発達に影響を与える要因の解明: 独立行政法人科学技術振興機構社会技術研究システム ミッションプログラムⅢ 鳥取グループ, 共同, 2005
3	西田 英樹	教授	科学教育・教育工学	1	[研究成果が学会誌, 雑誌, 新聞記事等として掲載された] 学校におけるホームページとプレゼンテーションの作成指導に役立てる評価法: 西田英樹・山岸正明, 日本教育工学会誌増刊号, 0, 26, 201-204, 2002
				2	[競争的資金] 平成16年度科学研究費 基盤研究(B) (一般) 地域の教育・福祉ネットワークの形成に関する総合的研究
4	大谷 直史	助教授	教育学	1	[競争的資金] 地域の教育福祉諸機関の連携に関する総合的研究: 基盤研究 (B) 一般, 共同, 2005-2007

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名		鳥取大学		学部・研究科等名	生涯教育総合センター
NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	柿内 真紀	助教授	教育学	1	[国際事業協力] 鳥取大学・春川教育大学校(韓国)短期研修プログラム
2	小林 勝年	助教授	心理学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取県地域福祉支援計画策定委員会: 委員長, 2003~
				2	鳥取県社会福祉・保健サービス評価推進委員会: 委員, 2004~
				3	[公開講座, 講演会等] 「6 歳の春を泣かすな : 発達障害児への特別支援教育を考える」, 安田生命社会事業団 , 特別支援教育西日本セミナー, 対象=教師・スクールカウンセラー・福祉職員など 300 名, 2003
3	大谷 直史	助教授	教育学	1	[公開講座, 講演会等] 「地域に育つ子ども～子どもの現在」(2005 年 1 月 29 日, 大栄町) 「今なぜ自然体験活動が必要か」(鳥取県自然体験ファーム, 2003 年 3 月 15 日, 東伯町)
				2	「子どもにとって自然とは何か」(日本科学者会議鳥取支部, 2002 年 5 月 28 日)
4	奥野 隆一	教授	教育学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 滋賀県栗東市幼児教育検討会委員 平成 14 年~16 年
5	西田 英樹	教授	科学教育 ・教育工学	1	[公開講座, 講演会等] 学校におけるクライアント/サーバネットワークシステムの構築と管理: 鳥取大学公開講座, 鳥取大学, 2004
				2	学校におけるネットワークシステムの構築と管理: 平成 15 年度鳥取大学公開講座, 鳥取大学, 教育関係者, 2003
				3	ハードウェアの基礎: 平成 14 年度新教「情報」現職教員等講習会, 文部科学省, 高等学校教員, 2002

ベンチャー・ビジネス・
ラボラトリー

資 料 目 次

研究活動実績票	別紙様式①－甲	3 0 9
研究活動実績票	別紙様式①－乙	3 1 1
研究活動実績票	別紙様式②	3 1 2
研究活動実績票	別紙様式③	3 1 3

研究活動実績票

別紙様式①－甲

【学部・研究科などの研究活動の実施状況】

大学名	鳥取大学	学部・研究科名	ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー

〈学部・研究科などの概要〉

学内共同教育研究施設であるVBLは、本学の学部・研究科などで活発に進められている研究の中でも、新産業の創出につながる独創的、萌芽的な研究の一層の促進を図るとともに、その研究開発を担うベンチャー精神に富んだ若手人材の育成することを目的に設置された。その内部には、経営学の研究を行う専任教員が2名いる。

VBLは、本学の他の学部・研究科に所属されている教員・大学院生によって広く活用されている。施設には走査型プローブ顕微鏡をはじめ、高速度カメラシステム、MALDI TOF-MS飛行時間型質量分析装置などの研究設備を有している。これらの設備は、日本において少数の大学しか保持していない（VBLを利用されている教員・研究者の研究実績に関する詳細は、VBLのパンフレット及びVBL年報を参照のこと）。

VBL専任教員、ポスト・ドクター非常勤研究員、およびVBLを利用されておられる教員・研究者に対しては、十分な研究資源（ヒト・モノ・カネ・情報）の提供をしている。VBLによる支援だけに依存することなく、各々で工夫を凝らしながら、研究資源の獲得に努めている。ヒトに関しては、外部企業、公共研究機関との共同研究を行うことで補っている。またカネに関しては、先に触れた共同研究のほかに、外部資金を積極的に獲得していくことで賄っている。最後に情報に関しては、本学・外部資金獲得支援室や研究協力課から発信される情報を積極的に収集・活用し、研究成果を投稿論文や書籍、及び学会発表などを行うことで積極的に発信し続けている。

〈教員、研究員等数(専任に限る)〉

教授	助教授	講師	助手
0	1	1	0

受託研究員	共同研究員	博士研究員		博士(博士後期)課程学生
		JSPS	その他	
0	0	0	4 (ポスドク)	0

〈学部・研究科などの研究活動の実施状況〉

VBLでは、次に示す2つのプロジェクト研究が遂行されている。これらの研究は、ともに本学から世界へ新技術を発信している研究である。

- ・次世代マルチメディア基盤技術開発（フルカラーディスプレイ・半導体光センサー）
- ・未利用資源有効利用の基盤技術開発（キッチン・キトサン、バイオマス新技術）

上記の2大プロジェクト研究のほかに、物理系・情報系・化学系・生物系・医学系・複合型の6領域からなる次世代プロジェクト型研究開発、及び提案型研究開発が、毎年20件行われている。この20件の研究開発テーマには、1件あたり50万円の研究資金を、VBLから支援している。これらの研究開発テーマの申請件数は、年々増加傾向にある。現在、これらの研究開発のほかに、地域経済の活性化を図るために、本学の技術シーズや知見を活用し、地域発の新産業や新事業の創出に貢献しうる基盤技術を開発することを目的とした「次世代基盤技術開発事業」の応募・審査、及び支援を進めている。

以上に挙げた種々の研究開発活動は、本学の有する知的活力を最大限に活かすことで、ベンチャー・ビジネスの萌芽、更には新産業の創出につながる独創的な研究開発を指向しており、VBLの特徴を十分に発揮したものである。先にも触れたが、VBLは学内共同教育研究施設であり、本学の他の学部・研究科に所属されている教員・大学院生によって推進されている。

VBL専任教員、ポスト・ドクター非常勤研究員、およびVBLを利用されておられる教員・研究者は、鳥取県のほか、国内外の企業との共同研究をいくつも行っている。これらの共同研究の中には、新聞など報道機関に、その成果が取り上げられたものも存在する。

研究活動実績票

別紙様式①ー乙

【研究成果一覧】

大学名	鳥取大学	学部・研究科名	ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	雑賀 憲彦	助教授	経営学	1	[論文] 日本の大学の経営後進性に関する一考察 平成17年10月 日本経営診断学会論集⑤
				2	[単著] 経営戦略入門 単著 平成16年4月 西日本法規出版 1～222頁
				3	[共著] 学校法人経営改善の手法 共著 平成16年8月 (株)ぎょうせい
2	小沢 貴史	講師	経営学	1	[論文] 市場再活性化の視座に関する考察：小沢 貴史, 日本経営学会誌, 0, 14, 92-105, 2005
				2	市場再活性化論のメバエ：小沢 貴史, 日本経営学会誌, 0, 12, 62-76, 2004
				3	市場再活性化の手懸りを求めて：小沢 貴史, 経営行動科学, 0, 17, 173-184, 2004

研究活動実績票

別紙様式②

【研究成果の質】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	雑賀 憲彦	助教授	経営学	1	[一般雑誌, 新聞等に掲載された論文・記事等] 学校法人の経営課題と人事賃金制度改革
				2	[研究成果が学会誌, 雑誌, 新聞記事等として掲載された] 日本の大学の経営後進性に関する一考察
				3	[研究成果でテレビ・ラジオに出演した] MOTイノベーションスクールを開校したこと
2	小沢 貴史	講師	経営学	1	[一般雑誌, 新聞等に掲載された論文・記事等] 海外技術 事業化を提案: 大江 建, 日経産業新聞, 0, 12月17日, 27-27, 2004
				2	[競争的資金] 製品市場における再活性化メカニズムの解明に向けて: 若手研究 (B), 継続, 代表, 2005
				3	2004 年度 早稲田大学 特定課題研究助成: 新規, 代表, 2004

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	雑賀 憲彦	助教授	経営学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 鳥取県北栄町の砂丘地振興基本構想検討委員会の委員長
				2	[公開講座, 講演会等] 「学校法人の経営革新」 日本短期大学協会
				3	[ベンチャービジネスへの経営・参画] 岡山大学工学部教員に対しMO T運営方法を指導講演した
2	小沢 貴史	講師	経営学	1	[審議会, 委員会, 国家試験, 資格試験委員会, 公的社会活動の実績等] 大阪府立産業開発研究所 発行による『バイオ関連産業の発展とクラスター』で, 第2章の「海外におけるバイオ産業の動向と教訓」を2003年に執筆した。この『バイオ関連産業の発展とクラスター』は, 大阪府議会において参考資料として提出され, バイオ産業の振興, 及びバイオ関連事業に取り組む企業への支援に関する大阪府の政策に対して, 幾許かの寄与をした提言論集である。(前職である大阪府立産業開発研究所での研究成果)
				2	[公開講座, 講演会等] ビジネス・プランの策定: 技術シーズの事業化マネジメント, 社内起業研究会, 起業家, 実務家, 2004
				3	事業アイデアの創出: 技術シーズの事業化マネジメント, 京都ソフトアプリケーション, 企業の研究開発者、技術者, 2004

知的財産センター

資 料 目 次

研究活動実績票	別紙様式①－乙	3 1 5
研究活動実績票	別紙様式③	3 1 6

研究活動実績票

別紙様式①－乙

【研究成果一覧】

大学名	鳥取大学	学部・研究科名	知的財産センター

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	佐々木 茂雄	教授	情報学	1	[共著] 研究者・技術者のためのパテントの戦略的活用法と攻防対策[第Ⅲ講], (株) 技術情報協会

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	知的財産センター

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	佐々木 茂雄	教授	情報図書館学・人文社会情報学	1	[公開講座，講演会等] 「特許攻防対策のためのパテントマップの考え方・活かし方と権利の活用」特許攻防対策講座，（株）技術情報協会，一般社会人，2004
				2	知的財産の全体像の把握、発明の捉え方」鳥取県・中国経済産業局主催，県民等，2005
				3	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献の事項] 鳥取県シーズ集「使ってみたい鳥取県版特許集2006」の発行：2005

保健管理センター

資 料 目 次

研究活動実績票	別紙様式①－甲	3 1 7
研究活動実績票	別紙様式①－乙	3 1 9
研究活動実績票	別紙様式③	3 2 0

研究活動実績票

別紙様式①－甲

【学部・研究科等の研究活動の実施状況】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	保健管理センター

＜学部・研究科等の概要＞

本票は、保健管理センターによる作成である。保健管理センターは、本学における学生及び職員の保健管理に関する専門的業務を行い、健康の保持増進を図ることを目的としており、2人の専任教員（教授1名、助教授1名）が所属している。保健管理センターの業務のうちの1つに保健管理の充実向上のための調査研究にすることがあり、その業務方針に則り研究活動を行っている。教員の専門分野は、神経精神医学と呼吸器内科学であり、同じ医学分野といえども専門性がかなり異なっているため、研究は各人がおのおの専門性を生かして行わざるを得ないのが現状である。

また、保健管理センターは学生及び職員の健康相談・学生相談を実施しており、大学内における唯一の保健管理の拠点でもある。そのための検査器機（血圧計、心電計、自動血球計数装置等）を整備しており、教員研究室、診察室、処置・検査室、カウンセリング室等を有している。研究設備を生かし、日常臨床やアンケート調査を通して研究活動を行い、学生及び職員の健康の保持増進の役割を果たしている。

《教員、研究員等数》

教授	助教授	講師	助手
1	1	0	0

保健師	非常勤看護師
1	2

受託研究員	共同研究員	博士研究員		博士（博士 後期）課程 学生
		J S P S	その他	
0	0	0	0	0

＜学部・研究科等の研究活動の実施状況＞

1. 保健管理センター専任教員の研究活動は、その専門領域の性格上、また人員構成上、研究は主にそれぞれ各人の個別研究として行われている。また、各教員と学内外の研究者・研究機関との間で行われている状況である。
2. 本センター専任教員は、平成14年度から平成17年度の4年間にそれぞれ論文・著書等を合わせて45編, 19編発表している。また、全国大学メンタルヘルス研究会の「大学における休・退学・留年学生に関する調査」や国立大学法人保健管理施設協議会メンタルヘルス委員会の「大学院における休学・退学・留年学生に関する調査」に参加しており、それらの結果を踏まえて学会・研究集会で発表してきた。それらの成果を保健管理センター報告書（No. 19, 20）にも掲載し、全国の国立大学法人等に送付している。
3. 本センター専任教員は、その研究する各専門領域に応じて、種々様々な講演会の講師、あるいは各種の委員会の委員、学会・研究協議会の評議員・幹事等を務め、また健康セミナーを開催するなど積極的に社会活動を行い、研究の社会的還元に努めている。

研究活動実績票

別紙様式①－乙

【研究成果一覧】

大学名	鳥取大学	学部・研究科名	保健管理センター

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	中村 準一	教授	内 科 系 臨 床 医 学	1	[論文] 中村準一, 思春期・青年期の心の健康, 第 34 回中国・四国学校保健学会講演集, 2002, 6-9
				2	中村準一, 山本大介, 学生の支援について考えるー第 7 分科会のまとめー, メンタルヘルス研究協議会 平成 16 年度報告書, 2005, 25-26
				3	中村準一, 久住喜代子, 飯田啓子, 石飛和幸, 鳥取大学における過去 5 年間の学生相談の検討, CAMPUS HEALTH , 42, 1, 2005, 213
2	井岸 正	助教授	呼 吸 器 内 科 学	1	[論文] Phase II trial of weekly paclitaxel in previously untreated advanced non-small-cell lung cancer : Yasuda K, Igishi T, Kawasaki Y, Yamamoto M, Kato K, Matsumoto S, Kotani M, Sako T, Shigeoka Y, Sugitani A, Hitsuda Y, Shimizu E, Oncology, 65, 3, 224-228, 2003
				2	Shigeoka Y, Igishi T, Matsumoto S, Nakanishi H, Kodani M, Yasuda K, Hitsuda Y, Shimizu E. Sulindac sulfide and caffeic acid phenethyl ester suppress the motility of lung adenocarcinoma cells promoted by transforming growth factor-beta through Akt inhibition. J Cancer Res Clin Oncol, 130(3), 146-152, 2004
				3	Elevated urinary 8-hydroxydeoxyguanosine, a biomarker of oxidative stress, and lack of association with antioxidant vitamins in chronic obstructive pulmonary disease. : Igishi T, Hitsuda Y, Kato K, Sako T, Burioka N, Yasuda K, Sano H, Shigeoka Y, Nakanishi H, Shimizu E, Respirolgy, 8, 4, 455-460, 2003

研究活動実績票

別紙様式③

【研究成果の社会・経済・文化的な貢献】

大学名	鳥取大学	学部・研究科等名	保健管理センター

NO	氏 名	職 位	専門分野	成 果 番 号	研 究 成 果
1	中村 準一	教授	内科系臨床 医学	1	[審議会，委員会，国家試験，資格試験委員会，公 的社会的活動の実績等] メンタルヘルス研究協議会：本部運営委員（1997， 1998，2004，2005 年），地方部会実行委員（2003，2005 年）
				2	全国大学保健管理協会：評議員（2005 年～），中国・ 四国地方部会幹事（1996 年～）
				3	[専門分野に関連して作成した作品または社会貢献 の事項] 鳥取いのちの電話相談員継続研修のスーパーバイザ ー（1997～2004 年）
2	井岸 正	助教授	呼吸器内科 学	1	[公開講座，講演会等] 放送大学 面接授業 「生活習慣病の理解」 平成 18 年 8 月 8 日、9 日
				2	全国大学保健管理協会中国・四国地方部会幹事（2005 年～）